

長浜市文化財保存活用地域計画

滋賀県長浜市

目次

第1章	地域計画の作成経緯と位置づけ	1
1	計画作成の背景と目的	1
	(1) 文化財保存活用地域計画作成の社会的背景	1
	(2) 計画作成の目的	2
	(3) 文化財保存活用地域計画作成の経過	2
	ア) 長浜市文化財保存活用地域計画策定協議会	2
	イ) 長浜市文化財保護審議会	3
2	地域計画の位置付け	4
	(1) 長浜市総合計画	5
	(2) 長浜市教育振興基本計画	6
	(3) 長浜市地域防災計画	7
	(4) 第2次長浜市環境基本計画	8
	(5) 長浜市景観まちづくり計画	9
	(6) 長浜市歴史的風致維持向上計画	10
	(7) 長浜市観光振興ビジョン	13
	(8) 長浜市生涯学習社会づくり基本方針	14
	(9) 湖国フィールドミュージアム・長浜地域計画	15
3	計画期間	17
4	計画の進捗管理と自己評価の方法	17
5	歴史文化資産の定義	17
第2章	長浜市の概要	18
1	自然的・地理的環境	18
	(1) 位置・面積	18
	(2) 市の沿革	19
	(3) 地形	21
	(4) 地質	22
	(5) 水系	23
	(6) 生態系	24
	(7) 気候	24
	(8) 景観	25
2	社会的状況	26
	(1) 人口	26
	(2) 産業	27
	(3) 土地利用	28
	(4) 交通	29
	(5) 歴史文化資産に関わる市民団体の活動	30
	(6) 長浜市の歴史文化関連施設一覧	32
3	歴史的背景	33
	(1) 先史（縄文時代～古墳時代）	33
	ア) 長浜の黎明	33
	イ) 王たちの出現	33
	(2) 古代（飛鳥時代～平安時代）	33
	ア) 古代の長浜	33
	イ) 観音文化	34
	(3) 中世（鎌倉時代～室町時代）	35
	ア) 武士の台頭と惣村の発達	35
	イ) 浅井氏から秀吉へ	35
	(4) 近世（江戸時代）	36
	ア) 城下町の繁栄	36
	イ) 産業	36
	ウ) 交通	37
	エ) 近世村	37
	オ) 水争い	38
	(5) 近代（明治時代～昭和時代（戦前まで））	39
	ア) 汽船の就航	39

	イ)鉄道の敷設	39
	ウ)学校の設立	40
	エ)銀行の設立	40
	オ)工場の設立	41
	(6) 伝統的な産業・暮らし・信仰・民俗芸能	41
	(7) 災害史	42
第3章	歴史文化資産の把握調査	43
1	既存の歴史文化資産の把握調査の概要	43
	(1) 類型別文化財の把握調査	43
	(2) 村落景観情報図による把握調査(総合的文化財調査)	46
2	歴史文化資産の把握調査の課題	46
3	歴史文化資産の把握調査実施の方針・措置	48
	(1) 方針	48
	(2) 措置	48
第4章	長浜市の歴史文化資産の概要と特徴	49
1	指定等文化財の概要	49
	(1) 建造物	50
	(2) 美術工芸品	51
	ア) 絵画	51
	イ) 彫刻	51
	ウ) 工芸品	51
	エ) 書跡等	52
	オ) 考古資料	52
	カ) 歴史資料	52
	(3) 民俗文化財	53
	(4) 記念物	53
	(5) 文化的景観	54
	(6) 文化財の保存技術	54
2	指定等文化財の特徴	54
3	指定等文化財数の推移	54
4	日本遺産の概要	57
	(1) 「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」の概要	57
	(2) 「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」の概要	57
	(3) 「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～」の概要	58
5	未指定の歴史文化資産	60
第5章	長浜市の歴史文化の特徴	62
第6章	長浜市の歴史文化資産の保存と活用に関する基本目標	64
第7章	歴史文化資産の保存・活用に関する方針と措置	65
1	歴史文化資産の保存・活用に関する課題	65
2	歴史文化資産の保存と活用に関する方針	67
3	歴史文化資産の保存・活用に関する措置	68
第8章	歴史文化資産の一体的・総合的な保存と活用	73
1	関連文化財群	73
	(1) 関連文化財群を設定する目的	73
	(2) 関連文化財群の設定の考え方	73
	(3) 関連文化財群およびその保存・活用計画	74
	ジャンル① 古代の王と古墳文化	74
	ア) 課題	75
	イ) 方針	75
	ウ) 措置	75
	ジャンル② 小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡	77
	ア) 課題	78
	イ) 方針	79
	ウ) 措置	79
	ジャンル③ 多彩なる民俗芸能・民俗行事	81
	ア) 課題	82
	イ) 方針	82

ウ) 措置	83
ジャンル④ 近世文化の輝き	85
ア) 課題	86
イ) 方針	86
ウ) 措置	87
ジャンル⑤ 街道が織り成す交流の文化	89
ア) 課題	90
イ) 方針	91
ウ) 措置	91
ジャンル⑥ 長浜の近代化を創った遺産群	93
ア) 課題	95
イ) 方針	95
ウ) 措置	95
2 歴史文化保存活用区域	97
(1) 歴史文化保存活用区域の設定の目的	97
(2) 歴史文化保存活用区域の設定の考え方	97
(3) 歴史文化保存活用区域およびその保存・活用計画	99
エリア① 長浜城と城下町遺構	99
ア) 課題	100
イ) 方針	100
ウ) 措置	101
エリア② 長浜市歴史的風致維持向上計画との関わり	102
エリア③ 奥びわ湖の観音文化と村々の祈り	104
ア) 課題	107
イ) 方針	107
ウ) 措置	108
エリア④ 賤ヶ岳城砦群と古戦場	110
ア) 課題	111
イ) 方針	111
ウ) 措置	111
エリア⑤ 竹生島・菅浦と水辺空間	113
④-1 竹生島と水辺空間	113
④-2 菅浦と水辺空間	113
ア) 課題	115
イ) 方針	115
ウ) 措置	115
エリア⑥ 菅並集落と丹生谷の山村生活	117
ア) 課題	118
イ) 方針	118
ウ) 措置	118
エリア⑦ 大吉寺と草野川・姉川流域の仏教文化	120
ア) 課題	121
イ) 方針	121
ウ) 措置	121
第9章 歴史文化資産の防災・防犯	123
1 歴史文化資産の防災・防犯に関する課題	123
2 歴史文化資産の防災・防犯に関する方針	123
3 歴史文化資産の防災・防犯に関する措置	123
第10章 歴史文化資産の保存・活用の推進体制	125
1 歴史文化資産の保存・活用の推進体制	125
(1) 長浜市の体制	125
(2) 体制整備の課題・方針	125
(3) 保存・活用を推進するための施設の確保	126
(4) 保存・活用に関わる人材の確保・育成	126
(5) 保存活用団体等への支援	126
第11章 参考データ	127
1 長浜市の年表	127

2	長浜市の指定等歴史文化資産一覧	130
3	長浜市の歴史文化関連図書一覧	148
4	歴史文化資産一覧	162

第1章 地域計画の作成経緯と位置づけ

1 計画作成の背景と目的

(1) 文化財保存活用地域計画作成の社会的背景

長浜市には459件（令和3年6月30日現在）の国・県・市の指定等文化財があり、その他にも未指定の文化財が多く点在する。これら長浜市の指定・未指定等の文化財は、古くから人びとの生活や風土との関わりにおいて生み出され、現在まで多くの人びとの不断的努力により守り伝えられてきた貴重な財産＝「光」である。しかし、人口減少や少子高齢化、世代間の温度差等により文化財に対する考え方が多様化し、文化財の所有者や保護団体が単独で文化財を守ることが難しくなっている。

これらを確実に後世へ受け継いでいくためには、文化財所有者・保護団体と行政だけでなく、市民や民間団体等の力が不可欠である。

また、長浜市には文化財の保存と活用に対する計画がこれまでになく、信仰にまつわる文化の振興、小谷城跡^{おだにじょう}および周辺の整備、長浜曳山祭^{ひきやま}のユネスコ無形文化遺産登録後の施策、歴史文化施設の活用といった個別案件の施策は行えても、それらを総合的に把握した上で、文化財を一体的に保存・活用するための基本方針や計画的に事業を展開するためのプランが確立できていなかった。さらに、文化財行政の立場として、総合計画が推進する観光による交流人口の増加に加え、定住人口の増加を見据えた対策ができていなかった。

そこで、文化財を周辺環境まで含めて総合的に保存・活用する方法を模索し、文化財を生涯学習・学校教育・観光振興・地域づくりに活用し、市民と協働して守り育て、次世代に伝える土壌を形成する方針を確立するために、以前から文化庁が各基礎自治体に作成を推進していた「文化財の保存・活用のマスタープラン」である「長浜市歴史文化基本構想」を、令和元年度（2019）に策定した。

一方で、平成30年（2018）には文化財保護法の改正により、「文化財保存活用地域計画」の制度が誕生したため、長浜市においてはその構想を踏まえ、文化財の保存・活用の具体的な措置について期間を定めて実現するための「長浜市文化財保存活用地域計画」（以下、本計画）を作成した。

(2) 計画作成の目的

本計画では、背景で触れたように、行政だけでなく、市民や民間団体等によって文化財の保存・活用を支援する体制を確立する。行政はその活動に対して支援を行い、文化財の確実な継承につなげる。

そして、文化財を保存・活用する循環を生み出し、歴史文化を核とした地域づくりと人材育成を進め、市民（将来の長浜市を担う人びと等）の郷土への愛着を高める。

あわせて、本計画の目的を達成することにより、歴史文化の豊かな都市となることが、観光客や移住者の増加につながり、本市の経済的・産業的發展に波及することを期待する。

(3) 文化財保存活用地域計画作成の経過

本計画の作成に当たり、以下の組織を設置した。

ア) 長浜市文化財保存活用地域計画策定協議会

本計画を作成するため、以下の委員による長浜市文化財保存活用地域計画策定協議会（以下、協議会）を組織した。

長浜市文化財保存活用地域計画策定協議会委員（職名は令和2年6月1日現在、敬称略・順不同）

番号	役職	氏名
1	京都大学名誉教授（歴史地理学）	金田 章裕
2	京都工芸繊維大学名誉教授（建築学）	日向 進
3	元広島大学講師（歴史学）	井上 ひろ美
4	宝厳寺住職	峰 覚雄
5	西浅井町菅浦自治会長	藤川 浩
6	小谷城址保勝会長	中川 隆司
7	長浜曳山文化協会	紅林 優輝子
8	株式会社黒壁	進 晴彦
9	長浜観光協会専務理事	今井 克美
10	長浜商工会議所	石道 華子
11	長浜市長浜城歴史博物館 友の会	木村 富久子
12	株式会社ロハス長浜	前川 和彦
13	余呉地域づくり協議会	是洞 尚武
14	学芸専門監	太田 浩司
15	総合政策課長	横尾 仁
16	観光振興課長	河合 保
17	商工振興課長	武田 昌幸
18	教育指導課長	伊藤 浩行
オブザーバー	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課	大崎哲人
		矢田直樹

令和2年度（2020年度）

第1回 長浜市文化財保存活用地域計画策定協議会

日時：令和2年9月18日（金）10：30～12：00

会場：長浜市役所 本庁 多目的ルーム2

内容：骨子について

第2回 長浜市文化財保存活用地域計画策定協議会
 日時：令和2年10月16日（金）10：30～12：00
 会場：長浜市役所 本庁 多目的ルーム2
 内容：措置について

第3回 長浜市文化財保存活用地域計画策定協議会
 日時：令和2年11月30日（月）10：30～12：00
 会場：長浜市役所 本庁 多目的ルーム2
 内容：素案について



協議会

イ）長浜市文化財保護審議会

長浜市は、長浜市文化財保護審議会に本計画について意見聴取を行った。

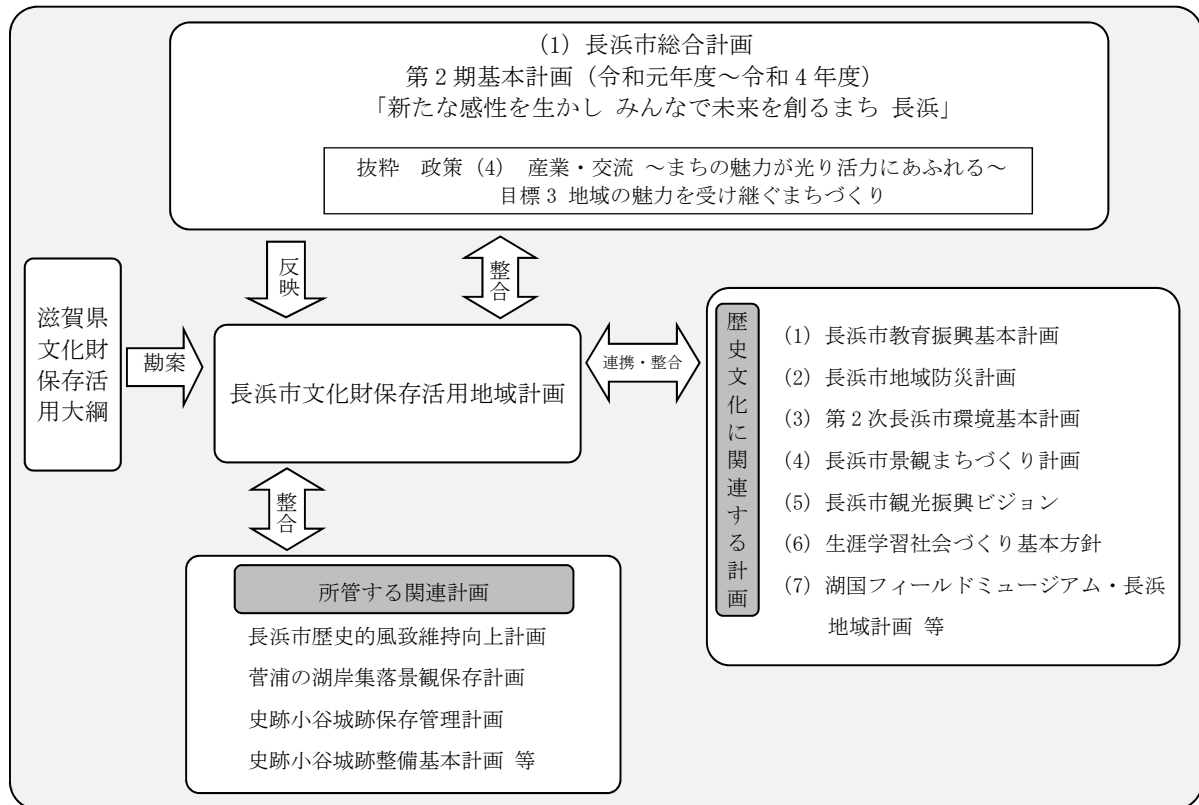
日時：令和2年3月12日（金）13：30～16：00

長浜市文化財保護審議会委員（職名は令和3年4月1日現在、敬称略・順不同）

番号	役職	氏名
1	元滋賀県立近代美術館館長 美術工芸（古美術全般）	石丸正運
2	同志社大学教授 美術工芸（宗教美術）	井上一稔
3	京都市歴史資料館主任研究員 書跡（古文書）	宇野日出生
4	元長浜城歴史博物館館長 地域史（民俗芸能）	中島誠一
5	京都橘大学教授 史跡（古代）	増渕 徹
6	同志社大学教授 民俗（民俗芸能）	山田和人
7	岐阜女子大学名誉教授 建造物（古建築）	吉見静子

2 地域計画の位置付け

本計画は、文化財保護法第183条の3に基づき、本市における文化財の保存・活用に関する総合的な計画として作成する。作成にあたり、「長浜市総合計画」を上位計画とし、他の関連計画との整合、連携を図る。また、作成にあたっては滋賀県教育委員会が令和2年3月に策定した「滋賀県文化財保存活用大綱」を勘案した。



(1) 長浜市総合計画（平成 29 年 3 月）

長浜市総合計画では、本市の「めざすまちの姿」を『新たな感性を生かし みんなで未来を創るまち 長浜』と定め、今後重点的かつ戦略的に取り組む施策・事業を、「まちづくりの重点プロジェクト」として 6 つ設定している。

そして、計画期間内に取り組む施策を分野別・体系的に定めた「まちづくりの政策・施策」を 6 つ掲げ、政策 4「産業・交流 ～まちの魅力が光り活力にあふれる～」に、歴史・風土・文化に根ざした地域資源を保存し、それらを生かして、地域への愛着や誇りを育みながら新たな魅力を形作るとともに、魅力を活かした交流で賑わう環境づくりに取り組むことを記している。

計画期間は第 1 期～第 3 期を設け、計画の進捗・達成状況を評価するために目標指標を掲げている。

【計画期間】第 1 期（平成 29 年度～平成 30 年度）、第 2 期（平成 31 年度～令和 4 年度）、第 3 期（令和 5 年度～令和 8 年度）

長浜市総合計画の概要

□将来像

「新たな感性を生かし みんなで未来を創るまち 長浜」

□まちづくりの重点プロジェクト

- (1) ふるさとを担う「長浜人づくり」プロジェクト
- (2) みんなで支える「子育て応援」プロジェクト
- (3) 長浜まるごと「未来のシカケ」プロジェクト
- (4) 身近な自然を生かす「地域環境との共生」プロジェクト
- (5) 人もまちも「結びの輪づくり」プロジェクト
- (6) 安心安全「地域で支えあい」プロジェクト

□まちづくりの政策・施策

政策 1 市民・自治 ～市民と共に創る～

政策 2 教育・文化 ～健やかで豊かな心が育つ～

政策 3 健康・福祉 ～いきいきと温かく生きる～

政策 4 産業・交流 ～まちの魅力が光り活力にあふれる～

政策 5 安心・安全 ～不安なく穏やかに暮らす～

政策 6 環境・都市 ～水と緑に包まれ住もう～

政策 4 産業・交流（抜粋）

目標 3 地域の魅力を受け継ぐまちづくり

○地域の伝統・歴史・文化の継承

1. 歴史文化の活用

市民が地域の歴史文化に興味や関心を抱き、郷土の歴史的資源が身近なものとなり、地域の誇りとなるよう、市内の歴史文化施設と連携のもと生涯学習講座等で取り上げるなど、歴史や文化を伝承し、市民の生涯学習・郷土学習を支援する取組を行います。また、地域の人々が文化財を保存・活用・伝承する営みそのものも「歴史遺産」ととらえ、長浜の歴史遺産を増やしていきます。

2. 文化財の保護

市内に現存する各種分野の文化財の実態を把握する調査を実施し、その価値を把握したうえで、歴史上・学術上において貴重な物件について指定文化財として指定を行い、保存を図りながら、地域振興の核として歴史遺産の活用を推進します。

3. 良好な景観の形成

長浜にふさわしい自然・都市景観の保全を図るため、長浜市景観まちづくり計画における重点区域を中心とした景観保全の取組を進めるとともに、良好な景観を活用して中心市街地及び北国街道木之本宿といったまちの賑わいを守り育てるため、歴史・文化が息づく街並みの整備に向けた取組を推進します。また、景観を阻害する屋外広告物等については、条例による適切な指導を行い、都市の魅力を高めるまちづくりを進めます。

(2) 長浜市教育振興基本計画（令和3年1月）

長浜市教育振興基本計画は、教育基本法第17条第2項に基づく教育振興基本計画として、平成30年（2018）6月に作成された国の第3期教育振興基本計画（平成30年度～令和4年度）および平成31年（2019）3月に作成された滋賀県の第3期滋賀県教育振興基本計画（令和元年度～令和5年度）を参酌しつつ、本市教育の振興を図るために定める基本的な計画と位置づけている。

6つある基本目標のうちの一つを「地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます」とし、施策の基本的方針を「地域の伝統・歴史・文化の継承」としている。

【計画期間】 令和3年度～令和7年度

長浜市教育振興基本計画の概要

□基本方針

つながりあい、学びあい、豊かに生きる人づくりをめざす「ながはま」

基本目標1 乳幼児期における就学前教育を充実します

基本目標2 子どもの自立に向けて「生きる力」を育む教育を推進します

基本目標3 学校・家庭・地域のつながりを深め、地域全体の教育力の向上をめざします

基本目標4 地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます

基本目標5 市民一人ひとりが学びあえる生涯学習環境の充実を図ります

基本目標6 安全・安心で質の高い教育を支える環境を整備します

基本目標4 「地域の伝統・文化を生かし、郷土を愛する心を育てます」

施策の基本的方向 「地域の伝統・歴史・文化の継承」を設け、具体的な施策として文化財の調査と保護の推進、歴史文化の継承、歴史文化の活用と情報発信を掲げる。

(3) 長浜市地域防災計画（令和2年9月）

長浜市地域防災計画は、災害対策基本法第42条の規定に基づき、長浜市防災会議が作成する計画で、市の地域並びに市民の生命、身体および財産を災害から保護することを目的としている。

文化財への対応として、文化財等への予防対策と被災の際の対策が記載されており、文化財等の予防対策としては「災害予防計画」として、具体的に立入検査、保護意識の普及および訓練、自主防火管理体制の強化、文化財防火施設の整備拡充、自衛消防隊等の育成指導、火気の使用制限区域の設定が挙げられている。また、被災時の対策は「災害応急対策計画」として、関係機関の行動手順等が記載されている。

長浜市地域防災計画の概要

第2章 災害予防計画 第2節 災害に強いまちづくり（抜粋）

第7 文化財災害予防計画

（市民協働部）

文化財は、貴重な国民的財産であって、この文化財保存のためには、万全の配慮が必要である。このため、文化財の現況を正確に把握し、予想される災害に対して予防対策の計画、施設整備の推進、保護思想の普及、訓練、現地指導を強化する。文化財の所有者又は管理者は、良好な状況のもとに文化財維持管理にあたるものとし、勧告、助言、指導は国指定のものにあつては、文化庁長官、もしくはその権限を委任され、又は指示を受けた県知事が行う。県指定のものにあつては、県知事、もしくは指示を受けた市が行う。市指定のものにあつては、市が行う。

1 文化財等の予防対策

（1）立入検査

文化財保護対象物について、定期的あるいは随時に、立入検査を実施し、防災に関する指導を行う。

（2）保護思想の普及及び訓練

文化財保護強調週間、文化財保護月間、文化財防火デー等の行事を通じて、文化財所有者、市民（特に文化財付近の一般家庭）、見学者等に対して、文化財愛護思想の高揚を図るため、啓発活動を展開する。

（3）自主防火管理体制の強化

防火管理者等に対し、地震対策及び防火管理体制の確立を指導するとともに、防火研修会、講演会等を通じ、防火管理業務が適切に実行されるよう指導する。

（4）文化財防火施設の整備拡充

文化財保護対象物に対して、警備設備、消火設備、避雷設備、防火壁、消防進入道路、保存庫等防災施設の設置及び改修について、国庫補助金、県補助金等により整備拡充の促進を図る。

（5）自衛消防隊等の育成指導

自衛消防隊を育成し、自主警備体制の強化を図るとともに、付近住民等による自衛組織の結成について指導する。

（6）火気の使用制限区域の設定

文化財保護対象物の建造物付近を、たき火又は喫煙を制限する区域に指定し、市民に周知するとともに、指定区域内に禁止の立て札による掲示を行い、出火防止を図る。

(4) 第2次長浜市環境基本計画（平成31年3月）

長浜市環境基本計画では、めざす環境像を「みんなで育む 水とみどりにつつまれたまち ながはま」と定め、琵琶湖や河川等の水と伊吹山系の山々・里地里山・公園等のみどりを中心とした多様な環境を、市民一丸となって守り、未来に向けて育んでいくことで、めざす環境像の実現を進める。

重点プロジェクトは、長浜型ツーリズムプロジェクト・資源循環システム構築プロジェクト・地球温暖化対策推進プロジェクトを設定し、基本計画全体の推進を図っている。

基本方針1の②に生物多様性の保全・再生推進を掲げ、タブノキ林の保全を図る。さらに基本方針3の⑦に、歴史・文化の保存・活用推進を掲げ、文化財の保存・活用を図る。

【計画期間】前期：平成31年度～令和5年度、後期：令和6年度～令和10年度

第2次長浜市環境基本計画の概要

環境像	基本方針	主な取組
みんなで育む 水とみどりにつつまれたまち ながはま	基本方針1 良好な自然環境の保全・再生	①自然環境の保全・再生推進、②生物多様性の保全・再生推進、③自然の恵みの持続的な活用推進
	基本方針2 ひとの健康と安全を守る生活環境の保全	④環境公害防止に向けた継続的な監視、⑤公害の未然防止
	基本方針3 心豊かな暮らしと文化を育む快適環境づくり	⑥水とみどりの保全・再生推進、⑦歴史・文化の保存・活用推進、⑧景観の保全・創造推進
	基本方針4 もの・水・エネルギーの循環の創出	⑨3Rの推進、⑩水循環の保全・再生推進、⑪エネルギーの効率的・有効活用の推進
	基本方針5 地球環境保全への貢献	⑫地球温暖化緩和策の推進、⑬地球温暖化適応策の推進
	基本方針6 行動と連携による長浜エコ人づくりの推進	⑭環境教育・学習の推進、⑮環境保全を担う人材や団体の育成・支援の推進、⑯協力体制づくりの推進、⑰環境情報の収集・発信

重点プロジェクト

- ①長浜型ツーリズムプロジェクト
- ②資源循環システム構築プロジェクト
- ③地球温暖化対策推進プロジェクト

	重点プロジェクト	長浜型ツーリズムプロジェクト	資源循環システム構築プロジェクト	地球温暖化対策推進プロジェクト
主な取組				
基本方針1	①自然環境の保全・再生推進	○		
	②生物多様性の保全・再生推進	○		
	③自然の恵みの持続的な活用推進	○		○
基本方針2	④環境公害防止に向けた継続的な監視	○		
	⑤公害の未然防止	○		
基本方針3	⑥水とみどりの保全・再生推進	○	○	
	⑦歴史・文化の保存・活用推進	○		
	⑧景観の保全・創造推進	○		
基本方針4	⑨3Rの推進		○	
	⑩水循環の保全・再生推進	○		
	⑪エネルギーの効率的・有効活用の推進			○
基本方針5	⑫地球温暖化緩和策の推進		○	○
	⑬地球温暖化適応策の推進			○
基本方針6	⑭環境教育・学習の推進	○		
	⑮環境保全を担う人材や団体の育成・支援の推進	○		
	⑯協力体制づくりの推進	○	○	○
	⑰環境情報の収集・発信	○	○	○

※「○」は、重点プロジェクトと関連のある主な取組を示す。

(5) 長浜市景観まちづくり計画（平成 20 年 3 月、平成 26 年 4 月変更）

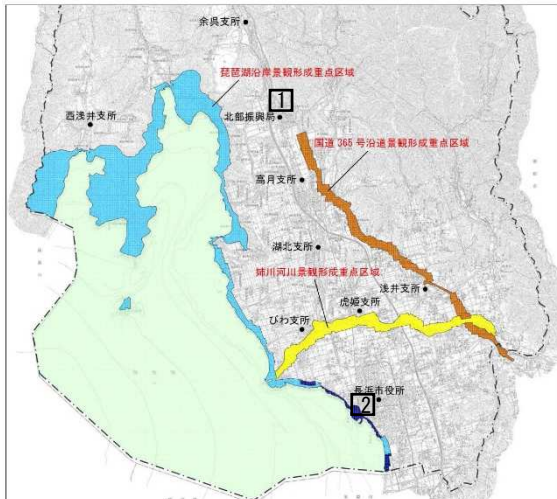
本市では、「^{たけたか}長高い自然と独自の歴史文化がとけあうまち」を目指して、景観法第 8 条に基づく長浜市景観まちづくり計画を作成した。景観まちづくり計画では、良好な景観形成が特に必要とされる区域として、歴史的な建造物や町並みが残る中心市街地の 6 つの通りおよび^{ほっこかいどう}北国街道木之本宿沿いを特定景観形成重点区域に指定し、建築物や工作物の高さ制限を設ける等、周辺の町並み景観と調和した建築行為等が行われるよう規制誘導している。そして、文化的景観に関する事項では、琵琶湖一帯の区域を琵琶湖沿岸景観形成重点区域としている。

長浜市景観まちづくり計画の景観区域図

(2) 広域景観形成重点区域

- ① 琵琶湖沿岸景観形成重点区域
- ② 国道365号沿道景観形成重点区域
- ③ 姉川河川景観形成重点区域

〔区域図〕

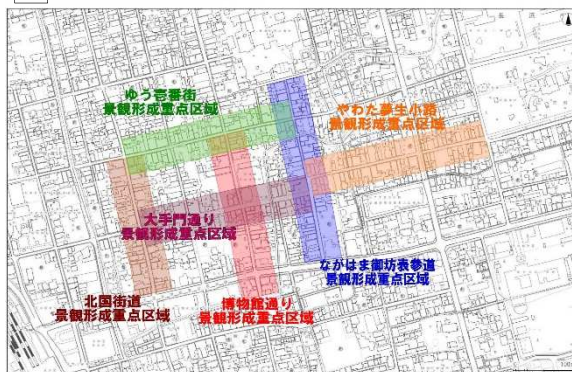


(3) 特定景観形成重点区域

- ① ながはま御坊表参道景観形成重点区域
- ② 博物館通り景観形成重点区域
- ③ 北国街道景観形成重点区域
- ④ ゆうき番街景観形成重点区域
- ⑤ 大手門通り景観形成重点区域
- ⑥ やわた夢生小路景観形成重点区域
- ⑦ 北国街道木之本宿景観形成重点区域

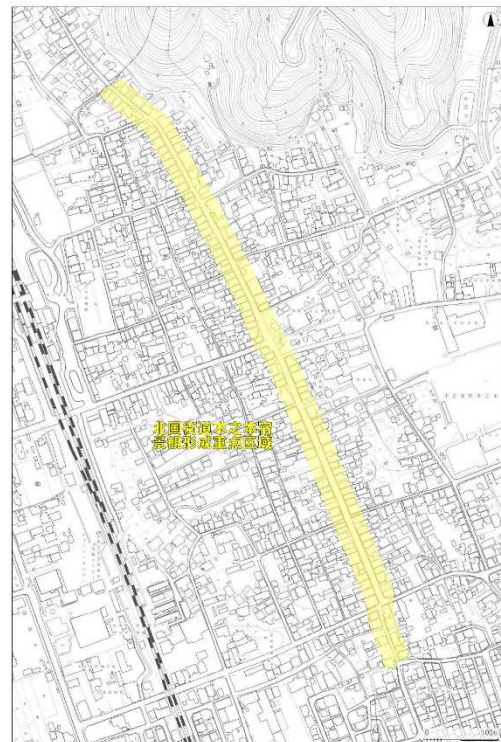
2

〔区域図（中心市街地周辺）〕



※上記①～⑦の各重点区域は、道路の中心線から30mの範囲をその区域とします。

1 〔区域図（木之本地区）〕



※北国街道木之本宿景観形成重点区域は、道路および道路線両側から15mの範囲をその区域とします。

(6) 長浜市歴史的風致維持向上計画（第1期認定：平成22年2月 第2期認定：令和2年8月）

平成20年（2008）11月に施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称、歴史まちづくり法）」により、それまで進めてきた、地域固有の歴史文化を生かしたまちづくりと市街地の環境整備にさらに磨きをかけるため、長浜市歴史的風致維持向上計画を策定した。

第1期計画では、大通寺^{だいとうじ}の台所門および鐘楼、山門等の保存修理事業や長浜曳山祭の山蔵保存修理事業等によって地域の貴重な建造物が保存され、一般公開や施設の活用が積極的に行われたことにより、地域の活性化や住民活動の促進につながった。また、道路美装化事業や建造物の修景に対する助成事業等により、景観の向上と観光客の利便性の向上につながった。

第2期計画では、所有者の高齢化や世代交代等により維持管理が困難な歴史的建造物の保存・活用や、長浜曳山祭をはじめとする地域の祭礼行事・伝統文化の継承を図るための事業を推進するとともに、地域の文化財を活用・啓発するための事業を行っている。

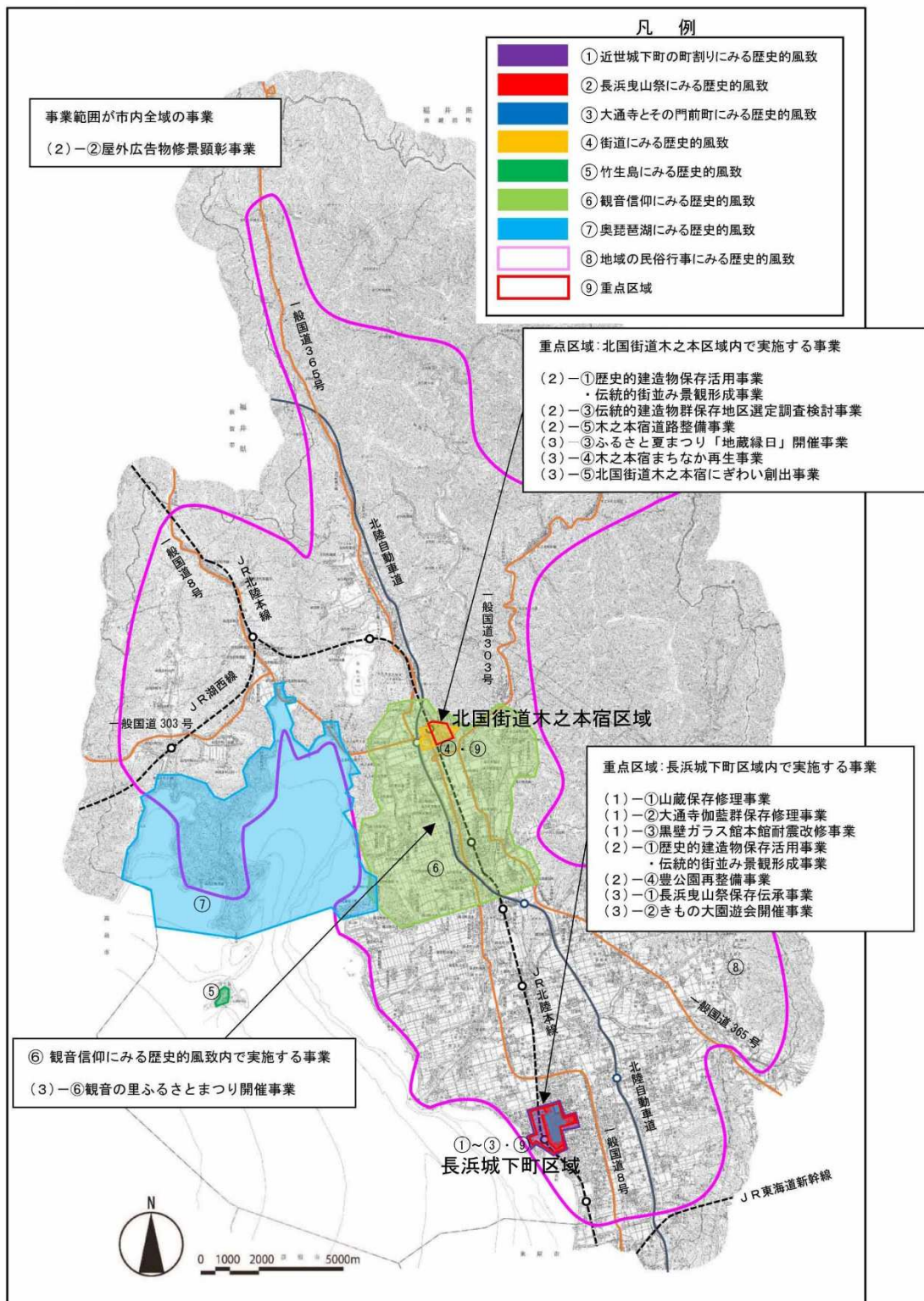
計画では、重点的かつ一体的に推進することが特に認められる重点区域を設定している。内訳は「近世城下町の町割りにみる歴史的風致」「長浜曳山祭にみる歴史的風致」「大通寺とその門前町にみる歴史的風致」の3つの歴史的風致の重なりを「長浜城下町区域」とし、「街道にみる歴史的風致」のうち北国街道^{ほっこくかいどう}木之本宿の地域を「北国街道木之本宿区域」としている。

【計画期間】 令和2年度～令和11年度

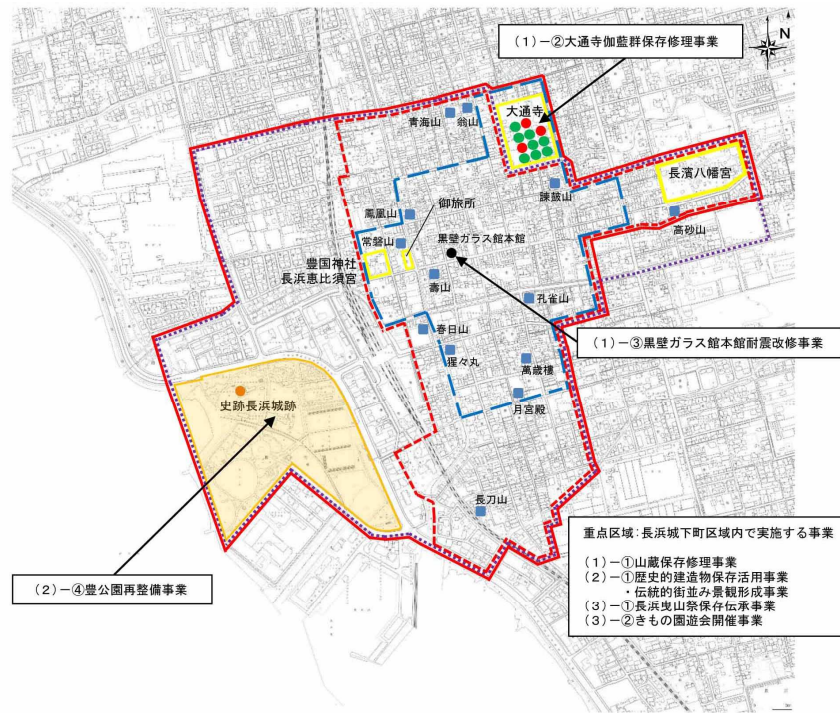
長浜市歴史的風致維持向上計画の計画期間内（令和2年度～令和11年度）に実施する事業は下記の通りである。

長浜市歴史的風致維持向上計画事業一覧

番号	事業名	事業期間	備考
(1)	歴史的建造物等の保存・活用に関する事業		
(1)－①	山蔵保存修理事業	平成22年度～令和11年度	
(1)－②	大通寺伽藍群保存修理事業	平成29年度～令和11年度	
(1)－③	黒壁ガラス館本館耐震改修事業	令和2年度～令和3年度	終了
(2)	歴史的町並みの保全・形成に関する事業		
(2)－①	歴史的建築物保存活用事業・伝統的街並み景観形成事業	平成20年度～令和11年度	
(2)－②	屋外広告物修景顕彰事業	平成24年度～令和3年度	
(2)－③	伝統的建造物群保存地区選定調査検討事業	令和2年度～令和11年度	
(2)－④	豊公園再整備事業	平成25年度～令和6年度	
(2)－⑤	木之本宿道路整備事業	令和2年度～令和6年度	
(3)	祭礼行事の保存継承に関する事業		
(3)－①	長浜曳山祭保存伝承事業	平成22年度～令和11年度	
(3)－②	きもの大園遊会開催事業	平成22年度～令和11年度	
(3)－③	ふるさと夏まつり「地藏縁日」開催事業	令和2年度～令和11年度	
(3)－④	木之本宿まちなか再生事業	令和2年度～令和11年度	
(3)－⑤	北国街道木之本宿にぎわい創出事業	令和2年度～令和11年度	
(3)－⑥	観音の里ふるさとまつり開催事業	平成23年度～令和11年度	



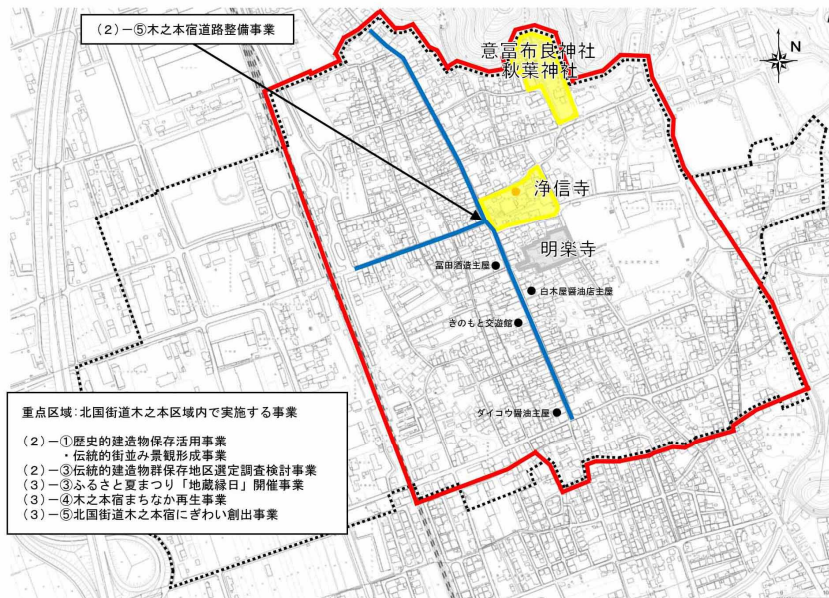
歴史的風致と重点区域の位置



凡 例

重点区域	
近世城下町の町割りにみる歴史的風致	
長浜曳山祭にみる歴史的風致	
大通寺とその門前町にみる歴史的風致	
歴史的価値の高い建造物等	
国指定（建造物）	●
国指定（登録）	●
曳山山蔵（県指定：建造物）	■
市指定（建造物）	●
市指定（史跡）	●

事業箇所図【重点区域（長浜城下町区域）】



凡 例

重点区域	
街道にみる歴史的風致	
歴史的価値の高い建造物等	
国指定（名勝）	●
国指定（登録）	●
木之本地蔵大縁日での賑わう範囲	
秋葉祭りにける神輿の巡行路	

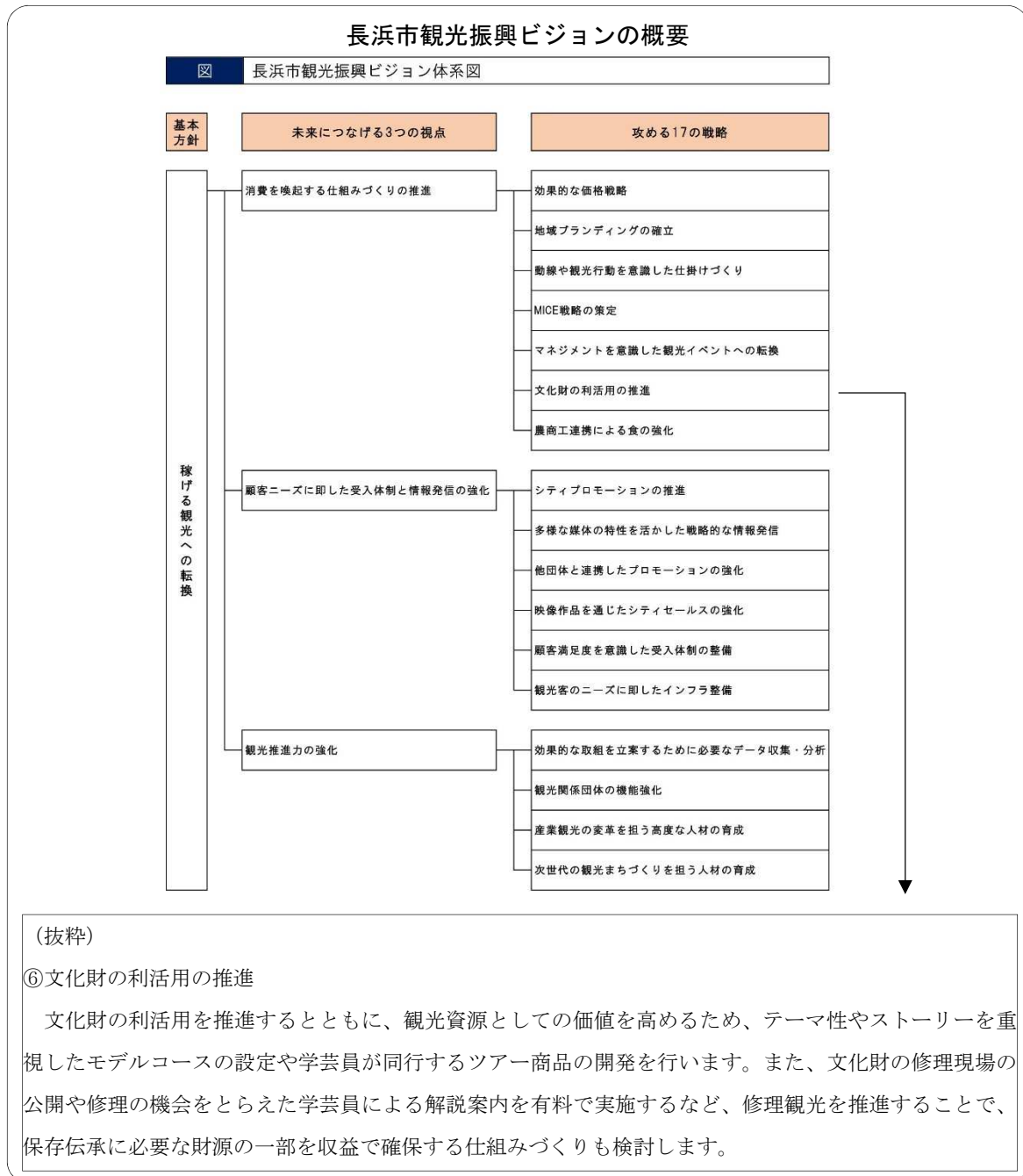
事業箇所図【重点区域（北国街道木之本宿区域）】

(7) 長浜市観光振興ビジョン（平成 29 年 2 月）

長浜市観光振興ビジョンは、長浜の観光振興に経営の視点を取り入れ、持続可能で生産性の高い産業へと変革を促すことで、観光消費の拡大による地域経済の好循環を生み出し、観光資源の魅力の創造につなげることを基本方針としている。

「攻める 17 の戦略」の一つに「文化財の利活用の推進」を挙げている。具体的には、観光資源としての価値を高めるため、テーマ性やストーリーを重視したモデルコースを設定することや、文化財修理現場の有料公開により保存伝承に必要な財源の一部を確保すること等である。

【計画期間】平成 29 年度～令和 3 年度までの 5 年間



(8) 長浜市生涯学習社会づくり基本方針（平成 30 年 3 月）

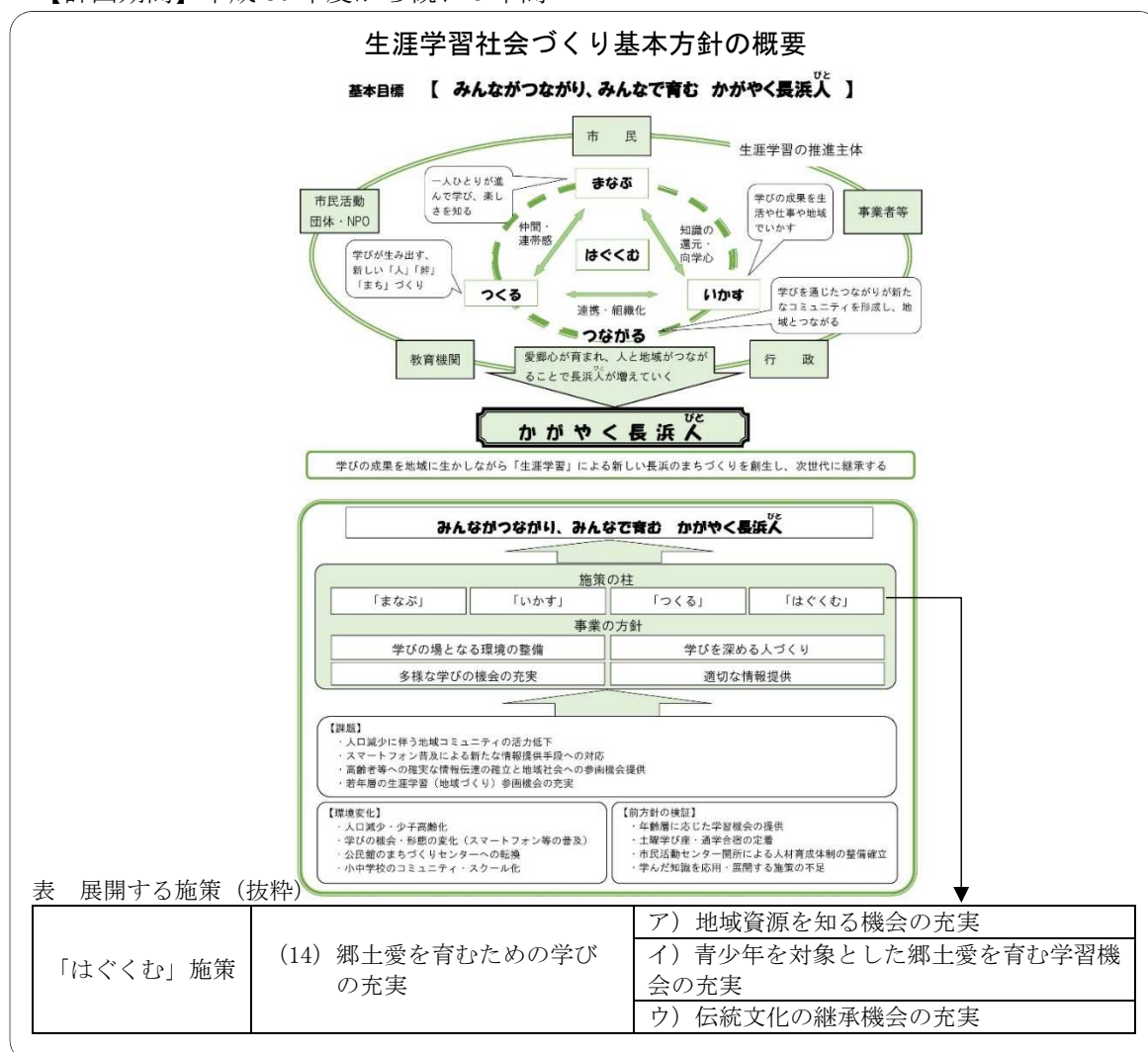
生涯学習社会づくり基本方針は、「みんながつながり、みんなで育む かがやく長浜人」を基本目標に、「まなぶ」「いかす」「つくる」「はぐくむ」のそれぞれの柱に基づいた次の施策を展開している。

「はぐくむ」施策の一つが「郷土愛を育むための学びの充実」となっており、展開する施策に「地域資源を知る機会の充実」、「青少年を対象とした郷土愛を育む学習機会の充実」、「伝統文化の継承機会の充実」があげられている。

地域資源としての文化財を学習する機会や、市内に残る伝統文化を継承する機会を設けることにより、市民の文化財に対する意識の向上をはかり、郷土愛を育むとしている。

生涯学習社会の実現には、学習の場や適切な機会の提供はもとより、推進する人材が必要になる。これらの取組は学習主体のみで実施することは困難であり、また一方で行政の判断のみで進めることも適切ではない。市民（事業者やNPOを含む）が活動の主体となって学びを深め、地域と一体となって長浜人を育成していくとともに、人とのつながりを広げていくために必要な条件整備を行政が担うことで、より実りある豊かな生涯学習社会の実現を目指すしている。

【計画期間】平成 30 年度から概ね 5 年間



(9) 湖国フィールドミュージアム・長浜地域計画（令和3年6月）

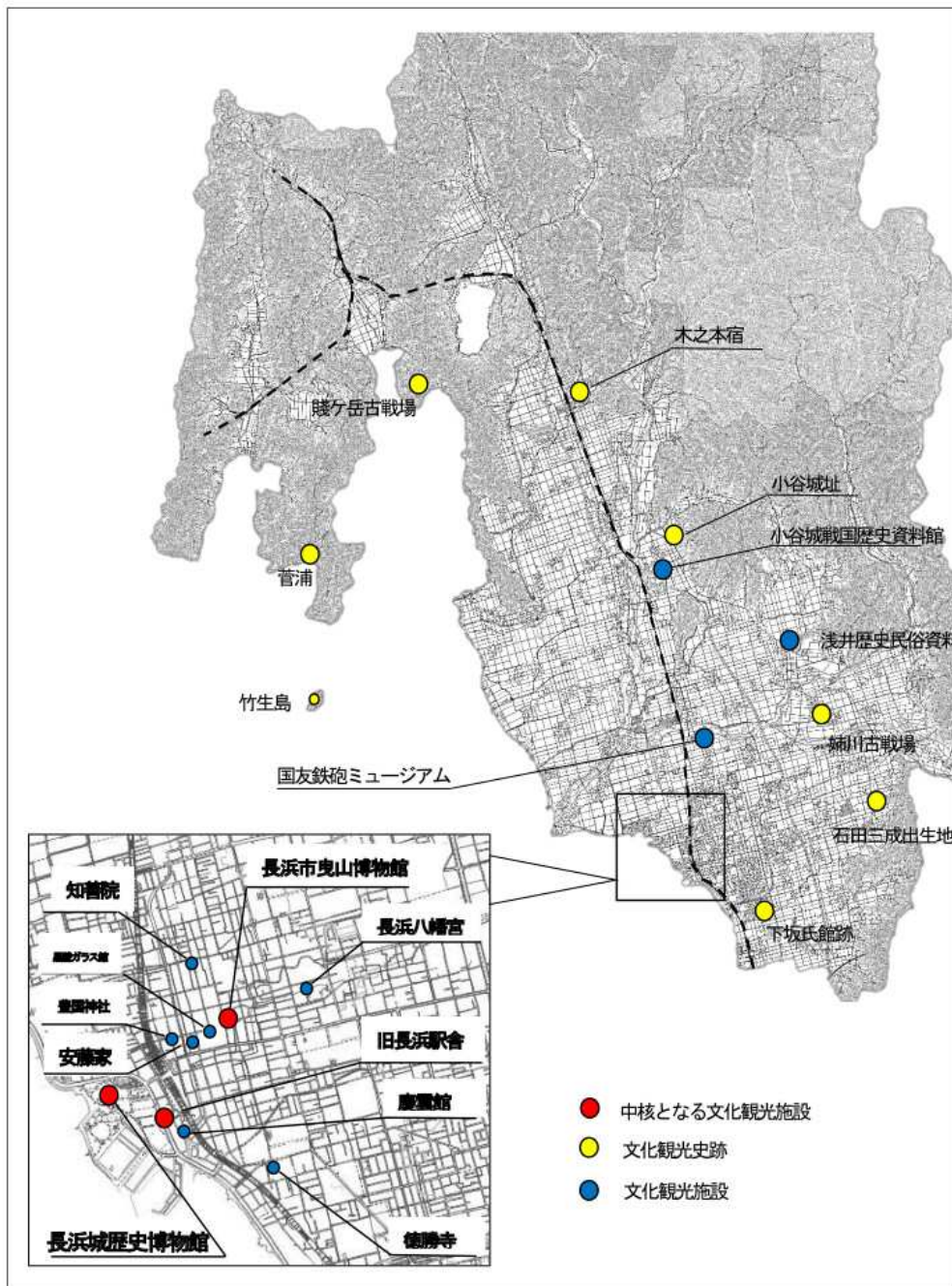
湖国フィールドミュージアム・長浜地域計画は、長浜観光の魅力の源泉である歴史・文化をそれぞれの時代で反映する「長浜城歴史博物館」、「長浜市曳山博物館」、「長浜鉄道スクエア」の3施設を中核として、歴史遺産と文化を保全するとともに、観光による交流人口から定住人口へのシフトを見据えた取組を行う。

この計画における地域の課題は、①歴史文化資源の磨き上げ、②訪日外国人の受け入れ態勢の強化、③滞在型観光の推進とし、取組を強化すべき事項および基本的な方向性は、①戦国の聖地・近世城下町・近代化の魅力を分かりやすく紹介、②インバウンド対策の強化、③地域の人々と来訪者が触れ合う滞在型観光の推進としている。

【計画期間】 令和3年度～令和7年度

湖国フィールドミュージアム・長浜地域計画事業一覧

番号	事業名	事業期間	備考
1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業			
1-①	長浜城歴史博物館 歴史・文化展示魅力増進事業	令和4年度～令和6年度	
1-②	曳山博物館 歴史・文化展示魅力増進事業	令和4年度～令和7年度	
1-③	鉄道スクエア 歴史・文化展示魅力増進事業	令和3年度～令和7年度	
1-④	来訪者の利便性向上に向けた人材の増員	令和3年度～令和7年度	
1-⑤	地域通訳案内士養成事業	令和3年度～令和5年度	
1-⑥	「長浜城下町遺跡」選定事業	令和3年度～令和8年度	
2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業			
2-①	二次交通対策事業	令和3年度	
2-②	二次交通対策実証実験事業	令和3年度～令和4年度	
2-③	文化観光×フィールドワークアシスト	令和3年度～令和7年度	
3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業			
3-①	体験型観光推進事業	令和3年度～令和4年度	
3-②	文化観光施設周遊事業	令和3年度～令和7年度	
3-③	中心市街地連携事業	令和4年度～令和5年度	
3-④	物販商品開発事業	令和4年度～令和5年度	
3-⑤	文化観光周遊ツアー事業	令和3年度～令和7年度	
3-⑥	食文化の推進	令和3年度～令和7年度	
4. 国内外における地域の宣伝に関する事業			
4-①	長浜市魅力動画作成・配信事業	令和5年度	
4-②	デジタルマーケティング魅力発信事業	令和6年度～令和7年度	
4-③	長浜文化資源映像化事業	令和3年度～令和7年度	
4-④	広域連携事業	令和3年度～令和7年度	
5. 1～4の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業			
5-①	バリアフリー事業	令和3年度	
5-②	非接触推進事業	令和4年度	



湖国フィールドミュージアム・長浜地域計画の中核となる文化観光施設

3 計画期間

本計画の計画期間は、令和4年度～令和13年度の10年間とする。

「長浜市文化財保存活用地域計画」計画期間

※計画は必要に応じて見直しを行う。

計画期間									
令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)

4 計画の進捗管理と自己評価の方法

本計画を効果的かつ確実に推進していくため、本計画に掲げる内容に基づき実施する具体的な施策について、進捗を事業ごとに整理する。

これに基づき現状の課題を抽出・把握し、分析した結果を長浜市文化財保護審議会で評価する。そして、本計画の進捗状況について、PDCAサイクルの考え方に基づき、毎年度点検・評価を実施することで、成果や課題を検証しながら、着実に各種施策に取り組む。

なお、「長浜市総合計画第3期」の計画期間終了年である令和8年(2026)を目標年次として事業成果の検証・点検を行う。そして社会経済情勢をはじめ、長浜市の歴史文化を取り巻く環境に大きな変化が生じた場合には、計画期間の途中であっても適宜計画内容の見直しを行うこととする。

計画期間の変更や文化財の保存に影響を与えるおそれのある変更、計画の実施に支障が生じるおそれのある変更については、文化庁に変更の認定を受けることとする。その他、軽微な変更を行った場合は、滋賀県を經由して文化庁へ報告する。

5 歴史文化資産の定義

市内には文化財保護法第2条に規定される文化財6類型（有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群）の他、土地に埋蔵された文化財（埋蔵文化財）や文化財の保存技術に加え、地名・伝承・方言といった6類型を超えた幅広いモノやコト等様々な種類の文化的所産が存在する。本計画では、これらを指定・未指定に関わらず、幅広く「歴史文化資産」と呼び、学校教育・生涯学習・地域づくり・観光産業振興等に活用し、保存や継承を行う。

第2章 長浜市の概要

1 自然的・地理的環境

(1) 位置・面積

長浜市は、滋賀県の北部に位置し、総面積は、681.02 km²、東西約 25km、南北約 40km の市域を有している。東と南は米原市、東の一部は岐阜県に接している。西は一部、高島市に接しているが、大部分は琵琶湖に面し、北は野坂山地^{のさかさんち}を境に福井県に接している。市域の約 2 割を琵琶湖が占める。



長浜市位置図



長浜市域図

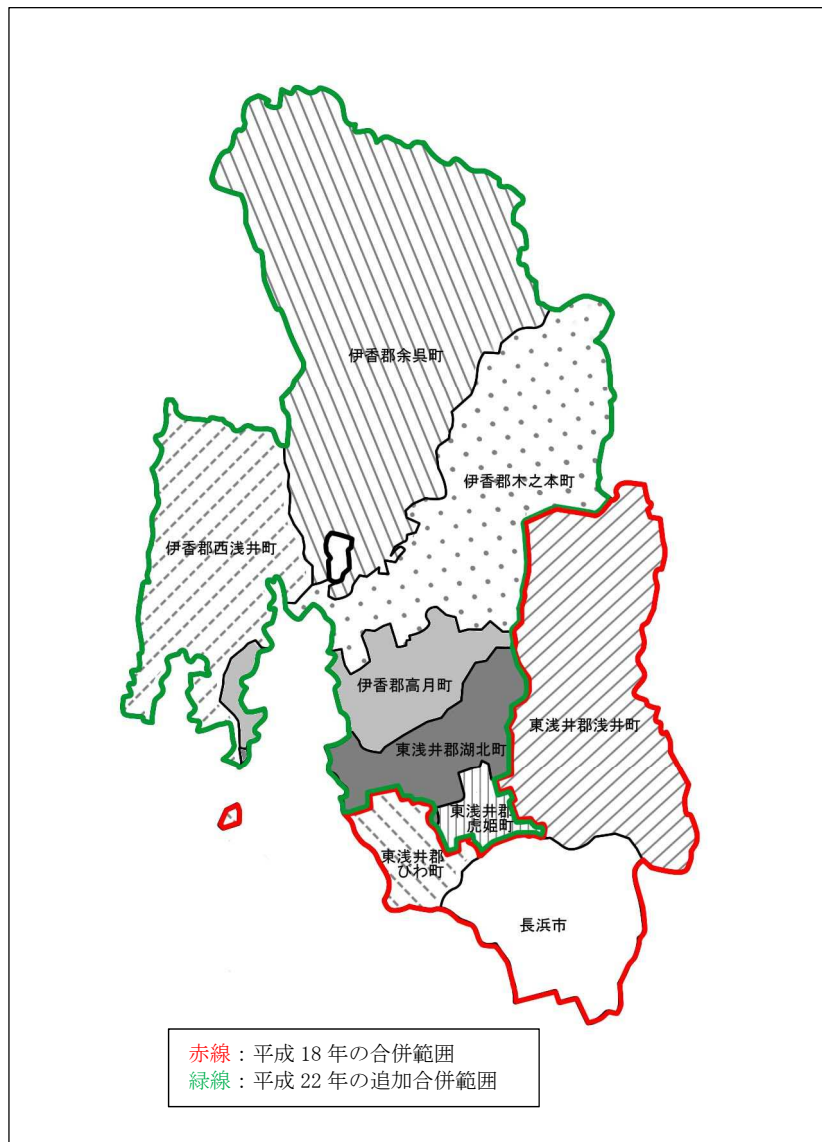


滋賀県略図

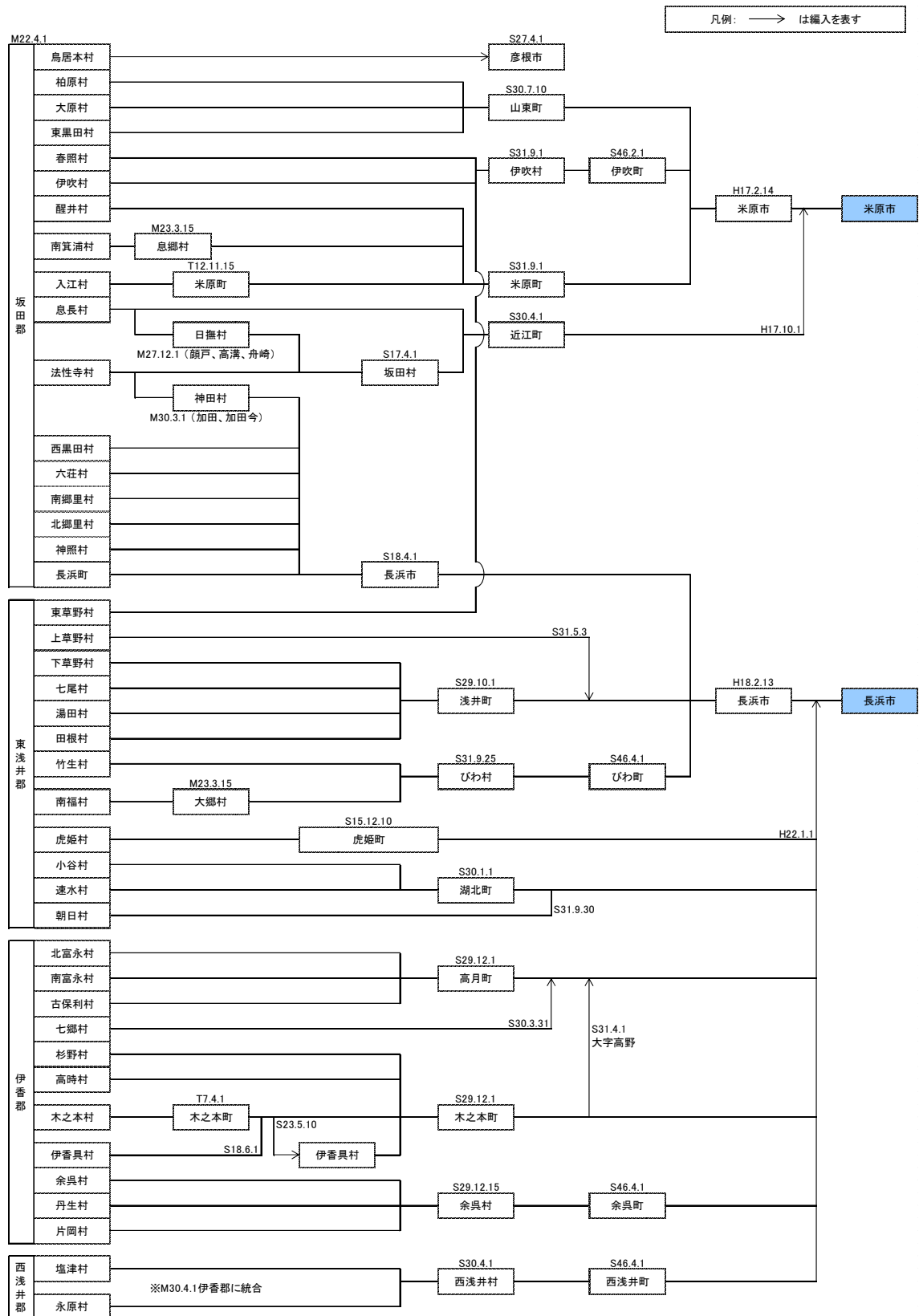
(2) 市の沿革

長浜市は、平成に2度の合併をしている。平成18年（2006）2月13日に長浜市、
東浅井郡浅井町、同郡比わ町の1市2町が合併し、平成22年（2010）1月1日には、長浜
市と東浅井郡虎姫町、同郡湖北町、伊香郡高月町、同郡木之本町、同郡余呉町および同郡
西浅井町の6町が合併した。

なお、旧長浜市域については、西黒田地区、六荘地区、南郷里地区、北郷里地区、神照
地区、長浜地区という旧村落を基盤にした区分けが、地域づくり協議会や公民館、自治会
の活動等の単位として現在も使用されている。



平成18年・平成22年合併時の市町範囲



湖北地方における市町村合併の変遷

(3) 地形

長浜市は、おおむね東を伊吹山地、北西を野坂山地で区切られ、南西は琵琶湖に面する。東側の伊吹山地は急峻な山々を連ね、^{かなり高だけ}金糞岳（標高 1317m）から連なる脊梁部が、滋賀県と岐阜県の県境となる。

伊吹山地の一峰に己高山（標高 923m）が立地する。己高山には山頂を中心に諸寺が建立され、中心寺院を観音寺と称した。

市域の南北には姉川や高時川等の河川が流れ、谷を発達させている。湖岸は、山本山から北に山が連なり、南は姉川や高時川といった河川が琵琶湖に流れ込むことにより土砂が堆積し広大な平野を形成している。

琵琶湖には面積 0.14 km²、周囲 2 km の竹生島^{ちくぶしま}が立地する。最高点の標高は 197m で、周囲の水深は 70m 前後である。



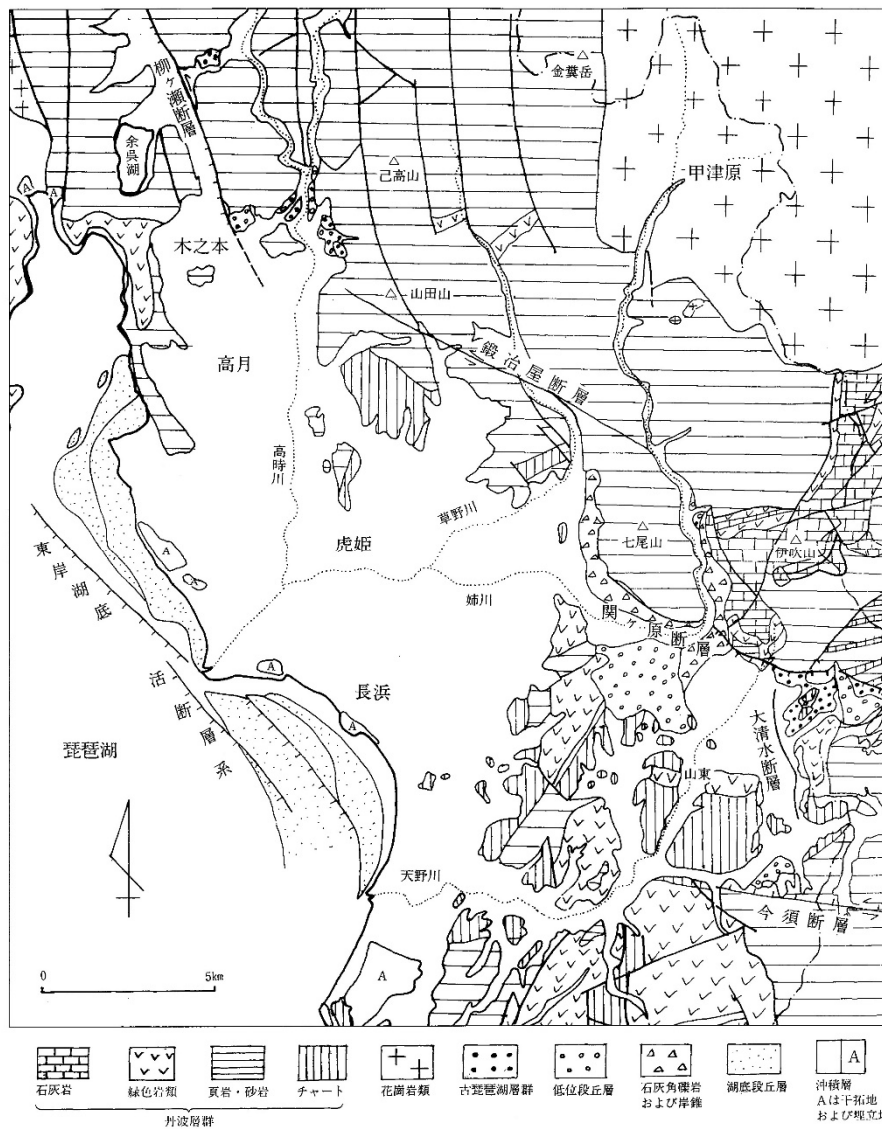
地形図

(4) 地質

長浜市の地質は、西南日本内帯の美濃帯に属する。美濃帯は中古生層の分布を指し、野坂山地から西方へ丹波帯に連続する。また、これを貫いて花崗岩類が伊吹山地中部にみられ、低地帯には低い丘陵をつくる古琵琶湖層群、沖積層が分布する。

山地は古生代の砂岩・粘板岩・チャートおよびそれらの互層で構成され、丘陵地は丹波層群、低地部には沖積層が分布している。また、湖岸沿いの地域は砂礫の混じった砂質地盤となっている。

山裾には鍛冶屋断層や柳ヶ瀬断層が走り、低地と山地の境界は断層運動が繰り返されて形成された断層崖となる。



出典：長浜市史

地質図

(5) 水系

市内の主要河川として、姉川・草野川・高時川・余呉川等 93 本の一級河川があり、いずれも淀川水系に属し、流末はすべて琵琶湖に注いでいる。姉川は草野川を合流しながら市域を東西に流れ、高時川は市域を南北に流れる。これらの川は扇状地を発達させ、旧河道が各所に広がり湖北の平野を形成している。

市域南部の旧長浜市の市街地周辺を流れる長浜新川や中心市街地を流れる米川や十一川等は、市民に身近な水辺空間となっている。長浜新川は、市街地の浸水を防ぐため昭和 61 年（1986）から建設が進められ、治水効果以外に親水空間確保のため、橋梁や欄干に意匠を凝らし、護岸に緑地帯を設けている。

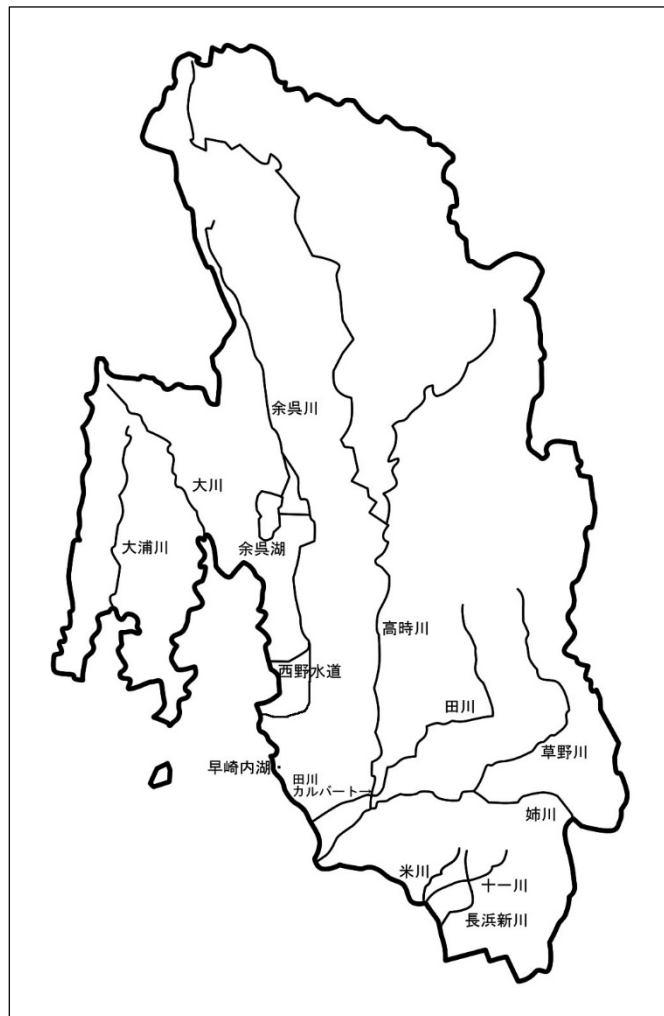
また、米川は道の脇や家の間を流れる川で、市街地では長浜城の外堀の機能を持っていた。各所に川面に降りる階段が設けられ、昔は洗い物に利用される等生活に密着した身近な水辺空間となっている。

一方、市の北部に水源を持つ余呉川は、たびたび氾濫し、流域の人びとは洪水の被害に悩まされていた。そのため、天保 11 年（1840）から弘化 2 年（1845）にかけて山を掘り抜き、琵琶湖への排水路となる西野水道を築いた。しかし、その後も度々洪水が発生したため、昭和 25 年（1950）と昭和 55 年（1980）に新たな隧道を築き、洪水対策を行っている。

その他、姉川・高時川の水が田川に逆流し、周辺の村は水害の危険にさらされていた。これを解決するために、高時川の底に底樋を通して田川の水を琵琶湖に流す工事を江戸時代に行った。工事は明治や昭和にも行われ、造られた構築物は田川カルバートと呼ばれている。

余呉湖は、市域北部に位置し、北方を除いた三方の湖岸に山が迫る周囲 6 km の断層湖である。昭和 45 年（1970）に湖岸で埋没林が発見されている。

琵琶湖の湖岸に生じた池や沼は内湖と呼ばれている。市内には 7 ヶ所の内湖が存在したが、4 ヶ所が干拓により消失した。そのうちの早崎内湖は消失した後、再生に向けて湛水化実験が行われている。



水系図

(6) 生態系

長浜市は、森林や農地、琵琶湖や河川等の水辺環境を背景として多様な動植物が生息しており、確認される動物は、サル、タヌキ、イノシシ、キツネ、シカ等の哺乳類からゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタル等の昆虫類まで多岐にわたり、保護の観点から重要な動植物も多く存在している。また、市内北部の山間部には特別天然記念物のカモシカやオオサンショウウオの生息も確認されている。

琵琶湖岸の山本山にオオワシが越冬のため渡来する他、琵琶湖周辺の余呉湖や西池等湖北地方で330種の野鳥が飛来している。

琵琶湖では、琵琶湖にしか生息しない60種類を超える固有種をはじめとする多様な生物が確認されている。稚アユはコアユやヒウオと呼ばれ、4月から5月にオイサデアミと呼ばれる漁がおこなわれていた。

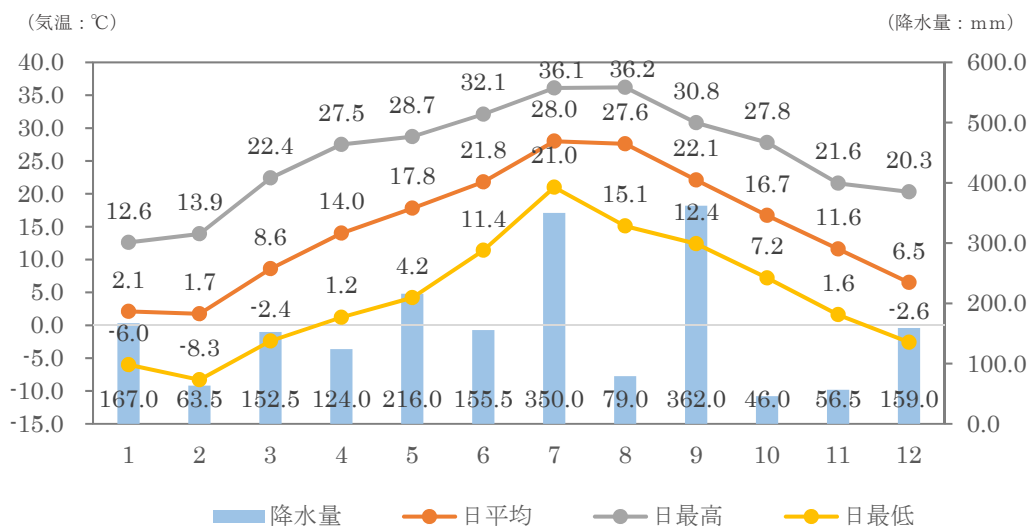
里山地域には、コナラやアカマツを主体とする天然林やスギを主体とする人工林が、奥山地域にはブナ、ミズナラ、アシウスギを主体とする天然林やスギを主体とする人工林がみられる。また、市内北部の急峻な地形には、トチノキ等巨木林が自生する。同じく市内北部の湿地である山門湿原では、ミツガシワ等が生育し、中河内周辺には多雪地帯に分布するユキツバキや湿地に生息するザゼンソウが自生する。

森林植生は、冷温帯と暖温帯、日本海側と太平洋側のいずれにもまたがっているため、極めて多様性に富んでいる。

しかし、近年の気温上昇や森林の手入れ不足、耕作放棄等の影響のため、シカ・サル・イノシシ等の獣害やカシノナガキクイムシによるコナラ等のブナ科植物の立ち枯れ等が問題になっている。

(7) 気候

長浜市は、瀬戸内型と東海型、北陸型の3つの気候区の接点に位置し、これらの気候区に属する大阪湾・伊勢湾・若狭湾からの気流が近江盆地にせまり、低地帯を通して流入してくる。長浜市もこの影響を受け、冬期に北陸型気候に属する若狭湾から季節風が吹き込み、湖北の山地で上昇気流となるため、降雪量が多くなるのが特徴である。



平成30年(2018)の月別平均気温と降水量

出典：長浜市歴史的風致維持向上計画

(8) 景観

市域の西側に広がる琵琶湖は、日本一広大な湖で、生息する生物も多様である。湖面には、竹生島が見え、^{えり}鰯と呼ばれる魚の習性を利用した定置網の杭が水面に見える特色ある景観を構成しており、とりわけ奥琵琶湖一帯は、独自の文化的景観を構成している。そのため、琵琶湖岸を、市の景観まちづくり計画における琵琶湖沿岸景観形成重点区域に指定している。また、琵琶湖岸に立地する^{すがうら}菅浦集落は文化財保護法により国の重要文化的景観「菅浦の湖岸集落景観」に選定されている。

^{ほつくわきおうかん}北国脇往還は、岐阜県関ヶ原町と長浜市木之本町を結ぶ街道として古くから利用されており、国道 365 号沿道景観形成重点区域に設定している。沿道には集落が点在し、田園や山並みと一体となって落ち着いた景観をつくっている。

姉川は、近隣の土地を育み、いくつかの河川と合流し豊かな川の流れと生物を育んでいる。川沿いには、自然景観や集落が点在していることから、くらしと川が結びついた特徴的な景観として姉川河川景観形成重点区域に設定している。

市街地は、長浜城の城下町その他、大通寺の門前町として栄え、現在は、町家風に修景した門前の商店街としてにぎわいを見せる場所や、昔からの商家や明治期の土蔵が並ぶ等、風情のある雰囲気醸し出している。また、木之本宿は、北国街道と北国脇往還の分岐にあたる交通の要衝として古くから宿場町として栄え、その景観を今に残す。(P9 図参照)



菅浦集落の遠景



姉川



北国脇往還沿いの集落の町並み



木之本宿の町並み

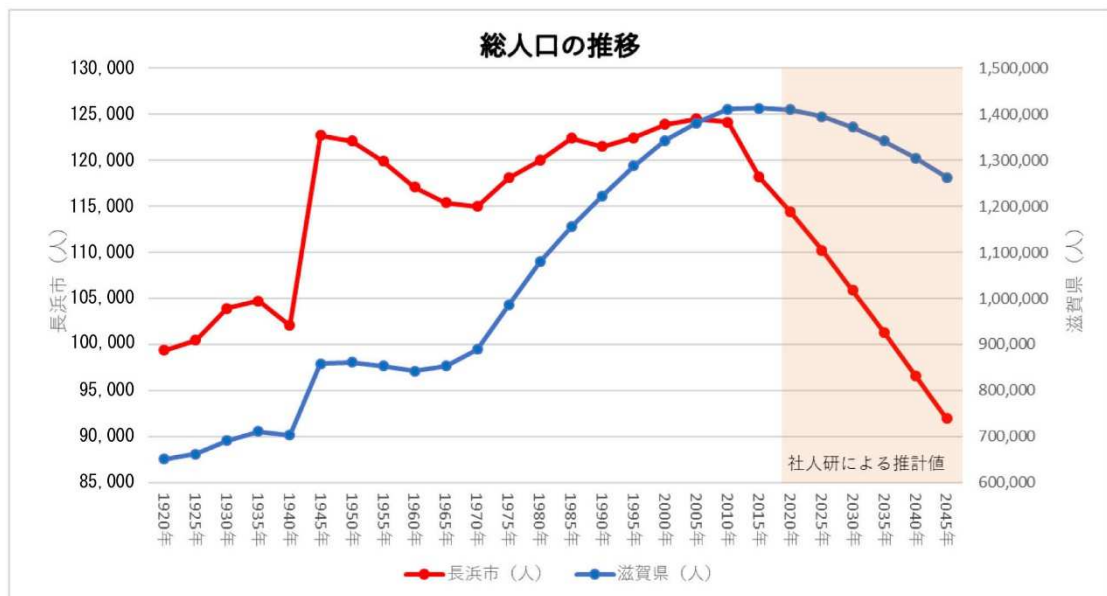
2 社会的状況

(1) 人口

長浜市の人口は、令和 2 年（2020）11 月 1 日現在で 46,479 世帯、116,976 人（住民基本台帳による）である。昭和 45 年（1970）以降、高度経済成長期には増加傾向にあったが、平成 22 年（2010）以降急激な人口減少が続いている。

人口減少は、市内の各地域で生じている。平成 22 年の市町合併時の市内人口と現在の市内人口を旧市町単位で見ると、各地域で 2%～22%の減少が生じている。その中でも市内北部は、平成 22 年の人口と比較すると 70%後半から 80%前半の人口となっている。

このようななか、国立社会保障・人口問題研究所推計準拠によると令和 27 年（2045）には 9.1 万人まで減少することが見込まれる。

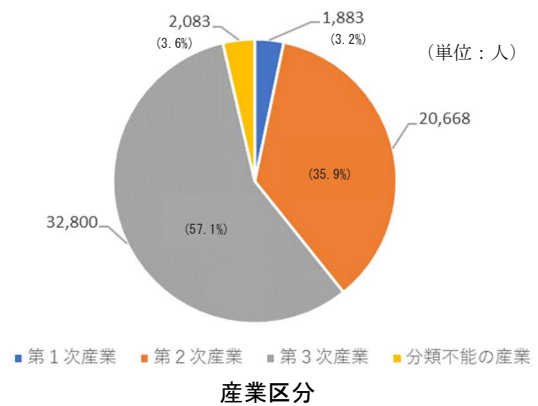


総人口の推移

出典：長浜市人口ビジョン（総合政策課、令和 2 年 3 月）

(2) 産業

平成 27 年（2015）国勢調査における産業別就業者数は、就業者 57,434 人のうち、農林水産業等の第一次産業は 1,883 人（3.2%）、建設業や各種製造業等の第二次産業は、20,668 人（35.9%）、卸売業・小売業やサービス業等の第三次産業は 32,800 人（57.1%）となっている。



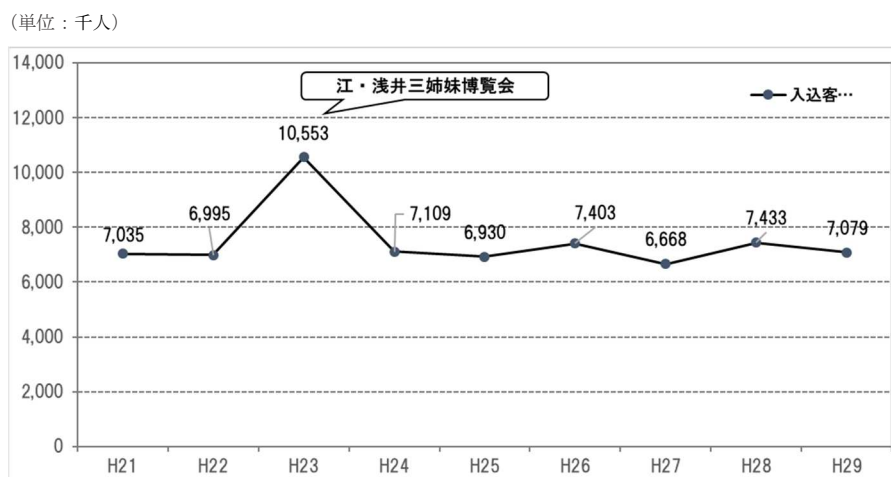
江戸時代、養蚕業が盛んであったため、織物業（製糸・縮緬・ビロード・蚊帳）が営まれた。

その他、ヨモギからもぐさを生産し行商が行われた。今も邦楽器の原糸製造やもぐさの製造は続き、縮緬は浜縮緬と呼ばれる特産品となっている。また、明治には鉱山が発見され、黄銅鉱等を産出したが、現在は閉山している。

昭和に入ってからカネボウ長浜工場・ヤンマー長浜工場・三菱樹脂工場・長浜キヤノン・日本電気硝子等の工場が誘致された。現在は、これらの工場をはじめ、製造業やバイオ産業等において、特色ある中小企業の活動が見られている。

中心市街地は、長浜城の城下町や大通寺の門前町として栄え、近代には銀行や学校が建設されている。そのような環境の中、平成元年（1989）に市街地に開設した黒壁ガラス館には、年間 200 万人以上の観光客が訪れており、近畿地方を代表する観光地となっている。春の長浜曳山祭、夏の長浜・北びわ湖大花火大会、秋を中心に開催される長浜出世まつり、冬の長浜盆梅展等には、さらに多くの来訪者がある。

そして、平安時代から現代にいたるまで、人びとの観音信仰が深く、多くの仏像が市内各地に伝わっており、それら観音像等のホトケや、戦国関連遺跡、さらに豊かな自然を訪ねる来訪者も多い。



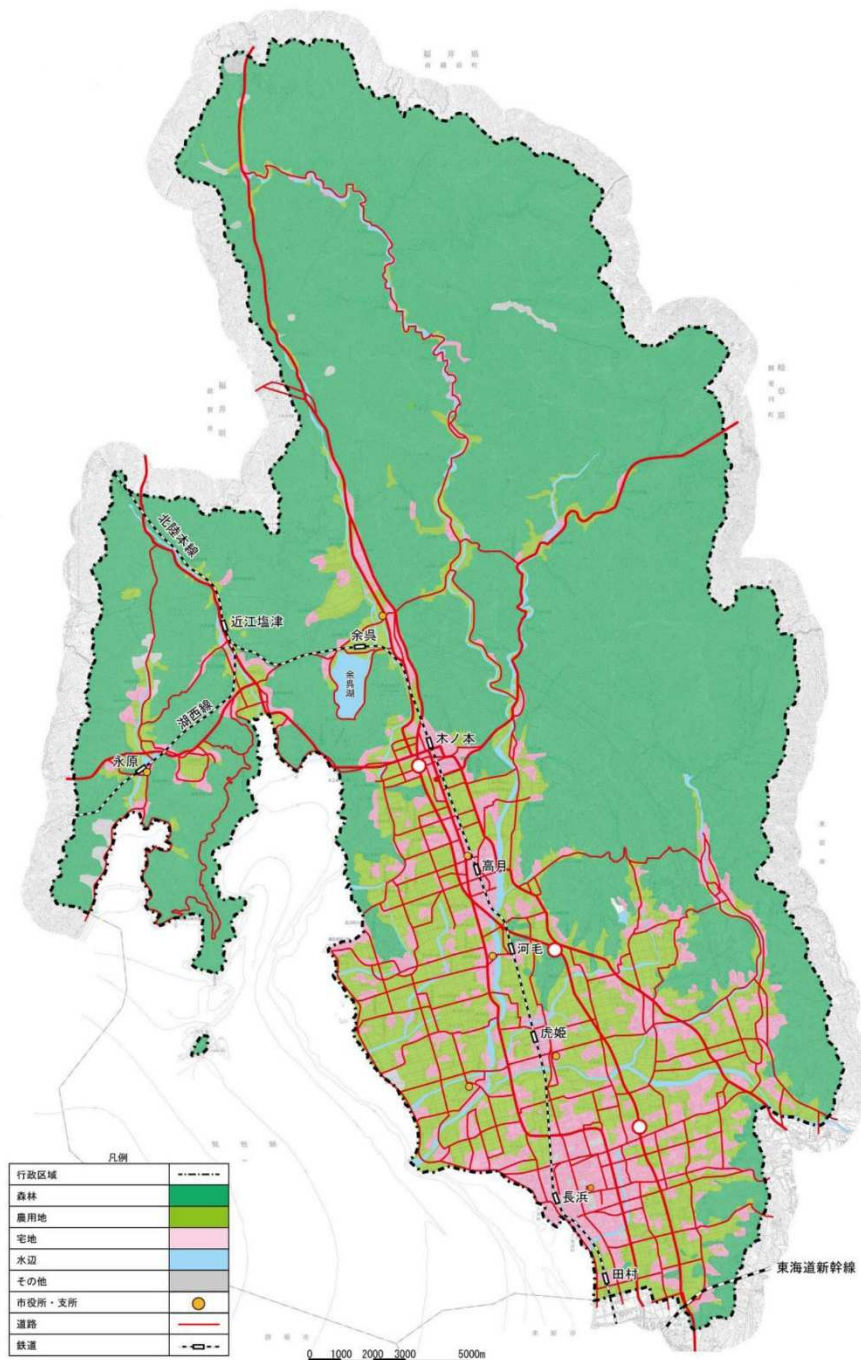
観光客数

出典：長浜市歴史的風致維持向上計画

(3) 土地利用

長浜市の南部は市街地が形成され、商業施設や工場が立地している。そして中部は田園が広がり、北部は森林が大部分を占め、自然環境豊かな地域となっている。

南部の市街地からその縁辺部に向かって人口集積が進んでおり、郊外でも主要道路沿道部等で市街化の進む場所が見られる。



土地利用現況図

出典：長浜市国土利用計画

(4) 交通

長浜市は、京阪神や中京、北陸の経済圏域の結節点としての位置にあり、京都市や名古屋市からはおよそ 60km 圏域、大阪市からはおよそ 100km 圏域にある。

市域においては、高速自動車国道として北陸自動車道が、広域幹線道路として国道8号が市域の中央部を南北に、国道365号が市域の南東部から北西部に、国道303号が市域の北部を東西にかけて通過しており、これらをつなぐ主要地方道、一般県道、主要市道による道路網が形成されている。

鉄道は、JR 北陸本線が市を南北に結び、長浜駅・田村駅・虎姫駅・河毛駅・高月駅・木ノ本駅・余呉駅・近江塩津駅の 8 駅が設置されている。そして JR 湖西線が北西部を走り、永原駅が設置されている。

湖上交通はかつて北陸からの物資を京へ運ぶ流通の大動脈として発展したが、現在は竹生島等への観光船が中心である。

路線バスは、木之本米原線等 11 路線、西浅井交通ネットワーク線等の路線バスのデマンドが 2 路線運行し、市内各地を繋いでいる。路線バスが運行していない区域については、ひょうたんタクシー等デマンドタクシーが 5 地域で運行している。

これら道路や鉄道を主な広域交通軸として、周辺の経済圏域と利便性が高く結びついている。さらに、平成 3 年（1991）に長浜駅まで新快速電車の京阪神から乗り入れが始まり、平成 18 年（2006）10 月に JR 北陸本線・湖西線の電化方式が交流から直流に変更されたことにより、「琵琶湖環状線」として京阪神はもとより、北陸圏域への交通利便性が高まっている。



長浜市の広域交通網

出典：長浜市歴史的風致維持向上計画

(5) 歴史文化資産に関わる市民団体の活動

長浜市では、各地域の地域づくり協議会やNPO法人、各種歴史文化資産の保存活用団体等、地域の歴史や文化の調査・研究や保存・継承、活用等に積極的に携わる多くの市民団体が活動している。

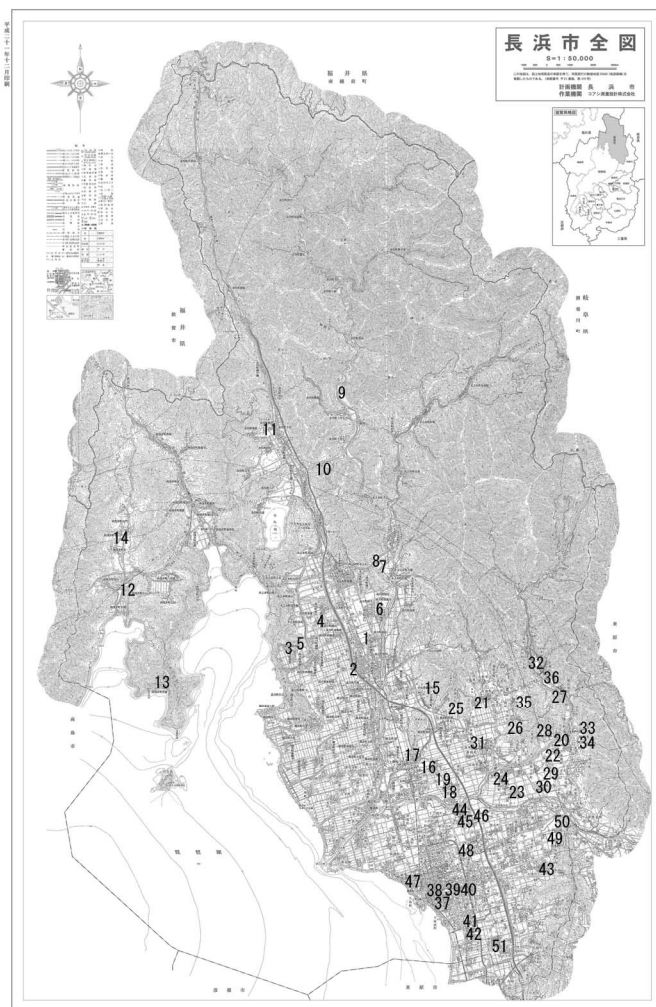
これらの市民団体は、これまでも、多くの歴史文化資産の継承に寄与し、行政が進める歴史文化資産の保護や啓発に関わる事業を補完、あるいは牽引する重要な役割を担ってきた。その活動は、本計画第7章以下に述べる基本方針である「歴史文化資産を地域で守る体制を確立」するためには、欠くことのできない存在である。

市内において活動する主な保存活用団体は、表のとおりである。

長浜市内の主な歴史文化資産保存活用団体・顕彰会等一覧

地域	番号	保存活用団体等名称	所在地	活動内容
高月町	1	渡岸寺観音堂国宝維持保存協賛会	高月町渡岸寺	拝観者の案内
	2	宇根冷水寺世話方	高月町宇根	拝観者の案内
	3	西野薬師堂世話方	高月町西野	拝観者の案内
	4	唐川赤後寺世話方	高月町唐川	拝観者の案内
	5	西野郷土研究会	高月町西野	集落内の歴史文化の発掘等
	6	芳洲会	高月町雨森	雨森芳洲の顕彰
木之本町	7	古橋史跡文化保存会	木之本町古橋	鶏足寺を中心として仏教文化の保存
	8	古橋のオオサンショウウオを守る会	木之本町古橋	オオサンショウウオの生態把握・環境整備
余呉町	9	丹生茶わん祭保存会	余呉町上丹生	上丹生の曳山茶碗祭の催行等
	10	余呉城郭研究会	余呉町中之郷	城郭の研究
	11	毛受兄弟史蹟保存会	余呉町新堂	史跡の維持管理等
西浅井町	12	有限会社西浅井総合サービス	西浅井町大浦	北淡海・丸子船の館の管理等（地域づくり）
	13	菅浦「惣村の会」	西浅井町菅浦	重要文化的景観・菅浦の案内
	14	山門水源の森を次世代に引き継ぐ会	西浅井町山門	山門湿原の保全
湖北町	15	小谷城址保勝会	湖北地域	小谷城跡の保全
虎姫町	16	三川丸山会	三川町	三川町の歴史文化の発掘等
	17	虎御前山古墳と中世城郭保全顕彰会	中野町	虎御前山城の保全
	18	宮部史談会	宮部町	宮部町の歴史文化の発掘等
	19	虎姫の歴史を知る会	宮部町	虎姫地域の歴史文化の発掘等
	20	下草野郷土史研究会	下草野地域	地名調査・村落景観情報・オコナイ調査
浅井町	21	田根史談会	田根地域	勉強会・見学会を開催
	22	南郷町条里立石聖観音保存会	南郷町	条里石・観音像の保全
	23	三田史跡保存会	三田町	姉川古戦場・三田村氏館跡等の保全
	24	三上藤川顕彰会	大路町	幕末の志士・三上藤川の顕彰
	25	瓜生薬師如来保存会	瓜生町	重要文化財薬師如来および歴史文化資産の護持保存等
	26	木尾大田寺薬師如来保存会	木尾町	歴史文化資産の護持保存・環境整備保全等
	27	鍛冶屋育成協議会	鍛冶屋町	鍛冶屋の歴史全般
	28	当目太鼓踊保存会	当目町	太鼓踊りの公演・保存
	29	姉川合戦史跡保存会	野村町	姉川古戦場の景観保全等
	30	姉川の合戦再見実行委員会	全市	姉川古戦場のウオーク事業等
	31	実宰院史跡保存会	平塚町	実宰院史跡並びに歴史文化資産の維持保存等
	32	太田大日如来保存会	太田町	重要文化財大日如来および歴史文化資産の護持保護等
	33	醍醐寺史跡保存会	醍醐町	重要文化財毘沙門天および歴史文化資産の護持保護等
	34	醍醐遺跡保存会	醍醐町	醍醐塚原古墳群および歴史文化資産の護持保護等
	35	近江孤蓬庵小堀遠州公史跡保存会	上野町	孤蓬庵の保全

地域	番号	保存活用団体等名称	所在地	活動内容
浅井町	36	大吉寺史跡保存会	上草野地域	大吉寺史跡の保存管理、史跡への登山道の整備等
長浜市	37	浅井顕彰会	平方町	徳勝寺での浅井氏追善法要等
	38	長浜曳山文化協会	元浜町	長浜曳山祭の保存伝承、保存修理等
	39	長浜市無形民俗文化財保存活用協議会	八幡東町	無形民俗文化財に関すること
	40	観音の里・祈りとくらしの文化伝承会議	八幡東町	観音文化に関すること
	41	六史会	六荘地域	六荘地域の歴史研究等
	42	下坂氏館を守る会	下坂中町	下坂氏館跡の維持管理
	43	石田三成公事蹟顕彰会	石田町	石田三成の顕彰活動
	44	国友一貫斎顕彰会	国友町	国友一貫斎の顕彰活動
	45	国友町歴史文化保存会	国友町	国友町の歴史文化の発掘等
	46	国友一貫斎科学技術研究会	国友町	国友一貫斎の顕彰や鉄砲の研究等
	47	成田思斎翁彰徳会	相撲町	成田思斎の顕彰活動
	48	小堀遠州顕彰会	小堀町	小堀遠州の顕彰活動
	49	横山再生委員会	北郷里地域	北郷里の歴史の普及啓発
	50	こまざらえの会	垣籠町	垣籠町の歴史研究
	51	加田史談会	加田町	加田地域の歴史研究



長浜市内の主な歴史文化資産保存活用団体・顕彰会等分布

(6) 長浜市の歴史文化関連施設一覧

令和3年6月現在、長浜市内には24の歴史文化施設がある。これらを大別すると、長浜市直営施設、指定管理施設、長浜市による補助金の交付を受け地域の自治会等が運営する施設、地域の自治会の運営による施設、私設・法人による施設である。

長浜市内の歴史文化施設

番号	名称	所在地	区分	運営者
1	浅井歴史民俗資料館	大依町	●	長浜市
2	今重屋敷 能舞館	元浜町	△	株式会社新長浜計画
3	小谷城戦国歴史資料館	小谷郡上町	◎	小谷城址保勝会
4	海洋堂フィギュアミュージアム	元浜町	△	興亜興産株式会社
5	北淡海・丸子船の館	西浅井町大浦	◎	有限会社西浅井総合サービス
6	国友鉄砲の里資料館	国友町	■	国友町自治会
7	慶雲館	港町	◎	公益社団法人長浜観光協会
8	己高閣・世代閣	木之本町古橋	☆	木之本町古橋自治会
9	五先賢の館	北野町	■	五先賢の館運営委員会
10	湖北観光情報センター	元浜町	■	公益社団法人長浜観光協会
11	下坂氏館跡	下坂中町	●	長浜市
12	菅浦郷土史料館	西浅井町菅浦	☆	菅浦自治会
13	高月観音の里歴史民俗資料館	高月町渡岸寺	●	長浜市
14	葛籠尾崎湖底遺跡資料館	湖北町尾上	☆	湖北町尾上自治会
15	富田人形会館	富田町	■	富田人形保存会
16	長浜市長浜城歴史博物館	公園町	●	長浜市
17	長浜市曳山博物館	元浜町	◎	公益財団法人長浜曳山文化協会
18	長浜鉄道スクエア	北船町	◎	公益社団法人長浜観光協会
19	成田美術館	朝日町	△	個人
20	東アジア交流ハウス 雨森芳洲庵	高月町雨森	◎	雨森自治会
21	北国街道安藤家	元浜町	△	長浜まちづくり会社
22	ヤンマーミュージアム	三和町	△	ヤンマー株式会社
23	養蚕の館	相撲町	●	長浜市
24	余呉茶わん祭の館	余呉町上丹生	■	上丹生茶わん祭保存会

●長浜市直営、◎指定管理運営、■補助金交付自治会等運営、☆自治会等運営、△私設・法人運営

3 歴史的背景

(1) 先史（縄文時代～古墳時代）

ア) 長浜の黎明

長浜市内には 40 か所以上の縄文遺跡が存在する。

琵琶湖の中に位置する葛籠尾崎湖底遺跡では、縄文土器等様々な時代の土器が底引き漁であるイサザ漁により発見されている。縄文時代前期では宮司東遺跡で、集石炉が見つかった。中期では配石遺構を検出した醍醐遺跡、堅穴住居を検出した高橋遺跡等がある。後期では、川崎遺跡でゴミ捨て場が見つかった。晩期では宮司遺跡・十里町遺跡・口分田北遺跡等の遺跡が確認されている。湖北地方の縄文時代の遺跡の分布傾向として、前期の遺跡は内湖等の内側に立地する傾向にある。中期になると、山地の裾部に中部山岳地方の影響を受けた遺跡が成立する。後・晩期には、平野の低湿地においても遺跡が増加する。

弥生時代では、環濠を持つ川崎遺跡の他、大辰巳遺跡、宮司遺跡、十里町遺跡等前期以降の遺跡が確認されている。五村遺跡では巴形銅器が出土し、余呉町坂口の桜内遺跡では弥生時代後期の堅穴住居と方形周溝墓が検出された。

イ) 王たちの出現

最初に坂田郡の長浜平野を掌握した王の墓は茶臼山古墳で、横山丘陵北部を中心に首長の墓域が築かれる。横山丘陵は姉川左岸地域の丘陵で、丘陵先端の龍ヶ鼻を中心に首長墓（横山北部古墳群）が配置される。この地域は、天武天皇の八色の姓において真人姓を与えられた坂田氏の本拠地として有力視されている。

その他の首長墓としては、浅井郡地域においては乗倉古墳が築かれ、伊香郡地域においては、山本山を南限とする尾根上に 132 基からなる古保利古墳群が築かれる。伊香郡には、伊香氏が豪族として勢力を広げていた。

中央政権との関わりを深めた坂田氏やおきな氏等地域を束ねた王の存在を示す証として、古墳が各地に残される。



茶臼山古墳

(2) 古代（飛鳥時代～平安時代）

ア) 古代の長浜

仏教の伝来とともに死生観は変化し、古墳に対する考えも変化する。古代氏族の中央とのつながりを背景に、長浜市域でも早くから仏教文化の広がりが進んだ。『日本書紀』によれば、推古 14 年（606）、渡来系の氏族・鞍作鳥は功績として推古天皇から坂田郡の 20 町（寺田町付近と言われる）を賜り、明日香の地に坂田尼寺を建てたという。

この他にも、飛鳥時代（593～709）から各地に寺院が建立されていく。この時代に建立された白鳳寺院は坂田郡内で9寺、浅井郡内で6寺、伊香郡内で4寺が確認できる。

坂田郡衙^{さかたぐんが}については、大東遺跡^{おおひがし}が第1次坂田郡衙、宮司遺跡は第2次坂田郡衙と考えられている。伊香郡における郡衙関係遺跡は、北富永遺跡群^{きたとみなが}と考えられる。北富永遺跡群内の井口遺跡^{いのくち}においては、規則的に配置された奈良時代（710～793）の大型建物が検出されている。

白鳳時代（645～709）以降、現在の長浜市周辺では、土器の生産とともに、各地で古代寺院の屋根に葺かれた瓦の生産も活発に行われた。瓦の生産は、須恵器と同じように、丘陵地に登り窯を設けて焼成された。近江は大和に次ぐ数の寺院が建立された地域で、それぞれの寺院に近接した場所で古代瓦の生産が行われたものと考えられる。長浜市・米原市を含めた湖北地方には、古代瓦の採集地が39遺跡を数える。これらは、古代寺院が建てられていたと想定されるものの他、瓦を生産した窯の遺跡と推測されるものも少なくない。

長浜の地は、古代から中央と東国・北陸をつなぐ交通の要衝であった。そのことは、異文化との接触地帯という面も有している。

古代の平野部の水田開発を考える上で、重要な指標となるのが条里制である。現存する条里遺構は、平安時代（794～1184）の10世紀頃から造られたものと考えられている。縦横6町四方の正方形が基本の区画であり、「里」と呼ぶ。縦横の一边が各々6等分され、 $6 \times 6 = 36$ に分けられ、その一つ一つを「坪」と呼ぶ。長浜でも、645年からの大化の改新に伴う「班田収授法」以降、条里地割が施行されたと考えられ、旧郡境では歪みが見られることから、旧郡や、さらにはもっと細分化された単位（『和名類聚抄』にある郷単位^{わみょうるいじゅうしょう}）で条里が区画されたことが推測される。また、集落名に「十里」や「十九」^{じゅうく}「五ノ坪」等条里の名残を伝える地名も多く残され、条里の境界石（南郷町、市指定）も伝えられている。

塩津港は発掘調査により平安時代後半から栄えたことが判明し、港跡、神社跡や起請文本簡等が発見されている。

イ）観音文化

長浜市の古代における信仰を概観すると、北部の伊香郡における観音信仰の己高山と、琵琶湖に浮かぶ竹生島が、二大信仰拠点といえる。

己高山^{はくさん}は奈良時代、中央仏教と並んで北陸白山信仰や十一面観音信仰が流入し、平安時代以降の天台文化と、3つの仏教文化の習合文化圏^{しゅうごう}として栄えた。今なおこの地域には奈良・平安時代に遡る数多くの歴史文化資産が伝えられている。竹生島は、古代から神秘の霊島と崇められ、奈良時代には南都寺院の修行場とされ、その後、天台系修験の行場となったと考えられる。以降、千手観音と弁才天の2尊を島の本尊とし、西国三十三所観音霊場として、また日本三大弁才天の島として広く信仰を集めてきた。

市内には現在まで多くの観音像等の尊像が伝えられ、寺だけでなく集落の中の小さな祠で地域住民によって手厚く守られている。身近に祀られている観音像等への信仰が、地域住

民の日常生活や地域の営みと密接に関わりながら育まれ、長浜市域特有の文化として息づいている。

(3) 中世（鎌倉時代～室町時代）

ア) 武士の台頭と惣村の発達

鎌倉時代（1185～1332）に入ると、平安時代から続く荘園公領制が広く展開する中で、武士の台頭が見られる。浅井郡大浦荘菅浦への塩津荘地頭熊谷氏の乱入事件は、「菅浦文書」により知られている。

室町時代（1333～1572）には、室町幕府奉公衆の所領が点在した。上記の塩津荘熊谷氏や、その分家である今西熊谷氏、それに浅井郡朝日郷を本拠とした斎藤朝日氏等である。また、南北朝時代（1333～1391）に足利尊氏の側近として京極導管が活躍したことで、湖北3郡の守護職を得た京極氏は、湖北の地に余呉荘地頭職等多くの所領を得た。そのなかで、在地の動きとしては、菅浦における村掟の作成や、隣村大浦との境界争い等に見る「惣」の発達が知られる。その姿は、今も菅浦に残る四足門等で確認できる。

イ) 浅井氏から秀吉へ

応仁・文明の乱以降は、京極氏が上平寺城（米原市）を拠点に、在地性を高め、戦国大名としての道を歩もうとしたが、「大吉寺梅本坊の公事」により一族内の争いが表面化し、一国衆であった浅井氏に政権を奪われた。浅井氏は小谷城を拠点に3代にわたって湖北の統治を行った。この浅井氏の最後の当主・浅井長政と織田信長が戦った4年間におよぶ姉川合戦を皮切りとする元龜争乱は、湖北を戦乱の渦中に巻き込み、寺社等多くの歴史文化資産を損亡させた。また、この京極氏・浅井氏の家臣として、村々には多くの村落領主が生まれ、「惣」の力が弱い村では領主居館を中心に村落統治を主導した。

浅井氏を倒した信長は、湖北の統治を家臣の羽柴秀吉に任せた。秀吉は、その拠点を小谷から今浜の地に移し、巨大な城と城下町を建造する。これが、現在の長浜市街地の原型である。また、本能寺の変の後、天下統一を目指して、柴田勝家と余呉湖の周辺で決戦を行った。この天正11年（1583）の賤ヶ岳合戦においても、長浜城は後方基地として活用されている。

秀吉はこの領内から多くの家臣を登用したが、そのなかで石田三成・小堀正次（遠州の父）・片桐且元・脇坂安治・田中吉政等は、秀吉がつくり上げた豊臣政権の中で全国的に活躍した。

湖北は、伝統的に比叡山の勢力が強く、山門領荘園も多く設定され、天台宗が広く普及した。そのなかで、室町時代の蓮如の登場以降、浄土真宗が村落に広く浸透し、戦国時代には信長と戦う一向一揆を形成するまでに成長した。村々には、江戸時代（1603～1867）の真宗寺院の基となる道場が造られていく。さらに、伊香郡には浄土宗や曹洞宗の布教もおよび、同宗の寺院が多数建立された。

長浜市内の城跡は、集落の中に平地城館が築城されるという特徴がある。山上に築かれた山城は、浅井氏の居城である小谷城跡や信長との合戦時に利用された城がある他、市内北部

の山に秀吉と柴田勝家との賤ヶ岳合戦の時に築かれた玄蕃尾城^{げんぱおじょう}等がある。

(4) 近世（江戸時代）

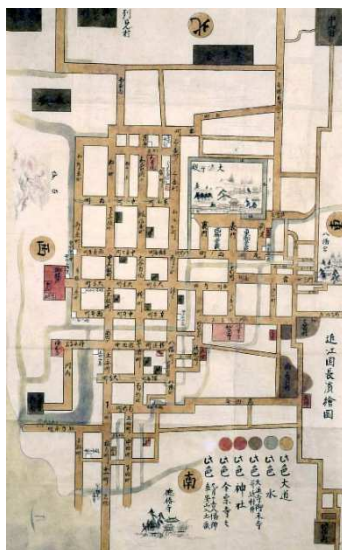
ア) 城下町の繁栄

近世においては、天正2年（1574）の長浜城築城とともに形成された城下町がその形を変えつつ大きく発展し、今の長浜市街地となっていく。現在もまちなかでは商家の並びや町割、旧町名を記す石碑によって、かつての城下の姿を偲ぶことができる。秀吉が構想した長浜城下町のプランは、大坂城等のちに秀吉が築く城下町に踏襲され、全国各地に広がり、長浜は「近世城下町のルーツ」と評価されている。



長浜市長浜城歴史博物館

江戸時代の長浜町は、52 か町を基本単位として



近江国長浜絵図

町政が行われた。その姿は彦根藩の命によって元禄9年（1696）に描かれた「長浜町絵図」をはじめ、多数の絵図に記録されている。秀吉以来の300石の朱印地は江戸時代も継続され、52か町のうち36か町がこれにあたる。長浜城跡については天守跡が大きく載り、周辺は田畑となるが、町の形は長浜城跡に向かう東西軸線を基本にした正方形型地割が特徴的である。

江戸時代後期に描かれた「近江国長浜絵図」（長浜城歴史博物館蔵）では、城跡は画面の隅に小さく記されるに留まる。絵図は長浜町を中心に据えて、縦長に広がる長浜の町々と北国街道およびそれに並行する沿道が記されている。町の北東に位置する大通寺が大きく書き込まれている点も特徴的で、長浜城下町は街道と門前町が中心となった町人型の都市へ移行したことがわかる。江戸時代の52か町の区域は明治時代（1868～1911）以降も基本単位となり、近代化の波にのって繁栄していく。

イ) 産業

江戸時代の長浜町は商工業活動と物流の拠点であった。古代から北国、東海、近畿地方をつなぐ交通の要衝であったが、江戸時代においては、北近江の中心都市として、近在・近郷の村々と経済圏を形成し、物資の集散基地として栄えた。

国友^{くにとも}の鉄砲生産は、鉄砲伝来からさほど遠くない時期に始められたと考えられ、江戸時代に幕府から注文を受け、年寄^{としより}を中心に鍛冶組織^{かじ}を運営した。最盛期には73軒の鍛冶が存在した。

江戸時代の長浜は、水陸の物流拠点として商工業が発展した。元禄8年(1695)の段階で、長浜には商工業を中心に95の業種、434人の経営者がいたことがわかっている。主な業種は、船持や馬物、旅籠屋・飛脚といった物流関係、酒屋・油屋・米屋等日用品に関するもの、紺屋・木綿屋・絹屋等浜蚊帳・浜絹等の特産品に関わる業種である。江戸時代中期から後期になると、それまでの浜糸に加え、浜縮緬業や浜ビロード・浜蚊帳の生産も行われるようになり、長浜は繊維業の町として繁栄を極めた。

ウ) 交通

長浜町の北国街道沿いは宿場町として発展し、主要な町人の家も並んだ。町年寄・安藤家の屋敷は現在も内部を見学できる観光スポットである。大名等が宿泊した本陣・吉川家(長浜幼稚園の敷地)は跡地のみが残っている。北国街道は長浜の町を南北に走り、長浜城に対して平行に並ぶ横町の主要道路である。縦町の主要道・大手町との交点が高札場の「杉の辻」であり、町の中心として最もにぎわった。北国街道の長浜北口にある郡上大神宮^{ぐじょうだいじんぐう}には、伊勢神宮の小さな祠と旅人の目的であった大きな石燈籠が残る。長浜町内の北国街道の南端である稲荷町・十一町付近には、現在も伝統的な町家が多く残っている。

北国街道と北国脇往還の宿場町の一つである木之本宿は、木之本地蔵の名で知られる浄信寺^{じょうしんじ}の門前町としても多くの人びとが行き交った所である。現在も伝統的な町家が並び、一部はまちづくりの拠点として活用されている。この他の宿場として、脇往還の伊部宿や郡上宿、それに北国街道の中河内宿^{なかのかわち}等があった。

この時代、湖岸に面する長浜町、塩津、大浦にあった港には北陸や東海、京坂間を往復する諸荷物が運ばれ、大いに栄えた。

湖上交通の花形は丸子船^{まるこぶね}で、これは船底を丸く形成した琵琶湖特有の和船である。最盛期には3,000艘もの丸子船が湖上を走った。明治時代に入り蒸気船にその座を譲るが、昭和の初め頃まではその姿が見えたという。西浅井町大浦に所在する「北淡海・丸子船の館」は丸子船の歴史を伝える資料館として建設され、館内には実際に使用された丸子船が展示されている。この他、西浅井町塩津浜にある道の駅「あぢかまの里」にも丸子船の実物が保管されている。



丸子船(道の駅 塩津海道 あぢかまの里)

エ) 近世村^{きんせいそん}

江戸時代の村は、これまでの農民の生産・生活のための住民組織といった性格に加え、領主支配の基礎単位となり、領主はこれをもとに住民の管理と徴税を行った。住民たちは集落の周りに田畑を構え、村高を基準に年貢徴収や諸役賦課に応じた。

村の中には村政をつかさどる庄屋が置かれた。庄屋は百姓の中から選出され、領主が認め

る者であり、領主支配や運営に関する問題等幅広く担当した。領主からの触書や領主に宛てた願書を書きとめた「御用留」や、領主への訴状や土地売券等各種の証文に押印した。また、宗門改帳の作成も彼らの重要な仕事の一つであった。土地の売買や婚姻や移転等の管理も庄屋の役目であった。これらの実態は、「自治会所有文書」や「自治会共有文書」の中に伝わっている。

また、村内に藩主の陣屋が置かれたという特色を持つ村があった。その一つである宮川村（現在の宮司町東部）は、元禄 11 年（1698）に堀田氏が陣屋を置き、その家臣を配置するとともに、近江国内に点在した 1 万石にのぼる所領支配の拠点として、明治 4 年（1871）の廃藩置県によりその役割を終えるまで、機能した。堀田氏の藩政は「宮司東町共有文書」や同地の土豪・垣見家に伝わった「垣見家文書」によって確認できる。宮川集落は、村の西側を南北に走る街道沿いの西側で垣見氏館との間にあったとされる。街道沿いには、大工等の職人や餅屋等の商人が暮らし、小城下町の景観を呈した。陣屋はこの街道集落の南方、中島川の南面する場所にあったとされ、現在は石碑が建っている。

この他、陣屋を持った村として小堀氏を藩主とした小室陣屋が置かれた小室村（小室町）がある。小堀家も 1 万石の領主として浅井郡を中心に所領を持っていたが、天明 8 年（1788）の小堀氏の改易によって廃止された。小堀氏の藩政については、その藩政文書が個人蔵の「佐治家文書」として保存されており、その実態を知ることができる。

湖北地方の近世民家は、主に妻入の広間型で土間・広間の上部に十文字に梁を架け渡す架構が特徴的な三間取広間型の間取りを持つ余呉型民家や二列六室型の大浦型が多く見られた。

オ) 水争い

水は人びとの生活に欠かせないものであり、古代から現在までその確保は最も重要であった。農業を中心とした江戸時代の村々にとっても、農業用水の確保は重要な課題であった。長浜市域の農業用水は大きく分けて、姉川・高時川等の河川からの取水、姉川・高時川等が形成した扇状地からの湧水、山麓に設けられたため池の 3 つの系統から成立していた。しかし、これらの取水量は十分ではなく、さらに当時は複数村の共同利用が主流であったことから、特に旱魃時には水源を巡る水争いが度々勃発した。

水争いは長期におよぶことが多く、高時川の餅ノ井をめぐり伊香郡の村々と浅井郡の諸村の争いは、「餅ノ井の懸け越し」や「餅ノ井落とし」等独自の水利慣行を生んだ。また、姉川流域では、郷里井をめぐり分水の問題や、「今町共有文書」が伝える百太郎井を巡る国友村と今



餅ノ井落としの風景

村との争いが知られる。この他、「宮司西町共有文書」に残る^{りょうごんいん}楞嚴院川周辺の西辻村^{みなみたづけ}（南田附町）・今川村、宮川村・下司村・大東村・永久寺村・室村といった川上・川下の複数村によって生じた争い等がある。

なお、水利に関わる祭祀も伝わり、国友町の「百太郎祭」や、今町の「^{そこひ}底樋祭」等が知られる。後者は、水への感謝を示す祭として現在も執り行われている。

（5）近代（明治時代～昭和時代（戦前まで））

ア）汽船の就航

長浜港が含まれる航路への蒸気船の就航は、明治4年（1871）の湖上丸、明治5年（1872）の湖龍丸、明治6年（1873）の長運丸、明治7年（1874）の満芽丸であった。明治4年（1871）頃から乱立する汽船会社は、明治19年（1886）頃に統合の方向に進んだが、鉄道敷設によって競争が再び激化する。共倒れを防ぐ各社は、鉄道局からの申し入れを受け入れ、鉄道と連携する新たな汽船会社の設立を検討し、明治15年（1882）に^{たいこきせん}太湖汽船会社が設立された。

鉄道の長浜～大津間がなかった時期は、長浜は鉄道連絡船の町として繁栄したが、明治22年（1889）の東海道線の全通が大打撃となり、汽船の役割は低下した。現代では、湖上の利用は竹生島への観光船が中心である。



長浜汽船湖東丸図
（明治11年（1878）長浜所属の蒸気船として建造される）

イ）鉄道の敷設

長浜では町民有志が明治10年（1877）に長浜停車場の設置を太政大臣・三条実美、滋賀県令・中井弘に請願した。また、明治13年（1880）には、長浜が鉄道と湖上交通との結節点と決まり、北陸線は塩津経由が柳ヶ瀬経由に変更された。長浜～敦賀間の工事は同年から着工され、大津から蒸気船を利用した工事資材の運搬が行われ、長浜で陸揚げされた。

明治15年（1882）、長浜～敦賀間のうち長浜～柳ヶ瀬間と柳ヶ瀬トンネルの西側の洞道口～金ヶ崎間までの鉄道が開業した。長浜駅は、プラットホーム先に駅本屋を配した「頭端式」で、本館は東西24.5メートル、南北9.7メートルの四角いコンクリート塗りの洋館であった。長浜駅にあった機関庫は、明治22年（1889）の米原駅の完成により同駅に移転した。車輛倉庫は駅本屋の北東にあり、車輛20輛余りが収容できた。その他の施設として、車輛工場、給水所、転車台があり、陸と湖を結ぶ結節点としての機能を長浜駅は備えていた。

現在、役目を終えた駅本屋は鉄道資料館として一般に公開され、近代鉄道史を伝える「長浜鉄道スクエア」となっている。また、本屋は現存する中では、国内最古の駅舎として鉄道記念物に指定され、滋賀県指定有形文化財にもなっている。また、この他には、米川にかか

る北陸本線湊堀橋梁の橋脚は、煉瓦造りであり、現在も役割を果たしている。さらには、柳ヶ瀬トンネル、十一川橋脚、龍ヶ鼻トンネルの石積等、鉄道に関する歴史文化資産が多く残る。

鉄道敷設の際に豪商・浅見又蔵は、長浜港を修築し水陸交通の便を図り、明治天皇行幸に際しては、慶雲館を建設して行在所の御用に供した。このように長浜の近代化の歩みに商人の活躍があった。

ウ) 学校の設立

明治新政府は、教育の制度化による近代化を進めた。滋賀県下においては、明治4年(1871)に県令松田道之により、県下最初の小学校として第一小学校が長浜に設立された。明治7年(1874)に神戸町(元浜町)に校舎を新築し、滋賀県に新たな学校名の制定を願い、開知学校とされた。校舎は、西洋建築文化の本格的習得が始まる以前の部分的な模倣と、日本的意匠が混在した特徴を持ち、擬洋風建築と呼ばれる。明治19年(1886)の学制改革に伴い、名称を長浜学校と改めた。また、明治26年(1893)には、長浜尋常小学校と改称する。そして、昭和9年(1934)には児童数も県下最大の2,900人余りとなった。

この後、明治初期に、長浜町周辺の農村にも、村人の手で次々と学校が建設されていった。これらの学校は、明治19年(1886)の小学校令の発布以降、町村立の尋常高等小学校として整備されていく。

エ) 銀行の設立

長浜には県下では最も早く、明治10年(1877)12月25日に全国で21番目の「第二十一国立銀行」が開業した。明治23年(1890)の恐慌で不景気となるが、日清戦争の勝利が好況をよび銀行の好成績の原因となった。明治30年(1897)の営業満期に伴い、国立銀行から株式会社二十一銀行と改組し、昭和4年(1929)12月に江北銀行、伊香銀行と合併して湖北銀行となった。

県内には当初、第二十一国立銀行、それに第六十四国立銀行(大津)と第百三十三国立銀行(彦根)があった。明治28年(1895)に、銀行条例・貯蓄銀行条例が改正され各地に銀行が乱立し、長浜貯金銀行、長浜銀行が設立される。だが、日露戦争により生糸相場の変動で長浜銀行は大損失を受け、近江銀行と合併し解散。長浜貯金銀行も、昭和12年(1937)に湖北銀行と合併した。長浜の金融機関は、政治と経済の動向により、自然淘汰されたようである。

往時を伝える建物として、大阪に本社があった旧第百三十銀行長浜支店があり、現在は「黒壁ガラス館本館」として、観光名所のひとつとなっている。木造土蔵造り2階建て、外壁は漆喰を塗り込め、窓は洋風、天井・階段・手すりに華麗な洋風意匠が施される。なお、建物は国の登録有形文化財となっている。

オ) 工場の設立

明治中期に至ると、それまで商人個人に頼りがちであった、長浜の主幹産業である繊維産業は、工場設立が行われるようになり近代化を遂げていった。明治 20 年（1887）に下郷傳平らが、現在の長浜赤十字病院の地に設立した近江製糸株式会社は、その代表的存在である。また、縮緬に関しても明治 19 年（1886）3 月に近江縮緬絹縮業組合が設立され、明治 21 年（1888）には近江縮緬業組合、さらに明治 31 年（1898）には浜縮緬同業組合となり、組織的な生産が行われるようになった。

この他、農村部にも工場が建設される。明治 34 年（1901）に南小足町^{みなみこあし}で創業された浜蚊帳合名会社（後の樋口蚊帳製織工場）や、明治 38 年（1905）に石田町で創業された近江ヴェルベット合名会社等が挙げられる。

市内の東北部に位置する土倉鉱山は、明治 40 年（1907）に開発され、黄銅鉱、黄鉄鉱、少量の金、銀および微量の閃亜鉛鉱を産出した。しかし昭和 40 年（1965）に鉱脈の老化で閉山している。

昭和になってからの大型工場誘致事業としては、吉田作平町長の努力によって設立された、鐘淵紡績株式会社^{かねがふちぼうせん}社長浜工場をあげることができる。

(6) 伝統的な産業・暮らし・信仰・民俗芸能

豊かな実りと日々のくらしの平安を神に祈る祭祀は、古代から現在に至るまで、自然を崇拜する心と深く結びつきながら伝承されてきた。湖北においても、自然の恵みに感謝し、豊穰を祈願するという「オコナイ」をはじめ、「野神」^{のがみ}行事や「虫送り」等、様々な祭礼が、地縁で結ばれた氏神を中心に、地域住民の共同体の行事として繰り広げられている。

なかでも長浜曳山祭は、国の重要無形民俗文化財に指定され、現代に引き継がれた豪華な曳山山車と華やかな子ども歌舞伎が特徴的である。平成 28 年（2016）には、ユネスコ無形文化遺産に登録された。山車の上で狂言を行う長浜曳山祭は、近世庶民の文化として花開き、近世長浜の隆盛を物語る。また、上丹生^{かみにゆう}の曳山茶碗祭^{ひきやまちゃんまつり}や人形浄瑠璃^{とんだにぎょう}の富田人形^{とんだにぎょう}の他、雨乞いの太鼓踊りが各地で行われ、多彩な民俗芸能が今に伝わる。

江戸時代の鉄砲の産地である国友町を中心に、市内高月町高月から関ヶ原に至って明治から昭和初期に建造された花火陣屋（煙火席）は、他地域にはない特異で特色ある有形民俗文化財である。

「野神」行事は、ケヤキや杉等巨木を神として祀る自然信仰で、伊香郡で広くみられる。また湖北には、水神信仰や雨乞い習俗に関わりをもつ「太鼓踊り」が数多く伝承されており、湖北に生きる人びとが伝統文化の担い手として神を祀ってきた一端にふれることができる。

(7) 災害史

火災は、市内各所で発生しており、長浜町では文化 9 年（1812）や明治 5 年（1872）に長浜大火、昭和 4 年（1929）には栄船の大火等、木之本宿は元文 4 年（1739）や延享元年（1744）、その他にも火災に見舞われる。近年では、昭和 31 年（1956）の中河内集落における火災により、全戸 55 戸のうち、48 戸全焼する被害も発生している。

風水害では、明治 28 年（1895）の集中豪雨で山崩れや土砂崩れに河川の決壊が発生し、川幅が増幅する被害となる。さらに明治 29 年（1896）に台風による集中豪雨でも河川の決壊が発生している。昭和 34 年（1959）の伊勢湾台風においては、河川の氾濫で市街地の半分以上が浸水した。

雪害では、昭和 56 年（1981）の豪雪において集落が孤立し、自衛隊に災害派遣を要請している。

地震は、明治 42 年（1909）の姉川地震により、浅井町や虎姫町が壊滅的な被害を受け、県下では、700 人近く死傷者や 8,000 棟に及ぶ建物被害が生じた。

第3章 歴史文化資産の把握調査

1 既存の歴史文化資産の把握調査の概要

(1) 類型別文化財の把握調査

長浜市における歴史文化資産の把握調査は、文化財部局と博物館部局がそれぞれの施策や各々の展示企画の資料調査において行ってきた。

・有形文化財（建造物）については、民家、社寺、近代建築、石造建造物、近代和風建築、近代の遺産といった調査が滋賀県により実施された。その他、建造物修理に伴い長浜市や所有者が大通寺や都久夫須麻神社、下坂氏館跡主屋等の調査を実施した。また、地域情報誌『みーな』（一般社団法人長浜みーな協会）は、湖北地方の暮らしの中の事象を取材者が見聞きし、自らの感性でろ過したものを表現した地域誌であるが、掲載している記事については市の学芸員等が関与しており、VOL122（百年建築 前編）・123（百年建築 後編）では、近代化を象徴する歴史的建造物の把握を行った。

・有形文化財（美術工芸品）については、滋賀県による文化財集中地区特別総合調査や各市町誌編纂に伴う調査等が実施され、仏像等の彫刻や仏画の他、市内の寺社や法人等に伝わる文書等の調査が実施された。

・民俗文化財については、民俗資料調査、琵琶湖総合開発に伴う地域民俗文化財調査、民俗文化財収集調査等が滋賀県により実施された。長浜市は、長浜曳山祭総合調査やオコナイ等の調査を実施した。

・遺跡については、湖北町、木之本町、びわ町、浅井町、虎姫町において分布調査を行っている。測量調査については、小谷城跡、小谷城跡本丸石垣、賤ヶ岳城砦群^{しずがたけ}の調査を行った。

・名勝地については、滋賀県により調査が実施されている。長浜市は、慶雲館庭園の調査を実施している。

・動物・植物等については、カモシカに関する調査が滋賀県により実施された。

・文化的景観については、琵琶湖と水が織りなす文化的景観所在確認調査が滋賀県により実施された。長浜市は菅浦集落および月出集落^{つきで}において調査を実施した。

・伝統的建造物群については、長浜町のまちなみや木之本集落について調査を実施した。現在、木之本集落は見直し調査を実施し、新たに菅並集落の調査を実施している。

・文化財の保存技術については、邦楽器原糸製造調査として草野谷の集落や大音集落^{おおと}において調査を実施した。

・無形文化財については、長浜城歴史博物館等の展示を行う際の情報を得るために実施した調査の中で、一部の概要把握を行っている。

上記調査の他、市内の博物館・資料館での展覧会に伴い、各学芸員が個別に歴史文化資産の調査を実施している。

既往の歴史文化資産把握調査一覧

分類		小分類	調査主体	調査年度	調査名	
有形文化財	建造物	住居	滋賀県教育委員会	平成7年度～9年度	滋賀県近世民家調査報告書	
			京都大学建築学専攻建築史学講座	平成26年度	長浜市八木浜 中村家住宅調査報告書	
		社寺	滋賀県教育委員会	昭和59年度・60年度	滋賀県近世社寺建築緊急調査報告書	
			長浜市教育委員会	平成5年	大通寺建造物調査報告書	
			虎姫町教育委員会	平成19年度	五村別院伽藍調査報告	
			長浜市教育委員会	平成12～14年度	長浜市の未指定歴史的建造物	
		近代建築物(住居)	滋賀県教育委員会	平成4年・5年	滋賀県近代和風建築総合調査報告書	
			滋賀県教育委員会	昭和41年	滋賀県緊急民家調査報告書	
		近代建築物(住居以外)	滋賀県教育委員会	昭和62年度～平成元年	滋賀県近代建築調査報告書	
		近代産業・交通・土木	滋賀県教育委員会	平成10年度・11年度	滋賀県近代化遺産(建築物等)総合調査報告書	
			一般社団法人長浜みーな協会		みーな vol.122	
			一般社団法人長浜みーな協会		みーな vol.123	
		石造物	滋賀県教育委員会	平成2年度～4年度	滋賀県石造建造物調査報告書	
			滋賀県教育委員会	平成3年度～5年度	雨森芳洲関係資料調査報告書	
		美術工芸品	絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍	滋賀県西浅井町教育委員会	平成12年・13年	西浅井町の仏教美術
				木之本町教育委員会	平成9年度～12年度	鶏足寺の文化財Ⅰ(美術工芸品)
				木之本町教育委員会	平成9年～12年度	鶏足寺の文化財Ⅱ 美術・工芸編
				旧市町	昭和59年～	美術工芸品実態調査(旧市町)
	工芸品		滋賀県教育委員会	平成21年～24年	滋賀県所在梵音具資料調査報告書	
			長浜市教育委員会	昭和60年・61年	国友源右衛門家文書	
	古文書		長浜市教育委員会	平成10年度～20年度	四力字共有文書(旧浅井郡虎姫町) 嘉永4年～昭和27年	
			木之本町教育委員会	平成元年度～	木之本の文化財Ⅰ(古文書編Ⅰ)	
			木之本町教育委員会	平成元年度～	木之本の文化財Ⅰ(古文書編Ⅱ)	
			木之本町教育委員会	平成9年度～10年度	黒田共有文書調査報告書	
			木之本町教育委員会	平成6年度～	己高山中世文書調査報告書	
			木之本町教育委員会	平成12年度～13年度	古橋村高橋家文書調査報告書	
			滋賀県教育委員会	昭和47年	文化財集中地区特別総合調査報告 湖北地方の文化財【文化庁】	
			滋賀県教育委員会	昭和53年～57年	滋賀県古文書等所在確認調査報告書	
			滋賀県教育委員会	昭和59年度～61年度、平成元年～平成5年度	滋賀県大般若波羅蜜多經調査報告書1～2	
			民俗文化財	滋賀県教育委員会	平成15年～20年	滋賀県所在古經典緊急調査報告書
				長浜市教育委員会	昭和46年	郷土民俗資料関係調査報告書
				滋賀県教育委員会	昭和44年度・45年度	琵琶湖民俗資料緊急調査報告書
				滋賀県教育委員会	昭和52年・53年	滋賀県民俗地図 滋賀県緊急民俗文化財分布調査報告書
				滋賀県教育委員会	昭和54年～平成7年	滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書1～16(滋賀県の民具)
	西浅井町教育委員会	平成15年度～平成18年度		西浅井の歳時記一写真で見る祭りのすがたー		
	余呉町	昭和63年度～平成元年度		高時川タム建設地域民俗文化財調査報告書		
	滋賀県教育委員会	昭和63年度～平成元年度		滋賀県諸職関係民俗文化財調査報告書(滋賀県の諸職)		
	滋賀県教育委員会			滋賀県祭礼行事実態調査報告書(滋賀県の祭礼行事)		
	滋賀県教育委員会	平成6年度～8年度		滋賀県伝統食文化調査報告書(滋賀県の伝統食文化)		
	滋賀県教育委員会			滋賀の食文化財		
	滋賀県教育委員会	平成14年度～18年度		滋賀県自然神信仰調査報告書(滋賀県の自然神信仰)		
	滋賀県教育委員会	平成22年～24年	滋賀県民俗行事まると調査報告書(滋賀県の民俗)			
	長浜市教育委員会	平成3年度～7年度	長浜曳山祭総合調査報告書			
	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会		長浜曳山祭調査報告 各山組			
	狸々丸修理委員会	平成28年度～29年度	狸々丸懸装品修理			
	滋賀県教育委員会	昭和59年・60年	民謡緊急調査報告書(滋賀県の民謡)			
	滋賀県教育委員会	平成7年度～9年度	滋賀県民俗芸能緊急調査報告書(滋賀県の民俗芸能)			
	丹生茶わん祭保存会		丹生の茶わん祭			
	西浅井町教育委員会	平成9年度・10年度	集福寺のちゃんちゃこ踊り 附・奴振			
	富田人形共遊団		滋賀県選択無形民俗文化財 富田人形調査報告書			
記念物	遺跡	長浜市教育委員会	平成16年度	賤ヶ岳合戦城郭郡報告書		
		長浜市教育委員会	令和2年	史跡小谷城跡総合調査報告書		
		湖北町教育委員会	昭和51年	史跡小谷城跡環境整備事業報告書		
		滋賀県教育委員会		滋賀県中世城郭分布調査1		
		滋賀県教育委員会		滋賀県中世城郭分布調査6 旧坂田郡の城		
		滋賀県教育委員会		滋賀県中世城郭分布調査7 伊香郡・東浅井郡の城		
		滋賀県教育委員会	平成13年度	中近世古道調査報告6、7 北国街道・北国脇往還		
		滋賀県教育委員会		港と湖上交通 滋賀県「歴史の道」整備活用総合計画調査報告書		
		滋賀県教育委員会		滋賀県の庭園		
	名勝地	滋賀県教育委員会	昭和58年	滋賀県名勝調査報告		
		滋賀県教育委員会		鈴鹿山地カモシカ保護地域特別調査報告書		
	動物	滋賀県教育委員会	平成4年～	菅浦の湖岸集落景観保存活用計画報告書		
	文化的景観	長浜市教育委員会	平成26年度～28年度	月出の湖岸集落景観保存調査報告書		
滋賀県教育委員会		平成20年度～22年度	琵琶湖と水が織りなす文化的景観所在確認調査報告書			
長浜市教育委員会		平成5年	長浜市伝統的建造物群保存対策調査報告書			
伝統的建造物群	木之本町教育委員会		旧北国街道木之本宿の町並ー北国街道木之本宿伝統的建造物群保存対策調査報告書ー			

分類		小分類	調査主体	調査年度	調査名
文化財の保存技術			木之本町教育委員会		伝統的建造物群保存対策調査報告書〈保存対策（案）編〉 ー木之本町文化財調査報告書第3集ー
			木之本町		いかぐ糸 大音糸・西山糸を伝承する
			浅井町邦楽器原系製造保存会	平成14年度・15年度	草野谷の特殊生糸一國選定保存技術邦楽器原系製造調査報告書一
埋蔵文化財			びわ町		びわ町内遺跡分布調査報告書
			浅井町		浅井町内遺跡詳細分布調査報告書
			湖北町		湖北町内遺跡詳細分布調査報告書
			虎姫町		虎姫町内遺跡詳細分布調査報告書
			木之本町		木之本町遺跡分布調査概報Ⅰ
					木之本町遺跡分布調査概報Ⅱ
					木之本町遺跡分布調査集成Ⅰ
その他	その他		市立長浜城歴史博物館		湖北地方における村落景観情報
			市立長浜城歴史博物館		滋賀県東浅井郡浅井町東学区 村落景観情報
			田根郷土史研究会		田根学区村落景観情報
			高月町教育委員会		滋賀県伊香郡高月町 村落景観情報
			びわ町教育委員会		滋賀県東浅井郡びわ町北学区 村落景観情報
			滋賀県土地改良事業団体連合会		長浜市農業文化遺産総合調査
			下草野郷土史研究会		ふるさと下草野
			長浜市	平成29年	西浅井町の文化財～地域の光を未来につなぐ～
			長浜市		長浜市史 第1巻 湖北の古代
					長浜市史 第2巻 秀吉の登場
					長浜市史 第3巻 町人の時代
					長浜市史 第4巻 市民の台頭
					長浜市史 第5巻 暮らしと生業
					長浜市史 第6巻 祭りと行事
					長浜市史 第7巻 地域文化財
					長浜市史 第8巻 年表・便覧
			高月町	平成8年～	高月町史 景観・文化財遍 分冊一
				平成8年～	高月町史 景観・文化財遍 分冊二
			余呉町		余呉町誌 資料編上巻
					余呉町誌 通史編上巻
					余呉町誌 通史編下巻
					余呉町誌 資料編下巻
			日本資料刊行会		改訂 近江坂田郡志 第一巻
					改訂 近江坂田郡志 第二巻
					改訂 近江坂田郡志 第三巻
					改訂 近江坂田郡志 第四巻
					改訂 近江坂田郡志 第五巻
					改訂 近江坂田郡志 第六巻
					改訂 近江坂田郡志 第七巻
			株式会社臨川書店		近江長濱町志 第一巻 本編上
					近江長濱町志 第二巻 本編中
					近江長濱町志 第三巻 本編下
					近江長濱町志 第四巻 資料編
			日本資料刊行会		東浅井郡志 第壹
					東浅井郡志 第貳
					東浅井郡志 第参
					東浅井郡志 第四
			株式会社賢美閣		近江坂田郡志 上
					近江坂田郡志 中
					近江坂田郡志 下
			藤本 弘		近江伊香郡誌 上巻
					近江伊香郡誌 中巻
					近江伊香郡誌 下巻
	伝承		長浜市教育委員会		長浜の伝承 ふるさと近江伝承文化叢書
			浅井町中部学区郷土史研究会・市立長浜城歴史博物館		滋賀県東浅井郡浅井町中部学区の地名調査
			虎姫町教育委員会		ふるさと虎姫 田川の歴史を知る
			虎姫公民館		虎姫のむかし話
			虎姫教育委員会		虎姫のむかし話 第二集
			湖北町教育委員会		湖北町昔ばなし
			余呉町		江州余呉湖の羽衣伝説
			余呉町		天女伝説のふる里
			人物誌	高月町教育委員会	高月の人物ものがたり～郷土史に残る人々～
			地名	高月町教育委員会	高月町の地名

(2) 村落景観情報図による把握調査（総合的文化財調査）

市内には、数多くの歴史文化資産が分布しているが、これらの歴史文化資産の把握を進めるため、一部の地域について「村落景観情報図」を作成していた。

村落景観情報図は、市内のどの地域にどのような歴史文化資産が分布しているかを把握し、地図上に位置と説明を掲載したもので、長浜城歴史博物館等がまとめたものである。これらの情報を収集するため、長浜城歴史博物館は地域の歴史に詳しい人を展示情報委員に任命し、委員から提供された情報を展示に活かしている。村落景観情報図は、展示情報委員がいる地域から作成し、その後調査対象の範囲を広げていった。

しかし、市域全域の調査ができていなかったため、あらためて「総合的文化財調査」として平成29年度から未調査地域において調査を実施した。

地域で歴史文化資産の保存・活用を進めるには、その地域にある歴史文化資産が、地域の発展にとって重要なモノであることを市民に理解・再認識してもらうことが大切であり、将来的に地域で歴史文化資産を支える仕組みづくりを考える上でも調査に市民が関わることが重要であることから、この調査は、地域の情報に詳しい人材を有する長浜市シルバー人材センターや地域に密着した活動を行う地域づくり協議会等、市民との協働により実施した。

村落景観情報図表一覧

番号	図書名	対象地域	発行者	発刊年月
1	湖北地方における村落景観情報	長浜市・米原市域の28自治会（大字）分	市立長浜城歴史博物館	平成5年8月
2	滋賀県東浅井郡浅井町東学区村落景観情報	浅井町上草野地域	市立長浜城歴史博物館	平成8年9月
3	滋賀県伊香郡高月町 村落景観情報	高月町	高月町教育委員会	平成10年11月
4	滋賀県東浅井郡びわ町北学区村落景観情報	びわ町竹生学区	びわ町教育委員会	平成13年3月
5	長浜農業文化遺産総合調査	長浜市（市街地を除く）	滋賀県長浜市 滋賀県土地改良事業団体連合会	平成15年3月
6	田根学区村落景観情報	浅井町田根地域	田根郷土史研究会（長浜市長浜城歴史博物館）	平成22年3月
7	ふるさと下草野	浅井町下草野地域	下草野郷土史研究会	平成23年5月

2 歴史文化資産の把握調査の課題

前章までに既往の調査をまとめたが、調査はすべての分野にわたって満遍なくかつ十分には行われているわけではない。

- ・有形文化財（建造物）については、県や市町史編纂時の調査で概要の把握を行ったが、調査時期が古く、現状がどのようになっているか把握できていない。

- ・有形文化財（美術工芸品）については、県や市町史編纂時の調査で所在と概要の把握を行っているが、全体的に調査が不足している。

- ・無形文化財については、把握調査が行われていない。

・民俗文化財については、県や市町史編纂、市の調査により概要の把握を行ったが、地域によって調査が不足している。

・遺跡や名勝地については、把握調査は行われているが、時代によって調査が不足している。

・動物・植物等については、県がカモシカに関する把握調査を行ったが、他の動物や植物等の調査は行われていない。そのため、全体的に調査が不足している。

・文化的景観、選定保存技術については、一部地域で調査が進んでいるが、地域によって調査が不足している。

・伝統的建造物群については、木之本宿等の一部地域で過去に調査が行われているが、調査時期が古く、現状が把握できていない。

把握調査（総合的文化財調査）については、博物館の展示を行う際に有益な情報を収集するために行ったが、網羅的に調査ができていない。調査結果から、外見で把握できる遺跡等が多く調査されている反面、屋内で保管されている美術工芸品の調査が足りていない。

類型別調査表

※○：調査実施、×：該当なし、△：調査不足、未：未調査（令和3年6月30日現在）

地域/ 類型	時代	建造物	美術工芸品	無形文化財	民俗文化財	遺跡	名勝地	動物・植物・ 地質・鉱物	文化的景観	伝統的建造物群	選定保存技術	備考
西浅井	古代	△	△	未	未	△	未	未	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	△	未	未	未	未	未	
	近世	△	△	未	△	未	△	未	△	未	未	
	近代	△	△	未	△	未	△	△	△	未	未	
余呉	古代	△	△	未	未	△	未	△	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	△	未	△	未	未	未	
	近世	△	△	未	△	未	△	△	未	未	未	
	近代	△	△	△	△	未	△	△	未	未	△	
木之本	古代	△	△	未	未	○	未	△	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	○	未	△	未	未	未	
	近世	△	△	未	△	未	△	△	未	△	未	
	近代	△	△	△	△	未	△	△	未	△	△	
高月	古代	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	近世	△	△	未	△	未	△	未	未	未	未	
	近代	△	△	未	△	未	△	△	未	未	未	
湖北	古代	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	近世	△	△	未	△	未	△	未	未	未	未	
	近代	△	△	△	△	未	△	△	未	△	未	
虎姫	古代	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	近世	△	△	未	△	未	△	未	未	未	未	
	近代	△	△	未	△	未	△	未	未	未	未	
びわ	古代	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	近世	△	△	未	△	未	△	未	未	未	未	
	近代	△	△	未	△	未	△	△	未	未	△	
浅井	古代	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	近世	△	△	未	△	未	△	未	未	未	未	
	近代	△	△	未	△	未	△	△	未	未	△	
長浜	古代	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	中世	△	△	未	未	○	未	未	未	未	未	
	近世	△	△	△	△	○	△	未	未	△	△	
	近代	△	△	△	△	未	△	△	未	△	△	

3 歴史文化資産の把握調査実施の方針・措置

(1) 方針

- ・有形文化財（建造物）については、過去に行った調査の現状が把握できていないため、見直し調査が必要である。
- ・有形文化財（美術工芸品）については、把握調査が全体的に不足しているため、より精度を上げた調査が必要である。
- ・無形文化財については、把握調査が行われていないため、調査の推進が必要である。
- ・民俗文化財については、地域によって調査が不足しているため、調査の推進が必要である。
- ・遺跡や名勝地については、時代によって調査が不足しているため、調査の推進が必要である。
- ・動物や植物等については、全体的に調査が不足しているため、調査の推進が必要である。
- ・文化的景観、選定保存技術については、地域によって調査が不足しているため、調査の推進が必要である。
- ・伝統的建造物群については、調査後の現状が把握できていないため、見直し調査が必要である。

把握調査（総合的文化財調査）については、網羅的な調査ができていないため、調査の精度を高める必要がある。そのため、類型別文化財の調査が不足している課題や、一度把握調査を行ったが、現状がどのようになっているか把握できていない課題に対応するため、市全域の把握調査を進める。

その上で、各歴史文化資産が抱える課題に応じて個別調査を行う。調査に当たっては、破壊・散逸が懸念される歴史文化資産や、調査が必要な歴史文化資産に対して計画的に行う。

そして、調査結果の公表や展示等の活用を通して歴史文化資産の価値の普及を図り、確実に歴史文化資産を継承する。

(2) 措置

課題に基づき、把握調査が進んでいない歴史文化資産や見直しが必要な歴史文化資産の把握調査を進める。

凡例
 国費：歴史文化資産補助金、地方創生推進交付金等とする。
 県費：滋賀県文化財保存事業費補助金、各種助成金とする。
 市費：市単費、補助金等とする。
 民間：行政からの補助金以外とする。

市民：市民
 所有者：歴史文化資産所有者
 団体：民間活動団体、各種団体、協議会等
 専門家：大学、博物館等
 行政：長浜市

◎：中心になって取り組む
 ○：協力して取り組む
 △：参画しないが協力体制を整えておく

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
1-1	歴史文化資産の調査（把握調査） 美術工芸品等の歴史文化遺産の価値の解明に向け、把握調査を推進する。	市費等	△	◎	◎	◎	◎	継続					

第4章 長浜市の歴史文化資産の概要と特徴

1 指定等文化財の概要

長浜市内に所在する指定等文化財件数は、459 件である。

内訳は、有形文化財 359 件（指定 340 件、登録 19 件）、民俗文化財 36 件（指定 24 件、選択 12 件）、記念物 58 件、文化的景観 1 件、選定保存技術 5 件である。

長浜市指定等文化財件数のうち、彫刻（仏像等）が 122 件と多いことは、「観音文化」を中心とする信仰文化の厚みを示すといえる。遺跡 33 件には、小谷城跡や姉川古戦場等多くの戦国時代の遺跡が含まれる。民俗文化財 36 件は、多彩なる民俗芸能が花開いた結果である。現状では、様々な種類の歴史文化資産が指定されているが、無形文化財の指定、伝統的建造物群の選定はなく、登録文化財についても、建造物以外の登録はない。

長浜市指定等文化財件数

（令和 3 年 6 月 30 日現在）

種別			国		県		市		合計				
指定	有形文化財	建造物	(2)	〈2〉	11	〈21〉	8	〈8〉	16	〈20〉	35	〈51〉	
		美術工芸品	絵画	(-)	〈-〉	8	〈23〉	5	〈5〉	29	〈73〉	42	〈101〉
			彫刻	(1)	〈1〉	46	〈56〉	16	〈35〉	60	〈94〉	122	〈185〉
			工芸品	(1)	〈16〉	14	〈52〉	13	〈34〉	24	〈24〉	51	〈110〉
			書跡・典籍・古文書等	(2)	〈67〉	5	〈381〉	15	〈1,743〉	46	〈8,715〉	66	〈10,839〉
			考古資料	(-)	〈-〉	1	〈1〉	-	〈-〉	9	〈219〉	10	〈220〉
			歴史資料	(-)	〈-〉	1	〈123〉	-	〈-〉	13	〈202〉	14	〈325〉
			美術工芸品 計	(4)	〈84〉	75	〈636〉	49	〈1,817〉	181	〈9,327〉	305	〈11,780〉
	小計 a	(6)	〈86〉	86	〈657〉	57	〈1,825〉	197	〈9,347〉	340	〈11,831〉		
	無形文化財	b	(-)	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	
		民俗文化財	有形民俗文化財	(-)	〈-〉	-	〈-〉	1	〈13〉	12	〈1,803〉	13	〈1,816〉
			無形民俗文化財	(-)	〈-〉	1	〈1〉	2	〈2〉	8	〈8〉	11	〈11〉
	小計 c	(-)	〈-〉	1	〈1〉	3	〈15〉	20	〈1,811〉	24	〈1,827〉		
	記念物	遺跡	(-)	〈-〉	4	〈136〉	11	〈12〉	18	〈106〉	33	〈254〉	
		名勝地	(-)	〈-〉	3	〈4〉	5	〈5〉	4	〈4〉	12	〈13〉	
		植物・地質鉱物	(-)	〈-〉	-	〈-〉	2	〈2〉	10	〈11〉	12	〈13〉	
		遺跡・名勝地	(-)	〈-〉	1	〈1〉	-	〈-〉	-	〈-〉	1	〈1〉	
		小計 d	(-)	〈-〉	8	〈141〉	18	〈19〉	32	〈121〉	58	〈281〉	
選定	文化的景観	(-)	〈-〉	1	〈1〉	-	〈-〉	-	〈-〉	1	〈1〉		
	伝統的建造物群	(-)	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉		
	選定保存技術	(-)	〈-〉	2	〈2〉	3	〈5〉	-	〈-〉	5	〈7〉		
	小計 e	(-)	〈-〉	3	〈3〉	3	〈5〉	-	〈-〉	6	〈8〉		
A=a+b+c+d+e 合計			(6)	〈86〉	98	〈802〉	81	〈1,864〉	249	〈11,279〉	428	〈13,947〉	
選択	無形文化財	(-)	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉		
	無形民俗文化財	(-)	〈-〉	1	〈1〉	11	〈11〉	-	〈-〉	12	〈12〉		
	小計 f	(-)	〈-〉	1	〈1〉	11	〈11〉	-	〈-〉	12	〈12〉		
登録	登録有形文化財（建造物）	(-)	〈-〉	19	〈19〉	-	〈-〉	-	〈-〉	19	〈19〉		
	登録有形文化財（美術工芸品）	(-)	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉		
	登録有形民俗文化財	(-)	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉		
	登録記念物	(-)	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉	-	〈-〉		
	小計 g	(-)	〈-〉	19	〈19〉	-	〈-〉	-	〈-〉	19	〈19〉		
B=A+f+g 合計			(6)	〈86〉	118	〈822〉	92	〈1,875〉	249	〈11,279〉	459	〈13,978〉	

※1 国指定文化財の有形文化財のうち、() の数値は「国宝」を示し、内数である。

※2 国指定文化財の史跡・名勝・天然記念物のうち、() の数値は「特別」を示す。

※3 () の数値は、点数を示す。

※4 有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物の欄は「指定」を示す。

※5 選定の欄は「選定」、選択の欄は「選択」、登録文化財の欄は「登録」を示す。

(1) 建造物

滋賀県内の寺院の宗派別分布を見ると浄土真宗が多数を占めている。長浜市内においてもその傾向は同様で、7割以上が浄土真宗寺院である。

滋賀県内の神社建築は、^{ながれづくり}流造が圧倒的に多く、その中でも一^{いつけんしや}間社流造が多く、次いで三間社流造となる。流造以外では入母屋造^{いりもやづくり}、切妻造^{きりつまづくり}、春日造^{かすがづくり}の順となる。入母屋造は長浜市を含む湖北地方に分布が集中しており、流造と併存している。

市内に35件の指定された建造物の歴史文化資産があるが、その中でも国宝の^{ほうごんじからもん}宝厳寺唐門は一^{むこうから}間一^は戸向^{ふひわだぶき}唐破風^{つくぶすま}檜皮葺、都久夫須麻神社本殿は桁行三間、梁間三間入母屋造檜皮葺で、両者とも桃山時代（1573～1614）を代表する建築である。滋賀県が平成25年（2013）～31年度（2019）に実施した保存修理事業や平成27年（2015）の建造物調査等により、宝厳寺唐門・観音堂・^{わたりのう}渡廊（高屋根・低屋根）・都久夫須麻神社本殿は、豊臣秀吉が大坂城に建立した極楽橋が豊国廟へ移築され、さらに竹生島へ移築されて、分割・改変されて現在の姿になった可能性が極めて高いと考えられている。

滋賀県が平成5年（1993）に実施した石造建造物調査によると、湖北地方（長浜市と米原市）に1,518基の石造建造物が分布している。石造建造物の種別では、五輪塔・一石五輪塔が多くみられる傾向がある。その中でも宝厳寺五重塔は重要文化財に指定され、信仰の歴史の中で守り継がれている。

中心市街地では、大通寺の本堂、広間、^{がんざんけん}含山軒および^{らんてい}蘭亭が江戸時代前期の建造物として重要文化財に指定され、市内中部の^{ごむらべついん}五村別院本堂（享保15年・1730）、市内北部の^{さいとく}西徳寺本堂（正徳3年・1713）についても湖北を代表する寺院建築として重要文化財に指定されている。

滋賀県教育委員会が平成7年（1995）～平成9年（1997）に調査した「滋賀県の近世民家」によると市内に^{かやぶき}茅葺民家は、989件程度あるが、現在どの程度残っているかは調査されていない。妻入りの広間型で土間・広間の上部に十字梁の架構が特徴的な三間取広間型の間取りを持つ余呉型民家やそれに似た系譜の民家がかつて多く見られていた。その代表例として辻家住宅（文政8年・1825移築）、田中家住宅（明和5年・1768）、中村家住宅（江戸時代）が重要文化財に指定されている。

町家は、市街地や街道沿いの宿場町に多く残っている。市街地の標準的な町家形式は一列三間取型が特徴で、街道沿いの木之本宿では二列型が多く、その中でも五間取が多い。なお、木之本宿の富田酒造主屋は二列七間取型、ダイコウ醤油主屋は二列五間取型の町家として当初建築され、現在登録有形文化財となっている。

上記以外の登録有形文化財は、長浜の近代化の歩みを示す黒壁ガラス館本館や長浜旧開知学校等が存在する。

県指定文化財の建造物は、室町時代後期の^{しやないんごまどう}舎那院護摩堂や杉野中薬師堂等寺社建築が大半を占め、その中に近代長浜の礎を築いた鉄道遺産の一つである旧長浜駅本屋が指定されている。

市指定文化財の建造物は、市街地の大通寺台所門をはじめ、^{ちぜんいん}知善院表門等寺社関連の建

造物を指定している他、宝篋印塔等石造物の5件を指定している。

(2) 美術工芸品

ア) 絵画

絵画については、国・県・市で42件の指定された歴史文化資産がある。

国指定文化財の絵画は、絹本著色十六羅漢図等5件が宝厳寺に所蔵されている。いずれも鎌倉時代や南北朝、南宋時代(1127～1279)の伝世品であり、中世の仏教美術絵画の優品が今に伝わる。その他、総持寺には絹本著色愛染明王像、舎那院には絹本著色三月経曼荼羅図、浄信寺には絹本著色地藏菩薩像がともに鎌倉時代を代表する仏教美術絵画として伝わる。

県指定文化財の絵画は、宝厳寺の絹本著色弁才天像を始めとする仏教美術が指定されている。なお、仏教美術以外では、戦国時代に小谷城を居城とした浅井長政の肖像画が指定されている。

市指定文化財の絵画は、大通寺蔵の金地墨画梅の図襖等、寺社に伝わる仏教美術を指定しており、ともに信仰文化として守り継がれている。

イ) 彫刻

彫刻については、国・県・市で122件の指定された歴史文化資産がある。市内の北部を中心に観音像等が広く分布している。中でも十一面観音は市域北部に多く分布し、聖観音は市域南部に多く分布する。

国指定文化財の彫刻は、向源寺の木造十一面観音立像が平安時代初期彫刻の代表作として国宝に指定されている。また、同寺には平安時代後期の木造大日如来坐像も伝わり、重要文化財に指定されている。

市内北部に位置する鶏足寺には、奈良時代の木造薬師如来立像や乾漆十二神将立像が伝わる他、平安時代の木造十一面観音立像等かつて栄えた己高山仏教の遺品が数多く伝わる。その他、浄信寺蔵の木造阿弥陀如来立像等平安時代から鎌倉時代にかけての仏教美術を代表する彫刻が市内各所に伝わる。

県指定文化財の彫刻は、向源寺蔵の木造阿弥陀如来坐像をはじめ平安時代から鎌倉時代にかけての彫刻が指定され、市内の寺社や自治会に伝わる仏教美術の豊かさを示す。

市指定文化財の彫刻は、総持寺蔵の木造千手観音立像の他、菅山寺の乾漆十一面観音立像や狛犬等仏教美術関連を指定している。これらの歴史文化資産の所有者は、寺社の他に自治会が所有する割合が高く、ともに信仰文化の中で生活と密着し守り伝えられている。

ウ) 工芸品

工芸品については、国・県・市で51件の指定された歴史文化資産がある。

国指定文化財の工芸品は、神照寺の金銀鍍透彫華籠が平安時代から鎌倉時代の仏教美術を表す代表作として国宝に指定されている。また、同寺には金銅透彫華鬘が室町時代の作

として伝わり、重要文化財に指定されている。その他、重要文化財として宝厳寺の刺繍普賢十羅刹女図額や銅水瓶等4件が指定されている。市街地においては、長浜祭鳳凰山飾毛綴、長浜祭翁山飾毛綴が近世長浜の隆盛を表す工芸品として指定されている。その他、飯開神社蔵の髹漆神輿は、応永11年(1404)の作として他に例を見ない。

県指定文化財の工芸品は、舎那院の素文磬をはじめとした仏教美術の他、長濱八幡宮の能装束や長浜の戦国時代を表す黒漆塗紺糸威胴丸が指定されている。

市指定文化財の工芸品は、勝福寺の梵鐘等仏教美術に関するものが多いが、長濱曳山祭に関連する翁山組の長濱曳山祭翁山飾毛綴や室町時代末期の木之本自治会蔵鉄錆地二十二間筋兜等を指定している。

エ) 書跡等

書跡等については、国・県・市で66件の指定された歴史文化資産がある。

国指定文化財の書跡等は、宝厳寺に伝わる法華經序品(竹生島經)が仏教美術の代表作として国宝に指定されている。その他、同寺の空海請来目錄や紙本墨書法華經分別功德品、竹生島文書が重要文化財に指定されている。また、須賀神社蔵の菅浦文書・菅浦と大浦下庄堺絵図は、鎌倉時代から江戸時代にかけて菅浦の村民が記した村落文書として貴重であるため、国宝に指定されている。

県指定文化財の書跡等は、(一財)布施美術館の仏本行集經卷第四十一等、奈良時代の仏教美術を示すものや六角氏式目や井戸村家文書が伝わる。

市指定文化財の書跡等は、下郷共済会の紙本墨書天正十九年五月九日豊臣秀吉長浜町屋敷年貢免除朱印状等、安土桃山時代(1568~1602)の資料が数多く占める。また、加藤家文書等個人蔵の資料も存在する。これらは、浅井氏や秀吉に関する資料で、長浜の戦国時代の資料を多く指定している。

オ) 考古資料

考古資料については、国・市で10件の指定された歴史文化資産がある。

国指定文化財の考古資料は、宝厳寺に伝わる銅印が奈良時代の作として重要文化財に指定されている。なお、印文は「駿河倉印」である。

市指定文化財の考古資料は、布勢古墳出土品や葛籠尾崎湖底遺跡出土遺物等、群としてまとまっている資料をその時代の指標となるものとして指定している。

カ) 歴史資料

歴史資料については、国・市で14件の指定された歴史文化資産がある。

国指定文化財の歴史資料は、芳洲会が所蔵する雨森芳洲関係資料が儒学者雨森芳洲の思想や江戸時代の日朝関係史を示す貴重な資料群として重要文化財に指定されている。なお、同資料のうち36点は、ユネスコ世界の記憶に登録されている。

市指定文化財の歴史資料は、国友一貫斎作望遠鏡等、個人所有の資料や田川逆水門模型

のような自治会所有の資料が存在する。両者とも当時の技術力の高さを示す資料である。

(3) 民俗文化財

民俗文化財については、国・県・市で 36 件（指定 24 件、選択 12 件）の指定等された歴史文化資産がある。

国指定等文化財の無形民俗文化財は、長浜曳山祭の曳山行事と長浜曳山狂言が近世長浜の隆盛を示す近世庶民の文化として重要無形民俗文化財に指定・選択されている。

県指定等文化財の無形民俗文化財は、山車や稚児の舞で構成される上丹生の曳山茶碗祭が指定され、人形浄瑠璃の富田人形、雨乞いに関連する金居原^{かねいはら}の太鼓踊り等が選択されている。

市指定文化財の有形民俗文化財は、花火陣屋や国友鉄砲鍛冶道具等、花火や鉄砲鍛冶といった生業に関する資料を指定しており、無形民俗文化財は、須賀神社例祭や七条の春祭り等市内各地で行われている祭を指定している。

(4) 記念物

記念物については、国・県・市で 58 件の指定された歴史文化資産がある。

国指定文化財の名勝史跡は、竹生島が琵琶湖に浮かぶ景勝地であり、古来信仰の対象の島として指定されている。史跡は、多彩な古墳を築造した古代の王たちの墓である古保利古墳群、戦国時代の浅井氏の居城である小谷城跡や、賤ヶ岳合戦時に柴田勝家の本陣として築かれた玄蕃尾城跡、湖北の平地城館の特徴を色濃く示す北近江城館跡群（下坂氏館跡・三田村氏館跡^{みたむら}）が指定されている。

県指定文化財の史跡は、茶臼山古墳^{ちやうすやま}や若宮山古墳、松尾宮山古墳群等が指定されている。これらは、地域を代表する大規模な古墳や石室構造が判明している古墳である。また、山上に築かれた大吉寺跡^{だいきちじ}や、水害との歴史を物語る西野水道も指定されている。

市指定文化財の史跡は、長浜城跡や姉川古戦場跡等、長浜の戦国時代を語ることができる遺跡を指定している他、縄文時代の醍醐遺跡^{だいご}や古墳時代の大人塚古墳^{うしづか}等様々な時代の遺跡を指定している。

国指定文化財の名勝は、大通寺含山軒および蘭亭庭園、浄信寺庭園、慶雲館庭園^{けいうんかん}が指定されている。慶雲館庭園は、京都の庭師 7 代目小川治兵衛^{おがわ じ へえ}（植治）の作といわれ、近代庭園の代表作である。

県指定文化財の名勝は、江戸時代から続く寺院関連の庭園の指定が多いが、池氏庭園^{いけ}や赤田氏庭園のように個人所有の庭園も存在する。個人所有の庭園は、戦国時代以来の財力を有する土豪の名残を今に示す。

市指定文化財の天然記念物は、余呉湖畔に立地する余呉湖埋没林^{りきまる}や力丸町のサイカチ等を指定している。これらは合併前に指定した歴史文化資産がほとんどで、市内北部に分布している歴史文化資産が多い。

(5) 文化的景観

文化的景観については、国で1件の選定された歴史文化資産がある。

国選定文化財の文化的景観は、市内北部の湖岸に位置する菅浦集落が「菅浦の湖岸集落景観」として選定されている。菅浦集落は棚田、山林、湖に面した石垣、四足門に代表される往来に関する景観地等人びとの営みによる景観が評価されており、琵琶湖をめぐる水の文化の象徴である。

(6) 文化財の保存技術

保存技術については、国・県で5件の選定された歴史文化資産がある。

国が選定した文化財の保存技術は、邦楽器原糸製造と邦楽器糸製作が選定されている。湖北地方では江戸時代に養蚕が盛んであったことから、蚕の繭から糸を紡いで、生糸原糸を製造する技術と、その原糸を撚って邦楽器の弦を製作する技術が伝わっている。両者とも邦楽器に欠かせない技術である。

県選定文化財の選定保存技術は、長浜曳山祭の保存・活用に必要な技術として、曳山金工品修理、曳山漆工品修理、曳山車輪鉄輪修理が選定されている。

2 指定等文化財の特徴

国指定等の歴史文化資産は、文化財類型の中で有形文化財（指定・登録）が全体の88%を占める。また、寺社が所有する仏教美術関連の資料が多い。このことは、都に近い地の利や人びとの信仰の濃さを物語る。

県指定等の歴史文化資産は、文化財類型の中で有形文化財の指定比率が61%となり、国指定等と比較して有形文化財の比率が下がる。反面、民俗文化財や史跡の指定件数が増え、各地で伝えられてきた太鼓踊り等雨乞いに関する祭礼の多さや、史跡では茶臼山古墳等大規模な古墳の多さを示す。また、選定保存技術では、長浜の伝統文化を支える技術である長浜曳山祭に関する技術が選定されている。

市指定の歴史文化資産は、文化財類型の中では、有形文化財が79%を占める。県指定等の歴史文化資産同様、様々な文化財類型の中から指定しており、仏教美術以外に浅井氏や秀吉関係等戦国時代の資料を数多く指定している。これらは、浅井氏から秀吉へといった支配層の移り変わりや支えた人びとの歴史を伝える貴重な資料である。

国指定等・県指定等の歴史文化資産所有者は、寺社が所有していることが多いのに対して、市指定文化財は個人所有の歴史文化資産が増えている。この状況は、寺社等が所有している歴史文化資産の調査が進み、その後、個人所有の歴史文化資産へ調査が進んだことを示している。

3 指定等文化財数の推移

廃仏毀釈の嵐が吹き荒れていた明治時代において、滅亡の危機にさらされていた歴史文化資産を守るため、明治30年（1897）に古社寺保存法が成立した。長浜市内においては、

その年のうちに、木造十一面観音立像（向源寺）、木造大日如来坐像（向源寺）が国宝に指定され、さらに法律成立から5年間で、28件の歴史文化資産（建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡）が特別保護建造物や国宝に指定されて、保護の措置が取られた。これら多くの指定が早急に行われた背景には、保護の措置が必要な歴史文化資産が長浜市内に数多くあったことがある。因みに、古社寺保存法の下において、市内では61件が指定された。

また、経済成長の中、大地に刻まれた歴史文化資産を守るため、大正8年（1919）に史蹟名勝天然紀念物保存法が制定された。この法の下、市内では名勝史跡として竹生島が指定され、その後3件《小谷城跡、大通寺含山軒および蘭亭庭園（大通寺）、浄信寺庭園（浄信寺）》が指定された。

さらに古社寺保存法を引き継ぐ形で制定された国宝保存法（昭和4年・1929制定）の下、金銀鍍透彫華籠（神照寺）、金銅透彫華鬘附木箱（神照寺）等5件が指定されている。これら一連の法の下において、70件の歴史文化資産が指定され、保護が図られている。

そして、昭和25年（1950）文化財保護法として一連の法律が統合され、その後も指定は続き、現在は118件（令和3年6月30日現在）の国指定等の歴史文化資産が存在する。

文化財保護法が制定された時点で、現在の市内に分布する国指定等の歴史文化資産の61%が指定されており、このことは、次世代へ継承すべき歴史文化資産や保護を必要とする歴史文化資産が数多く存在していたことを示す。

滋賀県文化財保護条例は、昭和31年（1956）に制定された。市内では制定された翌年の昭和32年（1957）に4件《木造七仏薬師如来立像（鶏足寺）、木造阿弥陀如来坐像（向源寺）、長浜曳山祭の山車 附山蔵13棟（各山組）》が指定された歴史文化資産となり、現在は92件（令和3年6月30日現在）が指定されている。

一方、長浜市文化財保護条例は、昭和37年（1962）に制定し、その年に6件《金地墨画梅の図襖（岸駒筆）（大通寺）、長浜城跡、長浜曳山祭翁山飾毛綴（翁山組）、梵鐘（勝福寺）、紙本墨書淀殿浅井氏（淀君）自筆消息（知善院）、紙本墨書天正十九年五月九日豊臣秀吉長浜町屋敷年貢免除朱印状（下郷共済会）》の歴史文化資産を指定している。市町の合併があったため、指定した歴史文化資産の数は増加し、現在249件（令和3年6月30日現在）の指定した歴史文化資産が存在する。

合併前の行政区分毎の指定等文化財の件数

※平成の合併前の市町における区域で分けた指定された歴史文化資産数表

種別	長浜	浅井	びわ	虎姫	湖北	高月	木之本	余呉	西浅井	合計
有形文化財	建造物	20	2	8	4	2	1	11	3	54
	美術工芸品	93	21	36	6	23	35	44	16	305
無形文化財		-	-	-	-	-	-	-	-	-
民俗文化財		12	1	4	4	4	-	4	5	36
記念物	遺跡	7	12	1	1	2	6	-	3	34
	名勝地	5	5	-	-	-	1	1	-	12
	動物・植物・地質鉱物	-	4	1	-	-	1	3	3	12
文化的景観		-	-	-	-	-	-	-	-	1
伝統的建造物群		-	-	-	-	-	-	-	-	-
文化財の保存技術		3	-	-	-	-	-	2	-	5
合計		140	45	50	15	31	44	65	30	459

合併前の行政区分毎の国指定等文化財数表

種別	長浜	浅井	びわ	虎姫	湖北	高月	木之本	余呉	西浅井	合計
有形文化財	建造物	11	-	7	2	-	-	8	-	30
	美術工芸品	14	4	17	1	3	10	19	3	75
無形文化財		-	-	-	-	-	-	-	-	-
民俗文化財		2	-	-	-	-	-	-	-	2
記念物	遺跡	1	-	1	-	1	1	-	1	5
	名勝地	2	-	-	-	-	-	1	-	3
	動物・植物・地質鉱物	-	-	-	-	-	-	-	-	-
文化的景観		-	-	-	-	-	-	-	-	1
伝統的建造物群		-	-	-	-	-	-	-	-	-
文化財の保存技術		-	-	-	-	-	-	2	-	2
合計		30	4	25	3	4	11	30	4	118

合併前の行政区分毎の県指定等文化財数表

種別	長浜	浅井	びわ	虎姫	湖北	高月	木之本	余呉	西浅井	合計
有形文化財	建造物	3	-	-	-	-	1	1	2	8
	美術工芸品	17	3	5	-	2	11	6	2	49
無形文化財		-	-	-	-	-	-	-	-	-
民俗文化財		3	-	1	-	2	-	2	5	14
記念物	遺跡	2	1	-	-	1	5	-	-	11
	名勝地	1	3	-	-	-	1	-	-	5
	動物・植物・地質鉱物	-	-	1	-	-	-	-	1	2
文化的景観		-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝統的建造物群		-	-	-	-	-	-	-	-	-
文化財の保存技術		3	-	-	-	-	-	-	-	3
合計		29	7	7	-	5	18	9	10	92

合併前の行政区分毎の市町指定文化財数表

種別	長浜	浅井	びわ	虎姫	湖北	高月	木之本	余呉	西浅井	合計
有形文化財	建造物	6	2	1	2	2	-	2	1	16
	美術工芸品	62	14	14	5	18	14	19	11	181
無形文化財		-	-	-	-	-	-	-	-	-
民俗文化財		7	1	3	4	2	-	2	-	20
記念物	遺跡	4	11	-	1	-	-	-	2	18
	名勝地	2	2	-	-	-	-	-	-	4
	動物・植物・地質鉱物	-	4	-	-	-	1	3	2	10
文化的景観		-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝統的建造物群		-	-	-	-	-	-	-	-	-
文化財の保存技術		-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		81	34	18	12	22	15	26	16	249

(令和3年6月30日現在)

4 日本遺産の概要

長浜市域には、日本遺産に認定されたストーリーが3つある。以下に概要を示す。

(1)「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」の概要

琵琶湖の景観と文化を中心としたストーリーで、平成27年に滋賀県内の複数地域にまたがる「シリアル型」として認定されていた日本遺産に、平成28年度、長浜市内の構成文化財2件が追加認定された。

【認定自治体（◎印は代表自治体）】

◎滋賀県、大津市、彦根市、近江八幡市、高島市、東近江市、米原市、長浜市、草津市、守山市、野洲市

【ストーリーの概要】

穢^{けが}れを除き、病を癒すものとして祀られてきた水。仏教の普及とともに東方にあつては、瑠璃^{るり}色に輝く「水の浄土」の教主・薬師如来が広く信仰されてきた。琵琶湖では、「水の浄土」を臨んで多くの寺社が建立され、今日も多くの人びとを惹きつけている。また、くらしには 山から水を引いた古式水道や湧き水を使いながら汚さないルールが伝わっている。湖辺の集落や湖中の島では、米と魚を活用した鮒ずしなどの独自の食文化やエリなどの漁法が育まれた。多くの生き物を育む水郷や水辺の景観は、芸術や庭園に取り上げられてきたが、近年では、水と人の営みが 調和した文化的景観として、多くの現代人をひきつけている。ここには、日本人の高度な「水の文化」の歴史が集積されている。

「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」の構成文化財（長浜市）

名称	指定等の状況
竹生島	名勝史跡、国宝(建造物)、重要文化財(建造物)、県指定(天然記念物)
菅浦の湖岸集落	重要文化的景観

(2)「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」の概要

西国三十三所を中心としたストーリーで、令和元年度に認定された。複数の地域にまたがってストーリーが展開する「シリアル型」として認定されており、長浜市内の構成文化財は4件となっている。

【認定自治体（◎印は代表自治体）】

◎滋賀県大津市、和歌山県那智勝浦町、和歌山県和歌山市、和歌山県紀の川市、大阪府和泉市、大阪府藤井寺市、大阪府茨木市、大阪府箕面市、奈良県高取町、奈良県明日香村、奈良県桜井市、奈良県奈良市、京都府宇治市、京都府京都市、京都府亀岡市、京都府宮津市、京都府舞鶴市、兵庫県宝塚市、兵庫県加東市、兵庫県加西市、兵庫県姫路市、滋賀県長浜市、滋賀県近江八幡市、岐阜県揖斐川町

【ストーリーの概要】

西国三十三所観音巡礼は、観音を巡り日本人本来の豊かな心で生きるきっかけとなる旅である。

札所^{ふだしょ}ごとに息をのむほどの美しい景色や度肝を抜かれるような仏像を見て、心を豊かにするのも、魅力のひとつである。また、次の札所にはどのような名物・名産が待つだろうと心を躍らせるのも、旅の楽しみの一つである。

西国三十三所観音巡礼により世の苦しみを心で観る観音へと近づき、日本人本来の豊かな心に気づく。そして、西国三十三所観音巡礼は、「自分らしい生き方」「自分らしい最期」を見つけるための拠り所となる。

「1300 年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」の構成文化財（長浜市）

名称	指定等の状況
宝厳寺と千手千眼観世音菩薩	国重文(建造物)、国史跡、国名勝、未指定(彫刻)
御朱印	未指定(有形民俗)
西国三十三所御詠歌	未指定(無形民俗)
観音霊験記西国巡礼	未指定(絵画)

(3)「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～」の概要

鉄道を中心としたストーリーで、令和 2 年度に認定された。複数の地域にまたがってストーリーが展開する「シリアル型」として認定されており、長浜市内の構成文化財は 16 件となっている。

【認定自治体（◎印は代表自治体）】

◎福井県南越前町、敦賀市、滋賀県長浜市

【ストーリーの概要】

トンネルで日本海と琵琶湖を繋ぎ、鉄道が敷設されたことにより、この地域に物流の革命がもたらされ、それは海外航路とのつながりを促した。その結果、シベリア鉄道の発着地であるウラジオストクと敦賀を結ぶ鉄道連絡船が就航し、鉄道は海を超え欧州へとつながり、人、文化、経済の国際交流の架け橋となった。

南越前町・敦賀市・長浜市の鉄道遺産は、姿や形を変えずに、人びとの生活に必要な財産として生まれ変わり 地域に密着した文化財として生き続けている。

「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄路のキセキ～」の構成文化財（長浜市）

名称	指定等の状況
柳ヶ瀬トンネル	未指定(建造物)
焼鯖と焼鯖そうめん	未指定(無形民俗)
浜ちりめん	未指定(有形民俗)
中ノ郷駅跡	未指定(遺跡)
D51 形 793 号蒸気機関車	未指定(美術工芸品)
旧長浜駅舎	県指定有形鉄道記念物
扁額「萬世永頼」	未指定(美術工芸品)
扁額「永世無窮」	未指定(美術工芸品)
扁額「與國咸休」	未指定(美術工芸品)
扁額「功和干時」	未指定(美術工芸品)
扁額「徳垂後裔」	未指定(美術工芸品)
旧長浜駅 29 号分岐器ポイント部	県指定有形鉄道記念物
慶雲館	国指定名勝
黒壁ガラス館	国登録有形
木之本宿	未指定(宿場町)
明治ステーション通り	未指定(文化的景観)

5 未指定の歴史文化資産

長浜市には、指定・登録等の歴史文化資産以外にも、歴史的または学術的な観点から貴重な歴史文化資産が多く存在し、「長浜らしさ」とも呼べる固有の文化を物語るものも数多くある。その多くは指定・登録の対象とはなっていないものの、長浜市固有の文化を次世代に継承するためには欠かすことのできないものである。

長浜市では、類型や指定等の有無に関わらず、将来的に保存・活用を図る上での基礎情報を把握することを目的に平成5年（1993）から総合的文化財調査を進めた。

その結果、未指定の歴史文化資産として9,099件（令和3年6月30日現在）の歴史文化資産を把握している。把握した未指定の歴史文化資産の割合は、遺跡が2,880件と一番多く、次いで建造物、無形民俗文化財となる。

未指定の有形文化財のうち建造物については2,196件と多く、中でも高月地域や浅井地域で多く確認している。内訳は、集落内に分布する社寺等宗教関連の建造物が多く、集落内に複数の寺院が建立される地域の特徴が見える。美術工芸品は、高月地域、木之本地域、余呉地域、西浅井地域といった市内北部で多く確認しており、仏像や仏画等が多数を占める。把握した有形文化財から、信仰に関する歴史文化資産が多い特徴が見て取れる。

無形文化財については確認した件数は少ないが、余呉地域や長浜地域でお手玉うたやわらべうたを確認している。

民俗文化財については、水利や農耕に関する歴史文化資産の他、雨乞いの民俗行事や井戸組、郷土食等が取り上げられる。長浜市は琵琶湖に面しているため、水にまつわる歴史文化資産が確認できるほか、太鼓踊り等民俗芸能文化を確認することができる。

記念物のうち、遺跡については市内全域で確認できる。学校跡等公共施設や寺跡等の宗教施設そして古墳や城跡が各所に確認できる。名勝地については、山や川が多く確認され、植物では北部地域にブナ林等多くの自然が確認できる。

文化的景観については確認できておらず、文化財の保存技術については、^{しもさかなか}下坂中や^{なんば}難波等にかつて存在した職人の話が伝承として伝わる。

伝統的建造物群については、市街地や木之本地域で宿場の町並みが残り、文化財の保存技術は、市街地やびわ地域、木之本地域等で生糸や生業に関する保存技術が伝わる。

埋蔵文化財については、830件が周知の埋蔵文化財包蔵地として市内に分布しており、広く市域全域にまたがっている。遺跡の内訳は、散布地59件（7%）、集落跡191件（23%）、城館跡194件（23%）、古墳・墳墓200件（24%）、生産遺跡21件（3%）、神社・祭祀関連144件（17%）、その他21件（3%）である。内訳の中で城郭跡と古墳・墳墓を合わせると全体の47%を占める。なお、生産遺跡は3%と少ない。

総合的な調査により把握した未指定の歴史文化資産の件数

(村落景観情報図表一覧をもとに合併前の旧市町区分で作成)

(令和3年6月30日現在)

番号	地域名 (旧町名)		有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化 的 景観	伝統的 建造物群	埋蔵文化財	文化財の 保存技術	その他	合計
			建造物	美術 工芸品		民俗 文化財 有形	民俗 文化財 無形	遺跡	名勝地	動物・植物 地質・鉱物						
1	西浅井町		116	217	－	19	28	97	16	29	－	－	48	－	66	636
2	余呉町		171	92	27	4	298	117	36	42	－	－	79	2	96	964
3	木之本町		148	71	1	6	18	161	23	8	－	1	77	4	30	548
4	高月町		411	68	－	28	76	751	37	48	－	－	144	－	54	1,617
5	湖北町		132	30	1	2	11	89	13	6	－	1	84	－	31	400
6	虎姫町		64	4	－	－	4	50	3	－	－	－	15	－	32	172
7	びわ町		135	26	－	11	9	193	6	2	－	－	28	3	24	437
8	浅井町		382	21	－	37	74	473	53	36	－	－	119	－	264	1,459
9	長浜市	神田地区	37	1	－	7	22	140	6	－	－	－	13	－	17	243
10		西黒田地区	55	5	－	5	16	88	5	1	－	－	43	－	25	243
11		北郷里地区	74	5	1	14	38	122	12	4	－	－	48	－	47	365
12		南郷里地区	81	13	－	9	84	144	6	5	－	－	34	－	21	397
13		神照地区	125	5	－	10	57	120	7	2	－	－	44	－	31	401
14		六荘地区	108	12	－	10	118	124	7	3	－	－	40	1	36	459
15		長浜地区	157	58	4	79	58	211	36	14	－	8	14	8	111	758
合計			2,196	628	34	241	911	2,880	266	200	－	10	830	18	885	9,099

※その他は、地名や方言、昔話の伝承等である。

第5章 長浜市の歴史文化の特徴

第4章までを受けて、長浜市の多様な歴史的事象や未来へ継承していく歴史文化の特徴を以下の6つにまとめる。

① 多彩な古墳を築造した古代の王たち

長浜市内での先人たちの生活の跡は、縄文時代以降の多くの遺跡によって確認され、弥生時代には、湖北長浜における、統率者の存在を示す資料として、例えば五村遺跡で巴形銅器が見つかっている。

古墳時代になると、伊香・坂田氏等中央政権との関わりを深めた古代豪族の古墳が営々と築かれている。古保利古墳群は、前方後円墳や前方後方墳、方墳や円墳等形態の異なる古墳が残る。その他、市内には様々な形態の古墳が残る。現在に受け継がれている多彩な古墳にはこれらの王たちの名残がみられる。

② 守り継がれる信仰文化

長浜市には、各自治会区域に神社とともに仏堂が所在し、神仏習合の名残が随所に見られる。

観音像等の尊像は、自治会が管理し、住民たちの手によって神社とともに護持・運営しているところがほとんどである。これらの尊像を日常の暮らしの中で祈り、協働で守り伝えてきた「観音文化」は、村々の生活と信仰の歴史の中で育まれてきた。観音像等の尊像が地域住民によって大切に守られていることも長浜市の特徴である。

これら観音文化や竹生島信仰・真宗信仰等多彩な信仰文化は、現代の長浜市にも脈々と受け継がれている。

③ 日本の戦国時代を変えた合戦や城郭

長浜市内には、姉川古戦場や賤ヶ岳古戦場、小谷城跡や玄蕃尾城跡（うちなかおやま内中尾山城）のような山城等多くの戦国時代の遺跡が存在する。さらに、村々には平地城館として築城された浅井氏家臣の城館跡も残され、戦国時代、歴史の画期に関わる城郭や合戦場所が多数存在する。また、全国的に著名な石田三成や片桐且元等の戦国武将も多く出生している。

④ 花開く江戸時代の庶民文化

江戸時代の長浜は彦根藩の支配も緩やかで、まちどしより町年寄による自治都市として発展した。その中で生まれたのが、平成28年（2016）にユネスコの無形文化遺産に登録された長浜曳山祭である。さらに農村部においても、十字梁の架構をもつ余呉型民家等、特徴的な生活空間が発展するなか、雨乞いの習俗にちなむ太鼓踊りや富田人形等独自の民俗芸能文化が花開いた。これら都市の文化と農村の文化をつなぐのが、北国街道等の街道であった。また、浜縮

緬や国友鉄砲等の産業も発展した。このように庶民文化が江戸時代に興り、今日に至るまで守り伝えられている。

⑤市民文化をつくった近代化の歩み

江戸時代末期から明治時代初期にかけて、浜縮緬に代表される繊維産業は長浜の経済を支え、長浜の町は滋賀県随一の経済力を誇る都市として成長した。蒸気船の就航、第一小学校の開設、国立銀行の設立、鉄道の敷設等、^{あさみまたぞう}浅見又蔵をはじめとする明治時代の長浜商人たちの活躍は目覚ましいものがある。

これら近代化の歩みは、旧長浜駅本屋（旧長浜駅舎）や慶雲館、あるいは^{つちくらこうざん}土倉鉦山等の近代化遺産を通して、今でも目にすることができる。近代化を推し進めた進取の気性は、市民文化として息づいている。

⑥琵琶湖をめぐる水の文化

長浜市は琵琶湖に面しているということも大きな特徴である。平成28年（2016）に日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」に追加された竹生島（国名勝史跡）と菅浦の湖岸集落景観（国選定重要文化的景観）は、水をめぐる信仰と人びとの営みを象徴するものである。長浜市の歴史と琵琶湖をめぐる水の文化は切っても切り離せない関係にあり、古代から栄えた^{しおつこう}塩津港遺跡、明治時代まで最盛を極めた丸子船、そして蒸気船・鉄道連絡船の歴史からは、湖上交通が古代から近代に至る長浜の発展に果たした役割を窺い知ることができる。

第6章 長浜市の歴史文化資産の保存と活用に関する基本目標

歴史文化資産は、古くから人びとの生活や風土との関わりにおいて生み出され、現在まで多くの人びとの不断の努力により守り伝えられてきた貴重な財産＝「光」である。

これらを確実に後世へ受け継いでいくためには、歴史文化資産の所有者・保護団体や行政だけではなく、ともに保存・活用を支援する市民や民間団体等の力が不可欠である。

本計画の目標は、以下の循環による体制を構築し、支援を行い、歴史文化を地域づくりの核として、歴史文化資産の確実な継承につなげることにある。

地域において歴史文化資産を保存・活用していくためには、以下の①～④の自然な循環を生み出す必要がある。

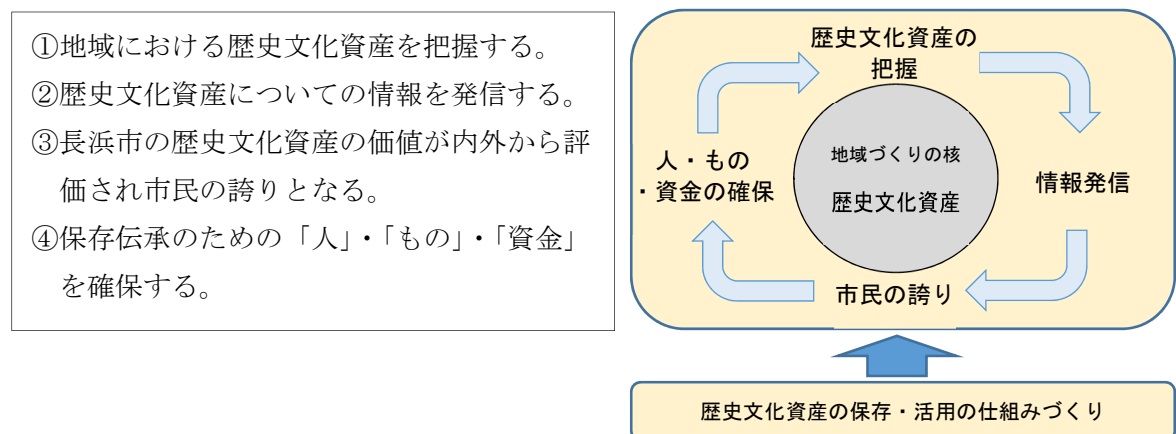
- ①地域における歴史文化資産を把握する
- ②歴史文化資産についての情報を発信する
- ③長浜市の歴史文化資産の価値が内外から評価され市民の誇りとなる
- ④保存伝承のための「人」・「もの」・「資金」を確保する

そして、歴史文化資産を核とした地域づくりと人材育成を進め、市民（将来の長浜市を担う人びと等）の郷土への愛着を高める。

歴史文化資産を地域の道標として、明るい将来を創るために以下の目標を定める。

保存・活用の基本目標

地域の光を未来へつなぐ歴史文化都市・長浜



歴史文化資産の保存・活用の循環

第7章 歴史文化資産の保存・活用に関する方針と措置

1 歴史文化資産の保存・活用に関する課題

少子高齢化、後継者不足、相続の問題等、歴史文化資産を維持していく環境は厳しさを増している。歴史文化資産保護の補助金制度が充実しても、自己負担分が支払えないために申請を躊躇するケースがある。観光資源として活用しようにも、来場者対応できる人材がないため、見送らざるを得ないケースもある。莫大な展覧会出陳謝礼や画像使用料で稼げる歴史文化資産ならともかく、もはや一個人の所有者や保護団体だけでは守り通すことは不可能であり、世代交代の際に流出してしまう危険性がある。

このような状況に対応し、第6章で定めた目標を達成するために、以下のとおり課題を整理する。

課題①：歴史文化資産を地域で守る体制について

地域の過疎化・少子高齢化が進み、歴史的建造物の維持や伝統行事等の継承に関わる担い手不足が生じている。特に寺社・仏堂の美術工芸品については、世話をする人材不足に悩まされている集落も少なくない。また長浜曳山祭や上丹生の曳山茶碗祭をはじめとする無形民俗文化財が多数存在するが、後継者不足が大きな課題となっており、消滅の危機に瀕するものもある。そのようななか、歴史文化資産の数に対して保存・活用する団体が少なく、体制も整っていない。また、各団体間の連携は少なく、各団体においてガイドや講座等の普及啓発事業は行っているが、保存・活用のための事業は少ない。

課題②：総合的な歴史文化資産の把握について

未指定の歴史文化資産の把握調査は、すべての分野にわたって満遍なくかつ十分に行われているわけではない。そして、一部の遺跡・名勝地にはすでに保存活用計画や整備基本計画が作成されているものがあるが、多くの遺跡、名勝地、動物、植物、地質鉱物については、計画が作成されていない。また、歴史文化資産の防災・防犯対策や、合併後の市史編纂等の取組ができていない。

課題③：他計画との連動について

歴史文化資産を保存・活用する事業が、長浜市歴史的風致維持向上計画等、行政内の他計画と十分に連動できていないため、歴史文化資産の効果的な保存・活用ができていない。

課題④：資金の調達について

有形文化財の建造物や美術工芸品、無形民俗文化財で使用される用具類等、歴史文化資産の修理が必要であっても所有者や保護団体の自己資金が足りず、計画的に修理が進んでいない。特に建造物や美術工芸品の所有者は、維持管理や修繕の経済的負担に苦慮している。

課題⑤：保存・活用施設の役割について

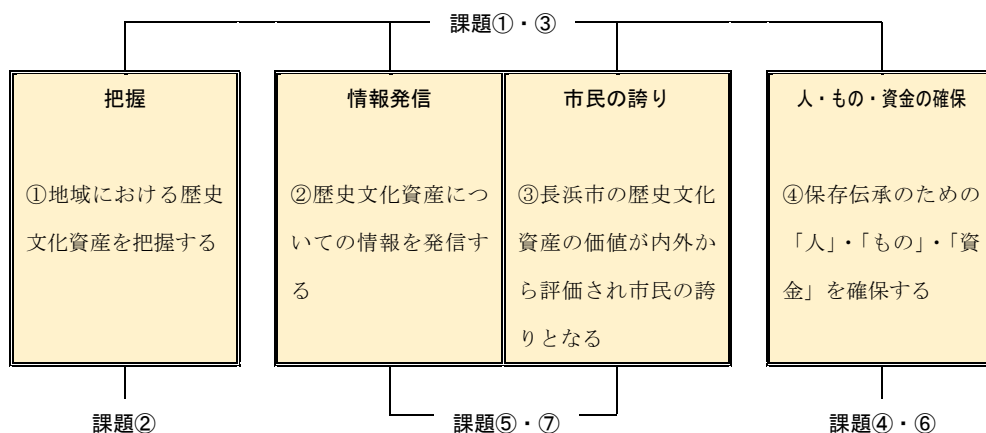
近年は人口減少・高齢化のため、地域で歴史文化資産を維持することができず、博物館・資料館への寄託するケースが増加傾向にある。そのため博物館・資料館では、増えた収蔵品により収蔵庫内の容量が圧迫され、緊急性のある資料であっても預かりにくくなっている。

課題⑥：人材育成と技術者の養成について

歴史文化資産を継承する若い世代の関心が薄く、歴史文化資産の理解を深めるための学習機会が少なくなっている。また歴史文化資産の保存修理ができる技術者が少なく、後継者育成が進んでいない。

課題⑦：歴史文化資産の普及啓発について

歴史文化資産のサイン、マップ、展示といった普及・周知に関する取組や情報公開が効果的に進んでいない。多くの歴史文化資産がその存在を知られておらず、その価値の発信や来訪者への普及啓発が十分ではない。



歴史文化資産の保存・活用の循環と課題の対応図

2 歴史文化資産の保存と活用に関する方針

歴史文化資産を把握し、公開や情報発信等活用することによって、市民の誇りを醸成し、あわせて保存のための「人」や「もの」や「資金」を確保する循環を生み出す。

第7章1の課題から導き出された基本方針を下記に定める。

方針①：歴史文化資産の保存・活用は「個人」から「地域」へ

【歴史文化資産を地域で守る体制を確立する】

「地域の光」である歴史文化資産の保存・活用は、国・県・市から所有者個人・団体という「縦」系の施策ではなく、保存活用団体や地域づくり協議会等、市民同士の連携による自立的な「横」系の体制を確立する。

方針②：歴史文化資産の保存・活用は「指定」から「把握」へ

【総合的な歴史文化資産の把握に努める】

これまでの行政が行う歴史文化資産の「指定」・「選定」・「登録」といった手法のみでなく、未指定を含めた歴史文化資産の把握調査も行い、破壊・散逸が懸念される歴史文化資産の把握・収集と記録編纂に努める。あわせて歴史文化資産の防犯・防災対策や保存活用計画等の作成を進める。

方針③：長浜市の行政計画との連動を図る

【他計画と連動して効果を倍増させる】

「歴史的風致維持向上計画」や「長浜市景観まちづくり計画」等、第1章で示した関連する行政計画と、歴史文化資産の保存・活用を連動させることで、観光振興や地域づくりでの活用につなげ、より大きな効果を上げるよう努める。

方針④：保存伝承の資金は「扶助」から「共助」へ

【資金メニューを揃える】

行政として支援を行うことも大切であるが、所有者を含む市民が自立的に歴史文化資産を保存・活用できる体制を整えることが大事である。そのために行政は、地域や個人、法人、保存活用団体に対して保存・活用に充てるための財源メニューを揃えて提示していく。そして「歴史文化資産の活用によって得た資金で歴史文化資産を守る」という仕組みをつくる。その中では、歴史文化資産で「稼ぐ」発想も積極的に取り入れる。

方針⑤：博物館・資料館は「展示」とともに「収蔵」を重視

【保存・活用施設の役割を高める】

有形文化財については、個人、法人や地域で保存できなくなった場合の保管場所として、収蔵施設の充実を図っていく。市内博物館・資料館については、施設の再編を図るとともに、収蔵した歴史文化資産を展示公開する機能を高める。

方針⑥：歴史文化資産を保存・活用する人材を確保する

【人材育成と技術者の養成】

歴史文化資産を次代につなぐため、小中学生や高校生への歴史文化資産学習が積極的に行えるような学校教育体制を整える。さらに、歴史文化資産を学び語り伝える人材を発掘し、歴史文化に関する解説書を充実させる等学習の機会を提供する。また、歴史文化資産の保存修理に関わる市内技術者の養成支援を行い、可能な限り市内において歴史文化資産修理が行えるような地域の体制づくりに努める。

方針⑦：歴史文化資産の情報を世界と共有化する

【歴史文化資産の情報のデジタルアーカイブ化を進める】

市内の歴史文化資産の普及・周知に関する取組を行う。あわせて歴史文化資産の写真や解説、講演会や伝統行事等のデジタル化を進めて、データベース化し、SNS等を通して世界と情報を共有する。

3 歴史文化資産の保存・活用に関する措置

基本目標「地域の光を未来へつなぐ歴史文化都市・長浜」を実現するためには、それをもとに設定した各方針に基づく取組を計画的に実施していくことが求められる。そこで、まずは「歴史文化資産の保存・活用に関する措置」として前述した各方針に基づく事業計画を設定する。

事業実施にあたっては、市費・県費の他、文化庁の各種補助金や内閣府の地方創生推進交付金、その他、民間等の資金を積極的に活用していく。

方針①【歴史文化資産を地域で守る体制を確立する】

保存活用団体を創設し、地域で歴史文化資産を活用し保存・活用に対する意欲を醸成する。

凡例
国費：歴史文化資産補助金、地方創生推進交付金等とする。
県費：滋賀県文化財保存事業補助金、各種助成金とする。
市費：市単費、補助金等とする。
民間：行政からの補助金以外とする。

市民：市民
所有者：歴史文化資産所有者
団体：民間活動団体、各種団体、協議会等
専門家：大学、博物館等
行政：長浜市

◎：中心になって取り組む
○：協力して取り組む
△：参画しないが協力体制を整えておく

番号	保存と活用に関する措置 事業名・事業概要	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
			市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
2	保存活用団体の設立促進 所有者だけでなく地域の人々とともに歴史文化資産を守るため、保存活用団体の設立や活動の充実を促す。	行政 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	新規					

方針②【総合的な歴史文化資産の把握に努める】

歴史文化資産の把握のため調査を行う。その後、指定を推進し、市史編纂に着手する。また、歴史文化資産を後世に繋げるため、防災・防犯対策や維持管理、保存活用計画等の作成を進める。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
1-1	歴史文化資産の調査（把握調査）（※再掲） 美術工芸品等の歴史文化遺産の価値の解明に向け、把握調査を推進する。	市費等	△	◎	◎	◎	◎	継続					
1-2	歴史文化資産の調査（個別調査） 歴史文化遺産の価値の解明に向け、調査研究等を推進する。（花火陳屋・玉泉寺・小堀氏家臣団墓所・赤田氏庭園等）	市費等	△	◎	◎	◎	◎	継続					
1-3	歴史文化資産の調査（埋蔵文化財調査及び整理調査） 開発に伴う緊急発掘調査、学術調査や整理調査を実施する。	国費 県費 市費等	○	○	○	○	◎	継続					
3	市史の編纂 歴史資料の散逸を防ぐため、歴史資料を収集・調査し、新たな市域を対象とした資料編を中心とする「新修 長浜市史」の事業に着手する。	市費等		○		◎	◎	新規					
4	歴史文化資産の価値付けの推進 歴史文化資産の価値付けを進め、保存・活用を図る。	市費等		◎		◎	◎	継続					
5-1	防災・防災対策の実施（歴史文化資産の防災マップ） 歴史文化資産を災害から守るため、洪水時の水位線の記録や、震災時の歴史伝承を活かした歴史文化資産防災マップを作成する。	国費 県費 市費等	△	○	◎		◎	新規					
5-2	防災・防災対策の実施（歴史文化資産のパトロール） 歴史文化資産の防犯・防災のため、パトロールを行い、現状把握に努める。	市費等	◎	◎	◎		○	新規					
5-3	防災・防災対策の実施（歴史文化資産の防犯・防災設備設置等） 歴史文化資産の防犯・防災設備の更新・設置や耐震診断を行う。 （宝蔵寺観音堂、唐門、渡廊（低屋根）、渡廊（高屋根）、都久夫須麻神社本殿等）	国費 県費 市費 民間	◎	◎	◎		◎	継続					
5-4	防災・防災対策の実施（歴史文化資産の防火訓練） 消防署等により防火訓練を実施する。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続					
5-5	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の台帳作成） 歴史文化資産の目録や写真撮影を行い、台帳として整理することによって、災害に備える。	国費 県費 市費 民間等		◎	◎	○	◎	新規					
6	史跡の整備事業 史跡の整備を進め保存・活用を進める。	国費 県費 市費等	○	◎	◎	◎	◎	継続					
7	個別歴史文化資産の保存活用計画等作成・作成支援 個別の歴史文化資産について、保存活用計画等各種計画の作成や作成の支援を行う。	国費 市費 所有者等	△	◎	◎	◎	◎	継続					

方針③【他計画と連動して効果を倍増させる】

長浜市歴史的風致維持向上計画等の関連する他計画と連動を図る。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間					※1 長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	※2 湖国フ ィールド ミュージ アム長浜 地域計画
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年		
8-1	山蔵保存修理事業 山蔵について、損傷した壁面や扉、雨樋等を破損状況に応じ保存修理が必要になったものについて順次保存修理を進める。	県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (1)～①	
8-2	大通寺伽藍群保存修理事業 大通寺の伽藍群の一部である講場（総会所、茶所、因講、二十八日講）について、保存修理設計調査を実施し、破損状況を把握したうえで、保存修理を実施する。	市費等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (1)～②	

※1 P10の長浜市歴史的風致維持向上計画事業一覧表を参照
※2 P15の湖国フィールドミュージアム・長浜地域計画事業一覧表を参照

8-3	歴史的建築物保存活用事業・伝統的街並み景観形成事業 中心市街地及び北国街道木之本宿にある歴史的建築物を保存・活用する際や伝統的な街並み景観の維持形成に配慮して町家、店舗、住宅等を改修する際に補助金を交付する。	市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (2)~①	
8-4	伝統的建造物群保存地区選定調査検討事業 北国街道木之本宿区域において、建造物の調査及び保存対策を実施し、歴史文化資産の価値付けを行い、保存区域を検討する。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (2)~③	
8-5	豊公園（長浜城跡）再整備事業 豊公園施設の老朽化が著しく、史跡の活用が十分なされていないことから、史跡指定範囲内における史跡の活用を検討し、公園の再整備を進める。	国費 市費等		◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (2)~④	
8-6	木之本宿道路整備事業 国道 303 号及び市道木之本穴師余呉線において、歴史的な街並みに調和した道路の美装化、路側帯の設置等を進める。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (2)~⑤	
8-7	長浜曳山祭保存伝承事業 長浜曳山祭は、より広い視野からの観光・産業振興を市内関連団体と協調しながら推進する。また、長浜曳山文化協会の事業を支援する。 長浜曳山祭を保存伝承するための取組や仕組みを整備・支援する。	国費 県費 市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (3)~①	
8-8	きもの大園遊会開催事業（城下町遺構の活用） 大通寺を会場に振袖姿の女性が城下町を散策する内容。催事を開催し歴史的建造物の価値を再認識し来街を促す事業。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (3)~②	
8-9	ふるさと夏まつり「地蔵縁日」開催事業 木之本の浄信寺で開催される木之本地藏大菩薩の縁日にあわせて、門前の北国街道及び地藏坂でふるさと夏まつり「地蔵縁日」を継続的に開催する。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (3)~③	
8-10	木之本宿まちなか再生事業 木之本宿の空き家や空き店舗の利活用の実施調査や利活用のコンサルティング、移住相談窓口、古民家見学ツアー等に取り組む。	市費等		◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (3)~④	
8-11	北国街道木之本宿にぎわい創出事業 北国街道沿いできのもと宿街道まつりや登録有形文化財のきのもと交遊館で企画展示、意富布良神社で夕涼み横丁等に取り組む。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (3)~⑤	
8-12	観音の里ふるさとまつり開催事業 高月地域を中心に観音堂等が拝観できる観音の里ふるさとまつりを継続的に実施する。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							○ 番号 (3)~⑥	
9-1	長浜城歴史博物館 歴史・文化展示魅力増進事業 タブレットを用いた展示解説やARの導入、収蔵資料のデジタルアーカイブ化、ユニークベニュー、多言語化等を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号 1~①	
9-2	曳山博物館 歴史・文化展示魅力増進事業 タブレットを用いた展示解説、映像展示の更新、収蔵資料のデジタルアーカイブ化、伝統芸能・工芸の体験等を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号 1~②	
9-3	鉄道スクエア 歴史・文化展示魅力増進事業 展示リニューアル、VR 技術の導入、体験型展示等を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号 1~③	
9-4	来訪者の利便性向上に向けた人材の増員 曳山博物館における学芸員増員・鉄道スクエアにおいて職員配置を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号 1~④	
9-5	地域通訳案内士養成事業 地域通訳案内士の育成を行い、ガイド人材に幅広い層の参入を図る。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号 1~⑤	
9-6	「長浜城下町遺跡」選定事業 近世城下町として伝承するため「長浜城下町遺産」を選定する制度を創設する。	市費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号 1~⑥	
9-7	二次交通対策事業 令和 3 年度に実施 電動アシスト自転車の整備を図る。	県費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号 2~①	
9-8	二次交通対策実証実験事業 令和 3~4 年度実施 二次交通の利用者頻度、動向を検証する実証実験を行う。	市費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号 2~②	
9-9	文化観光×フィールドワークアシスト 食事や文化性等、満足度の高い体験の中で文化的資源に触れるフィールドワークを提供する。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号 2~③	
9-10	体験型観光推進事業 秀吉や戦国にゆかりがある体験観光を造成し、販売・プロモーション等の事業を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号 3~①	
9-11	文化観光施設周遊事業	国費		◎			◎	新規							○	

	浪漫バスポート事業で周遊促進につなげる。	民間等														番号 3-②
9-12	中心市街地連携事業 長浜城歴史博物館とまちなかを繋ぐイベントを開催する。	国費 市費等		◎			◎	新規								○ 番号 3-③
9-13	物販商品開発事業 地元の業者と連携した土産品の開発を行う。	国費 民間等		◎			◎	新規								○ 番号 3-④
9-14	文化観光周遊ツアー事業 長浜の魅力を感じてできるテーマを設定し、周遊ツアーを実施する。	国費 民間等		◎			◎	新規								○ 番号 3-⑤
9-15	食文化の推進 長浜市ならではの食文化を体験し、旅の思い出を深化し、ファン層の拡大を狙う。	市費 民間等		◎			◎	新規								○ 番号 3-⑥
9-16	長浜市魅力動画作成・配信事業 戦国・秀吉を起点とする歴史と文化のストーリー等の動画を作成し、プロモーションや教育現場で活用する。	国費 市費 民間等		◎			◎	新規								○ 番号 4-①
9-17	デジタルマーケティング魅力発信事業 長浜の観光ポータルサイトで日本語と多言語の情報発信を行う。	国費 市費 民間等		◎			◎	新規								○ 番号 4-②
9-18	長浜文化資源映像化事業 長浜曳山祭を軸に据えた映画の公開に先立ってキャンペーンを行い、長浜曳山祭等祭礼行事の知名度向上、イメージの構築を狙う。	国費 民間等		◎			◎	新規								○ 番号 4-③
9-19	広域連携事業 びわ湖・近江路観光圏活性化協議会等でプロモーションを行う。	県費 市費等		◎			◎	新規								○ 番号 4-④
9-20	バリアフリー事業 令和3年度 長浜城歴史博物館のトイレ整備を行う。	国費 市費等		◎			◎	新規								○ 番号 5-①
9-21	非接触推進事業 コロナ禍において、手で触れる機会を低減するために、施設内の改修等に取り組む。	国費 市費等		◎			◎	新規								○ 番号 5-②

方針④【資金メニューを揃える】

歴史文化資産の修理のための資金の共助方法を探り、その手引書を作成する等、保存・活用が行いやすい環境づくりを行う。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
10	歴史文化資産修理のための資金調達支援 企業版ふるさと納税やクラウドファンディング等を推進するとともに、歴史文化資産の修理に関する資金調達等手引書を作成し、様々な方法による資金調度を推進する。	国費 県費 市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	新規					

方針⑤【保存・活用施設の役割を高める】

博物館施設の再編を行い、収蔵庫の整理や増設を進め、歴史文化資産を次世代へ引き継ぐ。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
11	博物館等における魅力ある展示 博物館等の展示に先端技術（AR等）を導入し、博物館等の魅力を向上させる。（※9-1～3と連動する）	国費 県費 市費等		◎	◎	◎	◎	継続					
12	博物館等施設の再編 博物館等施設の再編を行い、各施設の色を出せる。	市費等		○	○	◎	◎	新規					
13	博物館等収蔵庫の容量確保 歴史文化資産を守るため、保存活用施設の役割を高め、博物館等の収蔵庫を増設し、既存収蔵庫の整理を行う。	市費等		○		○	◎	新規					
14	「（仮称）長浜市歴史資料センター」の機能整備 歴史資料の散逸を防ぐため、長浜市や民間が所有する歴史文化資産（市の廃棄文書を歴史資料としたものを含む）を収集・調査する「（仮称）長浜市歴史資料センター」の機能を整備する。	市費等		○		○	◎	新規					

方針⑥【人材育成と技術者の養成】

歴史文化資産を受け継ぐ人材の啓発・育成を進める。歴史文化資産の継続的な保存修理を進め、技術者の養成や技術の伝承を図る。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
15-1	歴史文化資産の保存・活用（普及・維持管理） 地域づくり協議会や学校等様々な団体において、歴史文化資産の保存・活用を進める。 また、歴史文化資産や施設等の維持管理を行い、保守点検や飛塵防止等保存管理を進める。	国費 県費 市費 民間	○	◎	◎		◎	継続					
15-2	歴史文化資産の保存・活用（出前講座） 学校や各種団体等へ歴史文化資産を紹介する出前講座を実施する。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続					
16-1	建造物の保存・活用（保存修理の支援） 補助金等により建造物の保存修理事業を支援する。 （西徳寺本堂屋根葺替・大通寺等）	国費 県費 市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続					
16-2	建造物の保存・活用（保存修理） 西徳寺・大通寺等歴史文化資産を保存・活用するため保存修理を行う。	国費 県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続					
17-1	民俗文化財の保存・活用（保存伝承支援） 民俗文化財の重要性の認識と保存伝承を進めるため、祭礼公開や後継者育成を支援する。 （長浜曳山祭行事保存伝承事業、富田人形保存伝承事業、下余呉太鼓踊り伝承事業、速水伊豆神社八朔大祭保存伝承等）	市費等	○	○	◎	○	◎	継続					
17-2	民俗文化財の保存・活用（事業支援） 民俗文化財を保存・活用するため、補助金等による事業支援を行う。	国費 県費 市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続					
17-3	民俗文化財の保存・活用（長浜曳山祭等の保存修理） 長浜曳山祭の山蔵や曳山、懸装品等曳山関連及び民俗文化財の保存修理を行う。	国費 県費 市費 民間		◎	◎	◎	◎	継続					

方針⑦【歴史文化資産の情報のデジタルアーカイブ化を進める】

普及や周知に関する取組や、デジタルアーカイブ化を進め、ホームページの充実等を行い、歴史文化資産の情報発信と活用に努める。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
18-1	ホームページの充実・情報発信 ホームページを充実するとともに、情報発信の充実を行い、歴史文化資産の情報を共有化する。（観音文化・竹生島・菅浦等）	市費 民間等		◎	◎	○	◎	継続					
18-2	歴史文化資産の保存・活用（看板等の作成） 歴史文化資産の解説を行う看板類を作成する。 さらに、ガイドマップや解説書等を作成し、歴史文化資産の活用を図る。（古墳・近代化遺産等）	国費 県費 市費 民間等	○	◎	◎	◎	◎	継続					
19	図書・写真整理 歴史文化資産の保存・活用を図るため、図書や写真整理を進める。フィルム写真はデジタル化を進める。	市費等		○	○	○	◎	新規					
20	コロナ等感染症対策 広報や運用等により所有者や保存団体に感染拡大防止対策を促す。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	新規					

第8章 歴史文化資産の一体的・総合的な保存と活用

長浜市の歴史文化資産を一体的・総合的に保存し活用するために、歴史文化資産を共通のテーマごとに括った「関連文化財群」と、様々な歴史文化資産が集中している地域ごとに括った「歴史文化保存活用区域」を設ける。そして、それぞれの関連性や地域性をもとにストーリーを設定し、新たな価値を見出すことによって歴史文化資産の活用を促すとともに、歴史文化資産を一体のものとして保存していく。

事業実施にあたっては、市費・県費の他、文化庁の各種補助金や内閣府の地方創生推進交付金、その他民間等の資金を積極的に活用していく。

1 関連文化財群

(1) 関連文化財群を設定する目的

歴史文化資産を核とした「地域づくり」と「人材育成」を進めるために、歴史文化資産の総合的な保存・活用の枠組として関連文化財群（ジャンル）を設定する。

関連文化財群は、歴史文化資産を総合的に保存・活用するための枠組みや、個々の歴史文化資産だけでは理解しにくい新たな価値を発見するために、市内に存在する多種多様な歴史文化資産をグループ化するための関連性を与えたものである。

設定した関連文化財群は、多様で豊かな自然をより所としながら、今日まで継承されている歴史文化資産の中から、長浜らしい個性を伸ばし得るものである。いずれも地域づくりや観光振興の核として新たな価値を見出すことが可能で、かつ将来にわたって継承していくことができるものである。

そして、関連文化財群を設定することは、第6章で示した歴史文化資産の保存・活用の循環に必要な①地域における歴史文化資産を把握する②歴史文化資産についての情報を発信する③長浜市の歴史文化資産の価値が内外から評価され市民の誇りとなる④保存伝承のための「人」・「もの」・「資金」を確保することに対して大きく資することを意図している。

(2) 関連文化財群の設定の考え方

関連文化財群とは、多種多様な歴史文化資産を歴史的、テーマ的関連性に基づき一定のまとまりとして捉えたものである。関連文化財群を設定するにあたっては、以下の点を基準とする。

- ア) 関連文化財群の構成要素となるそれぞれの歴史文化資産に歴史的、テーマ的関連性があり、一連のストーリーの中で保存・活用に結び付けることができること。
- イ) 関連文化財群を構成する歴史文化資産の中に指定等文化財を含むこと。

(3) 関連文化財群およびその保存・活用計画

ジャンル① 古代の王と古墳文化

古墳時代までの古代の長浜は息長氏^{おきなが}等多くの王が、地域ごとにその権勢を誇った。その王たちの力を今に伝えるのが古墳である。国指定史跡の古保利古墳群や、滋賀県指定史跡の茶臼山古墳・垣籠古墳^{かいかごめ}を含む横山古墳群等は、古代長浜の政治状況を今に伝える魅力的な歴史文化資産である。

長浜市の北部に勢力を持っていた豪族として伊香氏が知られ、付近に分布する大規模な古墳群として古保利古墳群が挙げられる。古保利古墳群は、山本山を南限とする尾根上に132基の古墳（前方後円墳・前方後方墳・方墳・円墳）が築かれている古墳群である。群中には内行花文鏡^{ないこうかもんきょう}等の舶載鏡が出土した小松古墳（前方後方墳）や全長35.5mの西野山古墳（前方後円墳）等様々な古墳が築かれている。また、琵琶湖からしか望むことができない深谷古墳等の存在より、湖上交通を掌握した王の墓であったと考えられる。

山本山の南には、前方後円墳である若宮山古墳が築かれ、高月町東柳野の平地には県内最大の前方後方墳である姫塚古墳が築かれる。大依山^{おおよりやま}の尾根上には乗倉古墳^{のせくら}が築かれ、形状は前方後円墳で付近には円墳10基が築かれる。

市内南部に勢力を持っていた豪族としては坂田氏が挙げられ、付近に分布する大規模な古墳群として横山古墳群が挙げられる。横山古墳群は、米原市と長浜市の市境に位置する横山丘陵に築かれた古墳群で、前方後円墳や前方後方墳からなっている。丘陵先端^{たつがはな}の龍ヶ鼻には市内最大の前方後円墳である茶臼山古墳（全長100m）が築かれる。また、市域の南部に位置する布勢町には出土遺物が長浜市指定有形文化財に指定されている布勢古墳が存在する。

このように、市内には各地に前方後円墳等の古墳が築かれており、平野や湖上を掌握した王の姿を今も知ることができる。



古保利古墳群

■ジャンル① 古代の王と古墳文化 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	塩津丸山古墳群	遺跡	県指定	西浅井	西浅井町塩津浜
2	古保利古墳群	遺跡	国指定	高月	高月町西野他
3	姫塚古墳	遺跡	県指定	高月	高月町東柳野
4	松尾宮山古墳群	遺跡	県指定	高月	高月町松尾
5	横山神社古墳	遺跡	県指定	高月	高月町横山
6	若宮山古墳	遺跡	県指定	湖北	湖北町山本
7	乗倉古墳	遺跡	未指定	浅井	乗倉町
8	大人塚古墳	遺跡	市指定	浅井	木尾町
9	城山古墳群	遺跡	市指定	浅井	木尾町
10	岡の越古墳	遺跡	市指定	浅井	八島町
11	亀塚古墳	遺跡	市指定	浅井	八島町
12	雲雀山古墳群	遺跡	市指定	浅井	山ノ前町
13	布勢古墳出土品	考古資料	市指定	西黒田	布勢町
14	茶臼山古墳	遺跡	県指定	北郷里	東上坂町
15	横山古墳群	遺跡	未指定	北郷里	東上坂町他
16	垣籠古墳	遺跡	県指定	北郷里	垣籠町

ア) 課題

「古代の王と古墳文化」を構成する歴史文化資産の数に対して保存活用団体が少なく、行政による保存活用団体への支援も行き届いていない。

そして、調査が進んでいない他、保存活用計画や整備基本計画の作成ができておらず、保存・活用が図られていない。

環境整備では、歴史文化資産を紹介する看板等が少ない上に統一性がなく、登山道や便所・駐車場といった訪れやすい環境の整備が進んでいない。

普及においては、ガイドマップ等の歴史文化資産を紹介する普及活動が進んでいない。

イ) 方針

各古墳や古墳群ごとに市民が保存活用団体を設立し、古墳を保存・活用する団体を行政が支援する体制の整備を進める。

そして、個別の古墳についての総合的な調査を行い、古保利古墳群は保存活用計画や整備基本計画といった計画の作成を進め、保存・活用を図る。

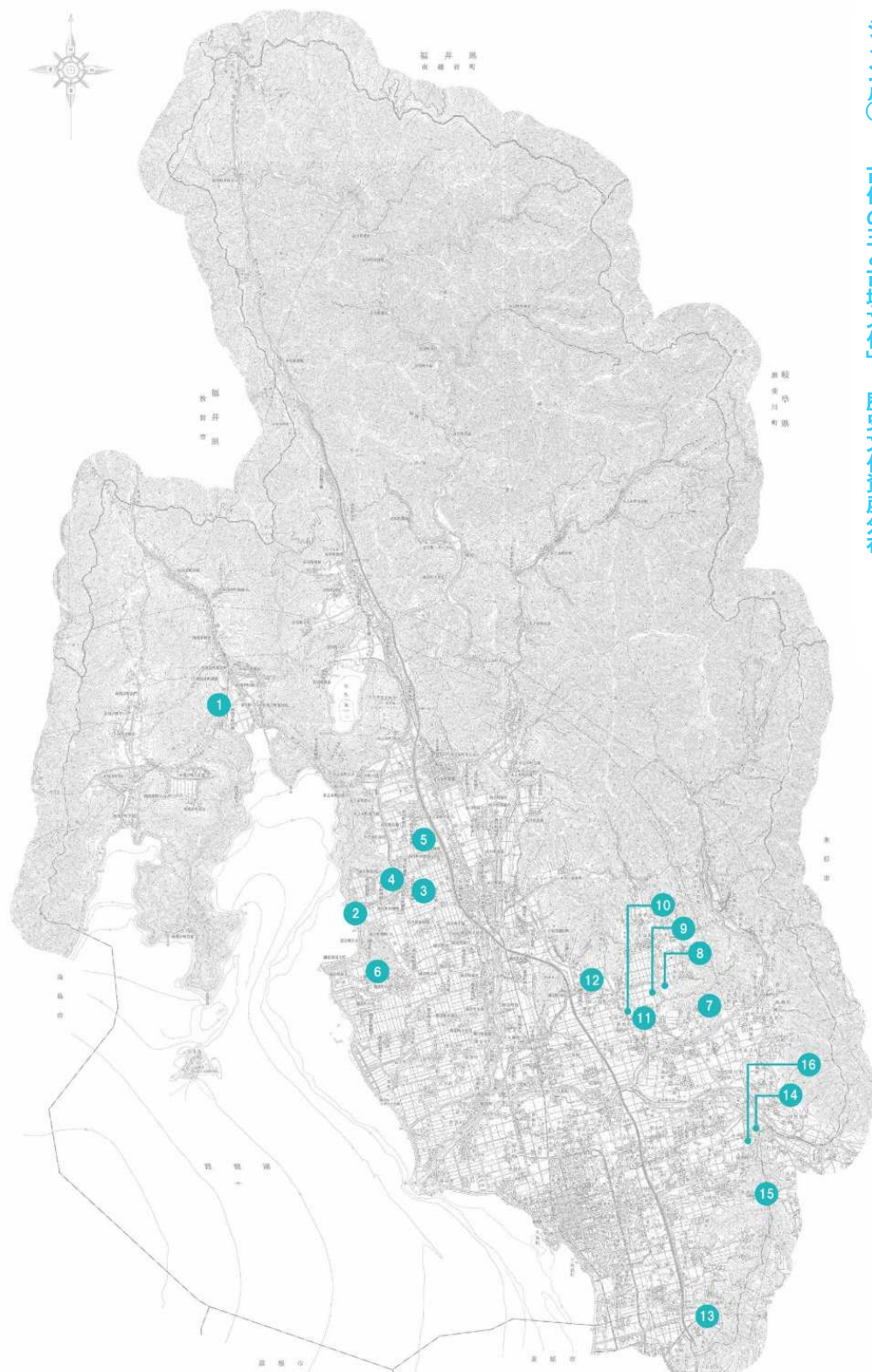
環境整備では、看板等の充実や統一、便所・駐車場・古墳見学ルートの整備等、歴史文化資産をわかりやすく紹介し、容易にアクセスできるようにする。

普及においては、ガイドマップやガイドブックの作成、講座・展示・里山トレッキングの開催といった普及活動を進める。

ウ) 措置

課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
21	<u>古代の王と古墳文化に関する保存活用団体の設立促進</u> 歴史文化資産を後世に継承するため、保存活用団体がすでに設立されている場合は充実に回り、設立されていない場合は、その創設を促し、保存・活用の体制を確立していく。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	新規					



ジャンル①

古代の王と古墳文化

歴史文化資産分布

ジャンル② 小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡

長浜の地は、戦国大名浅井氏が統治を行ったので、関連する城郭・城館が多く伝存する。その居城である小谷城、重要な支城であった横山城・山本山城等はその遺構が良好に残っている。また、下坂氏館や三田村氏館等、家臣の城館跡が保存されていることも特徴である。姉川古戦場や、浅井氏を攻撃した織田信長の砦である^{とらごぜんやま}虎御前山城を含めれば、本市は全国的に注目される戦国史の絵舞台といえる。

小谷城跡の周辺には、浅井氏に関連した遺跡が多く残っている。元亀元年（1570）から天正元年（1573）にかけて、織田信長との戦いのなかで、小谷城跡をはじめ姉川等北近江は戦乱の場となった。

元亀争乱における主な戦場は小谷城で、そこは浅井氏の居城であった。小谷城は、浅井家の生活の場でもあり、城下町には家臣たちも住んでいたとされる屋敷跡等も確認ができる。山上には「本丸」・「広間」等の城郭主要部があり、麓の「^{きよみずだに}清水谷」には当主屋敷や家臣屋敷があった。さらに、城下町の発掘調査の結果からは、浅井氏時代のものが多く出土している。

小谷城の支城としては、小谷城の西側にある北国脇往還を挟んだ岡山の山頂付近に^{のやま}丁野山城、その岡山の尾根続きには中島城がある。元亀3年（1572）に織田信長が、小谷城最奥の大嶽を攻めた時、^{おおつく}丁野山城には浅井氏の応援に来ていた越前朝倉氏軍の^{へいせんじぎよくせんぼう}平泉寺玉泉坊が立て籠もっており、大嶽同様に織田軍に攻められている。

虎御前山城は、織田信長が浅井長政との戦いで陣を敷いており、羽柴秀吉、柴田勝家等信長の部将が布陣した城である。また、その西側に見える山本山城は、信長による小谷城攻撃の最終段階において、守備していた^{あつじさだゆき}阿閉貞征が織田軍に寝返り、湖北における元亀争乱の終結をもたらした重要な城郭である。また、長政とその夫人・市の子である浅井三姉妹の城外脱出経路沿いにある浅井氏侍女の墓や、^{じっさいいん}実宰院も史跡として注目できる。

元亀争乱の戦いは姉川周辺も舞台となるが、この合戦の端緒となった横山城がある。近くにある平地城館である上坂氏の居館が、姉川南岸にあった^{こうざか}上坂城で、上坂氏は横山城にも籠城したと伝える。横山城跡の周辺には、龍ヶ鼻古墳群・茶臼山古墳等があり、これらは元亀争乱時に陣城として利用され、織田軍の陣地となっていたと推定される。大依山は、姉川合戦の前に浅井・朝倉軍が陣を置いた場所であり、その南側にある平野部には、平地居館の三田村城館跡があり、姉川合戦の際には朝倉軍の陣となった。姉川合戦は、北岸の野村町・三田町に浅井・朝倉連合軍、南岸の東上坂町には織田・徳川連合軍が陣を敷いた。

浅井氏は湖北地方の各集落を領地としていた



小谷城 黒金御門跡

土豪たちを家臣として従えていた。その一人が、坂田郡下坂中村に居を構えた下坂氏であった。下坂氏の居館である下坂氏館跡の遺構は現在も良好に留められており、近江国を代表する城館遺構といえる。湖北地方の多くの平地城館が消滅した中で、下坂氏館跡の他に先述した三田村氏館跡、垣見氏館跡、小山館跡、東野館跡・上坂城跡等は浅井氏家臣団の屋敷を今に伝える北近江城館跡群として、貴重な遺構といえる。



小谷城跡清水谷発掘現地説明会（2018年）

浅井氏時代から鉄砲生産を行い、「鉄砲の里」と呼ばれる国友村も戦国の歴史文化資産といえる。

■ジャンル② 小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	小山館跡	遺跡	未指定	木之本	木之本町小山
2	小谷城跡	遺跡	国指定	湖北	小谷郡上町等
3	伊部宿・郡上宿	遺跡	未指定	湖北	湖北町伊部等
4	丁野山城	遺跡	未指定	湖北	小谷丁野町
5	中島城	遺跡	未指定	湖北	小谷丁野町
6	山本山城	遺跡	未指定	湖北	湖北町山本
7	虎御前山城	遺跡	市指定	虎姫	中野町
8	実宰院	名勝地	市指定	浅井	平塚町
9	こじき坂・浅井氏侍女の墓	遺跡	未指定	浅井	北野町
10	大依山	遺跡	未指定	浅井	大依町
11	姉川古戦場跡	遺跡	市指定	浅井	野村町・三田町
12	三田村氏館跡	遺跡	国指定	浅井	三田町
13	東野館跡	遺跡	未指定	浅井	東野町
14	遠藤直経の墓	遺跡	未指定	北郷里	東上坂町
15	岡山（勝山）	遺跡	未指定	北郷里	東上坂町
16	龍ヶ鼻陣所	遺跡	未指定	北郷里	東上坂町
17	上坂城跡	遺跡	未指定	北郷里	西上坂町
18	石田三成出生地	遺跡	未指定	北郷里	石田町
19	横山城	遺跡	未指定	北郷里	石田町他
20	小堀遠州出生地（小堀氏館跡）	遺跡	市指定	南郷里	小堀町
21	垣見氏館跡	遺跡	市指定	南郷里	宮司町
22	国友鉄砲の里	遺跡	未指定	神照	国友町
23	下坂氏館跡	遺跡	国指定	六荘	下坂中町
24	さいかち浜古戦場	遺跡	未指定	六荘	下坂浜町

ア）課題

市内には多くの城郭・城館跡が分布するが、史跡指定が一部でしか進んでいない。指定された歴史文化資産については、保存活用計画や整備基本計画の作成まで至っていない。

史跡に指定されている小谷城跡においては、整備や調査、普及活動が充実していない。また、小谷城跡を拠点として北近江の戦国史に関連する歴史文化資産を繋ぐ形で案内できる体制が整っていない。

イ) 方針

横山城跡等、指定されていない多くの歴史文化資産については、保護の措置を図るため価値付けを進める。北近江城館跡群等、指定されているが保存活用計画や整備基本計画が作成されていない歴史文化資産については計画の作成を進める。

そして、計画が作成されている小谷城跡については、保存活用計画や整備基本計画に基づく管理・運営を行い、整備を進め、さらに各種調査を実施する。あわせて普及啓発の充実のため、小谷城跡や戦国時代を学び体感できる（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムを設置する。

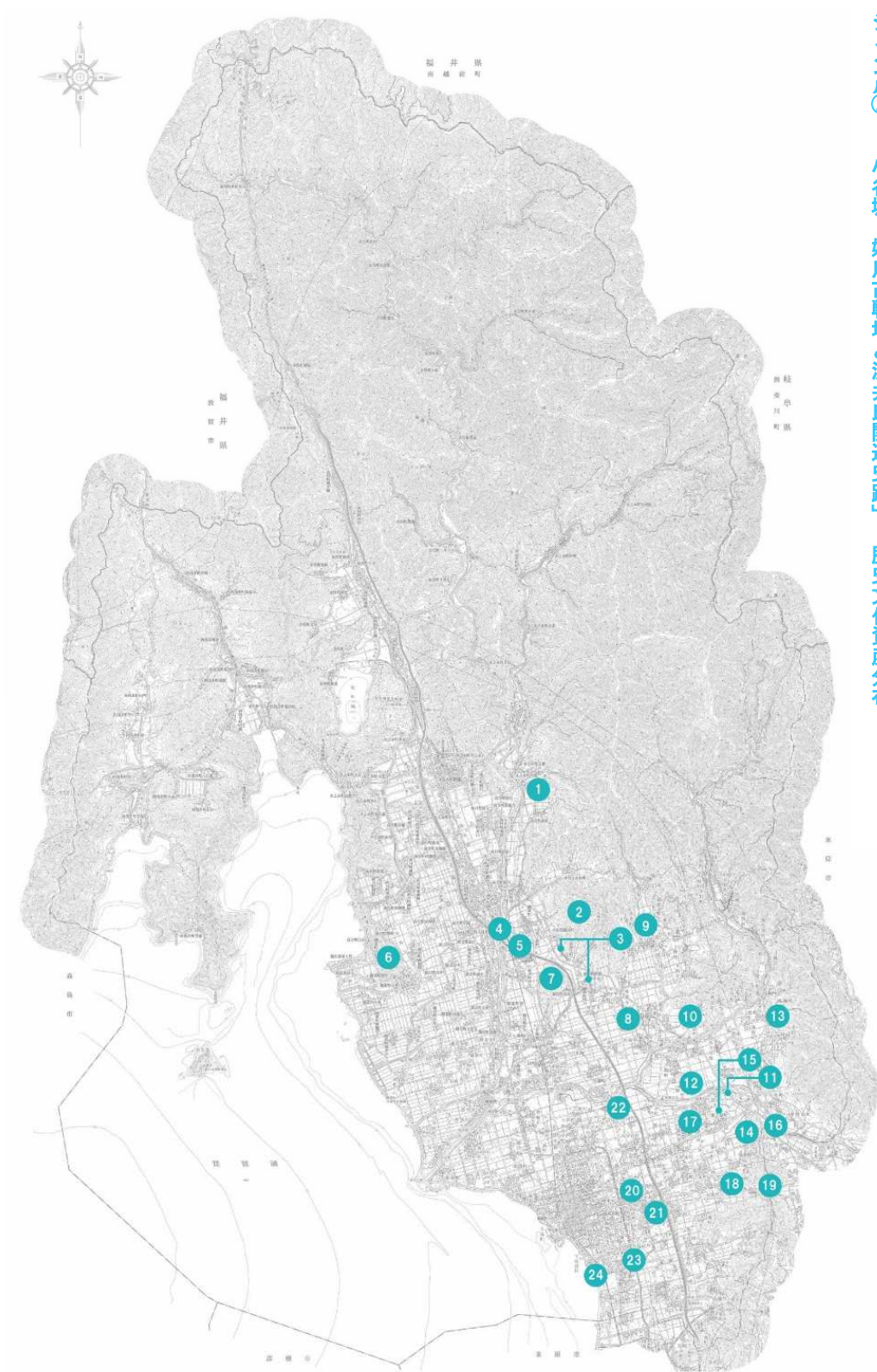
ウ) 措置

課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
22	元亀争乱関連遺跡の連携 小谷城跡を拠点として、元亀争乱関連遺跡に関する所有者・各種団体間で連携を図れる体制を整え、歴史文化資産の活用を進める。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	新規					
23	小谷城跡の調査・整備 発掘調査・測量調査等を実施し、整備計画に基づき整備を進める。	国費 市費等	○	◎	◎	◎	◎	継続					
24	北近江城館跡群の保存活用計画の作成 北近江城館跡群（下坂氏館跡等）の保存活用計画の作成を進める。	国費 市費等	△	◎	◎	◎	◎	新規					
25	（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムの設置 「小谷城・姉川古戦場と元亀争乱遺跡」の歴史文化を紹介・体験できる（仮称）小谷城戦国ミュージアムの設置を行う。	市費 民間等		○	○	○	◎	新規					
26	小谷城跡の保存・活用 小谷城跡を継承するため、歴史文化資産の管理や公開といった保存・活用を進める。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続					
27	北近江城館跡群 下坂氏館跡の保存・活用 下坂氏館跡を継承するため、歴史文化資産の管理や公開といった保存・活用を進める。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続					

ジャンル②

小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡」 歴史文化資産分布



ジャンル③ 多彩なる民俗芸能・民俗行事

長浜曳山祭は、ユネスコの無形文化遺産に登録されており、日本の山・鉾・屋台行事を代表する都市祭礼である。さらに、農村部には同じ曳山行事として上丹生の曳山茶碗祭があり、雨乞い踊りとして始まった太鼓踊りが広く分布する。この都市と農村の祭りが各地域において重層するなか、それぞれが各地域における地域共同体の核として機能することで、湖北地方の一体性が保たれてきた。

長浜市域を含めた湖北は、民俗芸能・行事の宝庫である。それらは古来地域の人びとの暮らしと深く関わりながら展開してきた。

長浜曳山祭は、湖北の春を彩る最大の祭礼行事であり、曳山の巡行や子ども歌舞伎の上演等は、長浜町民文化の精華というにふさわしい。

湖北地方に伝えられている太鼓踊りは、祈雨の礼として踊られる返礼踊りである。中河内・川合・金居原・下余呉・八日市・当目の太鼓踊り、鍛冶屋の太閤踊りや集福寺のちゃんちゃこ踊り等、県内で確認できる太鼓踊りのうち、およそ6割がこの湖北地方に分布している。毎年8月15日、長濱八幡宮の放生池で演じられている「永久寺の蛇の舞」も、雨乞い習俗を背景としたもので、県下では例のない貴重な民俗芸能と言える。

富田町に伝承された富田人形は、県内唯一の人形浄瑠璃で、県選択無形民俗文化財となっており、上丹生で行われる春の曳山祭礼「上丹生の曳山茶碗祭」は、山車に人形と陶器が高く積み上げられていく所から「近江（湖国）の奇祭」と言われている。地域の伝統芸能や祭礼が、人びとによって大切に守られ、今に伝えられているのである。



上丹生の曳山茶碗祭

その他、湖北各地で行われているオコナイや春秋の祭礼（神輿渡御・燈明祭等）、村々における野神・巨木信仰や地藏信仰（地藏盆）等も、市民の信仰を表わすものとして重要である。大通寺の夏中法要や、各寺院で行われている報恩講や「回り仏」等を代表とする仏教行事等も、市民の生活と一体化したものであり、守るべき民俗行事といえる。その場に出される郷土食も、貴重な無形の歴史文化資産である。

■ジャンル③ 多彩なる民俗芸能・民俗行事 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	集福寺ちゃんちゃこ踊 附 奴振	無形民俗	県選択	西浅井	西浅井町集福寺
2	須賀神社例祭（須賀の祭）	無形民俗	市指定	西浅井	西浅井町菅浦

3	上丹生の曳山茶碗祭	無形民俗	県指定	余呉	余呉町上丹生
4	上丹生茶碗祭の曳山	有形民俗	未指定	余呉	余呉町上丹生
5	中河内の太鼓踊 附奴振	無形民俗	県指定	余呉	余呉町中河内、休止
6	下余呉の太鼓踊り	無形民俗	県選択	余呉	余呉町下余呉
7	川合の太鼓踊り	無形民俗	県選択	木之本	木之本町川合、休止
8	金居原の太鼓踊り	無形民俗	県選択	木之本	木之本町金居原
9	延勝寺の太鼓踊り	無形民俗	県選択	湖北	湖北町延勝寺、休止
10	八日市の太鼓踊	無形民俗	県選択	湖北	湖北町八日市
11	速水伊豆神社八朔大祭幡母衣 武者行列・青物神輿	無形民俗	市指定	湖北	湖北町速水
12	元三大師お水取り行事	無形民俗	市指定	虎姫	三川町、休止
13	常盤山	有形民俗	市指定	虎姫	五村
14	富田人形	無形民俗	県選択	びわ	富田町
15	富田人形の首・衣裳	有形民俗	未指定	びわ	富田町
16	当目の雨乞い太鼓踊り	無形民俗	未指定	浅井	当目町
17	鍛冶屋の太閤踊り	無形民俗	未指定	浅井	鍛冶屋町
18	七条の春祭り	無形民俗	市指定	南郷里	七条町
19	宮川祭の曳山	有形民俗	市指定	南郷里	宮司町
20	永久寺の蛇の舞	無形民俗	県選択	六荘	永久寺町
21	永久寺蛇の舞の蛇	有形民俗	未指定	六荘	永久寺町
22	長浜曳山祭の曳山行事	無形民俗	国指定	長浜	元浜町等
23	長浜祭鳳凰山飾毛綴 附鍍金 飾金具 売上文書	工芸品	国指定	長浜	元浜町
24	長浜祭翁山飾毛綴 附鍍金飾 金具	工芸品	国指定	長浜	元浜町
25	長浜曳山祭の山車 附山蔵	有形民俗	県指定	長浜	元浜町等
26	長浜曳山祭翁山飾毛綴	工芸品	市指定	長浜	元浜町
27	焼鯖そうめん	無形民俗	未指定	長浜	
28	オコナイ（年頭行事）	無形民俗	未指定	全域	
29	村の春祭・秋祭	無形民俗	未指定	全域	
30	野神・巨木信仰	無形民俗	未指定	全域	
31	地藏信仰（地藏盆）	無形民俗	未指定	全域	
32	湖魚のなれずし（鮒鮓等）	無形民俗	県選択	全域	
33	オコナイに伴う郷土食	無形民俗	未指定	全域	
34	お講汁	無形民俗	未指定	全域	
35	太鼓踊りの衣裳・道具類	有形民俗	未指定	全域	

ア) 課題

年中行事等の伝統行事の調査が進んでいないため、実態が把握できていない。

伝統芸能を公開する機会や活動する場が無いため、普及啓発が進んでいない。

そして、地元団体との連携が図られていない他、人口減少や考え方の多様化により伝統行事が催行の危機にあり、保存・継承が困難になってきている。

イ) 方針

「長浜市無形民俗文化財保存活用協議会」を通しての保存・活用事業を推進し、「上丹生の曳山茶碗祭」といった調査が行われていない歴史文化資産は順次調査・記録保存を実施する。

普及啓発においては、「長浜市地域伝統芸能大会」や博物館・資料館事業を通して進める。さらに、地元団体と連携して伝統芸能や民俗行事をまちづくりの核に位置づけ、保

存・継承を図る。

ウ) 措置

課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
28	民俗文化財（上丹生の曳山茶碗祭）の総合的な調査 上丹生の曳山茶碗祭が再興される時期にあわせて調査を行い、現状把握を行う。	国費 市費等		◎		◎	○	新規					
29	長浜市地域伝統芸能大会の開催 長浜市地域伝統芸能大会を開催し、民俗芸能の発表の場を設けるとともに、歴史文化資産の普及を図る。	国費 市費 民間等		◎	◎		○	継続					
30	民俗文化財の保存・活用（長浜市無形民俗文化財保存協議会） 長浜市無形民俗文化財保存活用協議会の事業を充実させ、民俗文化財の保存・活用を進める。	民間等		◎	◎	◎	◎	継続					

歷史文化資產分布



ジャンル④ 近世文化の輝き

長浜は江戸時代に多くの文化人を輩出した。雨森芳洲は朝鮮通信使に随行し、当時の日本外交をリードした。国友一貫斎は、当時最高水準の科学技術力で、数々の発明考案品を世に送り出した。長浜曳山祭の曳山を創造した大工・藤岡和泉等、江戸時代の長浜の文化は、この他にも美術や文学の世界でも輝きを放っている。これらの人物の顕彰は、現在の市内各地域における地域づくりの素材として、活用されるべきである。

雨森村（長浜市高月町雨森）出身と伝える雨森芳洲（1668～1755）は、江戸時代中期、対馬藩（現・長崎県対馬市）に仕えた儒学者である。日本語の他、朝鮮語・中国語も操り、異彩を放った。藩の教育面の他、朝鮮外交等にあたった。朝鮮通信使来日の際にはその随行儒者として、正徳元年（1711）の第8次と、享保3年（1718）の第9次の通信使に同行し活躍した。

雨森芳洲関係資料は、芳洲の子孫に伝わったもので250件におよび、86件は国の重要文化財に指定されている。この雨森芳洲関係資料36点を含む、日韓両国にまたがる「朝鮮通信使に関する記録」333点は、平成29年（2017）10月にユネスコ「世界の記憶」に登録された。このうち雨森芳洲関係資料36点は、高月観音の里歴史民俗資料館に収蔵され、展示されている。

長浜曳山祭は長濱八幡宮（長浜市宮前町）の春の例祭で、毎年4月15日を本日として開催される。四畳半舞台を備えた絢爛豪華な曳山の上で、可憐な子ども歌舞伎を演じることが最大の特色である。現在残る13基の曳山は18世紀半ばから19世紀前半に建造されたもので、その作者は長浜町の大工であった藤岡和泉であった。仏壇師として頭角を現した藤岡和泉家は、数代に渡って長浜の曳山を建造し、全国的に見ても独特な舞台付きの芸山^{げいやま}の形状を完成させた。

この「藤岡山」とまで言える山が曳き出される長浜曳山祭は、行事が国指定重要無形民俗文化財、曳山と山蔵が滋賀県指定有形民俗文化財に指定され、平成28年（2018）11月には国内の他の32ヶ所の山車行事とともに「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。

大通寺は、東本願寺の連枝寺院^{れんし}で、湖北・長浜の真宗文化を象徴する寺院である。そこは、長浜町の人びとが集う場所でもあった。重要文化財の本堂・広間をはじめ、「近世文化の輝き」を如実に示す襖絵群と、優美な名勝庭園で飾られる。特に、江戸時代中期の第5代住職横超院^{おうちやういん}は、約50年にわたり住職を務め、書画を能くしたその芸術性は長浜の文化を引き上げた。



大通寺山門

この他、芸術や文化の面でも多くの偉人が登場する。江戸幕府の官僚として、多くの城郭や庭園等を造営した小堀遠州こぼりえんしゅうに関する遺産や、江戸時代後期の科学技術者として知られ、日本で初めて反射望遠鏡を製造した国友一貫斎に関わる遺産等、近世においてこの地域の芸術文化を主導した人びとに関する遺産が市内には展開する。



雨森芳洲関係資料「世界の記憶」

登録祝賀会（平成 29 年）

さらに、養蚕製糸に関する著作がある成田思斎なりたしさい、幕末の勤皇の志士として著名な江馬天江えまたんこう、板倉槐堂いたくらかいどう、小野湖山おのこざんに関する歴史文化資産も注目される。これらの人物や建造物は、長浜の近世文化の高度な発展を示している。

■ジャンル④ 近世文化の輝き 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	分類	指定	地域	所在地
1	雨森芳洲関係資料	歴史資料	国指定	高月	高月町雨森
2	雨森集落	遺跡	未指定	高月	高月町雨森
3	小堀遠州出生地	遺跡	市指定	南郷里	小堀町
4	反射望遠鏡 一貫斎製作	歴史資料	市指定	神照	国友町
5	国友一貫斎文書	書跡	市指定	神照	国友町
6	国友一貫斎顕彰碑	建造物	未指定	神照	国友町
7	国友一貫斎生家	建造物	未指定	神照	国友町
8	成田思斎顕彰碑	建造物	未指定	神照	相撲町
9	下坂氏館跡（江馬天江・板倉槐堂関係）	遺跡	国指定	六荘	下坂中町
10	長浜曳山祭の曳山行事	無形民俗	国指定	長浜	元浜町等
11	長浜曳山祭の山車 附山蔵	有形民俗	県指定	長浜	元浜町等
12	藤岡和泉家大工資料	歴史資料	未指定	長浜	元浜町
13	大通寺本堂・広間	建造物	国指定	長浜	元浜町
14	大通寺新御座等	建造物	市指定	長浜	元浜町
15	大通寺含山軒等	名勝地	国指定	長浜	元浜町
16	反射望遠鏡 一貫斎製作	歴史資料	市指定	長浜	公園町

ア) 課題

近世文化の輝きを構成する歴史文化資産の保存活用団体への支援が行き届いていない。

そして、各種歴史文化資産の調査や研究が進んでいない。

長浜曳山祭は、普及の範囲に限られ、次世代への継承が危ぶまれている。また、保存活用計画も作成されていない。

イ) 方針

雨森芳洲や国友一貫斎等長浜ゆかりの文化人については、顕彰会、研究団体といった保存活用団体を支援し、保存活用団体がない場合は設立を促し、その歴史文化資産を調査・研究し保存・活用する体制を作る。

長浜曳山祭については、公益財団法人長浜曳山文化協会や長浜曳山祭しやぎり囃子保存会の事業

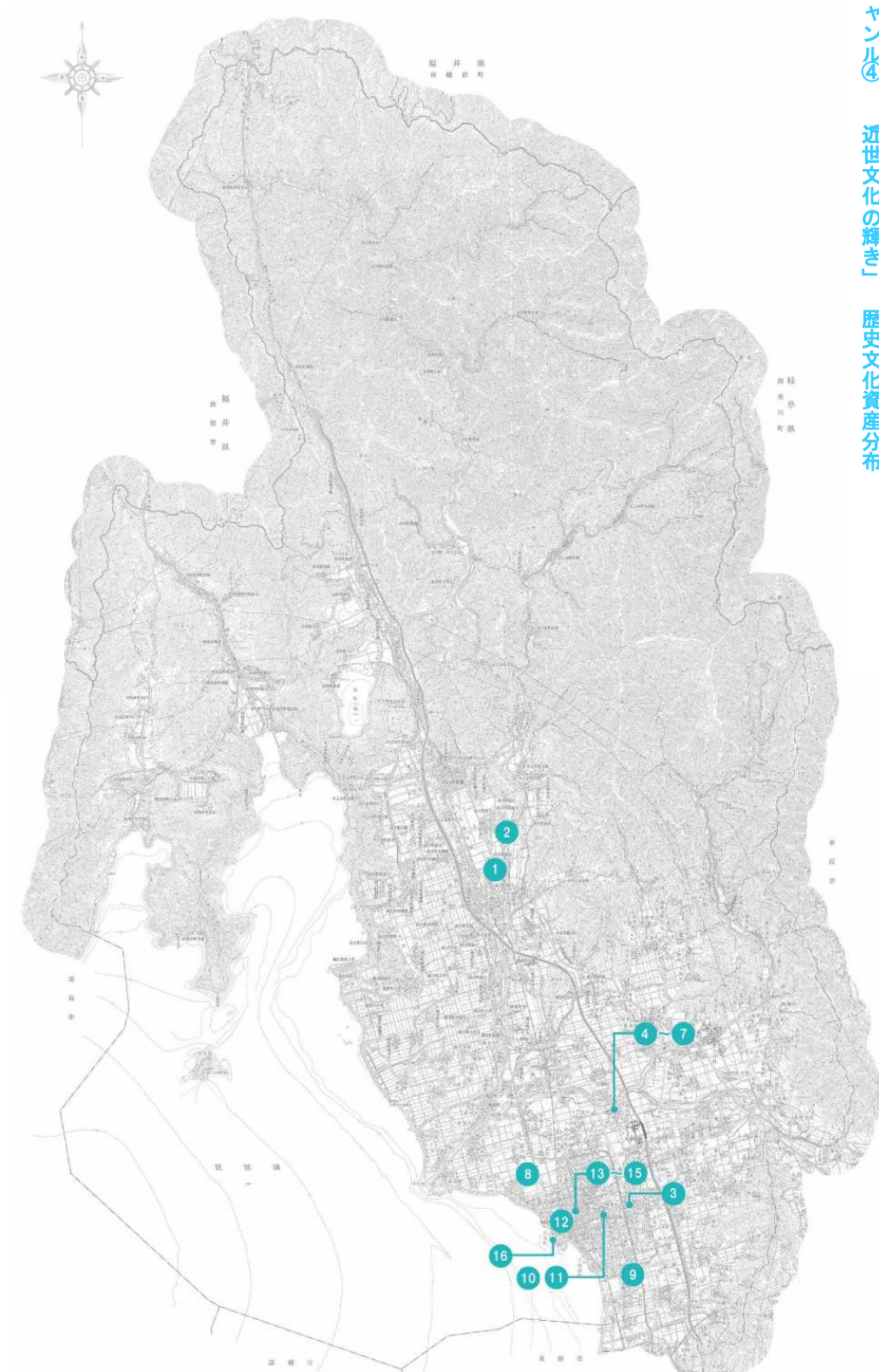
を支援する。あわせて市内関連団体と連携し、観光・産業振興を図り、全市的な普及を推進する。また、長浜曳山祭の保存活用計画の作成についても支援を行う。

ウ) 措置

課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	瀬田フィ ールド ミュージ アム長浜 地域計画
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～ 10年		
31	近世文化の輝きに関する保存活用団体の設立促進 歴史文化資産を後世に継承するため、保存活用団体が すでに設立されている場合は充実を図り、設立されて いない場合は、その創設を促し、保存・活用の体制を 確立していく。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	新規							
8-1	山蔵保存修理事業（※再掲） 山蔵について、損傷した壁面や扉、雨樋等を破損状況 に応じ、保存修理が必要になったものについて順次保 存修理を進める。	県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (1)～①	
8-7	長浜曳山祭保存伝承事業（※再掲） 長浜曳山祭は、より広い視野からの観光・産業振興を 市内関連団体と協調しながら推進する。また、長浜曳 山文化協会の事業を支援する。 長浜曳山祭を保存伝承するための取組や仕組みを整 備・支援する。	国費 県費 市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (3)～①	
32	長浜曳山祭の保存活用計画作成及び作成支援 個別歴史文化資産の保存活用計画作成を行う。また、 各保存団体の計画作成に対して支援を行う。	国費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続							

ジャンル④ 「近世文化の輝き」 歴史文化資産分布



ジャンル⑤ 街道が織り成す交流の文化

市内には長浜市街地を通り木之本宿から越前国に至る「北国街道」、関ヶ原から小谷城下町を通過し木之本宿で「北国街道」に合流する「北国脇往還」、さらに塩津から敦賀に至る「塩津街道」等、多くの街道が交錯した。そこには、地域によって異なる町家が建造され、特色ある商業の展開もみられた。長浜町や木之本宿を中心とする街道景観は、江戸時代から明治時代に至る歴史的空間を追体験できる場である。

市域には、「北国街道」をはじめ「北国脇往還」等の街道が走り、近畿と北陸・東海を結ぶ交通の要衝として様々な交流が行われ、地域の文化が育まれてきた。

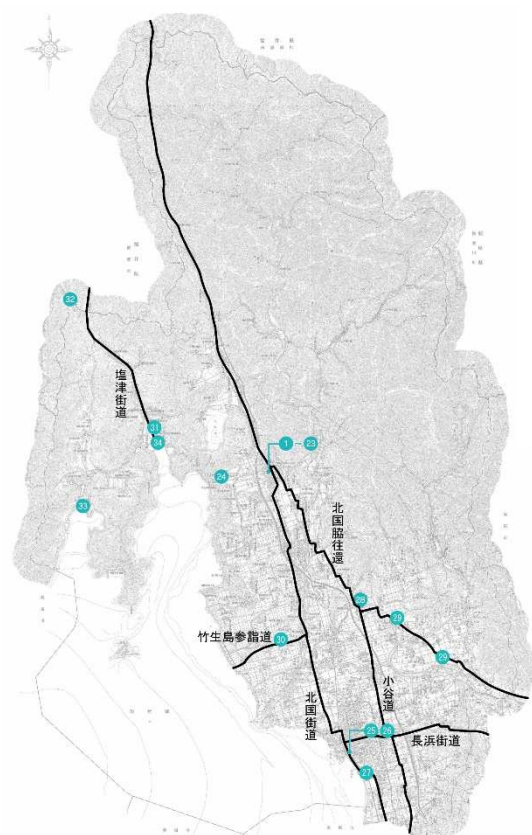
なかでも「北国街道」は、北陸と近畿を結ぶ陸路として、古くから開けた街道で名称も経路も時代により変遷しているが、一般的には金沢城下から中山道鳥居本宿までの経路を指す。この「北国街道」の木之本宿には、本陣や問屋等が設けられ、宿場町として「長浜町」とは相違する景観が形成された。現在も江戸時代から昭和前期に至る伝統的な町家が多く残り、歴史的な建造物が密集する空間として、歴史文化資産的価値はすこぶる高い。

また、「北国街道」の宿駅としての長浜は、代々吉川家が務めた本陣も存在したが、江戸時代を通じて「長浜宿」の名は使われなかった。しかし、幕末の動乱期には、京都の政治的重要性が増し、それにともなって北陸の大名や志士たちが京都・大坂へ頻繁に出入りするようになり、宿駅としても大いに栄えた。

この他にも、中山道から分岐した「北国街道」の米原宿から、宮川藩の藩庁があった宮川村（長浜市宮司町）や鉄砲の里・国友を通り、小谷城下の伊部宿にいたる「小谷道」^{おだにみち}。中山道の美濃国関ヶ原宿から春照宿、伊部宿を経由して木之本宿にいたる「北国脇往還」^{すいじょう}。長浜町から観音坂を経由し春照宿に至



北国街道木之本宿 本陣薬局



市内の街道

る「長浜街道」。「北国街道」から分岐し、竹生島へ渡るため、早崎湊に行く「竹生島参詣道」。湖上交通の要・塩津湊から敦賀に抜ける「五里半越え」とも呼ばれた「塩津街道」等、中世から近代にいたるまで、多くの街道が湖北・長浜の地で交錯していた。

このように交通の要衝、情報の交流点にあった長浜は、街道や鉄道敷設、湖上交通等の利便性により、多くの人びとが行き交う町として栄え、様々な地域の文化がもたらされることによって、個性的かつ多彩な地域文化を育んだ。

■ジャンル⑤ 街道が織り成す交流の文化 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	深坂古道・地藏	遺跡	未指定	西浅井	西浅井町沓掛
2	丸子船（北淡海・丸子船の館）	有形民俗	未指定	西浅井	西浅井町大浦
3	丸子船（あちかまの里）	有形民俗	未指定	西浅井	西浅井町塩津浜
4	常夜灯	建造物	未指定	西浅井	西浅井町塩津浜
5	北国街道木之本宿	伝統的建造物群	未指定	木之本	木之本町木之本
6	富田酒造主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
7	竹内家住宅（本陣）主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
8	ダイコウ醤油主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
9	白木屋醤油店主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
10	岩根醤油醸造店	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
11	岩根家住宅（重内）主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
12	海津家住宅	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
13	山路酒造	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
14	竹本家住宅	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
15	上阪家住宅	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
16	馬宿平四郎家住宅	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
17	浄信寺本堂	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
18	浄信寺阿弥陀堂	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
19	浄信寺庭園	名勝地	国指定	木之本	木之本町木之本
20	浄信寺文書	古文書	市指定	木之本	木之本町木之本
21	明楽寺	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
22	一里塚跡の松	植物	未指定	木之本	木之本町木之本
23	田神山観音寺	遺跡	未指定	木之本	木之本町木之本
24	意富布良神社	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
25	江北図書館	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
26	きのもと交遊館	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
27	邦楽器系製造	選定保存技術	国選定	木之本	木之本町木之本
28	邦楽器原系製造	選定保存技術	国選定	木之本	木之本町大音
29	伊部宿本陣	建造物	未指定	湖北	湖北町伊部
30	石造道標	遺跡	市指定	びわ	香花寺町
31	北国脇往還史跡	遺跡	市指定	浅井	八島・野村町
32	石造北国街道道標	有形民俗	市指定	六荘	大戌亥町
33	北国街道船町の町並	伝統的建造物群	未指定	長浜	朝日町
34	本陣吉川家跡	遺跡	未指定	長浜	朝日町

ア) 課題

北国街道や北国脇往還が市内を通っていたことにより伝えられてきた伝統的町並みの保存が図られておらず、調査も進んでいない。また、市民が伝統的建造物等を維持するための知識を得る機会がない。

伝統的建造物等の公開や展示といった普及の取組が進められておらず、観光向けの整備も行われていない。

さらに、地域団体と連携したまちづくりが行われておらず、歴史文化資産の価値付けが進んでいない。

イ) 方針

北国街道木之本宿の伝統的町並みの保存や伊部宿・塩津浜集落の環境維持を進め、「木之本宿町並み研究会」や地域団体、大学等と連動した調査を推進する。また、伝統的建造物・宿場環境の維持について学習の推進を図る。

普及事業においては、伝統的建造物の公開や関連資料の展示の充実に努める。また、北国脇往還は、多くの観光客が訪れやすい環境整備を進める。

まちづくりにおいては、「木之本宿町並み研究会」等の地域団体と連携し、街道沿い町並みを活用した多様な地域活性化を推進し、市内北部における文化・観光・産業拠点化を進める。また、木之本宿における町家等の価値付けを進める。

ウ) 措置

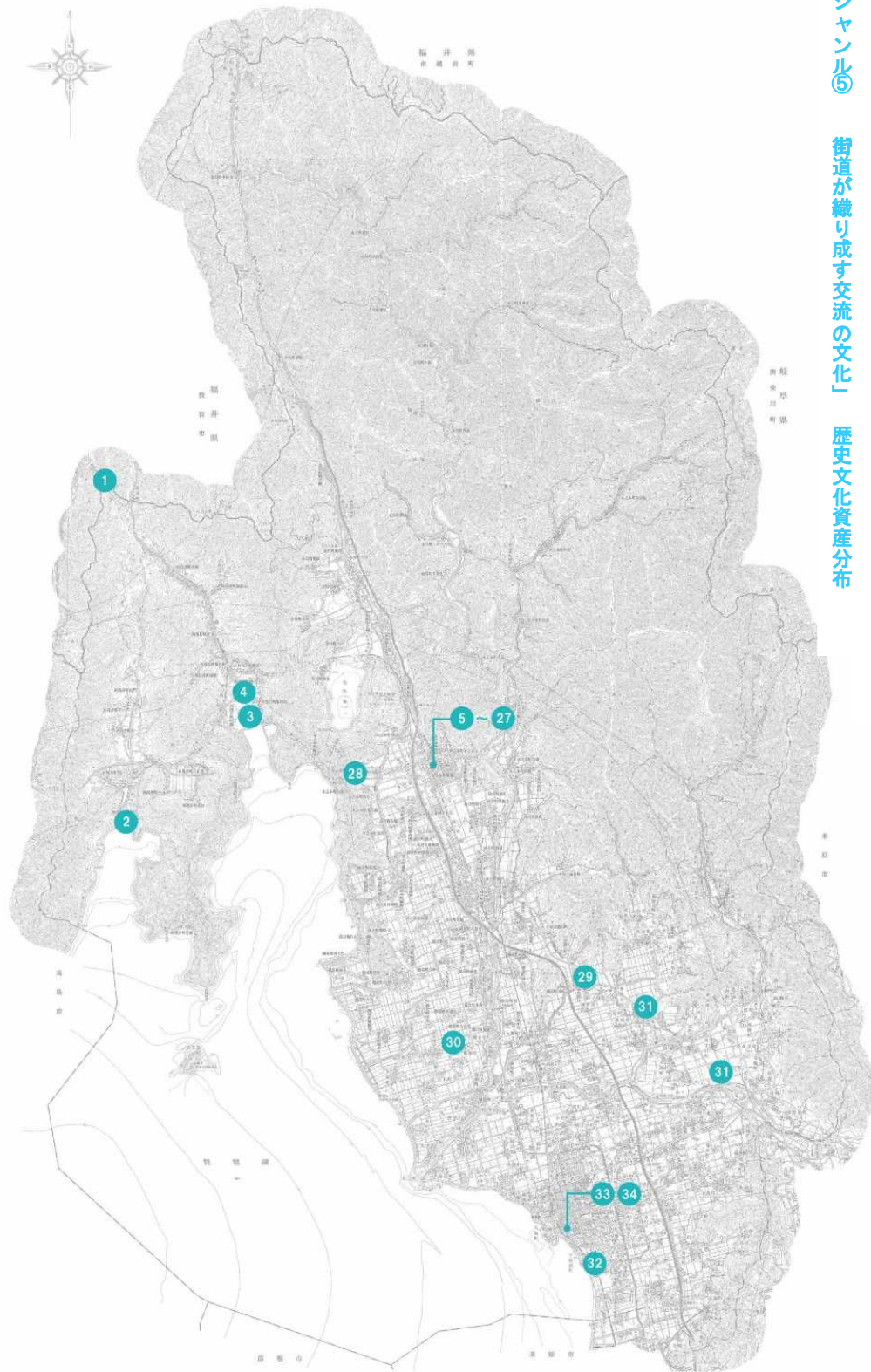
課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国フィー ルド ミュージア ム長浜地域 計画
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～ 10年		
8-4	伝統的建造物群保存地区選定調査検討事業（※再掲） 北国街道木之本宿区域において、建造物の調査及び保存対策を実施し、歴史文化資産の価値付けを行い、保存区域を検討する。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (2)~③	
8-6	木之本宿道路整備事業（※再掲） 国道 303 号及び市道木之本穴師余呉線において、歴史的な街並みに調和した道路の美装化、路側帯の設置等を進める。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (2)~⑤	
8-9	ふるさと夏まつり「地蔵縁日」開催事業（※再掲） 木之本の浄信寺で開催される木之本本地蔵大菩薩の縁日にあわせて、門前の北国街道及び地蔵坂でふるさと夏まつり「地蔵縁日」を継続的に開催する。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続						○ 番号 (3)~③	
8-10	木之本宿まちなか再生事業（※再掲） 木之本宿の空き家や空き店舗の利活用の実態調査や利活用のコンサルティング、移住相談窓口、古民家見学ツアー等に取り組む。	市費等		◎	◎		◎	継続						○ 番号 (3)~④	
8-11	北国街道木之本宿にぎわい創出事業（※再掲） 北国街道沿いできのもと宿街道まつりや登録有形文化財のきのもと交遊館で企画展示、意富布良神社で夕涼み横丁等に取り組む。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続						○ 番号 (3)~⑤	

ジャンル⑤

「街道が織り成す交流の文化」

歴史文化資産分布



ジャンル⑥ 長浜の近代化を創った遺産群

明治の長浜は輝いていた。いち早い蒸気船の運航、学校・銀行の設立、そして鉄道の敷設と鉄道連絡線の就航。慶雲館は明治天皇を迎える迎賓館であった。これらの近代史を支えた歴史的建造物が今も残り、その活力を体感できるのも、長浜市の大きな魅力である。多岐にわたる近代化遺産群には、長浜の将来をさらに発展に導くヒントが詰まっている。

長浜の町は近代化の波をいち早く捉え、蒸気船の就航、第一小学校の開設、国立銀行の設立、鉄道の敷設等長浜商人たちの目覚ましい活躍により近代化を成し遂げ、周辺地域へその波を伝播させていった。当時の遺産は、旧長浜駅本屋や慶雲館、旧開知学校、黒壁ガラス館本館（旧第百三十銀行長浜支店）、旧大垣共立銀行長浜支店等、旧長浜町域を中心に、当時の機能から変化して使われているが、今なお生き続けており、外観からは往時の活況を窺い知ることができる。

また、産業遺産も魅力的なものが多い。繊維工場（旧鐘紡長浜工場・近江ベルベット）、樋口株式会社旧事務所、高時川発電所や土倉鉾山跡が挙げられる。電話中継所であるハットは特異な産業遺産である。江北図書館は、旧伊香郡農会庁舎である。郵便局舎も近代化遺産と言えるものが多く残る。旧柳ヶ瀬郵便局舎、旧塩津郵便局舎、旧鍛冶屋郵便局舎、旧朝日郵便局舎、旧杉野郵便局舎、旧川合郵便局舎を挙げることができる。集会所としては、東横町集会所（旧木之本保健所）、余呉べんがら座、旧布勢会議所、東阿閉公民館（ヤンマー会館）がある。

学校施設としては曾根東福寺組地藏堂（旧曾根学校玄関）、大塚産業食堂（開知学校北舎）、旧余呉小学校講堂が挙げられるが、戦前の日本において教育勅語等を安置した奉安殿（長浜市石田町、木之本町大音）も、時代を象徴する教育遺産として注目できる。

大正から昭和初めに建設されたトンネル群も、近代化遺産としては見逃せない。煉瓦造道路隧道である杉本隧道（木之本杉本～余呉町上丹生）・横山隧道（鳥羽上町～米原市）・賤ヶ岳隧道（木之本町大音～山梨子）や、鉄筋コンクリート造隧道である観音坂隧道（石田町～米原市）・湖北隧道（西浅井町月出～八田部）・谷坂隧道（小室～郷野）、北陸本線の土木施設として柳ヶ瀬トンネル（余呉町椿坂～福井県）と余呉トンネル（余呉町八戸～西浅井町祝山）等がある。鉄道の廃線路にある中ノ郷駅跡（余呉町中之郷）も旧状を一部保っている。これら、近代化遺産は現在の長浜へと継承された最も身近な歴史文化資産として、我々に訴えかけるものが多い。

なお、長浜市街地に建つ昭和 39 年（1964）建造の長浜タワービルも、昭和の高度成長期を象徴する建造物の歴史文化資産である。令和 2 年度に



慶雲館庭園

は、日本遺産「海を越えた鉄道～世界へつながる鉄道のキセキ～」の構成文化財として旧長
 浜駅本屋等が認定されている。

■ジャンル⑥ 長浜の近代化を創った遺産群 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	旧塩津郵便局舎	建造物	未指定	西浅井	西浅井町塩津浜
2	湖北隧道（ＲＣ造）	建造物	未指定	西浅井	西浅井町月出
3	旧余呉小学校講堂	建造物	未指定	余呉	余呉町下余呉
4	電話中継所ハット	建造物	未指定	余呉	余呉町中河内
5	旧柳ヶ瀬郵便局舎	建造物	未指定	余呉	余呉町柳ヶ瀬
6	余呉べんがら座（旧下余呉集会所）	建造物	未指定	余呉	余呉町下余呉
7	柳ヶ瀬トンネル	建造物	未指定	余呉	余呉町椿坂
8	余呉トンネル	建造物	未指定	余呉	余呉町八戸
9	中ノ郷駅跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町中之郷
10	きのもと交遊館	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
11	江北図書館（旧伊香郡農会）	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
12	東横町集会所（旧木之本保健所）	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
13	高時川発電所	建造物	未指定	木之本	木之本町川合
14	旧川合郵便局舎	建造物	未指定	木之本	木之本町川合
15	土倉鉱山跡	遺跡	未指定	木之本	木之本町金居原
16	旧杉野郵便局舎	建造物	未指定	木之本	木之本町杉野
17	奉安殿	建造物	未指定	木之本	木之本町大音
18	賤ヶ岳隧道（煉瓦造）	建造物	未指定	木之本	木之本町大音
19	杉本隧道（煉瓦造）	建造物	未指定	木之本	木之本町杉本
20	東阿閉公民館（ヤンマー会館）	建造物	未指定	高月	高月町東阿閉
21	曾根東福寺組地蔵堂（旧曾根小学校玄関）	建造物	国登録	びわ	曾根町
22	旧鍛冶屋郵便局舎	建造物	未指定	浅井	鍛冶屋町
23	谷坂隧道（ＲＣ造）	建造物	未指定	浅井	郷野町
24	旧布勢町会議所	建造物	未指定	西黒田	布勢町
25	横山隧道（煉瓦造）	建造物	未指定	西黒田	鳥羽上町
26	近江ベルベット株式会社本社工場	建造物	未指定	北郷里	石田町
27	奉安殿	建造物	未指定	北郷里	石田町
28	観音坂隧道（ＲＣ造）	建造物	未指定	北郷里	石田町
29	樋口株式会社旧事務所	建造物	未指定	南郷里	南小足町
30	大塚産業食堂（旧開知学校北舎）	建造物	未指定	六荘	八幡東町
31	慶雲館庭園	名勝地	国指定	長浜	港町
32	旧長浜駅本屋	建造物	県指定	長浜	北船町
33	旧北陸線トンネル扁額群	歴史資料	未指定	長浜	北船町
34	長浜旧開知学校	建造物	国登録	長浜	元浜町
35	黒壁ガラス館	建造物	国登録	長浜	元浜町
36	旧大垣共立銀行長浜支店	建造物	未指定	長浜	元浜町
37	長浜タワービル	建造物	未指定	長浜	元浜町
38	ふじ石亭	建造物	国登録	長浜	朝日町
39	旧鐘紡長浜絹布工場	建造物	未指定	長浜	鐘紡町

ア) 課題

近代化に関わる歴史文化資産についての個々の特性が把握できていない。そして、調査が進んでいない他、次世代へ継承するための保存活用計画が作成されていない。

まちづくりにおいては、歴史文化資産を活用できていない。また、慶雲館庭園は整備計画に基づく整備が一部しかできておらず、観光地として魅力的な環境となっていない部分がある。

イ) 方針

既存の報告を見直し、個々の近代化遺産の特性を明らかにし、再把握を進める。そして、総合的な調査報告書や保存活用計画の作成を進める。

まちづくりにおいては、市民に歴史文化資産の価値を周知し、地元団体と連携して進める。また、現在進めている慶雲館庭園の整備を行い、観光客が訪れやすい環境づくりを行う。

ウ) 措置

課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
33	慶雲館の整備 整備計画に基づき慶雲館庭園の整備を推進する。	国費 市費等		◎		◎	◎	継続					
34	近代化遺産の調査 把握した近代化遺産の調査を実施する。	市費等		○		◎	◎	新規					
35	旧長浜駅本屋の総合的な調査 総合的な調査を実施する。(旧長浜駅本屋の耐震工事を実施する時期で変動がある。)	市費 民間等		○		◎	◎	新規					

長浜の近代化を創った遺産群」 歴史文化資産分布



2 歴史文化保存活用区域

(1) 歴史文化保存活用区域の設定の目的

歴史文化を核とした長浜らしい「地域づくり」と「人材育成」を進めるために、地域に根差した歴史文化資産の総合的な保存・活用の枠組として歴史文化保存活用区域（エリア）を設定する。

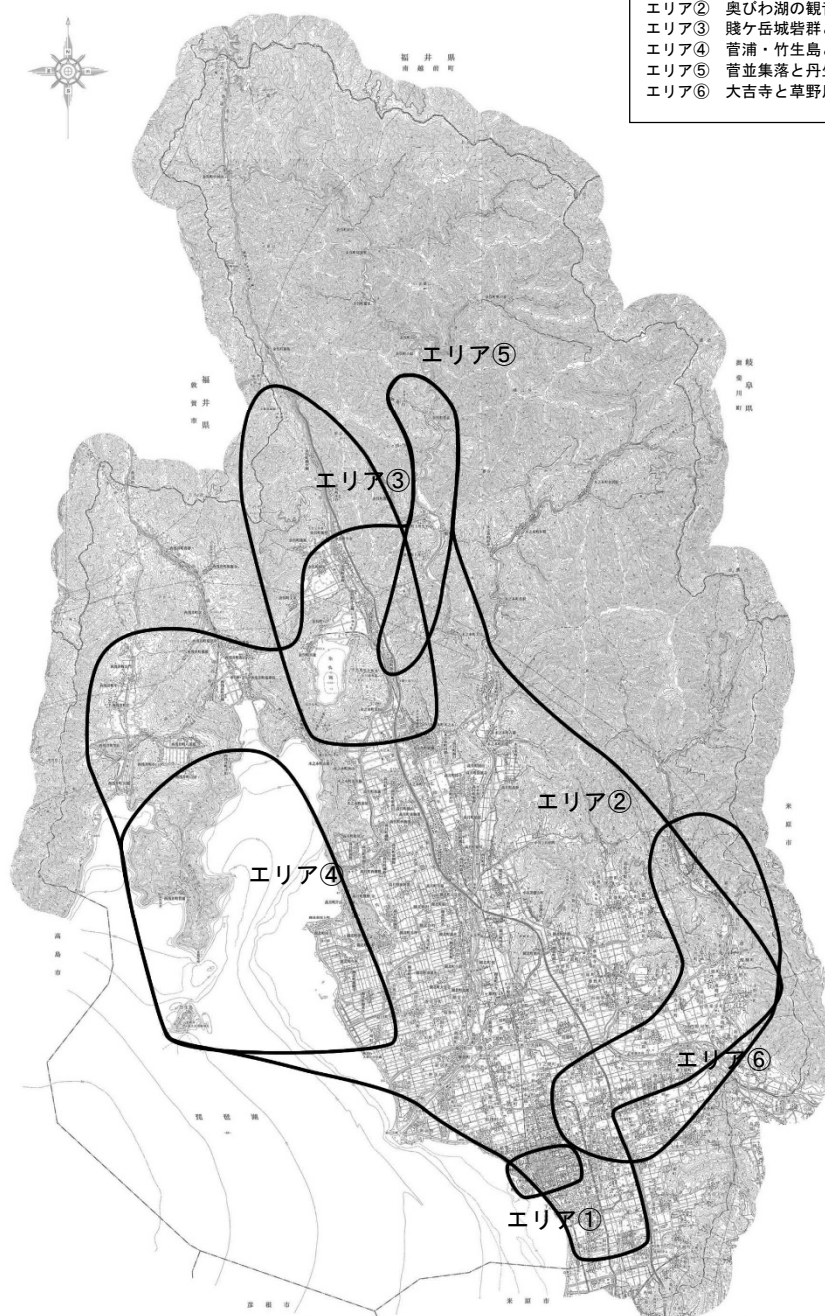
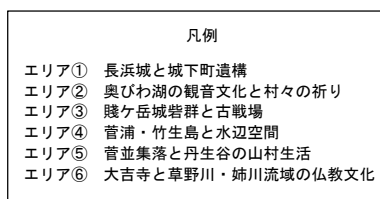
歴史文化保存活用区域は、歴史文化資産が特定地域に集中して存在する区域を文化的な空間を創出するための範囲として、6つ設定する。

そして、歴史文化保存活用区域を設定することは、第6章で示した歴史文化資産の保存・活用の循環に必要な①地域における歴史文化資産を把握する②歴史文化資産についての情報を発信する③長浜市の歴史文化資産の価値が内外から評価され市民の誇りとなる④保存伝承のための「人」・「もの」・「資金」を確保することに対して大きく資することを意図している。

(2) 歴史文化保存活用区域の設定の考え方

歴史文化保存活用区域とは、多種多様な歴史文化資産が、特定の区域に集まっている場合に、その価値と関連する周辺環境も含め、文化的な空間を創出しているエリアである。歴史文化保存活用区域を設定するにあたっては、以下の点を基準とする。

- ア) 歴史文化保存活用区域の構成要素となるそれぞれの歴史文化資産が、地域内に群としてまとめ、一連のストーリーの中で保存・活用に結び付けることができること。
- イ) 歴史文化保存活用区域を構成する歴史文化資産の中に現存する指定等文化財を含むこと。



エリア一覧図

(3) 歴史文化保存活用区域およびその保存・活用計画

エリア① 長浜城と城下町遺構

長浜城は、やがて天下人になる羽柴（豊臣）秀吉が、初めて一国一城の主となった城郭である。また、その城下町は国内主要都市の多くが近世城下町が基であるなか、長浜は最古級の古さをもつ近世城下町で、秀吉時代の町割りが現存しているという魅力を持つ。江戸時代の町家の残りもよく、歴史を感じさせる町並みは、黒壁ガラス館本館の現代的魅力を合わせ、人びとをひきつける都市景観を現出している。

浅井氏の小谷落城後、天正2年（1574）頃から、織田信長の命を受けた羽柴秀吉は、長浜城の築城を始める。その築城にあたっては、周辺百姓らを動員し、領内の多くの住人が携わったことがわかる。江戸時代に製作された「長浜町絵図」や、その後の城郭推定図・長浜町地籍図や発掘調査の成果により、長浜城本丸には南北10間・東西12間の天守台に天守が建っていたが、それは現在の長浜城歴史博物館の西北に位置する。この天守台および長浜城歴史博物館付近が字「本丸」と呼ばれる主郭であった。

天守台の北には港が存在し、南は二の丸跡、東は家臣団屋敷があった三の丸跡と推定される。家臣団屋敷については、江戸時代の検地帳に、「守田屋敷」や「伊右衛門屋敷」という地名が見られる。特に「伊右衛門」は山内一豊^{やまうちかずとよ}の初期の通称名であるため、その屋敷跡と見ることができる。長浜城跡については、この他に太閤井戸の跡や石垣出土地等が見学できる。

城下町の建設については、築城と同時に始まったと考えられる。最初に今浜村やその近郷村を主体として大手町・本町が成立し、ついで魚屋町・瀬田町・横浜町・北町が成立した。これらは、すべて城に対する縦町であった。その後、天正8年（1580）頃までに小谷城下等から伊部町・呉服町・箕浦町・神戸町等の横町を移し、城下町の中心部分が成立した。さらに、郡上片原町、知善院町等が造成されたと考えられる。

長浜の城下町の構造は、城郭に対して縦町が基本であり、この形は長浜城が初期の近世城下町



湖北観光情報センター

であったことを示している。秀吉が長浜で始めた城下町プランは、やがて全国の大名の手本となり、各地に建設された城下町は長浜城下町を手本とするようになったと考えられる。現在の町割にも秀吉時代の面影は残り、近世城下町の発展を知るうえで、その価値は高いと言える。

また、江戸時代中期以降の歴史文化資産であるが、北国街道の最南端である稲荷町・十一町付近、それに西御堂前町から伊部町に連なる通称「ウラクロ」地域は、市街地においても町家の伝存状態がよい。

■エリア① 長浜城と城下町遺構 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	長浜城跡	遺跡	市指定	長浜	公園町
2	太閤井戸跡	遺跡	未指定	長浜	公園町
3	長浜城石垣出土地	遺跡	未指定	長浜	公園町
4	大通寺 含山軒・蘭亭・本堂・広間	建造物	国指定	長浜	元浜町
5	大通寺 台所門・山門附山廊・庫裡・鐘楼・太鼓楼・渡廊・新御座・宝蔵	建造物	市指定	長浜	元浜町
6	大通寺 茶所・二十八日講・因講・総会所	建造物	未指定	長浜	元浜町
7	大通寺 含山軒・蘭亭	名勝地	国指定	長浜	元浜町
8	黒壁ガラス館本館（旧第百三十銀行長浜支店）	建造物	国登録	長浜	元浜町
9	湖北観光情報センター	建造物	国登録	長浜	元浜町
10	安藤家住宅	建造物	未指定	長浜	元浜町
11	ウラクロ（西御堂前町・伊部町）の町並	伝統的建造物群	未指定	長浜	元浜町
12	知善院	建造物	未指定	長浜	元浜町
13	長浜八幡宮 本殿・幣殿・拝殿	建造物	未指定	長浜	宮前町
14	長浜八幡宮 放生池	名勝地	市指定	長浜	宮前町
15	長浜八幡宮 旧汲月亭庭園	名勝地	未指定	長浜	宮前町
16	舎那院護摩堂	建造物	県指定	長浜	宮前町
17	妙法寺	建造物	未指定	長浜	大宮町
18	豊国神社	建造物	未指定	長浜	南呉服町
19	慶雲館	名勝地 建造物	国指定 未指定	長浜	港町他
20	長浜城下町 300 石境界石柱	有形民俗	未指定	長浜	朝日町他
21	北国街道稻荷町・十一町付近の町並	伝統的建造物群	未指定	長浜	朝日町
22	市街地の水路（背割水路）	遺跡	未指定	長浜	朝日町
23	船板堀	遺跡	未指定	長浜	朝日町

ア) 課題

歴史文化資産の調査が進んでおらず、長浜城の城下町として、歴史的建造物の保存に考慮した歴史文化資産の価値付けができていない。また、歴史的建造物は耐震性がない、増改築がしにくい等の理由により、空き家化や取り壊しが進んでいる。

さらに、居住者の減少や少子高齢化、価値観の多様化に伴って、伝統文化や地域コミュニティの担い手が不足し、建物や景観の維持管理が難しくなっている。

イ) 方針

「第 2 期 長浜市歴史的風致維持向上計画」との連携を継続し、伝統的建造物群（稻荷町・十一町・ウラクロ）等の歴史文化資産の調査を行う。また、取り壊しの危機にある歴史文化資産の価値付けを進め、価値の共有を図り、「現存最古の近世城下町」としての誇りを持てるよう住民意識の喚起を進める。

市民による保存活用団体の設立を促し、保存・活用の体制の整備を図る。そして、歴史文化資産の継承を進める。

ウ) 措置

課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	瀬田フィ ールド ミュージ アム長浜 地域計画
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～ 10年		
8-1	山蔵保存修理事業（※再掲） 山蔵について、損傷した壁面や扉、雨樋等を破損状況に応じ、保存修理が必要になったものについて順次保存修理を進める。	県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (1)-①	
8-2	大通寺伽藍群保存修理事業（※再掲） 大通寺の伽藍群の一部である講場（総会所、茶所、因講、二十八日講）について、保存修理設計調査を実施し、破損状況を把握したうえで、保存修理を実施する。	市費等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (1)-②	
8-5	豊公園（長浜城跡）再整備事業（※再掲） 豊公園施設の老朽化が著しく、史跡の活用が十分なされていないことから、史跡指定範囲内における史跡の活用を検討し、公園の再整備を進める。	国費 市費等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (2)-④	
8-7	長浜曳山祭保存伝承事業（※再掲） 長浜曳山祭は、より広い視野からの観光・産業振興を市内関連団体と協調しながら推進する。また、長浜曳山文化協会の事業を支援する。 長浜曳山祭を保存伝承するための取組や仕組みを整備・支援する。	国費 県費 市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (3)-①	
8-8	きもの大園遊会開催事業（城下町遺構の活用）（※再掲） 大通寺を会場に振袖姿の女性が城下町を散策する内容。催事を開催し歴史的建造物の価値を再認識し来街を促す事業。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続						○ 番号 (3)-②	

エリア① 「長浜城と城下町遺構」 歴史文化資産分布

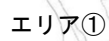


エ) 長浜市歴史的風致維持向上計画との関わり

歴史的風致維持向上計画では、重点的かつ一体的に推進することが特に認められる重点区域を設定している。重点区域は「長浜城下町区域」、「北国街道木之本宿区域」の2ヶ所を設定している。重点区域の詳細は①「近世城下町の町割りにみる歴史的風致」、②「長浜曳山祭にみる歴史的風致」、③「大通寺とその門前町にみる歴史的風致」の3つの歴史的風致の重なりを「長浜城下町区域」とし、④「街道にみる歴史的風致」のうち北国街道木之本宿の地域を「北国街道木之本宿区域」としている。

歴史的風致維持向上計画で設定した重点区域「長浜城下町区域」は、歴史文化保存活用区域のエリア①の範囲が含まれている。

歷史文化資產分布



エリア② 奥びわ湖の観音文化と村々の祈り

長浜市の北部、奥びわ湖（伊香郡）と呼ばれる地域には、多くの観音像や薬師像・大日像が村堂に祀られている。村々ではこのホトケたちを「氏仏」と呼び、「氏神」とともに神仏習合の中で信仰してきた。村人の祈りの対象となり、その生活の中に溶け込んだホトケたちは、その美術的価値を超えて、訪れる者に日本の原風景と深い信仰心を感じさせる。

平安時代以降、比叡山・天台宗の影響下、己高山を中心に栄えた湖北の寺々は、室町期頃には弱体化し、かわって浄土宗・曹洞宗・浄土真宗・時宗らのいわゆる新仏教が民衆の台頭にあわせて勢力を伸ばし、戦国の動乱期に至って、さらに大きく拡大した。

村々にあった天台寺院の多くは衰退して無住・廃寺化し、そこに残された仏像たちは、村の守り本尊として民衆に迎えられていった。

仏像の多くは、神社と並んだ小堂にひっそりと安置され、そこに住む住民たちによって、代々手厚く守られてきた。制作年代の新旧や指定の有無、造形的な巧拙、損傷の有無等といった文化財的・美術工芸品的な価値観を越えて、それぞれの自治会では、自分たちの仏像をかけがえのない存在として、限らない愛情と誇りと親しみをもって手厚く守っている。つまり仏像を守ることが、地域の暮らしに根付き、地域住民の生き方や暮らし方、風土と分かちがたいところが、奥びわ湖の観音信仰・諸仏信仰の大きな特色でもある。そのホトケを守る心が、地域住民の絆をより強く結んできた歴史も大切にしたい。

かつて己高山にあった仏像・仏画類を収めている鶏足寺には、奈良時代 8 世紀に造られた、己高山のシンボルともいえるべき量感豊かな薬師如来像や、木心乾漆造による十二神将 3 軀等多くの仏像が伝えられている。また向源寺（渡岸寺観音堂）には、平安時代前期に造られた、わが国を代表する国宝十一面観音立像や、平安時代後期の半丈六の大日如来坐像等が伝わり、これらは戦国時代、村人たちに土中に埋められて戦火から守られたと伝えている。さらに唐川日吉神社（赤後寺）には、平安時代初期の千手観音像と平安時代中期の聖観音像の 2 軀の等身像が伝えられている。この両像は、やはり戦禍を免れるため、村を流れる赤川に沈めて守られたと伝える。この他、各集落には様々な仏像が伝わり、今なお身近な地域住民から親しまれ、戦時において上記のように守られた伝承を持つ。これらのホトケたちは、現在に至るまで住民の誇り、信仰心によって手厚く守られている。

なお、村々における観音信仰は、奥びわ湖（伊香郡）以外の市域中部（浅井郡）、南部（坂田郡）にもみら



聖観音立像（北門前観音堂旧蔵）

れるが、本エリアと関連づけて振興を図る。

■エリア② 奥びわ湖の観音文化と村々の祈り 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	木造仏頭（善隆寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町山門
2	木造十一面観音立像（善隆寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町山門
3	木造阿弥陀如来立像 行快作 附 像内納入品（阿弥陀寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
4	木造馬頭観音坐像（山門自治会蔵）	彫刻	県指定	西浅井	西浅井町山門
5	木造馬頭観音立像（徳円寺蔵）	彫刻	県指定	西浅井	西浅井町庄
6	如来形坐像（八田部自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町八田部
7	阿弥陀如来坐像（黒山自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町黒山
8	阿弥陀如来坐像（八田部自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町八田部
9	男神立像（山門鳥居堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山門
10	阿弥陀如来坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
11	聖観音坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
12	薬師如来坐像及び脇侍蔵（増光寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山田
13	阿弥陀如来坐像（山門自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山門
14	大日如来坐像（遍照寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
15	阿弥陀如来立像（遍照寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
16	大日如来坐像（蓮通寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町岩熊
17	阿弥陀如来坐像（大浦観音堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
18	阿弥陀如来立像（祇樹院蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
19	毘沙門天立像（横波薬師堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町横波
20	薬師如来坐像（横波薬師堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町横波
21	木造薬師如来立像（源昌寺蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町上丹生
22	木造観音菩薩立像（洞寿院蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町菅並
23	木造薬師如来坐像（源昌寺蔵）	彫刻	県指定	余呉	余呉町上丹生
24	大日如来坐像（洞寿院蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町菅並
25	狛犬（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
26	十一面観音立像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
27	天部形立像（川並自治会蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町川並
28	日光・月光菩薩立像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
29	木造聖観音坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
30	木造僧形坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
31	不動明王坐像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
32	十一面観音菩薩立像（国安自治会蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町国安
33	木造素盞鳴命坐像（大見神社蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町大見
34	木造女神坐像（大見神社蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町大見
35	木造十一面観音立像（医王寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町大見
36	木造御神像（佐波加刀神社蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町川合
37	木造十一面観音立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町古橋
38	木造薬師如来立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町古橋
39	乾漆十二神将立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町古橋
40	木造十一面観音立像（石道寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町石道
41	木造持国天立像 木造多聞天立像（石道寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町石道
42	乾漆十二神将立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町古橋
43	木造七仏薬師如来立像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	木之本	木之本町古橋
44	木造十一面観音立像（石道寺蔵）	彫刻	県指定	木之本	木之本町石道
45	木造菩薩形立像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	木之本	木之本町古橋
46	木造十所権現像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	木之本	木之本町古橋
47	木造十二神将像（鶏足寺蔵）	彫刻	市指定	木之本	木之本町古橋

48	木造地藏菩薩立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
49	木造閻魔王立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
50	木造俱生神立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
51	木造阿弥陀如来立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
52	木造阿弥陀如来坐像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
53	木造阿弥陀如来立像（行快作・浄信寺蔵）	彫刻	市指定	木之本	木之本町木之本
54	木造伝千手観音立像（観音寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町黒田
55	木造阿弥陀如来立像（浄信寺蔵）	彫刻	市指定	木之本	木之本町木之本
56	木造伝教大師坐像（高野神社蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町高野
57	木造釈迦如来坐像（白山神社蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町尾山
58	木造大日如来坐像（立法寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町尾山
59	木造日吉山王二十一社本地仏像（日吉神社蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町井口
60	木造十一面観音立像（向源寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町渡岸寺
61	木造大日如来坐像（向源寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町渡岸寺
62	木造阿弥陀如来坐像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
63	木造神像（春日神社蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町宇根
64	木造十一面観音立像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
65	木造金剛力士立像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
66	木造十一面千手観音立像（大門寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町高月
67	木造薬師如来立像（八幡神社蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町柏原
68	木造獅子・象（文殊・普賢菩薩台座）（向源寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町渡岸寺
69	木造伝薬師如来立像（充滿寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町西野
70	木造十一面観音立像（充滿寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町西野
71	木造宝冠阿弥陀如来坐像（竹蓮寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町西阿閉
72	木造千手観音立像（日吉神社蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町唐川
73	木造菩薩立像（日吉神社蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町唐川
74	木造馬頭観音立像（横山神社蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町横山
75	木造聖観音立像（常楽寺蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町山本
76	木造如来形仏頭（延勝寺自治会蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町延勝寺
77	木造十一面観音立像（田中神社蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町田中
78	木造菩薩形立像（田中神社蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町田中
79	木造狛犬（白髭神社蔵）	彫刻	国指定	湖北	湖北町今西
80	木造阿弥陀如来立像（蓮台寺蔵）	彫刻	県指定	湖北	湖北町今西
81	金銅半跏思惟像（小谷寺蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町伊部
82	木造十一面観音坐像（岡本神社蔵）	彫刻	市指定	湖北	小谷丁野町
83	木造慈恵大師坐像（玉泉寺蔵）	彫刻	国指定	虎姫	三川町
84	木造聖観音坐像（大井町自治会蔵）	彫刻	市指定	虎姫	大井町
85	木造千手観音立像（千手院蔵）	彫刻	国指定	びわ	川道町
86	木造千手観音立像（千手院蔵）	彫刻	国指定	びわ	川道町
87	木造聖観音立像（来現寺蔵）	彫刻	国指定	びわ	弓削町
88	木造木造菩薩坐像（新居神社蔵）	彫刻	市指定	びわ	新居町
89	木造菩薩坐像（新居神社蔵）	彫刻	市指定	びわ	新居町
90	弁才天坐像（宝厳寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	早崎町
91	木造聖観音立像（宝厳寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	早崎町
92	木造不動明王坐像（宝厳寺蔵）	彫刻	県指定	びわ	早崎町
93	木造阿弥陀如来立像（正念寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	錦織町
94	木造大日如来坐像（光信寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	太田町
95	木造毘沙門天立像（光信寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	太田町
96	阿弥陀如来立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
97	地藏菩薩立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
98	元三大師坐像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
99	聖観音立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
100	木造毘沙門天立像（醍醐寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	醍醐町

101	聖観音立像（南郷町蔵）	彫刻	市指定	浅井	南郷町
102	木造阿弥陀如来立像（小野寺町蔵）	彫刻	市指定	浅井	小野寺町
103	木造不動明王坐像（大聖寺不動堂蔵）	彫刻	市指定	浅井	大門町
104	木造薬師如来坐像（珀清寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	瓜生町
105	木造薬師如来坐像（大田寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	木尾町
106	木造阿弥陀如来立像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	神田	加田町
107	木造地藏菩薩半跏像（御影堂新善光寺）	彫刻	国指定	北郷里	西上坂町
108	木造聖観音立像（総持寺蔵）	彫刻	国指定	南郷里	宮司町
109	木造千手観音立像（総持寺蔵）	彫刻	市指定	南郷里	宮司町
110	木造半肉彫十一面観音立像（神照寺蔵）	彫刻	国指定	神照	新庄寺町
111	木造毘沙門天立像（神照寺蔵）	彫刻	国指定	神照	新庄寺町
112	木造不動明王立像（見返り不動、神照寺蔵）	彫刻	県指定	神照	新庄寺町
113	木造不動明王立像（神照寺蔵）	彫刻	県指定	神照	新庄寺町
114	石造薬師如来（八幡東町）	工芸	市指定	六荘	八幡東町
115	木造聖観音菩薩立像（元北門前観音堂蔵）	彫刻	市指定	六荘	八幡東町
116	木造薬師如来坐像（多田幸寺蔵）	彫刻	国指定	六荘	田村町
117	木造十一面観音坐像（知善院蔵）	彫刻	国指定	長浜	元浜町
118	木造阿弥陀三尊像（知善院蔵）	彫刻	市指定	長浜	元浜町
119	木造豊臣秀吉坐像（知善院蔵）	彫刻	市指定	長浜	元浜町
120	木造愛染明王坐像（舎那院蔵）	彫刻	国指定	長浜	宮前町
121	木造阿弥陀如来坐像（舎那院蔵）	彫刻	国指定	長浜	宮前町
122	木造薬師如来坐像（舎那院蔵）	彫刻	県指定	長浜	宮前町

ア) 課題

観音文化を示す歴史文化資産（仏像）を保存・活用するための、人材不足が大きな課題である。さらに、人口減少や考え方の多様化により歴史文化資産に対する意識も変化してきており、あらためて歴史文化資産を守る機運の醸成が求められる。

そして、守り伝えられてきた歴史文化資産の公開の機会が少なく、地域の受け入れ体制の整備も進んでいないため観光についての取組が進められていない。

イ) 方針

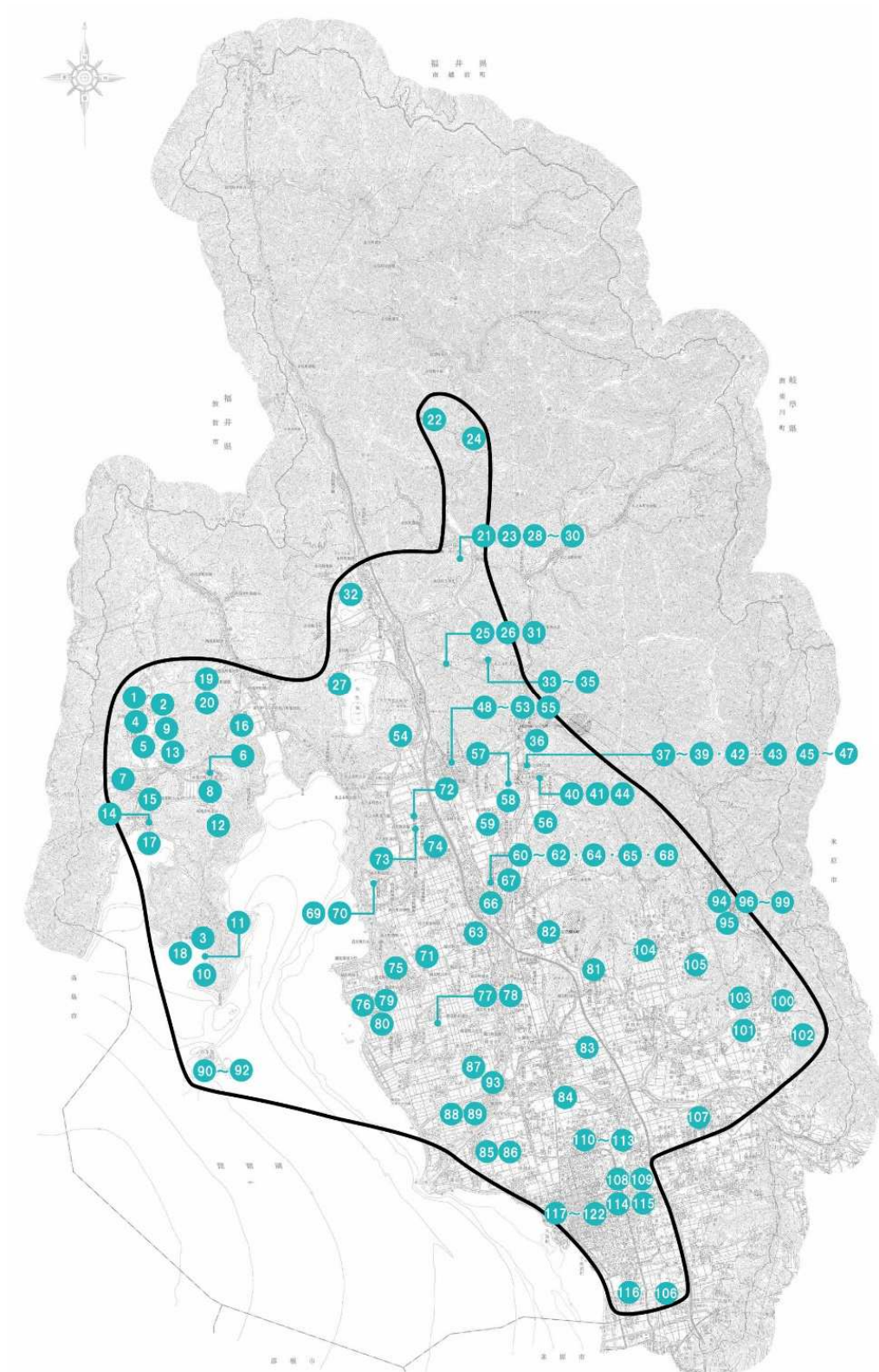
歴史文化資産の保存・活用のため、人材の確保とともに保存活用団体を設立し、保存・活用の体制を整備する。

観光については、関係機関等と連携し、看板等の充実やSNSを活用し、来訪者の受け入れ体制を整備する。

ウ) 措置

課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	瀬国フイ ールド ミュージ アム長浜 地域計画
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～ 10年		
8-12	観音の里ふるさとまつり開催事業（※再掲） 高月地域を中心に観音堂等が拝観できる観音の里ふるさとまつりを継続的に実施する。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号 (3)-④	
36	観音文化の保存・活用（観音の里祈りとくらしの文化 伝承会議の推進） 観音の里祈りとくらしの文化伝承会議の充実を図り、 来訪者受け入れ体制の整備を整え、保存・活用を進める。	民間等		◎	◎	○	○	継続							



エリア②

奥びわ湖の観音文化と村々の祈り」

歴史文化資産分布

エリア③ 賤ヶ岳城砦群と古戦場

余呉湖の周辺に点在する賤ヶ岳古戦場は、羽柴秀吉と柴田勝家が織田信長の後継者争いのために戦った場所である。余呉湖畔の七本槍の激闘地や毛受兄弟の墓等平地の史跡もあるが、このエリアの最大の魅力は、両軍合わせて20か所以上の城砦が、今も良好な形で遺構をとどめていることである。一時期に築造された城砦は、城郭研究上も貴重だが、戦国時代を臨場感をもって体感できる場所でもある。

天正10年(1582)の「本能寺の変」により織田信長が没したことに端を発し、天正11年(1583)に旧織田家臣団を二分する羽柴秀吉と柴田勝家が戦った賤ヶ岳合戦が起きた。両軍は伊香郡木之本宿の秀吉本陣から、同郡柳ヶ瀬集落北の勝家本陣の玄蕃尾城(内中尾山城)まで、南北10キロ以上にわたり、大規模なものだけでも20か所ほどの陣城を設けて対峙した。

秀吉軍は余呉湖の南側から田上山城までに陣を構え、勝家側は余呉湖の北側の行市山砦から玄蕃尾城へ至るまで陣を構えた。これらは、賤ヶ岳城砦群と呼ばれ、一時期に築城された織豊期城郭として、学術的にも非常に貴重な遺跡群である。

また、余呉湖周辺には秀吉側の七本槍の活躍の跡地、さらに北には柴田側の毛受兄弟の墓等、合戦に関わる史跡が多く点在する。合戦の結果は、秀吉軍が勝利し、天下統一へ向けて歩を進めることとなった。



大岩山砦跡(中川清秀墓)

■エリア③ 賤ヶ岳城砦群と古戦場 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	玄蕃尾城跡(内中尾山城)	遺跡	国指定	余呉	余呉町柳ヶ瀬
2	別所山砦跡	遺跡	市指定	余呉	余呉町池原
3	行市山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町池原
4	中谷山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町池原
5	山寺山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町池原
6	大谷山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町小谷
7	柏谷山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町小谷
8	天神山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町国安
9	堂木山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町中之郷
10	東野山城跡	遺跡	市指定	余呉	余呉町東野
11	神明山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町八戸
12	大岩山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町坂口
13	賤ヶ岳七本槍戦功の地	遺跡	未指定	余呉	余呉町川並
14	毛受兄弟の墓	遺跡	未指定	余呉	余呉町新堂
15	賤ヶ岳城古戦場跡	遺跡	未指定	木之本・余呉	木之本町大音等
16	賤ヶ岳城跡	遺跡	未指定	木之本	木之本町大音
17	田上山城跡	遺跡	未指定	木之本	木之本町黒田

ア) 課題

賤ヶ岳城砦群等城砦の数は多いが保存活用団体は少ない。

各所に築かれた砦群は、堂木山砦、神明山砦等で測量調査が行われている程度で、調査が十分に行われていない。また、保存活用計画、整備基本計画の作成ができておらず、整備も進んでいない。

普及事業や観光振興も進んでおらず、城郭内や古戦場内には様々な団体が立てた看板等が存在し、統一が図られていない。

イ) 方針

歴史文化資産の保存・活用を図るため、賤ヶ岳古戦場に関連する全体の保存活用団体の設立を支援する。

各所に築かれた砦群は、調査や各種計画の作成を進め、歴史文化資産の整備を行う。

普及事業や観光振興については、地元団体と連携を取り、古戦場へのアクセスの検討・登山道の整備・看板等の統一等、観光の振興や地域と連携した普及活動を行う。

ウ) 措置

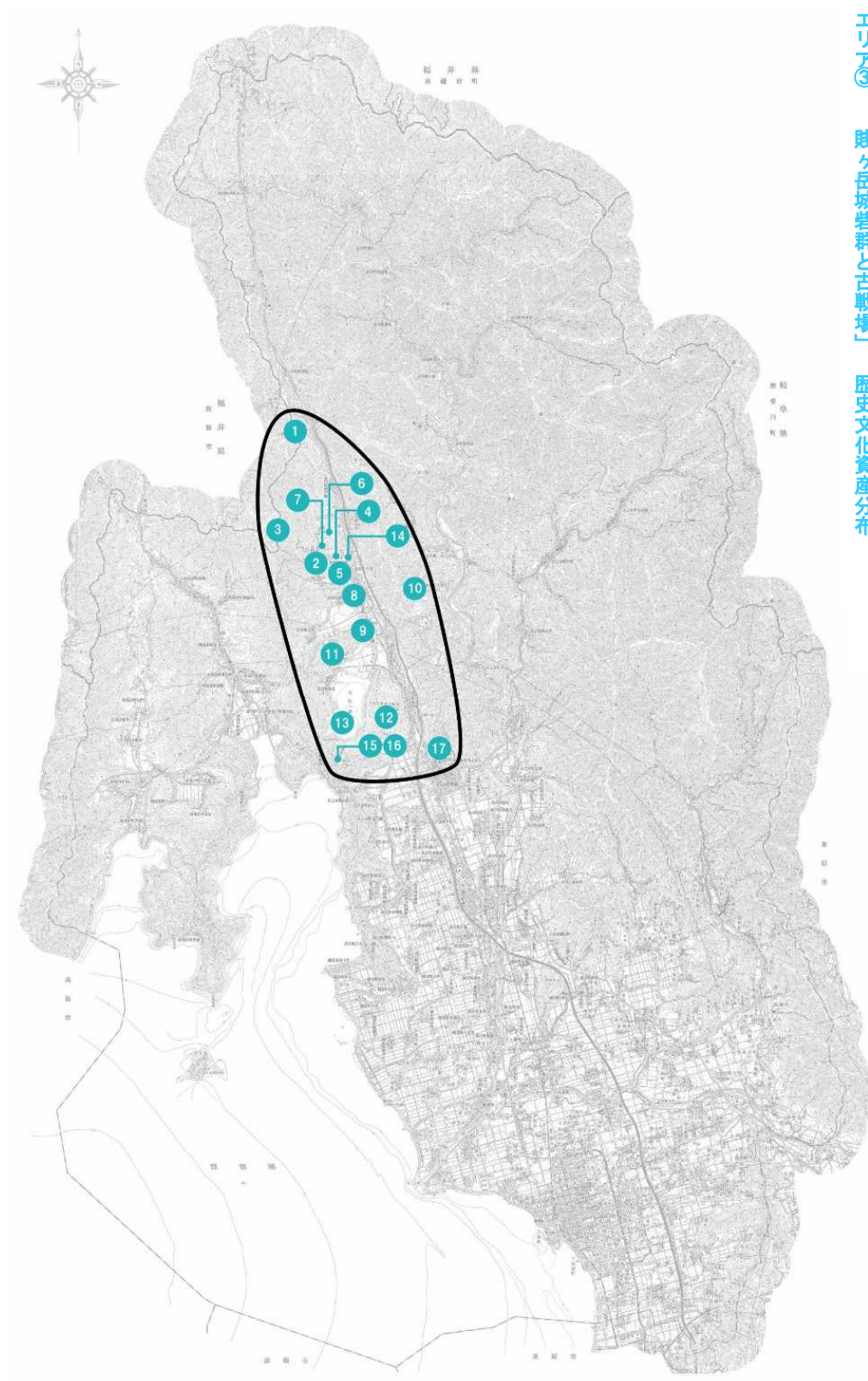
課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置 事業名・事業概要	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
			市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
37	賤ヶ岳城砦群と古戦場に関する保存活用団体の設立促進 歴史文化資産を後世に継承するため、保存活用団体がすでに設立されている場合は充実を図り、設立されていない場合は、その創設を促し、保存・活用の体制を確立していく。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	新規					
38	賤ヶ岳城砦群と古戦場に関する遺構の分布等事前把握 遺構の分布等事前把握を行う。	国費 市費等		○	◎	◎	◎	新規					

エリア③

賤ヶ岳城砦群と古戦場

歴史文化資産分布



エリア④ 竹生島・菅浦と水辺空間

国指定名勝・史跡である竹生島と、重要文化的景観で、国宝「菅浦文書」を残した西浅井町菅浦の地は、いずれも日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」に認定され、歴史が育んだ琵琶湖と人びとの暮らしを今に伝える地である。水とともに信仰と暮らしが生まれ、琵琶湖がつくった歴史的景観は、その美しい自然とともに、多くの来訪者に心の安らぎを与える。

④-1 竹生島と水辺空間

竹生島は、琵琶湖の北端に位置し、周囲 2km、面積 0.14k m²の島で、周囲は船着き場以外、急な崖になっている。古来、信仰の対象となった島名の由来は「神の^{いつ}斎く^{すまい}住居」が変じたものとされ、神の棲む島として崇められて信仰の対象となってきた。

西国三十三所第三十番札所となっている宝厳寺は、奈良時代に僧行基が四天王像を安置し創建されたとされ、本尊千手観音と弁才天の二仏を祀っている。また、『延喜式』の古代から、浅井比売^{あざいひめのみこと}命を祀る都久夫須麻神社が存在した。平安時代後期から神仏習合の信仰により、古くからの浅井比売命信仰と弁才天信仰を同一とみなす水神信仰が生まれ、日本における弁才天信仰の発祥地となっていく。

竹生島は、歴代室町将軍や、戦国大名浅井氏三代、それに織田信長、豊臣秀吉、秀吉の息子・秀頼、浅井長政の長女で、かつ秀頼の母であった淀殿の信仰は篤かった。特に、国宝となっている都久夫須麻神社本殿・宝厳寺唐門は、秀頼と淀殿が京都豊国廟から移設したものである。さらに、重要文化財の宝厳寺観音堂・宝厳寺渡廊も、豊臣秀頼・淀殿の建造に関わるものと見られる。現在では、琵琶湖に浮かぶパワースポットとしても広く知られており、神秘的な雰囲気を感じられる場所としても人気がある。

令和元年度には、日本遺産「1300 年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」の構成要素として認定された。



宝厳寺本堂（弁才天堂）

④-2 菅浦と水辺空間

湖岸集落で暮らす人びとは、古くから水辺特有の集落を形成し、湊を持ち湖上交通を有効に活用する暮らしが成立していた。特に、鎌倉時代から江戸時代にかけての集落の動向を記した国宝「菅浦文書」によると、永仁 3 年（1295）ごろから浅井郡菅浦（西浅井町菅浦）は集落北に所在する^{ひさし}日指・^{もろかわ}諸河の領有権を、隣接する集落である大浦と約 2 世紀にわたる係争を続けたことが知られる。また 14 世紀半ばには、住民の地縁的結合に基づく共同組織である「惣」が、菅浦において成立していたことが村掟等で知られる。中世以来の自治組織は、

時代に応じて緩やかに変化しながら、その「自治の伝統」は現在まで継承されている。

菅浦は奥琵琶湖の急峻な地形と、湖岸ならではの生活・生業によって形成された独特の集落景観を示す地である。中世の「惣」に遡る強固な共同体によって維持されてきた文化的景観であるが、国宝「菅浦文書」等により共同体のあり方を歴史的に検証できる、希有な事例であるとも言える。平成 26 年（2014）10 月 6 日に、国の「重要文化的景観」に選定された。



菅浦四足門（西門）

さらに、中世にまで遡る集落運営の仕組みとともに維持されてきた、菅浦の水辺の暮らしは、平成 28 年度に日本遺産「琵琶湖とその水辺空間―祈りと暮らしの水遺産―」の構成文化財として、竹生島とともに認定されている。また、隣接する西浅井町月出集落も、菅浦と同じく水辺と密接に関わった景観を有し、文化的景観として保存・活用すべき歴史文化資産である。

■エリア④ー1 竹生島と水辺空間 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	竹生島	遺跡・名勝地	国指定	びわ	早崎町
2	都久夫須麻神社本殿	建造物	国指定	びわ	早崎町
3	宝厳寺唐門	建造物	国指定	びわ	早崎町
4	宝厳寺観音堂	建造物	国指定	びわ	早崎町
5	宝厳寺渡廊	建造物	国指定	びわ	早崎町
6	竹生島文書	古文書	国指定	びわ	早崎町
7	宝厳寺五重塔（石造）	建造物	国指定	びわ	早崎町
8	釈迦三尊像（宝厳寺蔵）	絵画	国指定	びわ	早崎町
9	毛抜形太刀（宝厳寺蔵）	工芸	国指定	びわ	早崎町
10	銅水瓶（宝厳寺蔵）	工芸	国指定	びわ	早崎町
11	空海請来目録（宝厳寺蔵）	工芸	国指定	びわ	早崎町
12	駿河倉院（宝厳寺蔵）	工芸	国指定	びわ	早崎町
13	竹生島文書（宝厳寺蔵）	古文書	県指定	びわ	早崎町
14	弁才天像（宝厳寺蔵）	絵画	県指定	びわ	早崎町
15	不動明王坐像（宝厳寺蔵）	彫刻	県指定	びわ	早崎町
16	大般若波羅蜜多經（宝厳寺蔵）	書跡	県指定	びわ	早崎町
17	石燈籠（都久夫須麻神社蔵）	工芸	市指定	びわ	早崎町
18	鰐口（宝厳寺蔵）	工芸	市指定	びわ	早崎町
19	弁才天坐像（宝厳寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	早崎町
20	木造聖観音立像（宝厳寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	早崎町
21	宝厳寺本堂（弁才天堂）	建造物	未指定	びわ	早崎町
22	竹生島のタブノキ林	天然記念物	県指定	びわ	早崎町
23	竹生島一の鳥居	建造物	未指定	びわ	早崎町

■エリア④ー2 菅浦と水辺空間 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	菅浦与大浦下庄堺絵図	古文書	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
2	菅浦文書	古文書	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
3	菅浦の湖岸集落景観	文化的景観	国選定	西浅井	西浅井町菅浦
4	東西の四足門	建造物	国選定	西浅井	西浅井町菅浦
5	湖岸の石垣	遺跡	国選定	西浅井	西浅井町菅浦
6	阿弥陀如来立像 行快作	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
7	諸川瓦窯跡	遺跡	県指定	西浅井	西浅井町菅浦
8	六字名号曼荼羅（阿弥陀寺蔵）	絵画	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
9	仏涅槃図（真蔵院蔵）	絵画	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
10	阿弥陀如来坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
11	聖観音坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
12	阿弥陀如来立像（祇樹院蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
13	鰐口（須賀神社蔵）	工芸	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
14	銅鏡（須賀神社蔵）	工芸	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
15	須賀神社例祭（須賀の祭）	無形民俗	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
16	ヤンマー家庭工場	有形民俗	未指定	西浅井	西浅井町菅浦
17	月出の湖岸集落景観	文化的景観	未指定	西浅井	西浅井町月出
18	葛籠尾崎湖底遺跡	遺跡	未指定	湖北	湖北町尾上

本保存・活用区域には、「竹生島と水辺空間」と「菅浦湖岸集落と水辺空間」の2区域を設定する。

ア) 課題

竹生島や菅浦については、保存管理計画に則った維持管理ができていない。

日本遺産「竹生島と水辺空間」や「菅浦と水辺空間」は普及啓発の取組ができていない。

観光については関係団体と連携した取組が進められていない。

イ) 方針

竹生島・菅浦は、保存管理計画に則り、維持管理を進める。

普及啓発については、竹生島や菅浦の文化財群に関するパンフレットの作成を進め、菅浦郷土史料館や市広報・ホームページ等も活用し、魅力を内外にPRする。

観光については、関係団体と連携し、現地に統一された看板等の設置、ガイドマップを充実することで誘致し、歴史文化資産的価値に重きを置いた見学を進める。

ウ) 措置

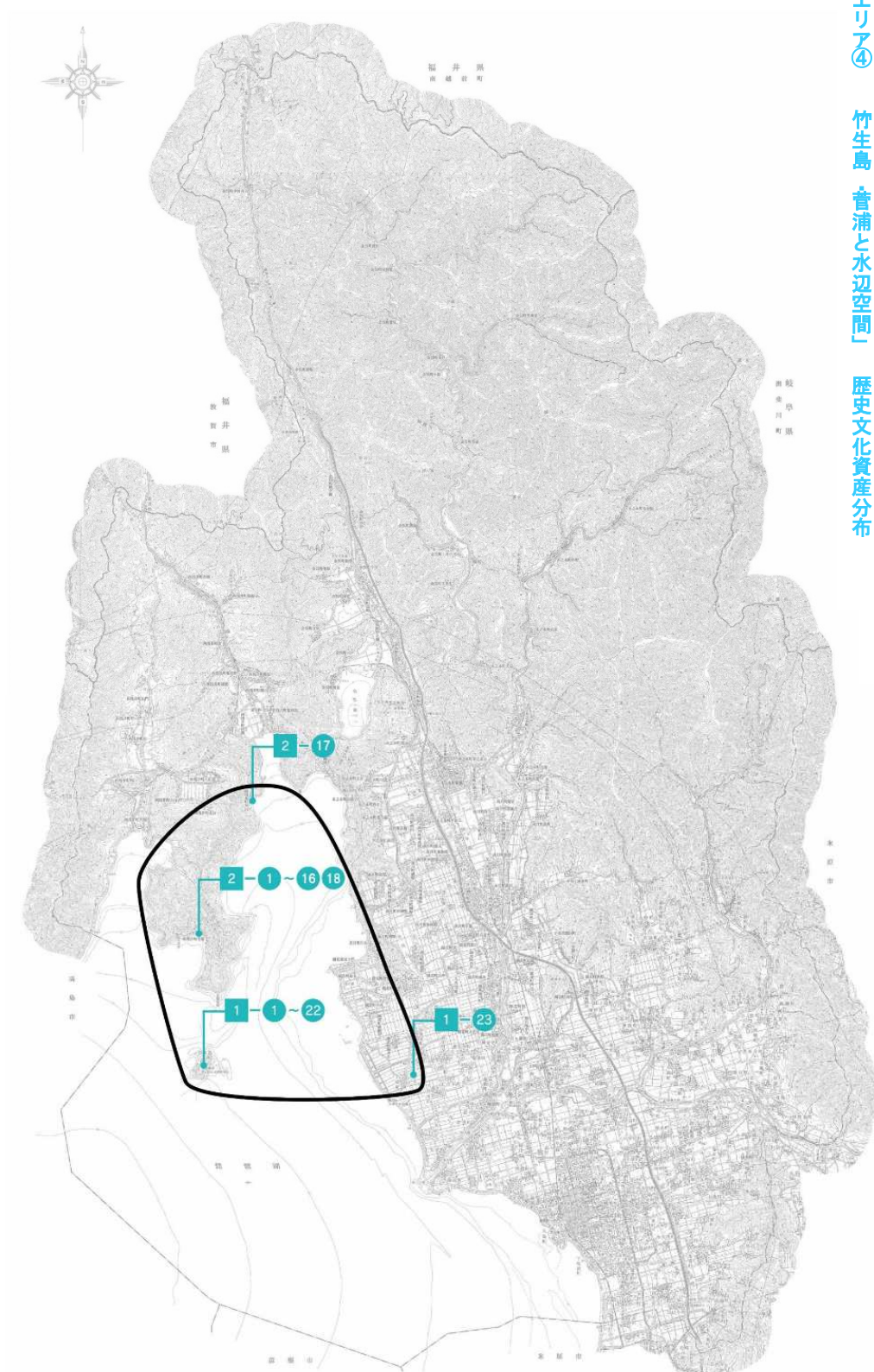
課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
39	竹生島の保存・活用 保存管理計画に則り、竹生島の維持管理・保存修理を定期的 に実施すること。	国費 県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続					

エリア④

竹生島 音浦と水辺空間

歴史文化資産分布



エリア⑤ 菅並集落と丹生谷の山村生活

余呉町^{にゅうだに}丹生谷にある菅並集落は、今も 40 棟ほどの余呉型民家が現存し、日本の伝統的な農山村景観を現在に伝えている。余呉型民家は天井に十字梁を組み、屋内に大きな空間をつくって冬の仕事を確保することに特徴がある。全国的にも著名な民家類型である余呉型民家の密集地は、周辺に点在するホトケたちや、奇祭・上丹生の曳山茶碗祭とともに、この谷が歴史文化資産の宝庫であることを我々に伝えてくれる。

菅並集落と丹生谷の山村生活関連地域は、平安時代まで美濃と越前を結ぶ交通の要衝であるとともに、余呉地域東部を流れる高時川一帯の山間地で、県下でも有数の豪雪地帯である。マクロには大陸文化の影響を受けつつも、ミクロには地形的・経済的に都市や他地域からの影響が少ない農山村として、独自の地域文化が育まれてきた。

本地域には、菅並集落を中心に余呉型民家と呼ばれる入母屋造草葺妻入が特徴的な住居が数多くみられる。集落内に密に建ち並ぶ農山村の風景は、古き良き日本の風情を今に伝える、文化的な景観となっている。また、湖北地方^{とうきふ}の豊かな仏教文化を示すように、菅並洞寿院^{とうじゆういん}の観音菩薩立像や上丹生薬師堂の薬師如来立像をはじめ、天台宗や真言宗、曹洞宗の影響下にある寺院に、優れた仏像や工芸品等が伝わっている。

さらに、陶器の山飾りが特徴の曳山と、古式ゆかしい稚児の舞や華麗な^{はなやっこ}花奴踊りを奉納する上丹生の曳山茶碗祭、年の初めに村内安全と五穀豊穰を祈願する「オコナイ」等、行事の継承・記録化が必要なものがある一方、地域づくりにも活用したい歴史文化資産が多く点在する地域である。

さらに、丹生谷の南部にあり、菅原道真信仰と結びついた天神信仰の山である山岳寺院・菅山寺も、数多くの仏教文化を伝え、その伽藍跡や所蔵する歴史文化資産とともに、貴重な歴史文化資産と考えるべきである。



菅並集落の風景



上丹生の曳山茶碗祭行事で賑わう

上丹生薬師堂（平成 26 年）

エリア⑤ 菅並集落と丹生谷の山村生活 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	木造観音菩薩立像（洞寿院蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町菅並
2	大日如来坐像（洞寿院蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町菅並
3	木造地藏菩薩坐像（洞寿院蔵）	彫刻	未指定	余呉	余呉町菅並
4	菅並余呉型民家群	伝統的建造物群	未指定	余呉	余呉町菅並
5	菅並の文化的景観	文化的景観	未指定	余呉	余呉町菅並
6	木造薬師如来立像（源昌寺蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町上丹生
7	上丹生薬師堂（源昌寺蔵）	建造物	県指定	余呉	余呉町上丹生
8	上丹生の曳山茶碗祭	無形民俗	県指定	余呉	余呉町上丹生
9	木造薬師如来坐像（源昌寺蔵）	彫刻	県指定	余呉	余呉町上丹生
10	日光・月光菩薩立像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
11	木造聖観音坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
12	木造僧形坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
13	銅鐘（菅山寺蔵）	工芸	国指定	余呉	余呉町坂口
14	石燈籠（菅山寺蔵）	工芸	市指定	余呉	余呉町坂口
15	狛犬（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
16	十一面観音立像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
17	不動明王坐像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
18	菅山寺	遺跡	未指定	余呉	余呉町坂口

ア) 課題

菅並集落や集落が立地する丹生谷の歴史的町並みや農村景観が失われつつあるが、調査が進んでいない。

数多くの歴史文化資産が存在するが、普及する機会が無く、産業振興策も図られていない。さらに、歴史文化資産の価値付けが進んでいない。

イ) 方針

「余呉型民家」が数多く残る菅並集落の調査や丹生谷、菅山寺の調査を行い、調査結果をもとにした講演会や見学会、博物館・資料館における展示を行う。

普及については、地域内の自然や歴史文化を体験する事業、看板等、パンフレットの充実を図り、普及を進める。

産業振興については、空き家を使った飲食店等の出店を推進し、丹生谷の振興を図る。

そして、菅並の「余呉型民家」を核とした村落景観を保存するための価値付けを行う。

ウ) 措置

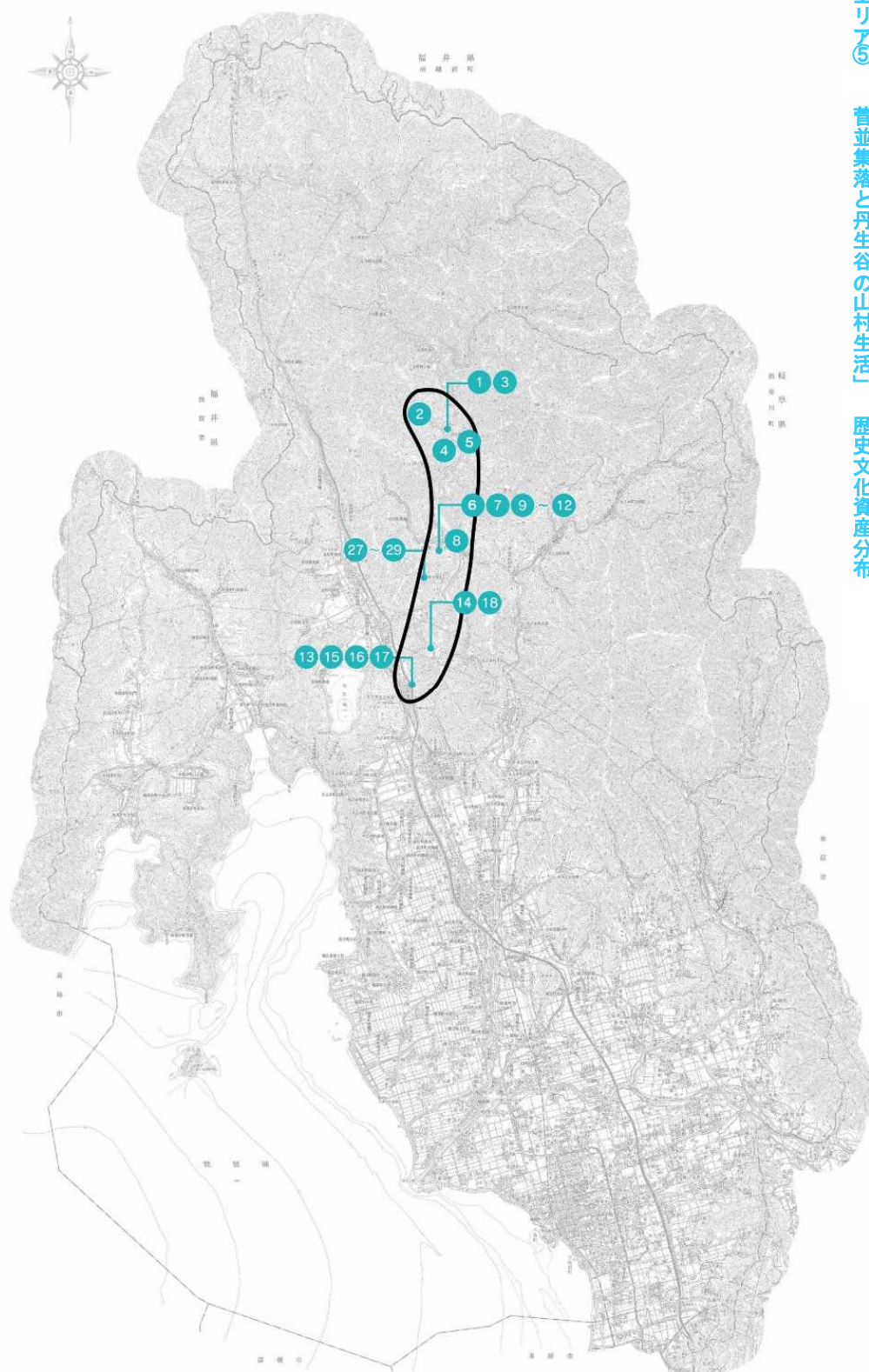
課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
40	菅並集落の伝統的建造物群調査 菅並集落の町並み調査を実施する。	国費 市費等	○	○	○	◎	◎	継続					

エリア⑤

菅並集落と丹生谷の山村生活

歴史文化資産分布



エリア⑥ 大吉寺と草野川・姉川流域の仏教文化

大吉寺は、鎌倉幕府を開いた源頼朝が信仰した寺院と言われ、その供養塔も山上に現存する。織田信長の焼き討ちにあって、麓に下ることになるが、今も山上には中世の繁栄を示す大伽藍の跡が残存する。この寺と、その麓から流れ出る草野川・姉川流域の歴史文化資産は、この地域に広がった祈りの文化の重みを今に伝える。

天吉寺山には、山岳寺院の大吉寺があり、役小角による建立伝承の他、僧安然による建立伝承がある。鎌倉時代には、平治の乱に敗れた源義朝（または頼朝）を匿ったという伝承があり、寺院跡には伝頼朝供養塔も残る。室町時代には、足利將軍家の祈祷所となり、歴代將軍からの祈祷を命じた文書が残っている。元龜争乱時、織田信長による攻勢によって寺院は、壊滅的打撃を受けた。その結果、山上の大吉寺は再興されなかったが、麓の三院二坊により、法統は継承され仏像と古文書類等貴重な歴史文化資産は守られた。

また、山上には大吉寺の広大な寺院跡があり、本堂跡、灯籠台座、鐘楼跡、仁王門跡等の貴重な遺構がみられる。大吉寺がある草野川流域には、建立を古代に設定する寺院・神社が多くみられる。醍醐寺は、役小角による建立伝承や、重要文化財の彫刻や工芸品を多数保管している。

草野川の下流にあたる姉川流域には、古代創建寺院として総持寺、神照寺等がある。総持寺は、行基建立伝説、「本能寺の変」の際には、幼少の小早川秀秋が避難したことで知られる。また、仏像や貴重な古文書も多数みられる。

神照寺は、宇多天皇の勅願により建立された寺院で、多くの学僧や名僧たちが誕生し最盛期には、神照寺百坊と呼ばれたが、姉川合戦の際に浅井方だったため、信長の攻撃により大打撃を受けたとされる。秀吉の長浜城主時代に寺の復興は許され現代に至る。寺院には、国宝の「華籠」や多数の仏像と古文書類があり、貴重な歴史文化資産を収蔵している。



大吉寺石造宝塔（伝源頼朝供養塔）

■エリア⑥ 大吉寺と草野川・姉川流域の仏教文化 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	大吉寺跡	遺跡	県指定	浅井	野瀬町
2	伝源頼朝供養塔	建造物	県指定	浅井	野瀬町
3	大吉寺文書	古文書	未指定	浅井	野瀬町
4	大吉寺庭園	名勝地	市指定	浅井	野瀬町
5	阿弥陀如来立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
6	地藏菩薩立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
7	元三大師坐像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
8	聖観音立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町

9	梵鐘（上許曾神社蔵）	工芸	県指定	浅井	高山町
10	木造大日如来坐像（光信寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	太田町
11	木造毘沙門天立像（醍醐寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	醍醐町
12	彩色阿字華鬘（醍醐寺蔵）	工芸	県指定	浅井	醍醐町
13	法具類（醍醐寺蔵）	工芸	県指定	浅井	醍醐町
14	釈迦十六善神像（醍醐寺蔵）	絵画	市指定	浅井	醍醐寺
15	大師画像（醍醐寺蔵）	絵画	市指定	浅井	醍醐寺
16	不動明王像（醍醐寺蔵）	絵画	市指定	浅井	醍醐寺
17	八祖大師像（醍醐寺蔵）	絵画	市指定	浅井	醍醐寺
18	大般若経（宋版、醍醐寺蔵）	書跡	市指定	浅井	醍醐寺
19	木造聖観音立像（南郷町蔵）	彫刻	市指定	浅井	南郷町
20	木造阿弥陀如来立像（小野寺町蔵）	彫刻	市指定	浅井	小野寺町
21	木造不動明王坐像（大聖寺不動堂蔵）	彫刻	市指定	浅井	大門町
22	木造聖観音立像（総持寺蔵）	彫刻	国指定	南郷里	宮司町
23	総持寺大門（仁王門）	建造物	県指定	南郷里	宮司町
24	総持寺庭園	名勝地	県指定	南郷里	宮司町
25	木造聖観音立像（総持寺蔵）	彫刻	市指定	南郷里	宮司町
26	木造千手観音立像（総持寺蔵）	彫刻	市指定	南郷里	宮司町
27	金銀鍍透彫華籠（神照寺蔵）	工芸	国宝	神照	新庄寺町
28	木造半肉彫十一面観音立像（神照寺蔵）	彫刻	国指定	神照	新庄寺町
29	木造毘沙門天立像（神照寺蔵）	彫刻	国指定	神照	新庄寺町
30	木造不動明王立像（見返り不動、神照寺蔵）	彫刻	県指定	神照	新庄寺町
31	木造不動明王立像（神照寺蔵）	彫刻	県指定	神照	新庄寺町

ア) 課題

湖北の仏教文化が花開いた地域であるが、大吉寺跡に至っては、山上に伽藍が築かれ、容易にたどり着けないことから調査が十分に行われておらず、調査成果を公表する機会も設けられていない。

普及啓発が十分に図られていないため、市民への歴史文化資産の価値の浸透が進んでいない。また、現地を訪れやすい環境の整備が進んでいない。

イ) 方針

多彩な仏教文化や区域内の寺院についての史跡・古文書・仏像・建造物等の総合的な調査を実施し、大吉寺々坊跡の全体像の把握を進め、調査の成果報告会を行う。

普及啓発においては、ガイドマップ・パンフレットの作成や小中学校への出前授業等、多彩な事業で歴史文化資産の重要さをPRし、現地を訪れやすいよう登山道等の整備を進める。その結果、寺院の歴史と歴史文化資産が市民の誇りとなるようにする。

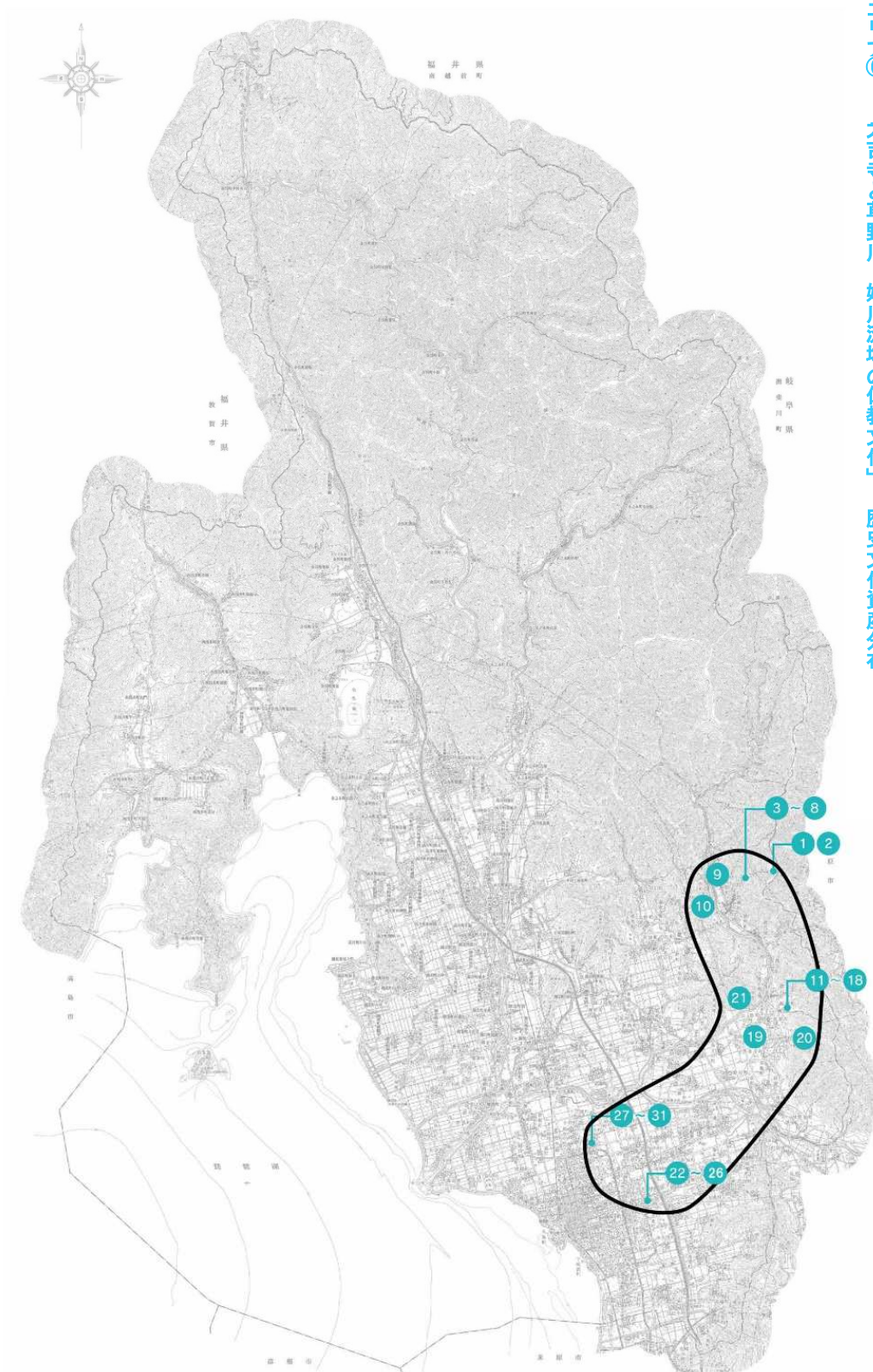
ウ) 措置

課題解決のためには、様々な事業が考えられるが、今回の計画期間においては、下記の事業を実施する。

番号	保存と活用に関する措置 事業名・事業概要	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
			市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
41	歴史文化資産（大吉寺等）の保存・活用 大吉寺跡等の維持管理や案内を行い、保存・活用を進める。	民間等		◎	◎			継続					

エリア⑥

大吉祥寺と草野川・姉川流域の仏教文化」 歴史文化資産分布



第9章 歴史文化資産の防災・防犯

1 歴史文化資産の防災・防犯に関する課題

歴史文化資産の防災、防犯に関する方針として、滋賀県は「滋賀県文化財保存活用大綱」（令和2年）、長浜市は「長浜市地域防災計画」（平成30年）をそれぞれ作成している。

「滋賀県文化財保存活用大綱」には、平時の取組と災害発生時の対応が記載されており、平時の取組として具体的には防災、防火、防犯、大規模災害への対策が挙げられている。

「長浜市地域防災計画」には、歴史文化資産等への予防対策と被災の際の対策を記載しており、「災害予防計画」として具体的に立入検査、保護意識の普及および訓練、自主防火管理体制の強化、防火施設の整備拡充、自衛消防隊等の育成指導、火気の使用制限区域の設定を挙げている。また、被災時の対策は「災害応急対策計画」として、関係機関の行動手順等を記載している。

様々な環境のなか市内で守られている歴史文化資産については、絶えず火災や地震・台風・大雪等自然災害、それに盗難等の危害にあう可能性がある。また、人口減少や高齢化により、今まで通りの歴史文化資産の管理が難しくなっているため、歴史文化資産の防災設備を整えられない点や、防犯対策を講じられない点が課題として生じている。

2 歴史文化資産の防災・防犯に関する方針

本計画は、「世界遺産・国宝等における防火対策5か年について」や「国の文化財の防火対策ガイドライン」、「滋賀県文化財保存活用大綱」等に準じて、防火設備の整備や早期覚知のための警報設備の充実、防災設備の定期点検や防災訓練の実施を促す。

歴史文化資産を災害から守るためには、「滋賀県文化財保存活用大綱」、「長浜市地域防災計画」に従いつつ、日頃から所有者や市民、県との連携を取って、個別の事例に応じた対策を講じておく必要がある。

防災・防犯の推進体制は、行政・市民・歴史文化資産の所有者間が情報共有し連携しながら実施していくことが求められる。

火災・大雨・台風・地震等に対する歴史文化資産の防災については、文化財防火デーや防災訓練等の機会をとらえて、市民に防災意識を浸透させていく。また、防犯については、市民・歴史文化資産の所有者によるパトロールを定期的の実施するよう促す。

災害発生時は、滋賀県と緊密に連携し、迅速な状況把握を行う。また、被害拡大防止の応急処置が必要な場合は、滋賀県の指導のもと応急措置を行う。

3 歴史文化資産の防災・防犯に関する措置

防災については、歴史的建造物に対して、文化庁の重要文化財（建造物）耐震診断指針に基づき、専門家による耐震診断を促す。耐震工事が必要と判断されたものについては、その対策や工事の見通しを明確にする。老朽化が進んでいる歴史的建造物に対しては、修理を進

める。

有形文化財等の建物や、歴史文化的価値がある建物の付近では、焚き火や喫煙制限についての周知を図り、火災防止に努める。

また、指定等文化財の所有者や管理者に向けては、自動火災報知器や消火器等の消火設備や、防火壁等の防火設備の整備を促し、これに伴う補助金制度も周知する。

非常時に消火設備の使用が適切に行われ、かつ消防機関への迅速な通報が可能になるよう、設備の点検を怠らず、歴史文化資産の避難を意識した防火訓練を定期的に行う。

「長浜市指定等歴史文化資産地図」や過去の風水害や震災の被害状況、さらに長浜市防災ハザードマップ（洪水・土砂災害）を参照し、歴史文化資産防災マップを作成する。そして、歴史文化資産の所在地に保存・保管されている歴史文化資産の価値について解説した解説サイン・看板等を設置することで、災害時において市民の迅速な対応を促す。

防犯については、防犯ブザー・ベル等の防犯設備の設置を促す他、指定等文化財の防犯対策を対象にした補助金制度についても周知を促す。

また、村落人口の減少により地域の歴史文化資産に目が行き届かなくなる中、歴史文化資産のデータ管理の方法についても検討しなければならない。盗難時に歴史文化資産の法量や写真データがあると、警察による捜索や、発見された盗品との同定において有効である。そのため、寺院什物や神社宝物、個人蔵の未指定を含む歴史文化資産について、現状の記録・撮影・目録化を行い、そのデータを保管しておく大切さを周知する。あわせて、その事業を支援する。

凡例

国費：歴史文化資産補助金、地方創生推進交付金等とする。
県費：滋賀県文化財保存事業費補助金、各種助成金とする。
市費：市単費、補助金等とする。
民間：行政からの補助金以外とする。

市民：市民
所有者：歴史文化資産所有者
団体：民間活動団体、各種団体、協議会等
専門家：大学、博物館等
行政：長浜市

◎：中心になって取り組む
○：協力して取り組む
△：参画しないが協力体制を整えておく

番号	保存と活用に関する措置	財源	実施体制					新規 継続	事業計画期間				
	事業名・事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年
5-1	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の防災マップ）（※再掲） 歴史文化資産を災害から守るため、洪水時の水位線の記録や、震災時の歴史伝承を活かした歴史文化資産防災マップを作成する。	国費 県費 市費等	△	○	◎		◎	新規					
5-2	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産のパトロール）（※再掲） 歴史文化資産の防犯・防災のため、パトロールを行い、現状把握に努める。	市費等	◎	◎	◎		○	新規					
5-3	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の防犯・防災設備設置等）（※再掲） 歴史文化資産の防犯・防災設備の更新・設置や耐震診断を行う。 （宝蔵寺観音堂、唐門、渡廊（低屋根）、渡廊（高屋根）、都久夫須麻神社本殿等）	国費 県費 市費 民間	◎	◎	◎		◎	継続					
5-4	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の防火訓練）（※再掲） 消防署等により防火訓練を実施する。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続					
5-5	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の台帳作成）（※再掲） 歴史文化資産の目録や写真撮影を行い、台帳として整理することによって、災害に備える。	国費 県費 市費 民間等		◎	◎	○	◎	新規					

第 10 章 歴史文化資産の保存・活用の推進体制

1 歴史文化資産の保存・活用の推進体制

(1) 長浜市の体制

長浜市文化財保存活用地域計画を実現していくための本市の体制は、以下のとおりである。(令和 3 年 4 月 1 日現在)

長浜市
市民協働部 学芸専門監 1 名（美術工芸品 1 名） 歴史遺産課（文化財主管課） 業務内容：歴史文化に関すること 課長 1 名 歴史まちづくり係 4 名 文化財係 8 名（うち専門職員 6 名：美術工芸品 1 名、埋蔵文化財 4 名、建造物 1 名） 博物館・資料館係 12 名（うち専門職員 8 名：美術工芸品 2 名、民俗 2 名、歴史 3 名、埋蔵文化財 1 名）
所管機関
歴史文化施設（市直営 4 館）
関連部局
政策デザイン課、都市計画課、観光振興課、防災危機管理局、教育委員会
関係機関
歴史文化施設（市直営 1 館、指定管理 6 館、補助金交付自治会等 5 館、自治会 3 館、私設・法人 5 館）、各日本遺産協議会、滋賀県立大学等
長浜市文化財保護審議会
審議会は、市長の諮問に応じ、歴史文化資産の保存および活用に関する重要な事項について、調査審議し、並びにこれらの事項に関して市長に建議する。 また、本計画に掲げる内容に基づき実施する具体的な施策について評価する。 委員の専門分野 美術工芸（古美術全般） 美術工芸（宗教美術） 書跡（古文書） 地域史（民俗芸能） 史跡（古代） 民俗（民俗芸能） 建造物（古建築）

※市民・所有者・団体・専門家・行政は、各措置において「中心になって取り組む」・「協力して取り組む」・「参画しないが協力体制を整えておく」等の役割のもと計画の推進を図る。

(2) 体制整備の課題・方針

今後の課題は、小谷城跡の整備活用をはじめとして、個別の歴史文化資産の総合的な調査、保存管理計画や整備基本計画の作成を推進しなければならないが、それらの調査を実施したり、計画を作成したりする体制が整っていない。

そのためには、これらに専門的に取り組む人員の配置が必要となる。また、県内で2番目の数を誇る指定された歴史文化資産数、多種多様化する歴史文化資産の保護制度等に適切に対応していくためには、文化財類型ごとに専門職員を配置し、それぞれが密接に連携しながら歴史文化資産保護に取り組んでいく必要がある。

(3) 保存・活用を推進するための施設の確保

博物館・資料館は、保存・活用体制の情報発信基地として、また有形文化財（美術工芸品・有形民俗文化財・考古資料等）の保管場所としての役割も担うべきとの博物館法に照らした使命から、展示・普及・研究・収蔵機能の確保を行う。

また、博物館・資料館は直営施設と、それ以外の地域運営施設（指定管理・補助金による運営）との区別を明確化する。後者については保存活用団体・地域づくり協議会等の自主的運営を尊重する。また、運営方法については施設の統廃合も含め、最適な方法を検討していく。

(4) 保存・活用に関わる人材の確保・育成

歴史文化資産の保存・活用に関わる人材を確保・育成するため、長浜市は以下のことを行っていく。

- ①歴史文化資産の解説ボランティアを確保するため、行政は長浜市のボランティアガイド団体と密接な連携を図り、新たな人材の発掘や育成に努める。
- ②地域において歴史文化資産の保存・活用を主体的に行う住民を確保するため、歴史文化資産の価値や活用の方法について、絶えず情報発信を行う。
- ③歴史文化資産に関わる専門職員を確保するため、職員採用を計画的に行っていく。採用した職員に対しては、最新の研究成果を共有する研修を行って、人材の育成を図っていく。
- ④歴史文化資産の保存・修理に関わる職人の養成に力をいれていく。
- ⑤将来において歴史文化資産に関心がある住民を多く育てるため、小中学校における郷土史教育を、学校現場と協調して絶えず行っていく。

(5) 保存活用団体等への支援

地元の保存活用団体、地域団体が所有者（個人・法人）を支援して自立的に歴史文化資産を守る体制を確立していく。特に、関連文化財群・歴史文化保存活用区域については、その関連文化財群・区域ごとの保存活用団体を設立することも考慮しつつ、総体的・面的整備を市民・行政・地域の連携で推進する。

さらに、長浜市は文化財類型ごとの所有者連絡協議会の設立を促し、地域における歴史文化資産のあり方についての問題の共有化を行う。このなかでは、行政とともにその保存・活用について協議することで、問題の総体的かつ抜本的解決を目指していく。

第 11 章 参考データ

1 長浜市の年表

時代・年代	長浜市域の歴史	日本の動き
縄文時代	宮司東遺跡・醍醐遺跡・高橋遺跡等の遺跡が知られる。	
弥生時代	川崎遺跡・大辰巳遺跡・宮司遺跡・十里町遺跡等の遺跡が知られる。	
古墳時代	姉川左岸の横山丘陵北部を本拠地として坂田氏が支配していたとされる。また伊香郡では伊香氏が豪族として勢力を拡大していた。	
推古天皇 14 年 (606)	鞍作島が功績として推古天皇から坂田郡 20 町を賜る。	
大化元年 (645)	大化の改新以降、長浜でも条里制が施行された。「十里」「十九」「五ノ坪」等条里の名残を残す地名がある。	大化元年 (645) 大化の改新
天智天皇 6 年 (667)	この頃、柿田廃寺・新庄馬場廃寺・大東廃寺・八島廃寺等が造営される。	天武天皇元年 (672) 壬申の乱
天平 10 年 (738)	この年、僧行基が竹生島に渡り、草庵を結ぶという。	和銅 3 年 (710) 平城京遷都
延喜 12 年 (912)	この年、良源 (元三大師) が浅井郡に生まれる。	延暦 13 年 (794) 平安京遷都
平安時代	長浜市内の多くの荘園が成立する。 また、向源寺の十一面観音立像等、多くの観音像が造像される。	
治承 4 年 (1180)	近江の源氏・山本義経らが平氏と戦うが鎮圧される。	文治元年 (1185) 源頼朝が守護・地頭を設置
仁治 3 年 (1242)	佐々木信綱が没し、近江守護佐々木家は、3 男佐々木泰綱 (六角氏祖)、4 男佐々木氏信 (京極氏祖) 等に分かれる。	
永仁 3 年 (1295)	この頃から浅井郡菅浦 (西浅井町菅浦) は集落北に所在する日指・諸河の領有権をめぐる、隣接する集落である大浦と約 2 世紀にわたり争った。	
観応 2 年 (1351)	八相山 (虎御前山) で足利尊氏と直義が戦う。	建武元年 (1334) 建武の新政
永享 7 年 (1435)	長濱八幡宮で堂塔再建のための勧進猿樂が興行される。	
応仁元年 (1467)	応仁の乱以降、湖北地方は上平寺城主・京極高澄の勢力下に入る。	応仁元年 (1467) 応仁文明の乱
大永 3 年 (1523)	大吉寺梅本坊公事で京極高澄が失脚し、徐々に浅井亮政が勢力を得る。	
大永 5 年 (1525)	この頃、浅井氏が小谷城を築城する。	
元亀元年 (1570)	姉川合戦で浅井長政が織田信長と戦う。	
天正元年 (1573)	織田信長によって小谷城が攻め落とされる。	
天正 2 年 (1574)	羽柴秀吉によって長浜築城が始まる。	
天正 8 年 (1580)	この頃までに小谷城下等から伊部町・呉服町・箕浦町・神戸町等の横町を移し、城下町の中心部分が成立した。	
天正 10 年 (1582)	明智方の京極高次らによって、一時長浜城が占拠される。	天正 10 年 (1582) 本能寺の変
天正 11 年 (1583)	賤ヶ岳合戦で羽柴秀吉と柴田勝家が戦う。	
天正 13 年 (1585)	山内一豊が長浜城主となる。	

時代・年代	長浜市域の歴史	日本の動き
慶長 5 年 (1600)	関ヶ原で敗戦した石田三成が、伊香郡古橋村で田中吉政によって捕縛される。	慶長 5 年 (1600) 関ヶ原合戦
慶長 20 年 (1615)	前年からの大坂の陣により、徳川家康から国友鉄砲鍛冶へ大量の鉄砲が発注される。	慶長 20 年 (1615) 大坂夏の陣
元禄 8 年 (1695)	長浜町は繊維業等商工業を中心に繁栄、この年には 95 の業種、434 人の経営者がいた。	
元禄 9 年 (1696)	彦根藩の命により「長浜町絵図」が描かれる。	
元禄 11 年 (1698)	宮川村（現・宮司町）に宮川藩（藩主：堀田氏）が成立する。	
正徳元年 (1711)	雨森芳洲が第 8 次朝鮮通信使に真文役として同行し活躍。	
享保 3 年 (1718)	雨森芳洲が第 9 次朝鮮通信使に真文役として同行し活躍。	
天明 8 年 (1788)	小室藩（藩主：小堀氏）が改易となる。	
		明治元年 (1868) 戊辰戦争、明治新 政府成立
明治 4 年 (1871)	県下初の小学校「第一小学校」開校。	明治 4 年 (1871) 廃藩置県
明治 5 年 (1872)	長浜港に蒸気船・湖龍丸が就航。	
明治 7 年 (1874)	「第一小学校」が神戸町に校舎を新築し「開知学校」とされた。	
明治 10 年 (1877)	町民有志が長浜停車場の設置を請願。 全国で 21 番目の「第二十一国立銀行」が長浜町に開業する。	明治 10 年 (1877) 西南戦争
明治 13 年 (1880)	長浜が鉄道と湖上交通との結節点と決まり、北陸線は塩津経由が柳ヶ瀬経由に変更された。	
明治 15 年 (1882)	長浜～敦賀間のうち長浜～柳ヶ瀬と柳ヶ瀬トンネルの西側の洞道口～金ヶ崎までの鉄道が開業。現存国内最古の鉄道駅舎である旧長浜駅本屋（県指定）が建てられる。	
明治 19 年 (1886)	近江縮緬絹縮業組合が設立。	明治 19 年 (1886) 学制改革。小学校 令の発布。
明治 20 年 (1887)	下郷伝平らが近江製糸株式会社を設立。 近江縮緬絹縮業組合が近江縮緬業組合となる。	
		明治 22 年 (1889) 東海道線の全通。
		明治 27 年 (1894) 日清戦争勃発
明治 28 年 (1895)	長浜貯金銀行、長浜銀行が設立される。	明治 28 年 (1895) 銀行条例・貯蓄銀 行条例が改正され 各地に銀行が乱 立。日清戦争終戦
明治 30 年 (1897)	第二十一銀行が開業満期に伴い、国立銀行から株式銀行へと改称した。	
明治 31 年 (1898)	近江縮緬業組合が浜縮緬同業組合となる。	
明治 34 年 (1901)	南小足町で浜蚊帳合名会社（後の樋口蚊帳製織工場）創業。	
		明治 37 年 (1904) 日露戦争勃発

時代・年代	長浜市域の歴史	日本の動き
明治 38 年 (1905)	石田町で近江ヴェルベット合名会社創業。	明治 38 年 (1905) 日露戦争終戦、ポーツマス条約締結
明治 42 年 (1909)	姉川地震があり、建造物の倒壊等の被害がある。	
昭和 4 年 (1929)	第二十一銀行が江北銀行と伊香銀行と合併し湖北銀行となる。	
昭和 18 年 (1943)	坂田郡長浜町・神照村・六荘村・南郷里村・北郷里村・西黒田村・神田村が合併して長浜市が発足。	昭和 16 年 (1941) 太平洋戦争勃発
平成 18 年 (2006)	東浅井郡浅井町・びわ町と合併。	
平成 22 年 (2009)	東浅井郡虎姫町・湖北町、伊香郡高月町・木之本町・余呉町・西浅井町と合併。	

2 長浜市の指定等歴史文化資産一覧

本表は、令和 3 年 6 月 30 日現在の長浜市内にある国・県・市指定（選択・選定・登録）された歴史文化資産の一覧である。市内で多く点在する未指定の歴史文化資産は、本計画の第 4 章 5 の「未指定の歴史文化資産」にある他、本計画の第 8 章に示した関連文化財群や歴史文化保存活用区域の歴史文化資産として掲示している。

国指定等歴史文化資産数表

（令和 3 年 6 月 30 日現在）

No.	国	指定区分	種別	名称	件数	点数	年代	指定年月日	所有者	所在地
1	1	国宝	建造物	都久夫須麻神社本殿 桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、前後軒唐破風付、周囲庇及び正面向拝一間付、総檜皮葺 附 棟札 1 枚 建立慶長七 ^{千七百} 三年九月六日の記がある	1	1 棟	桃山 慶長 7 年 〔棟札〕（身舎） 室町 永禄 10 年 〔棟札〕（向拝及び庇）	明治 32 年 4 月 5 日 昭和 28 年 3 月 31 日 追加 昭和 28 年 3 月 31 日	都久夫須麻神社	早崎町
2	2	重要文化財	建造物	宝厳寺 唐門 一間一戸向唐門、檜皮葺 附 棟札 1 枚 修営慶長八 ^{千六百} 年六月の記がある 観音堂 桁行五間、梁間四間、一重、入母屋造、檜皮葺 渡廊（低屋根） 桁行八間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺 渡廊（高屋根） 桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺	1	4 棟	桃山 慶長 8 年 〔棟札〕 （唐門は移築）	昭和 28 年 3 月 31 日 明治 34 年 3 月 27 日 記変 昭和 16 年 4 月 24 日 記変 昭和 28 年 3 月 31 日	宝厳寺	早崎町
3	3	国宝	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安	明治 30 年 12 月 28 日 昭和 28 年 3 月 31 日	向源寺	高月町 渡岸寺
4	4	国宝	工芸品	金銀鍍透彫華籠	1	16 枚	平安～鎌倉	昭和 12 年 5 月 25 日 昭和 27 年 11 月 22 日	神照寺	新庄寺町
5	5	国宝	書跡等	法華経序品（竹生島経） 寛永丁卯松花堂昭乗跋	1	1 帖	平安	大正 12 年 3 月 28 日 昭和 29 年 3 月 20 日	宝厳寺	早崎町
6	6	国宝	書跡等	菅浦文書 （千二百八十一通） 菅浦与大浦下庄堺絵図 （着色）	1	65 冊 1 幅	鎌倉～江戸	平成 30 年 10 月 31 日	須賀神社	西浅井町 菅浦
7	7	重要文化財	建造物	大通寺本堂 桁行正面五間、背面九間、梁間八間、一重、入母屋造、向拝一間、背面一間通り庇附属、本瓦葺	1	1 棟	江戸 明暦 3 年 〔擬宝珠銘〕	大正 4 年 3 月 26 日 名変 昭和 57 年 2 月 16 日	大通寺	元浜町
8	8	重要文化財	建造物	大通寺広間 桁行 21.9m、梁間 20.9m、一重、寄棟造、本瓦及び桧瓦葺 附 玄関 1 棟 桁行四間、梁間一間、一重、入母屋造、妻入、正面軒唐破風、本瓦葺 棟札 1 枚 宝暦十 ^{千七百} 二年二月廿五日建の記がある	1	1 棟	江戸前期	大正 4 年 3 月 26 日 記変 昭和 57 年 2 月 16 日 追加 昭和 57 年 2 月 16 日	大通寺	元浜町

No.	国	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
9	9	重要 文化財	建造物	大通寺含山軒および蘭亭 含山軒 桁行 11.2m、梁間 5.9 m、一重、切妻造段違、 棧瓦葺、東面及び北面庇 付、こけら葺 蘭亭 桁行 13.8m、梁間 9.0 m、一重、切妻造、棧瓦 葺、合の間附属、両下 造、棧瓦葺、庇こけら葺 附 棟札 1 枚 棟上宝暦五乙亥年三月廿 三日の記がある	1	1 棟	江戸前期 江戸 宝暦 5 年 [棟札]	大正 4 年 3 月 26 日 記変 昭和 57 年 2 月 16 日 追加 昭和 57 年 2 月 16 日	大通寺	元浜町
10	10	重要 文化財	建造物	宝蔵寺五重塔 石造五重塔	1	1 基	鎌倉後期	昭和 29 年 9 月 17 日	宝蔵寺	早崎町
11	11	重要 文化財	建造物	辻家住宅 主屋 桁行 21.4m、梁間 10.5m、一部中二階、入 母屋造、茅葺、西面及び 東面庇付、棧瓦葺 表門 長屋門、桁行 15.3m、梁 間 3.8m、切妻造、棧瓦 葺 南倉 土蔵造、桁行 4.6m、梁 間 3.7m、二階建、切妻 造、妻入、棧瓦葺 前倉 土蔵造、桁行 6.6m、梁 間 4.2m、二階建、切妻 造、妻入、棧瓦葺	1	4 棟	江戸 (文政 8 年 移築) 江戸 文化 5 年 [鬼瓦銘] 江戸 安永 9 年 (文化 10 年 移築) [諸書記載簿] 江戸 天保 3 年 [諸書記載簿]	昭和 43 年 4 月 25 日	個人	西浅井町 祝山
12	12	重要 文化財	建造物	田中家住宅 桁行 14.6m、梁間 9.5m、 入母屋造、妻入、茅葺、 四面庇付、棧瓦葺	1	1 棟	江戸 明和 5 年 [床板墨書]	昭和 43 年 4 月 25 日	個人	西浅井町 集福寺
13	13	重要 文化財	建造物	西徳寺本堂 桁行 16.5m、梁間 11.5m、一重、入母屋 造、妻入、茅葺、向拝一 間、棧瓦葺	1	1 棟	江戸 正徳 3 年 [内陣余間境釣 束墨書他]	昭和 61 年 5 月 24 日	西徳寺	木之本町 赤尾
14	14	重要 文化財	建造物	五村別院 本堂 桁 行九間、梁間七間、一 重、入母屋造、向拝三 間、両側面後方及び背面 庇附属、棧瓦葺 附 厨子 1 基 桁行三間、梁間一間、一 重、入母屋造、千鳥破風 付、唐破風造向拝一間、 瓦形板葺 棟札 1 枚 (享保十五年十一月二 日) 表門 一間一戸薬医門、銅板葺	1	2 棟	江戸 享保 15 年 [棟札]江戸 延宝 2 年[文書]	平成 10 年 12 月 25 日	五村別院	五村

No.	国	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
15	15	重要 文化財	建造物	中村家住宅 主屋 桁行 22.8m、梁間 7.7m、 入母屋造、茅葺、四面下 屋附属、棧瓦葺一部板 葺、東面張出附属、入母 屋造、棧瓦葺、背面張出 附属、切妻造、棧瓦葺 附 箱雁振瓦 2 個 宝暦十四甲申年二月の銘 があるもの 甲申年二月の銘があるも の 仏壇 1 基 土蔵 土蔵造、桁行 5.6m、梁 間 3.8m、二階建、切妻 造、妻入、西面下屋附 属、棧瓦葺 馬屋 桁行 12.1m、梁間 3.0m、 切妻造、棧瓦葺 表門 三間薬医門、切妻造、棧 瓦葺 附 厠 1 棟 桁行 7.3m、梁間 2.1m、 切妻造、棧瓦葺 宅地及び畑 6,077.63 m²、地域内の 石垣、船着場を含む	1	4 棟	江戸	平成 30 年 8 月 17 日	個人	八木浜町
16	16	重要 文化財	絵画	絹本着色十六羅漢図	1	16 幅	南北朝	明治 33 年 4 月 7 日	宝厳寺	早崎町
17	17	重要 文化財	絵画	絹本着色釈迦三尊像	1	1 幅	鎌倉	明治 33 年 4 月 7 日	宝厳寺	早崎町
18	18	重要 文化財	絵画	絹本着色如意輪観音像	1	1 幅	鎌倉	明治 33 年 4 月 7 日	宝厳寺	早崎町
19	19	重要 文化財	絵画	絹本着色弥陀来迎図	1	1 幅	鎌倉	明治 33 年 4 月 7 日	宝厳寺	早崎町
20	20	重要 文化財	絵画	絹本着色愛染明王像	1	1 幅	鎌倉	大正 6 年 4 月 5 日	總持寺	宮司町
21	21	重要 文化財	絵画	絹本着色地藏菩薩像 (岩坐地藏菩薩)	1	1 幅	鎌倉	明治 33 年 4 月 7 日	浄信寺	木之本町 木之本
22	22	重要 文化財	絵画	絹本着色三月経曼荼羅図	1	1 幅	鎌倉	明治 43 年 4 月 20 日	舎那院	宮前町
23	23	重要 文化財	絵画	絹本着色北斗九星像	1	1 幅	南宋	平成 14 年 6 月 26 日	宝厳寺	早崎町
24	24	重要 文化財	彫刻	木造大日如来坐像	1	1 軀	平安	明治 30 年 12 月 28 日 名変 昭和 43 年 2 月 2 日	向源寺	高月町 渡岸寺
25	25	重要 文化財	彫刻	木造地藏菩薩立像 仁治三年八月ノ銘アリ	1	1 軀	鎌倉 仁治 3 年	明治 32 年 8 月 1 日	浄信寺	木之本町 木之本
26	26	重要 文化財	彫刻	木造閻魔王立像 (伝僧空海作)	1	1 軀	鎌倉	明治 32 年 8 月 1 日	浄信寺	木之本町 木之本
27	27	重要 文化財	彫刻	木造俱生神立像 (伝僧空海作)	1	1 軀	鎌倉	明治 32 年 8 月 1 日	浄信寺	木之本町 木之本
28	28	重要 文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1	1 軀	平安	明治 32 年 8 月 1 日	浄信寺	木之本町 木之本
29	29	重要 文化財	彫刻	木造毘沙門天立像	1	1 軀	鎌倉	明治 34 年 3 月 27 日	醍醐寺	醍醐町
30	30	重要 文化財	彫刻	木造千手観音立像	1	1 軀	平安	明治 34 年 3 月 27 日	千手院	川道町
31	31	重要 文化財	彫刻	木造薬師如来坐像	1	1 軀	平安	明治 34 年 3 月 27 日	珀清寺	瓜生町
32	32	重要 文化財	彫刻	木造伝教大師坐像	1	1 軀	鎌倉	明治 34 年 3 月 27 日	高野神社	高月町 高野
33	33	重要 文化財	彫刻	木造素盞鳴命坐像	1	1 軀	鎌倉	明治 34 年 3 月 27 日	大見神社	木之本町 大見
34	34	重要 文化財	彫刻	木造女神坐像	1	2 軀	鎌倉	明治 34 年 3 月 27 日	大見神社	木之本町 大見
35	35	重要 文化財	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安	明治 34 年 3 月 27 日	医王寺	木之本町 大見

No.	国	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
36	36	重要 文化財	彫刻	木造御神像 日子坐王坐像 大俣王坐像 小俣王坐像 志夫美宿称王坐像 沙本畏古王坐像 袁邪本王坐像 佐波遅比売坐像 室毘古坐像	1	8 軀	鎌倉	明治 34 年 3 月 27 日	佐波加刀神社	木之本町 川合
37	37	重要 文化財	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安	明治 34 年 3 月 27 日	鶏足寺	木之本町 古橋
38	38	重要 文化財	彫刻	木造薬師如来立像	1	1 軀	奈良	明治 34 年 3 月 27 日	鶏足寺	木之本町 古橋
39	39	重要 文化財	彫刻	乾漆十二神将立像	1	1 軀	奈良	明治 34 年 3 月 27 日	鶏足寺	木之本町 古橋
40	40	重要 文化財	彫刻	木造仏頭	1	1 箇	平安	明治 34 年 3 月 27 日	善隆寺	西浅井町 山門
41	41	重要 文化財	彫刻	木造聖観音立像	1	1 軀	平安	明治 37 年 2 月 18 日	来現寺	弓削町
42	42	重要 文化財	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安	明治 37 年 2 月 18 日	石道寺	木之本町 石道
43	43	重要 文化財	彫刻	木造半肉彫千手観音立像	1	1 軀	平安	明治 38 年 4 月 4 日	神照寺	新庄寺町
44	44	重要 文化財	彫刻	木造毘沙門天立像	1	1 軀	平安	明治 38 年 4 月 4 日	神照寺	新庄寺町
45	45	重要 文化財	彫刻	木造愛染明王坐像	1	1 軀	鎌倉	明治 38 年 4 月 4 日	舎那院	宮前町
46	46	重要 文化財	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1	1 軀	平安	明治 38 年 4 月 4 日	舎那院	宮前町
47	47	重要 文化財	彫刻	木造聖観音立像	1	1 軀	平安	明治 38 年 4 月 4 日	総持寺	宮司町
48	48	重要 文化財	彫刻	木造薬師如来坐像	1	1 軀	平安	明治 38 年 4 月 4 日	多田幸寺	田村町
49	49	重要 文化財	彫刻	木造十一面観音坐像	1	1 軀	鎌倉	明治 38 年 4 月 4 日	知善院	元浜町
50	50	重要 文化財	彫刻	木造慈恵大師坐像	1	1 軀	鎌倉	大正 2 年 4 月 14 日	玉泉寺	三川町
51	51	重要 文化財	彫刻	木造地藏菩薩半跏像	1	1 軀	鎌倉	大正 7 年 4 月 8 日	御影堂 新善光寺	西上坂町
52	52	重要 文化財	彫刻	木造薬師如来坐像	1	1 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	大田寺	木尾町
53	53	重要 文化財	彫刻	木造大日如来坐像	1	1 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	光信寺	太田町
54	54	重要 文化財	彫刻	木造伝薬師如来立像	1	1 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	充滿寺	高月町 西野
55	55	重要 文化財	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	充滿寺	高月町 西野
56	56	重要 文化財	彫刻	木造釈迦如来坐像	1	1 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	白山神社	高月町 尾山
57	57	重要 文化財	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1	1 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	淨信寺	木之本町 木之本
58	58	重要 文化財	彫刻	木造持国天立像 木造多聞天立像	1	2 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	石道寺	木之本町 石道
59	59	重要 文化財	彫刻	木造伝千手観音立像	1	1 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	観音寺	木之本町 黒田
60	60	重要 文化財	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安	大正 15 年 4 月 19 日	善隆寺	西浅井町 山門
61	61	重要 文化財	彫刻	木造狛犬	1	1 対	鎌倉	昭和 3 年 8 月 17 日	白鬚神社	湖北町 今西
62	62	重要 文化財	彫刻	乾漆十二神将立像	1	2 軀	奈良	昭和 3 年 8 月 17 日	鶏足寺	木之本町 古橋
63	63	重要 文化財	彫刻	木造薬師如来立像 像背面に薬師如来造立、 建保三年四月十七日の銘 がある	1	1 軀	鎌倉 建保 3 年	昭和 34 年 12 月 18 日	源昌寺	余呉町 上丹生
64	64	重要 文化財	彫刻	木造観音菩薩立像 像背面に奉造立、建保四 年七月日の銘がある	1	1 軀	鎌倉 建保 4 年	昭和 34 年 12 月 18 日	洞寿院	余呉町 菅並
65	65	重要 文化財	彫刻	木造千手観音立像	1	1 軀	平安	昭和 44 年 6 月 20 日	日吉神社	高月町 唐川
66	66	重要 文化財	彫刻	木造菩薩立像	1	1 軀	平安	昭和 44 年 6 月 20 日	日吉神社	高月町 唐川
67	67	重要 文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像 行快作 右足柄に巧匠法眼行快 の銘がある 附 像内納入品	1	1 軀	鎌倉	昭和 62 年 6 月 6 日	阿弥陀寺	西浅井町 菅浦
68	68	重要 文化財	彫刻	木造千手観音立像	1	1 軀	平安	平成 23 年 6 月 27 日	千手院	川道町
69	69	重要 文化財	工芸品	刺繍普賢十羅刹女図額	1	1 面	南北朝	明治 33 年 4 月 7 日	宝厳寺	早崎町
70	70	重要 文化財	工芸品	刺繍弥陀三尊来迎図額	1	1 面	鎌倉	明治 33 年 4 月 7 日	宝厳寺	早崎町

No.	国	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
71	71	重要 文化財	工芸品	毛抜形太刀 無銘（伝藤原秀郷 奉納） 附 梨子地桐紋蒔絵鞘	1	1 口	平安	明治 45 年 2 月 8 日	宝厳寺	早崎町
72	72	重要 文化財	工芸品	銅鏡 獅子牡丹蝶鳥文様 嘉吉二年七月六日ノ 針書銘アリ	1	1 面	鎌倉	大正 11 年 4 月 13 日	浄信寺	木之本町 木之本
73	73	重要 文化財	工芸品	髹漆神輿 応永十一年三月十七日 造ノ銘アリ	1	1 基	室町 応永 11 年	大正 12 年 8 月 4 日	飯開神社	湖北町 延勝寺
74	74	重要 文化財	工芸品	銅鐘 寛喜三年三月四日鑄之 ノ銘アリ	1	1 口	鎌倉 寛喜 3 年	大正 15 年 4 月 19 日	日吉神社	高月町 井口
75	75	重要 文化財	工芸品	銅鐘 建治三年五月八日所鑄 ノ銘アリ	1	1 口	鎌倉 建治 3 年	大正 15 年 4 月 19 日	菅山寺	余呉町 坂口
76	76	重要 文化財	工芸品	金銅透彫華鬘 附 木箱（嘉吉元年 ノ墨書アリ）2 合及 麻袋（文明十 三年ノ墨書アリ）10 枚	1	11 枚	室町	昭和 12 年 5 月 25 日	神照寺	新庄寺町
77	77	重要 文化財	工芸品	長浜祭鳳凰山飾毛綴 附 鍍金飾金具 16 個 売上文書 （文化十四年三月）1 通 売上文書（文化十四年 三月八日）1 通	1	1 枚	16 世紀	昭和 24 年 5 月 30 日	鳳凰山組	元浜町
78	78	重要 文化財	工芸品	長浜祭翁山飾毛綴 附 鍍金飾金具 16 個	1	1 枚	16 世紀	昭和 24 年 5 月 30 日	翁山組	元浜町
79	79	重要 文化財	工芸品	孔雀文髹 弘長三年关亥三月十日 の刻銘がある	1	1 面	鎌倉	昭和 51 年 6 月 5 日	小谷寺	湖北町 伊部
80	80	重要 文化財	工芸品	銅水瓶 弘安十一年三月下旬の 刻銘がある	1	1 口	鎌倉	昭和 52 年 6 月 11 日	宝厳寺	早崎町
81	81	重要 文化財	工芸品	刺繍種子幡	1	14 旒	室町	昭和 55 年 6 月 6 日	石道寺	木之本町 石道
82	82	重要 文化財	書跡等	空海請来目録 附 観応元年卯月十日 宗光寄進状 1 卷	1	1 卷	平安	明治 33 年 4 月 7 日	宝厳寺	早崎町
83	83	重要 文化財	書跡等	紙本墨書法華經分別功德 品 建長五年ノ奥書アリ	1	1 帖	鎌倉	大正 12 年 3 月 28 日	宝厳寺	早崎町
84	84	重要 文化財	書跡等	竹生島文書	1	312 通	鎌倉～安土桃山	平成 24 年 9 月 6 日	宝厳寺	早崎町
85	85	重要 文化財	考古資料	銅印 印文 「駿河倉印」	1	1 顆	奈良	昭和 29 年 3 月 20 日	宝厳寺	早崎町
86	86	重要 文化財	歴史資料	雨森芳洲関係資料	1	123 点	江戸	平成 6 年 6 月 28 日	芳洲会	高月町 雨森
87	87	国選択	無形民俗	長浜曳山狂言	1	1 件		昭和 45 年 6 月 8 日	長浜曳山祭 文化財保護 委員会	元浜町
88	88	国指定	無形民俗	長浜曳山祭の曳山行事	1	1 件		昭和 54 年 2 月 3 日	（公財） 長浜曳山 文化協会	元浜町
89	89	国指定	名勝・ 史跡	竹生島	1	1 件		昭和 5 年 7 月 8 日	国 宝厳寺 都久夫須麻 神社	早崎町 字竹生島
90	90	国指定	史跡	小谷城跡	1	1 件	室町	昭和 12 年 4 月 17 日 追加平成 7 年 2 月 14 日	長浜市他	尊勝寺町・ 須賀谷町・ 小谷郡上 町・湖北町 伊部
91	91	国指定	史跡	玄蕃尾城（内中尾山城） 跡	1	1 件	桃山	平成 11 年 7 月 13 日	個人	余呉町 柳ヶ瀬
92	92	国指定	史跡	古保利古墳群	1	132 基	古墳	平成 15 年 8 月 27 日	個人	高月町 西野他
93	93	国指定	史跡	北近江城館跡群 下坂氏館跡・ 三田村氏館跡	1	2 件	室町	平成 18 年 1 月 26 日 追加 平成 19 年 7 月 26 日 追加 平成 23 年 9 月 21 日	個人	下坂中町他
94	94	国指定	名勝	大通寺含山軒および蘭亭 庭園	1	2 件	江戸	昭和 9 年 12 月 28 日	大通寺	元浜町

No.	国	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
95	95	国指定	名勝	浄信寺庭園	1	1 件	江戸	昭和 9 年 12 月 28 日	浄信寺	木之本町 木之本
96	96	国指定	名勝	慶雲館庭園	1	1 件	明治	平成 18 年 1 月 26 日	長浜市他	港町他
97	97	国選定	文化的 景観	菅浦の湖岸集落景観	1	1 件		平成 26 年 10 月 6 日	個人他	西浅井町 菅浦
98	98	国選定	選定 保存技術	邦楽器原糸製造	1	1 件		平成 3 年 11 月 16 日	木之本町 邦楽器原糸 製造保存会	木之本町 大音
99	99	国選定	選定 保存技術	邦楽器糸製作	1	1 人		平成 30 年 9 月 25 日	個人	木之本町 木之本
100	100	国登録 有形 文化財	建造物	黒壁ガラス館本館 (旧第百三十銀行 長浜支店) 木造 2 階建、瓦葺、 建築面積 169 m ²	1	1 棟	明治 33 年	平成 8 年 12 月 20 日	株式会社 黒壁	元浜町
101	101	国登録 有形 文化財	建造物	曾根東福寺組地藏堂 (旧曾根学校玄関) 木造平屋建、瓦葺、 建築面積 5 m ²	1	1 棟	明治 9 年	平成 11 年 6 月 7 日	曾根 東福寺組	曾根町
102	102	国登録 有形 文化財	建造物	宮部西薬師堂 木造平屋建、瓦葺、 建築面積 14 m ²	1	1 棟	天保 10 年	平成 12 年 9 月 26 日	宮部町	宮部町
103	103	国登録 有形 文化財	建造物	長浜旧開知学校 木造 3 階建、瓦葺、 建築面積 127 m ² 、 塔屋付	1	1 棟	明治 7 年 昭和 11 年移築	平成 12 年 10 月 18 日	個人	元浜町
104	104	国登録 有形 文化財	建造物	木之本町きのもと交遊館 鉄筋コンクリート造 2 階建、 建築面積 83 m ²	1	1 棟	昭和 10 年	平成 19 年 7 月 31 日	長浜市	木之本町 木之本
105	105	国登録 有形 文化財	建造物	ふじ石亭主屋 木造平屋一部 2 階建、 瓦葺、 建築面積 123 m ²	1	1 棟	明治 17 年頃	平成 24 年 2 月 23 日	光亜興産 株式会社	朝日町
106	106	国登録 有形 文化財	建造物	ふじ石亭蔵 土蔵造、瓦葺、 建築面積 23 m ²	1	1 棟	明治 17 年頃	平成 24 年 2 月 23 日	光亜興産 株式会社	朝日町
107	107	国登録 有形 文化財	建造物	ふじ石亭客間棟 木造平屋建、瓦葺、 建築面積 115 m ²	1	1 棟	明治 17 年頃	平成 24 年 2 月 23 日	光亜興産 株式会社	朝日町
108	108	国登録 有形 文化財	建造物	日吉神社本殿 木造平屋建、檜皮葺、 建築面積 7.9 m ²	1	1 棟	明治 17 年	平成 27 年 11 月 17 日	日吉神社	曾根町
109	109	国登録 有形 文化財	建造物	日吉神社門及び玉垣 門 木造、檜皮葺、 間口 1.8m 玉垣 木造、瓦葺、 延長 36m	1	1 棟	明治 29 年	平成 27 年 11 月 17 日	日吉神社	曾根町
110	110	国登録 有形 文化財	建造物	富田酒造主屋 木造二階建、瓦葺、 建築面積 270 m ²	1	1 棟	延享元年 天保 3 年増築	令和元年 9 月 10 日	富田酒造	木之本町 木之本
111	111	国登録 有形 文化財	建造物	ダイコウ醤油主屋 木造二階建、瓦葺、 建築面積 114 m ²	1	1 棟	江戸末期	令和元年 9 月 10 日	個人	木之本町 木之本
112	112	国登録 有形 文化財	建造物	白木屋醤油店主屋 木造二階建、瓦葺、 建築面積 95 m ²	1	1 棟	江戸末期	令和元年 12 月 5 日	個人	木之本町 木之本
113	113	国登録 有形 文化財	建造物	旧四居家住宅主屋 木造平屋建、金属 板葺、建築面積 141 m ²	1	1 棟	江戸中期	令和元年 12 月 5 日	長浜市	元浜町
114	114	国登録 有形 文化財	建造物	中川家住宅能舞台 木造平屋建、瓦葺、 建築面積 139 m ²	1	1 棟	昭和 6 年 昭和 39 年増築	令和 3 年 2 月 4 日	個人	地福寺町
115	115	国登録 有形 文化財	建造物	中川家住宅土蔵 木造二階建、瓦葺、 建築面積 22 m ²	1	1 棟	明治前期	令和 3 年 2 月 4 日	個人	地福寺町
116	116	国登録 有形 文化財	建造物	旧木之本宿本陣（竹内家 住宅）主屋 木造平屋建、瓦葺、 建築面積 249 m ²	1	1 棟	延享元年 (1744) 平成 30 年改修	令和 3 年 2 月 26 日	個人	木之本町 木之本
117	117	国登録 有形 文化財	建造物	山路酒造主屋 木造二階建、瓦葺、 建築面積 383 m ²	1	1 棟	昭和 3 年	令和 3 年 2 月 26 日	個人	木之本町 木之本
118	118	国登録 有形 文化財	建造物	岩根家住宅（重内）主屋 木造二階建、瓦葺、 建築面積 189 m ²	1	1 棟	江戸末期 大正後期増築 改修 平成 24 年改修	令和 3 年 6 月 24 日	個人	木之本町 木之本

県指定等歴史文化資産数表

No.	県	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
119	1	県指定	建造物	総持寺大門（仁王門） 八脚門、切妻造、 こけら葺	1	1 棟	江戸 寛永 12 年 〔総持院世代記〕	昭和 41 年 7 月 4 日	総持寺	宮司町
120	2	県指定	建造物	舎那院護摩堂 桁行三間、梁間三間、 寄棟造、檜皮葺	1	1 棟	室町後期	昭和 58 年 3 月 28 日	舎那院	宮前町
121	3	県指定	建造物	全長寺本堂 桁行 20.3 メートル、 梁間 16.9 メートル、 一重、入母屋造、茅葺 型鉄板葺 （元茅葺）、玄関・位牌 堂付 附 棟札 1 枚 寛政元星舎己酉上梁の 記がある	1	1 棟	江戸 寛政元年 〔棟札〕	昭和 62 年 3 月 30 日	全長寺	余呉町 池原
122	4	県指定	建造物	日吉神社本殿 桁行三間、梁間三間、 一重、入母屋造、 向拝一間、茅葺 附 棟札 1 枚 再造井口村惣中寄進并 富永庄十七郷令勸化乎 元文三年戊午二月三日 の記がある文書 8 冊	1	1 棟	江戸 元文 3 年 〔棟札〕	平成 3 年 3 月 30 日	日吉神社	高月町 井口
123	5	県指定	建造物	塩津神社本殿 一間社流造、こけら葺 附 棟札 1 枚 元禄七年きのへいぬノ 八月大吉日の記がある	1	1 棟	江戸 元禄 7 年 〔棟札〕	平成 11 年 3 月 31 日	塩津神社	西浅井町 塩津浜
124	6	県指定	建造物	旧長浜駅本屋 無筋コンクリート造、 建築面積 234.0 m ² 、 二階建、切妻造、 棧瓦葺 附 旧長浜駅 29 号分 岐器ポイント部 1 組 レール 長 5.5m、 鋼鉄製 ポイント 鋼鉄製	1	1 棟	明治 15 年	平成 17 年 4 月 20 日	西日本旅客 鉄道	北船町
125	7	県指定	建造物	杉野中薬師堂 桁行五間、梁間三間、 一重、切妻造、妻入、 棧瓦葺 附 厨子 1 基 一間厨子、入母屋造、 妻入、正面軒唐破風付、 こけら形板葺 鰯口 1 口 寛永庚辰歳正月の刻銘 がある	1	1 棟	室町後期	平成 20 年 7 月 23 日	杉野中 自治会	木之本町 杉野
126	8	県指定	建造物	上丹生薬師堂 桁行七間、梁間三間、 一重、切妻造、 妻入、棧瓦葺 附 厨子 1 基 一間厨子、入母屋造、 妻入、こけら葺 棟札 1 枚 宝永第五戊子年七月 初五日の記がある 板札 1 枚 宝永五戊子七月五日 の記がある 版木 1 枚 宝永五戊子年二月初 八日の記がある	1	1 棟	江戸 宝永 5 年 〔棟札〕	平成 20 年 7 月 23 日	源昌寺	余呉町 上丹生
127	9	県指定	絵画	絹本着色浅井長政像 画面上部に「天正二 年」の賛がある	1	1 幅	室町	昭和 47 年 4 月 1 日	小谷城址 保勝会	小谷郡上町
128	10	県指定	絵画	紙本着色東王父西王母 図 （六曲屏風）	1	1 双	桃山	昭和 48 年 3 月 31 日	浄信寺	木之本町 木之本
129	11	県指定	絵画	絹本着色弁才天像	1	1 幅	南北朝	昭和 49 年 3 月 11 日	宝厳寺	早崎町
130	12	県指定	絵画	絹本着色日吉山王曼荼 羅	1	1 幅	南北朝	昭和 49 年 3 月 11 日	正源寺	余呉町 川並
131	13	県指定	絵画	絹本着色不動明王像	1	1 幅	室町	昭和 57 年 3 月 31 日	舎那院	宮前町

No.	県	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
132	14	県指定	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1	1 軀	平安	昭和 32 年 8 月 26 日	向源寺	高月町 渡岸寺
133	15	県指定	彫刻	木造七仏薬師如来立像	1	7 軀	鎌倉	昭和 32 年 8 月 26 日	鶏足寺	木之本町 古橋
134	16	県指定	彫刻	木造薬師如来坐像 像底に元亨三年、修補 大勧進東岳院覚如 阿闍梨、大仏師法眼実 円等の転写修理銘 がある	1	1 軀	平安	平成 20 年 7 月 23 日	舎那院	宮前町
135	17	県指定	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安	昭和 47 年 4 月 1 日	石道寺	木之本町 石道
136	18	県指定	彫刻	木造不動明王立像 (見返り不動)	1	1 軀	鎌倉	昭和 48 年 3 月 31 日	神照寺	新庄寺町
137	19	県指定	彫刻	木造不動明王立像	1	1 軀	平安	昭和 48 年 3 月 31 日	神照寺	新庄寺町
138	20	県指定	彫刻	木造神像 女神坐像 1 男神立像 3	1	4 軀	平安 鎌倉	昭和 48 年 3 月 31 日	春日神社	高月町 宇根
139	21	県指定	彫刻	木造薬師如来坐像	1	1 軀	平安	昭和 49 年 3 月 11 日	源昌寺	余呉町 上丹生
140	22	県指定	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安	昭和 56 年 4 月 24 日	向源寺	高月町 渡岸寺
141	23	県指定	彫刻	木造金剛力士立像	1	2 軀	平安	昭和 56 年 4 月 24 日	向源寺	高月町 渡岸寺
142	24	県指定	彫刻	木造菩薩形立像	1	1 軀	平安	昭和 58 年 3 月 28 日	鶏足寺	木之本町 古橋
143	25	県指定	彫刻	木造十所権現像	1	10 軀	平安～鎌倉	昭和 58 年 3 月 28 日	鶏足寺	木之本町 古橋
144	26	県指定	彫刻	木造不動明王坐像	1	1 軀	平安	平成 2 年 3 月 31 日	宝厳寺	早崎町
145	27	県指定	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1	1 軀	鎌倉	平成 14 年 3 月 20 日	蓮台寺	湖北町 今西
146	28	県指定	彫刻	木造馬頭観音坐像	1	1 軀	平安	平成 17 年 4 月 20 日	山門自治会	西浅井町 山門
147	29	県指定	彫刻	木造馬頭観音立像	1	1 軀	鎌倉	平成 17 年 4 月 20 日	徳円寺	西浅井町 庄
148	30	県指定	工芸品	梵鐘 嘉慶元年十月九日の 銘がある	1	1 口	南北朝	昭和 34 年 2 月 10 日	上許曾神社	高山町
149	31	県指定	工芸品	梵鐘 弘安三年十月二十三 日大工河内助安の刻銘 ならびに明応二年の刻 銘がある	1	1 口	鎌倉	昭和 34 年 2 月 10 日	本誓寺	香花寺町
150	32	県指定	工芸品	木造彩色阿字華鬘	1	4 枚	鎌倉	昭和 47 年 4 月 1 日	醍醐寺	醍醐町
151	33	県指定	工芸品	法具類 輪宝羯磨文説相宮 文亀三年の墨書が ある 羯磨、羯磨台、輪宝、 錫杖、四椀、孔雀文 銅磬、五鈺杵	1	17 点	室町	昭和 47 年 4 月 1 日	醍醐寺	醍醐町
152	34	県指定	工芸品	梵鐘 貞治二年六月の刻銘 がある	1	1 口	南北朝	昭和 48 年 3 月 31 日	大通寺	元浜町
153	35	県指定	工芸品	素文磬	1	1 面	平安	昭和 46 年 3 月 31 日	舎那院	宮前町
154	36	県指定	工芸品	梅樹双雀文鏡	1	1 面	南北朝	昭和 49 年 3 月 11 日	長浜八幡宮	宮前町
155	37	県指定	工芸品	能装束 紅地扇面散文様唐織 能装束縹淡茶段松皮菱 牡丹輪宝文様唐織能装 束	1	2 領	江戸	昭和 53 年 3 月 17 日	長浜八幡宮	宮前町
156	38	県指定	工芸品	草花文片面磬	1	1 面	平安	昭和 56 年 4 月 24 日	総持寺	宮司町
157	39	県指定	工芸品	鉄入峰斧 大吉寺行者講中、宗延 作、明応三年三月日の刻 銘がある	1	1 口	室町	平成 2 年 3 月 31 日	個人	南小足町
158	40	県指定	工芸品	黒漆塗紺糸威胴丸 附 頭形兜 1 頭及び籠 手 1 双	1	1 領	室町	平成 5 年 3 月 31 日	長浜市	八幡東町
159	41	県指定	工芸品	金銅十一面観音不動毘 沙門懸仏 裏面に石道寺、応安元 年等の墨書銘がある	1	1 面	南北朝 応安元年	平成 27 年 12 月 18 日	長浜市	八幡東町

No.	県	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
160	42	県指定	工芸品	金銅透彫幡 金銅龍頭 二頭付 附 木箱 1合 永正十四年丁丑卯月廿 八日の墨書銘がある	1	2 旒	室町	平成 29 年 3 月 23 日	舎那院	宮前町
161	43	県指定	書跡等	永享七年勅進猿楽奉加 帳ならびに永享十一年 塔供養奉加帳	1	2 帖	室町	昭和 48 年 3 月 31 日	長浜八幡宮	宮前町
162	44	県指定	書跡等	版本倭点附刻妙法蓮華 経	1	8 卷	室町 応永 5 年	昭和 56 年 4 月 24 日	長浜八幡宮	宮前町
163	45	県指定	書跡等	己高山縁起	1	2 卷	室町 応永 14 年	昭和 58 年 3 月 28 日	鶏足寺	木之本町 古橋
164	46	県指定	書跡等	仏本行集経卷第四十一 天平十二年五月一日 光明皇后願経	1	1 卷	奈良	昭和 62 年 3 月 30 日	(財) 布施美術館	高月町 唐川
165	47	県指定	書跡等	大般若經集解卷第卅 二	1	1 卷	奈良	昭和 62 年 3 月 30 日	(財) 布施美術館	高月町 唐川
166	48	県指定	書跡等	大般若波羅蜜多經卷第 百九十一 「薬師寺印」の朱印な らびに「薬師寺金堂」の 黒印がある	1	1 卷	奈良	昭和 62 年 3 月 30 日	(財) 布施美術館	高月町 唐川
167	49	県指定	書跡等	大智度論卷第六十一針 問国知識経	1	1 帖	奈良	昭和 63 年 3 月 31 日	(財) 布施美術館	高月町 唐川
168	50	県指定	書跡等	十誦律卷第五十一 神護景雲二年五月十 三日称徳天皇勅願経	1	1 卷	奈良	昭和 63 年 3 月 31 日	(財) 布施美術館	高月町 唐川
169	51	県指定	書跡等	大般若波羅蜜多經 文永二年の識語があ る	1	550 帖	鎌倉～室町	平成 2 年 3 月 31 日	宝蔵寺	早崎町
170	52	県指定	書跡等	大般若波羅蜜多經 (伊香大社奉納経)	1	595 卷	平安～江戸	平成 3 年 3 月 30 日	八幡神社	西浅井町 大浦
171	53	県指定	書跡等	竹生島宝蔵寺文書	1	48 通	江戸	平成 4 年 3 月 31 日	宝蔵寺	早崎町
172	54	県指定	書跡等	井戸村家文書	1	65 点	南北朝～江戸	平成 7 年 3 月 31 日	長浜市	八幡東町
173	55	県指定	書跡等	六角氏式目	1	1 卷	江戸	平成 9 年 3 月 31 日	(財) 布施美術館	高月町 唐川
174	56	県指定	書跡等	日吉神社文書	1	466 点	室町～明治	平成 9 年 3 月 31 日	日吉神社	高月町 井口
175	57	県指定	書跡等	称讃浄土仏撰受経	1	1 卷	奈良	平成 11 年 3 月 31 日	大通寺	元浜町
176	58	県指定	有形 民俗	長浜曳山祭の山車 附 山蔵 13 棟	1	13 基	江戸	昭和 60 年 3 月 29 日		
		県指定		長刀山					小舟町組	朝日町
		県指定		月宮殿					田町組	朝日町
		県指定		萬歳楼					瀬田町組	朝日町
		県指定		狸々丸					船山組	朝日町
		県指定		春日山					本町組	北船町
		県指定		孔雀山					神戸町組	元浜町
		県指定		壽 山					大手町組	元浜町
		県指定		高砂山					宮町組	宮前町
		県指定		常磐山					呉服町組	南呉服町
		県指定		諫鼓山					御堂前組	元浜町
		県指定		鳳凰山					祝町組	元浜町
		県指定		青海山					北町組	元浜町
		県指定		翁 山					伊部町組	三ツ矢町
177	59	県指定	無形 民俗	上丹生の曳山茶碗祭	1	1 件		昭和 60 年 3 月 29 日	丹生神社 ちゃわん祭 保存会	余呉町 上丹生
178	60	県指定	無形 民俗	中河内の太鼓踊 附 奴振	1	1 件		昭和 61 年 3 月 28 日	広峯神社 太鼓踊 保存会	余呉町 中河内
179	61	県選択	無形 民俗	富田人形	1	1 件		昭和 32 年 8 月 1 日	富田人形 共遊団	富田町
180	62	県選択	無形 民俗	長浜曳山祭	1	1 件		昭和 32 年 12 月 19 日	長浜曳山祭 文化財保護 委員会	元浜町
181	63	県選択	無形 民俗	ちゃわん祭	1	1 件		昭和 36 年 4 月 26 日	丹生 ちゃわん祭 保存会	余呉町 上丹生
182	64	県選択	無形 民俗	太鼓踊 附 奴振	1	1 件		昭和 38 年 8 月 21 日	広峯神社 太鼓踊 保存会	余呉町 中河内
183	65	県選択	無形 民俗	集福寺の ちゃんちゃこ踊 附 奴振	1	1 件		昭和 59 年 3 月 30 日	集福寺 宮若社	西浅井町 集福寺
184	66	県選択	無形 民俗	川合の太鼓踊り	1	1 件		平成 1 年 3 月 31 日	川合義会	木之本町 川合

No.	県	指定区分	種別	名称	件数	点数	年代	指定年月日	所有者	所在地
185	67	県選択	無形民俗	金居原の太鼓踊り	1	1件		平成1年 3月31日	金居原 太鼓踊り 保存会	木之本町 金居原
186	68	県選択	無形民俗	下余呉の太鼓踊り	1	1件		平成6年 3月31日	下余呉 太鼓踊り 保存会	余呉町 下余呉
187	69	県選択	無形民俗	延勝寺の太鼓踊り	1	1件		平成13年 3月19日	延勝寺 太鼓踊り 保存会	湖北町 延勝寺
188	70	県選択	無形民俗	永久寺の蛇の舞	1	1件		平成24年 3月19日	永久寺 「蛇の舞」 保存会	永久寺町
189	71	県選択	無形民俗	八日市の太鼓踊り	1	1件		平成25年 3月19日	八日市 太鼓踊り 保存会	湖北町 八日市
190	72	県指定	史跡	若宮山古墳	1	1件	古墳	昭和40年 5月24日	個人	湖北町 山本
191	73	県指定	史跡	大吉寺跡	1	1件	平安～室町	昭和40年 8月9日	大吉寺	野瀬町
192	74	県指定	史跡	茶臼山古墳	1	1件	古墳	昭和44年 9月12日	個人	東上坂町
193	75	県指定	史跡	垣籠古墳	1	1件	古墳	昭和44年 9月12日	個人	垣籠町
194	76	県指定	史跡	古保利古墳群	1	1件	古墳	昭和50年 4月28日	個人	高月町 西野他
195	77	県指定	史跡	姫塚古墳	1	1基	古墳	昭和57年 3月31日	長浜市他	高月町 東柳野
196	78	県指定	史跡	横山神社古墳	1	1基	古墳	昭和57年 3月31日	横山神社	高月町 横山
197	79	県指定	史跡	塩津丸山古墳群	1	1件	古墳	昭和57年 3月31日 追加昭和58年 3月28日	国他	西浅井町 塩津中
198	80	県指定	史跡	西野水道	1	1件	江戸	昭和59年 3月30日	国・県他	高月町 西野
199	81	県指定	史跡	諸川瓦窯跡	1	1件	7世紀後半 (飛鳥)	昭和61年 3月28日	長浜市	西浅井町 菅浦
200	82	県指定	史跡	松尾宮山古墳群	1	2基	古墳	平成11年 3月31日	松尾区	高月町 松尾
201	83	県指定	名勝	孤篷庵庭園	1	1件	江戸	昭和36年 4月26日	孤篷庵	上野町
202	84	県指定	名勝	総持寺庭園	1	1件	江戸	昭和60年 3月29日	総持寺	宮司町
203	85	県指定	名勝	池氏庭園	1	1件	江戸	昭和60年 3月29日	個人	南池町
204	86	県指定	名勝	理覚院庭園	1	1件	江戸	昭和61年 3月28日	理覚院	高月町 井口
205	87	県指定	名勝	赤田氏庭園	1	1件	江戸	平成27年 3月24日	個人	太田町
206	88	県指定	天然記念物	中河内のユキツバキと ザゼンソウ群落および その自生地	1	1件		平成12年 3月10日	中河内 自治会 広峯神社	余呉町 中河内
207	89	県指定	天然記念物	竹生島のタブノキ林	1	1件		平成27年 12月18日	宝蔵寺 都久夫須麻 神社 長浜市	早崎町
208	90	県選定	選定 保存 技術	曳山金工品修理	1	1件		平成4年 3月31日	個人	南呉服町
209	91	県選定	選定 保存 技術	曳山漆工品修理	1	2件		平成29年 3月23日	個人	宮前町・ 殿町
210	92	県選定	選定 保存 技術	曳山車輪鉄輪修理	1	2件		令和元年 12月24日	個人	末広町

市指定歴史文化資産一覧

No.	市	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
211	1	市指定	建造物	大通寺台所門 三間一戸薬医門、本瓦葺 附 獅子口瓦 2 個 元禄元年神無月吉日の 刻銘があるもの 山城國紀伊郡深草住人の 刻銘があるもの 雨蓋瓦 1 個 享保十八年三月十一日の 刻銘があるもの	1	1 棟	桃山 天正 16 年 〔扉金具銘〕	昭和 41 年 12 月 9 日 追加 平成 25 年 3 月 27 日	大通寺	元浜町
212	2	市指定	建造物	知善院表門 三間一戸棟門、屋根正面 本瓦葺、背面棧瓦葺	1	1 棟	桃山	昭和 41 年 12 月 9 日	知善院	元浜町
213	3	市指定	建造物	宝篋印塔	1	1 基	室町初期	昭和 44 年 7 月 1 日	素盞鳴命 神社	上野町
214	4	市指定	建造物	五輪塔	1	1 基	鎌倉末期	昭和 44 年 7 月 1 日	素盞鳴命 神社	上野町
215	5	市指定	建造物	常善寺本堂 桁行六間、梁間六間、 一重、入母屋造、向拝一 間、鉄板葺（元茅葺）	1	1 棟	江戸 寛永 15 年 建立 江戸 享保 8 年 移築・改造	昭和 56 年 2 月 19 日	常善寺	酢
216	6	市指定	建造物	西徳寺石造七重塔 石造七重塔 弘安十年 八月の刻銘がある	1	1 基	鎌倉 弘安 10 年	昭和 59 年 7 月 12 日	西徳寺	木之本町 赤尾
217	7	市指定	建造物	全長寺庫裡	1	1 棟	江戸 寛政 2 年	昭和 62 年 3 月 31 日	全長寺	余呉町 池原
218	8	市指定	建造物	大通寺山門 桁行三間、梁間二間、 二重門、入母屋造、 本瓦葺 附 山廊 2 棟 桁行三間、梁間二間、切 妻造、本瓦葺	1	1 棟	江戸	昭和 63 年 3 月 8 日	大通寺	元浜町
219	9	市指定	建造物	石造宝篋印塔 石田隠岐守内方為宗珠 大禪尼・文禄三年九月三 日孝主敬白の刻銘がある	1	1 基	桃山 文禄 3 年	平成 3 年 9 月 12 日	鶏足寺	木之本町 古橋
220	10	市指定	建造物	大通寺 庫裡 桁行 16.0m、梁間 16.3m、切妻造、棧瓦 葺、車寄附属、桁行一 間、梁間一間、向唐破風 造、檜皮葺	1	5 棟	江戸 天和 2 年 〔棟札〕	平成 6 年 4 月 1 日 追加 平成 25 年 3 月 27 日	大通寺	元浜町
		市指定		大通寺 鐘楼 桁行一間、梁間一間、 入母屋造、檜皮葺 附 棟札 2 枚 乙延寶三季卯八月十六 日の記があるもの延寶三 年卯八月十六日の記があるもの			江戸 延宝 3 年 〔棟札〕			
		市指定		大通寺 太鼓楼 桁行 8.1m、梁間 7.1 m、入母屋造、本瓦葺、 上楼 桁行 5.0m、梁間 4.0m、入母屋造、本瓦葺 附 鬼瓦 1 個 瓦屋淵元太郎右衛門の刻 銘があるもの			19 世紀前期			
		市指定		大通寺 新御座 桁行 22.9m、梁間 16.7 m、正面切妻造、背面入 母屋造、棧瓦葺			大正元年 〔三百年誌〕			
		市指定		大通寺 渡廊 桁行五間、梁間一間、 切妻造、棧瓦葺			18 世紀後期			
221	11	市指定	建造物	五村別院鐘楼 桁行一間、梁行一間、 切妻造、棧瓦葺	1	1 棟	江戸 宝暦年間	平成 6 年 6 月 17 日	五村別院	五村
222	12	市指定	建造物	飯開神社本殿	1	1 棟	江戸	平成 10 年 12 月 3 日	飯開神社	湖北町 延勝寺
223	13	市指定	建造物	大通寺宝蔵 桁行三間、梁間三間、 宝形造、本瓦葺 向拝一間、向唐破風 造、棧瓦葺	1	1 棟	江戸 明和 2 年 〔獅子口銘〕	平成 14 年 7 月 1 日	大通寺	元浜町

No.	市	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
224	14	市指定	建造物	妙法寺 石造笠塔婆 (題目式笠塔婆) 凝灰岩一石造 塔高 0.65m	1	1 基	安土・桃山 16 世紀後半頃	平成 16 年 4 月 21 日	妙法寺	大宮町
225	15	市指定	建造物	川道地藏堂	1	1 棟	江戸	平成 17 年 11 月 15 日	東雲寺	川道町
226	16	市指定	建造物	和泉神社本殿 一間社流造、向拝一 間、銅板葺(もと檜皮 葺) 附 棟札 3 枚 丁 宝永四年亥四月 吉辰日 の記のあるもの 丁 宝永四年亥四月 吉日 の記のあるもの 丁 弘化五年甲八月 吉辰日 の記のあるもの	1	1 棟	江戸	平成 22 年 4 月 26 日	和泉神社	小谷上山田町
227	17	市指定	絵画	金地墨画梅の図襖(岸駒 筆)	1	12 面	江戸	昭和 37 年 9 月 7 日	大通寺	元浜町
228	18	市指定	絵画	紙本墨画花鳥及び山水図 貼付六曲屏風	1	1 双	江戸	昭和 38 年 10 月 30 日	大通寺	元浜町
229	19	市指定	絵画	絹本着色覚円法師像	1	1 幅	室町	昭和 43 年 12 月 10 日	仏厳寺	室町
230	20	市指定	絵画	絹本着色十王像 附 絹本着色地藏菩 薩像 1 幅	1	10 幅	室町	昭和 43 年 12 月 10 日	神照寺	新庄寺町
231	21	市指定	絵画	絹本着色十六羅漢像	1	16 幅	室町	昭和 43 年 12 月 10 日	神照寺	新庄寺町
232	22	市指定	絵画	絹本着色十六羅漢像	1	1 幅	室町	昭和 43 年 12 月 10 日	舎那院	宮前町
233	23	市指定	絵画	絹本着色受染明王像	1	1 幅	室町	昭和 43 年 12 月 10 日	舎那院	宮前町
234	24	市指定	絵画	釈迦十六尊神画像	1	1 幅	室町	昭和 44 年 7 月 1 日	醍醐寺	醍醐町
235	25	市指定	絵画	絹本着色大師画像	1	1 幅	鎌倉	昭和 44 年 7 月 1 日	醍醐寺	醍醐町
236	26	市指定	絵画	不動明王絵像	1	1 幅	室町	昭和 54 年 5 月 1 日	醍醐寺	醍醐町
237	27	市指定	絵画	八祖大師画像	1	8 幅	鎌倉	昭和 54 年 5 月 1 日	醍醐寺	醍醐町
238	28	市指定	絵画	絹本着色両界曼荼羅	1	2 幅	鎌倉後期	昭和 55 年 3 月 15 日	小谷寺	湖北町 伊部
239	29	市指定	絵画	絹本着色親鸞聖人像	1	1 幅	桃山	昭和 55 年 3 月 15 日	常德寺	湖北町 速水
240	30	市指定	絵画	絹本着色不動明王像	1	1 幅	鎌倉	昭和 62 年 11 月 3 日	常楽寺	湖北町 山本
241	31	市指定	絵画	絹本着色仏涅槃図	1	1 幅	室町後期	平成 4 年 7 月 1 日	常楽寺	湖北町 山本
242	32	市指定	絵画	絹本着色不動明王二童子 像	1	1 幅	南北朝	平成 11 年 3 月 31 日	鶏足寺	木之本町 古橋
243	33	市指定	絵画	絹本着色五大明王像	1	1 幅	南北朝	平成 11 年 3 月 31 日	鶏足寺	木之本町 古橋
244	34	市指定	絵画	絹本着色不動明王二童子 像	1	1 幅	南北朝	平成 11 年 3 月 31 日	淨信寺	木之本町 木之本
245	35	市指定	絵画	絹本着色四天王像	1	1 幅	南北朝	平成 11 年 3 月 31 日	淨信寺	木之本町 木之本
246	36	市指定	絵画	種子両界曼荼羅	1	2 幅	鎌倉～南北朝	平成 16 年 4 月 30 日	東光院	西浅井町 黒山
247	37	市指定	絵画	六字名号曼荼羅	1	1 幅	鎌倉後期～ 南北朝	平成 16 年 4 月 30 日	阿弥陀寺	西浅井町 菅浦
248	38	市指定	絵画	仏涅槃図	1	1 幅	南北朝～ 室町前期	平成 16 年 4 月 30 日	真藏院	西浅井町 菅浦
249	39	市指定	絵画	仏涅槃図	1	1 幅	室町後期～ 桃山	平成 16 年 4 月 30 日	増光寺	西浅井町 山田
250	40	市指定	絵画	板絵著色 繫馬図絵馬	1	1 面	江戸	平成 17 年 3 月 31 日	大円寺	高月町 高月
251	41	市指定	絵画	板絵著色 曳馬図絵馬	1	1 面	江戸	平成 17 年 3 月 31 日	日吉神社	高月町 唐川
252	42	市指定	絵画	絹本着色光明本尊	1	1 幅	南北朝～室町	平成 17 年 3 月 31 日	法光寺	高月町 磯野
253	43	市指定	絵画	唐船図額	1	1 面	江戸 寛永 14 年	平成 18 年 3 月 31 日	横山神社	木之本町 杉野
254	44	市指定	絵画	曳馬図額	1	1 面	江戸 寛永 15 年	平成 18 年 3 月 31 日	横山神社	木之本町 杉野
255	45	市指定	絵画	絹本着色十三仏図	1	1 幅	室町 永禄 12 年	平成 30 年 12 月 27 日	知善院	元浜町
256	46	市指定	彫刻	木造菩薩坐像	1	1 軀	平安	昭和 48 年 7 月 1 日	新居神社	新居町
257	47	市指定	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1	1 軀	平安	昭和 53 年 12 月 11 日	正念寺	錦織町

No.	市	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
258	48	市指定	彫刻	木造十一面千手観世音立像	1	1 軀	室町	昭和 54 年 2 月 21 日	大円寺	高月町 高月
259	49	市指定	彫刻	木造聖観音坐像	1	1 軀	平安	昭和 54 年 7 月 24 日	大井町	大井町
260	50	市指定	彫刻	金銅半跏思惟像	1	1 軀	鎌倉後期	昭和 55 年 3 月 15 日	小谷寺	湖北町 伊部
261	51	市指定	彫刻	木造十一面観音坐像	1	1 軀	平安後期	昭和 55 年 3 月 15 日	岡本神社	小谷丁野町
262	52	市指定	彫刻	木造大日如来坐像	1	1 軀	平安	昭和 55 年 1 月 26 日	立法寺	高月町 尾山
263	53	市指定	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1	1 軀	平安	昭和 58 年 3 月 28 日	阿弥陀寺	加田町
264	54	市指定	彫刻	不動明王坐像	1	1 軀	平安	昭和 61 年 4 月 1 日	菅山寺	余呉町 坂口
265	55	市指定	彫刻	大日如来坐像	1	1 軀	鎌倉	昭和 61 年 4 月 1 日	洞寿院	余呉町 菅並
266	56	市指定	彫刻	十一面観音菩薩立像	1	1 軀	室町	昭和 61 年 4 月 1 日	国安自治会	余呉町 国安
267	57	市指定	彫刻	木造狛犬	1	1 対	室町	昭和 62 年 3 月 25 日	大安養神社	安養寺町
268	58	市指定	彫刻	阿弥陀如来立像	1	1 軀	鎌倉	昭和 62 年 7 月 21 日	大吉寺	野瀬町
269	59	市指定	彫刻	地藏菩薩立像	1	1 軀	鎌倉	昭和 62 年 7 月 21 日	大吉寺	野瀬町
270	60	市指定	彫刻	元三大師坐像	1	1 軀	室町	昭和 62 年 7 月 21 日	大吉寺	野瀬町
271	61	市指定	彫刻	聖観音立像	1	1 軀	平安	昭和 62 年 7 月 21 日	大吉寺	野瀬町
272	62	市指定	彫刻	木造聖観音立像	1	1 軀	平安後期	昭和 62 年 11 月 3 日	常楽寺	湖北町 山本
273	63	市指定	彫刻	木造如来形仏頭	1	1 個	平安後期	昭和 62 年 11 月 3 日	延勝寺 自治会	湖北町 延勝寺
274	64	市指定	彫刻	木造十一面観音立像	1	1 軀	平安後期	昭和 62 年 11 月 3 日	田中神社	湖北町 田中
275	65	市指定	彫刻	木造菩薩形立像	1	1 軀	平安後期	昭和 62 年 11 月 3 日	田中神社	湖北町 田中
276	66	市指定	彫刻	狛犬	1	1 対	鎌倉	平成 2 年 4 月 2 日	菅山寺	余呉町 坂口
277	67	市指定	彫刻	十一面観音立像	1	1 軀	平安	平成 2 年 4 月 2 日	菅山寺	余呉町 坂口
278	68	市指定	彫刻	天部形立像	1	2 軀	平安後期	平成 2 年 4 月 2 日	川並自治会	余呉町 川並
279	69	市指定	彫刻	木造宝冠阿弥陀如来坐像	1	1 軀	平安	平成 5 年 5 月 1 日	竹蓮寺	高月町 西阿閉
280	70	市指定	彫刻	木造薬師如来立像	1	1 軀	平安	平成 5 年 5 月 1 日	八幡神社	高月町 柏原
281	71	市指定	彫刻	木造馬頭観音立像	1	1 軀	平安	平成 5 年 5 月 1 日	横山神社	高月町 横山
282	72	市指定	彫刻	木造茗荷悪尉	1	1 面	室町	平成 7 年 3 月 1 日	足柄神社	七条町
		市指定		木造大天神		1 面	室町	平成 7 年 3 月 1 日	足柄神社	七条町
283	73	市指定	彫刻	木造鬼神面	1	1 面	鎌倉	平成 7 年 3 月 1 日	伊吹神社	山階町
284	74	市指定	彫刻	聖観音立像	1	1 軀	平安	平成 8 年 3 月 28 日	南郷町	南郷町
285	75	市指定	彫刻	日光・月光菩薩立像	1	2 軀	平安	平成 9 年 4 月 1 日	源昌寺	余呉町 上丹生
286	76	市指定	彫刻	木造十二神将像	1	9 軀	南北朝	平成 11 年 3 月 31 日	鶏足寺	木之本町 古橋
287	77	市指定	彫刻	木造弁才天坐像	1	1 軀	室町	平成 13 年 3 月 18 日	宝厳寺	早崎町
288	78	市指定	彫刻	木造獅子・象 (文殊・普賢菩薩台座)	1	2 軀	平安	平成 14 年 3 月 29 日	向源寺	高月町 渡岸寺
289	79	市指定	彫刻	木造日吉山王二十一社本 地仏像	1	19 軀	室町～江戸	平成 14 年 3 月 29 日	日吉神社	高月町 井口
290	80	市指定	彫刻	木造聖観音菩薩立像	1	1 軀	平安	平成 14 年 7 月 1 日	長浜市	八幡東町
291	81	市指定	彫刻	如来形坐像	1	1 軀	奈良～平安	平成 16 年 4 月 30 日	八田部 自治会	西浅井町 八田部
292	82	市指定	彫刻	阿弥陀如来坐像	1	1 軀	平安初期	平成 16 年 4 月 30 日	黒山自治会	西浅井町 黒山
293	83	市指定	彫刻	阿弥陀如来坐像	1	1 軀	平安前期	平成 16 年 4 月 30 日	八田部区	西浅井町 八田部
294	84	市指定	彫刻	男神立像	1	1 軀	平安後期	平成 16 年 4 月 30 日	山門鳥居堂	西浅井町 山門
295	85	市指定	彫刻	阿弥陀如来坐像	1	1 軀	平安後期	平成 16 年 4 月 30 日	阿弥陀寺	西浅井町 菅浦
296	86	市指定	彫刻	聖観音坐像	1	1 軀	平安後期	平成 16 年 4 月 30 日	阿弥陀寺	西浅井町 菅浦

No.	市	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
297	87	市指定	彫刻	薬師如来坐像及び脇侍像	1	3 軀	平安後期	平成 16 年 4 月 30 日	増光寺	西浅井町 山田
298	88	市指定	彫刻	阿弥陀如来坐像	1	1 軀	鎌倉	平成 16 年 4 月 30 日	山門自治会	西浅井町 山門
299	89	市指定	彫刻	大日如来坐像	1	1 軀	平安後期	平成 17 年 3 月 1 日	遍照寺	西浅井町 大浦
300	90	市指定	彫刻	阿弥陀如来立像	1	1 軀	鎌倉後期	平成 17 年 3 月 1 日	遍照寺	西浅井町 大浦
301	91	市指定	彫刻	大日如来坐像	1	1 軀	平安後期	平成 17 年 3 月 1 日	蓮通寺	西浅井町 岩熊
302	92	市指定	彫刻	阿弥陀如来坐像	1	1 軀	鎌倉後期	平成 17 年 3 月 1 日	大浦観音堂	西浅井町 大浦
303	93	市指定	彫刻	阿弥陀如来立像	1	1 軀	鎌倉後期	平成 17 年 3 月 1 日	祇樹院	西浅井町 菅浦
304	94	市指定	彫刻	毘沙門天立像	1	1 軀	鎌倉後期	平成 17 年 3 月 1 日	横波薬師堂	西浅井町 横波
305	95	市指定	彫刻	薬師如来坐像	1	1 軀	室町	平成 17 年 3 月 1 日	横波薬師堂	西浅井町 横波
306	96	市指定	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1	1 軀	平安	平成 21 年 3 月 30 日	小野寺町	小野寺町
307	97	市指定	彫刻	木造阿弥陀三尊像	1	3 軀	鎌倉	平成 22 年 4 月 26 日	知善院	元浜町
308	98	市指定	彫刻	木造豊臣秀吉坐像	1	1 軀	江戸	平成 22 年 4 月 26 日	知善院	元浜町
309	99	市指定	彫刻	木造千手観音立像	1	1 軀	平安	平成 22 年 4 月 26 日	総持寺	宮司町
310	100	市指定	彫刻	木造毘沙門天立像	1	1 軀	平安	平成 22 年 4 月 26 日	光信寺	太田町
311	101	市指定	彫刻	木造聖観音坐像	1	1 軀	鎌倉	平成 24 年 4 月 24 日	源昌寺	余呉町 上丹生
312	102	市指定	彫刻	木造僧形坐像	1	1 軀	鎌倉	平成 24 年 4 月 24 日	源昌寺	余呉町 上丹生
313	103	市指定	彫刻	木造不動明王坐像	1	1 軀	平安	平成 25 年 3 月 27 日	大聖寺 不動堂	大門町
314	104	市指定	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1	1 軀	鎌倉	平成 25 年 3 月 27 日	浄信寺	木之本町 木之本
315	105	市指定	彫刻	木造聖観音立像	1	1 軀	平安	令和 3 年 3 月 30 日	宝厳寺	早崎町
316	106	市指定	工芸品	梵鐘	1	1 口	南北朝	昭和 37 年 9 月 7 日	勝福寺	元浜町
317	107	市指定	工芸品	長浜曳山祭翁山飾毛綴	1	1 枚	16 世紀	昭和 37 年 9 月 7 日	翁山組	元浜町
318	108	市指定	工芸品	石造薬師如来	1	1 軀	鎌倉	昭和 42 年 12 月 7 日	八幡東町 共有	八幡東町
319	109	市指定	工芸品	梵鐘	1	1 口	南北朝	昭和 44 年 7 月 1 日	誓願寺	内保町
320	110	市指定	工芸品	鉄鑄造鐔口	1	1 口	桃山	昭和 47 年 11 月 27 日	長浜八幡宮	宮前町
321	111	市指定	工芸品	石燈籠	1	1 基	南北朝	昭和 48 年 7 月 1 日	都久夫須麻 神社	早崎町
322	112	市指定	工芸品	鉄釣燈籠	1	1 基	室町 永禄 6 年	昭和 48 年 7 月 1 日	麻蘇多神社	益田町
323	113	市指定	工芸品	草花双雀鏡	1	1 口	鎌倉	昭和 53 年 12 月 11 日	大安養神社	安養寺町
324	114	市指定	工芸品	短冊散花文様打敷	1	1 枚	江戸 慶長 19 年	昭和 54 年 7 月 24 日	還来寺	三川町
325	115	市指定	工芸品	五村別院梵鐘	1	1 口	江戸 宝暦 4 年	昭和 54 年 7 月 24 日	五村別院	五村
326	116	市指定	工芸品	鐔口	1	1 口	室町	昭和 62 年 3 月 25 日	宝厳寺	早崎町
327	117	市指定	工芸品	六十二間阿古陀形筋兜	1	1 頭	室町	昭和 62 年 3 月 25 日	大安養神社	安養寺町
328	118	市指定	工芸品	銅磬	1	1 面	南北朝	昭和 62 年 11 月 3 日	常楽寺	湖北町 山本
329	119	市指定	工芸品	石燈籠	1	1 基	鎌倉後期	平成 2 年 4 月 2 日	菅山寺	余呉町 坂口
330	120	市指定	工芸品	大澤寺梵鐘 近江国伊香郡中庄黒田 郷大沢寺之鐘事。 領家方村人 右修理田 者戊国名内三反半 一反半者修理田二反者 鐘撞給也。 応永十九年（壬辰） 九月十四日地頭方 村人敬白大工兵衛尉八 田部守友の刻銘 が池間にある	1	1 口	室町 応永 19 年	平成 3 年 9 月 12 日	大澤寺	木之本町 黒田
331	121	市指定	工芸品	光琳寺梵鐘 康永二季癸未二月の陽 鑄銘がある	1	1 口	南北朝 康永 2 年	平成 5 年 6 月 30 日	光琳寺	木之本町 金居原

No.	市	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
332	122	市指定	工芸品	鉄錆地二十二間筋兜	1	1 頭	室町末期	平成 7 年 6 月 30 日	木之本 自治会	木之本町 木之本
333	123	市指定	工芸品	鰐口	1	1 口	安土・桃山	平成 11 年 3 月 31 日	浄信寺	木之本町 木之本
334	124	市指定	工芸品	鉄製釣燈籠	1	1 口	江戸	平成 14 年 3 月 29 日	日吉神社	高月町 井口
335	125	市指定	工芸品	阿弥陀三尊像懸仏	1	1 面	室町	平成 17 年 3 月 1 日	大浦観音堂	西浅井町 大浦
336	126	市指定	工芸品	鰐口 正応三年九月廿二日の 陽鑄銘がある	1	1 口	鎌倉 正応 3 年	平成 24 年 4 月 24 日	須賀神社	西浅井町 菅浦
337	127	市指定	工芸品	鰐口 正応五年壬辰貳月十一 日の陰刻銘がある	1	1 口	鎌倉 正応 5 年	平成 24 年 4 月 24 日	須賀神社	西浅井町 菅浦
338	128	市指定	工芸品	鰐口 応永庚寅十月吉日の陰 刻銘がある	1	1 口	室町 応永 17 年	平成 24 年 4 月 24 日	須賀神社	西浅井町 菅浦
339	129	市指定	工芸品	銅鏡 嘉禎三年丁酉六月十五 日の墨書銘がある 5	1	1 面	鎌倉 嘉禎 3 年	平成 24 年 4 月 24 日	須賀神社	西浅井町 菅浦
340	130	市指定	書跡	紙本墨書淀殿浅井氏（淀 君）自筆消息	1	1 幅	桃山	昭和 37 年 9 月 7 日	知善院	元浜町
341	131	市指定	書跡	紙本墨書天正十九年五月 九日豊臣秀吉長浜町屋敷 年貢免除朱印状	1	1 通	桃山	昭和 37 年 9 月 7 日	下郷共済会	朝日町
342	132	市指定	書跡	神照寺寺田記録	1	2 綴	室町	昭和 39 年 12 月 25 日	神照寺	新庄寺町
343	133	市指定	書跡	紙本墨書石田三成八条村 村掟	1	1 巻	桃山	昭和 39 年 12 月 25 日	個人	八条町
344	134	市指定	書跡	紙本墨書国友鉄砲鍛冶仲 間定書 附 国友鍛冶往古より 旧記写並びに 連判書付写	1	1 巻	江戸	昭和 39 年 12 月 25 日	個人	国友町
345	135	市指定	書跡	国友一貫斉文書	1	251 点 追 433 点	江戸	昭和 39 年 12 月 25 日 追昭和 58 年 3 月 28 日	個人	国友町
346	136	市指定	書跡	総持寺文書	1	18 巻 9 冊	室町～江戸	昭和 42 年 12 月 7 日	総持寺	宮司町
347	137	市指定	書跡	（無年）六月六日平方名 主百姓宛羽柴秀吉下知状	1	1 通	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	個人	平方町
348	138	市指定	書跡	天正八年三月吉日羽柴秀 吉・同秀勝連署奉加帳	1	1 帖	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	長浜八幡宮	宮前町
349	139	市指定	書跡	天正九年四月二十二日野 村弥八郎宛羽柴秀吉・同 秀勝連署宛行状	1	1 幅	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	個人	十里町
350	140	市指定	書跡	天正十一年正月日羽柴秀 吉制札	1	1 枚	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	個人	十里町
351	141	市指定	書跡	天正十一年閏正月日羽柴 秀吉禁制	1	1 通	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	個人	大戊亥町
352	142	市指定	書跡	天正十四年十二月八日妙 法寺宛豊臣秀吉寄進状	1	1 幅	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	妙法寺	大宮町
353	143	市指定	書跡	天正十九年四月二十三日 知善院宛豊臣秀吉朱印状	1	1 幅	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	知善院	元浜町
354	144	市指定	書跡	（無年）八月二十日羽柴 藤吉郎宛織田信長書状	1	1 幅	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	長浜市	八幡東町
355	145	市指定	書跡	天正十九年四月二十三日 神照寺宛豊臣秀吉朱印状	1	1 通	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	神照寺	新庄寺町
356	146	市指定	書跡	天正十六年十二月十七日神 照寺宛羽柴秀吉寄進状	1	1 通	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	神照寺	新庄寺町
357	147	市指定	書跡	天正十年十二月日羽柴秀 吉制札	1	1 枚	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	神照寺	新庄寺町
358	148	市指定	書跡	舎那院文書	1	1 巻	桃山	昭和 49 年 3 月 27 日	舎那院	宮前町
359	149	市指定	書跡	（無年）十二月五日夜下村 玄蕃宛羽柴秀吉書状	1	1 通	桃山	昭和 50 年 3 月 27 日	下郷共済会	朝日町
360	150	市指定	書跡	（無年）五月十五日長浜 町中、八幡庄中宛羽柴秀 吉朱印状	1	1 通	桃山	昭和 50 年 3 月 27 日	下郷共済会	朝日町
361	151	市指定	書跡	（無年）八月十二日なか はま町人中宛羽柴秀吉朱 印状	1	1 通	桃山	昭和 50 年 3 月 27 日	下郷共済会	朝日町
362	152	市指定	書跡	（無年）正月十三日長浜 町人中宛羽柴秀吉朱印状	1	1 通	桃山	昭和 50 年 3 月 27 日	下郷共済会	朝日町
363	153	市指定	書跡	（無年）八月十八日長浜 惣中宛新銭鑄造停止朱印 状 附 八月十八日豊臣定 長、石田正 澄連署添状 1 通	1	1 通	桃山	昭和 50 年 3 月 27 日	下郷共済会	朝日町

No.	市	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
364	154	市指定	書跡	(無年)五月二十一日長浜町人惣中宛豊臣秀吉内書	1	1 通	桃山	昭和 50 年 3 月 27 日	下郷共済会	朝日町
365	155	市指定	書跡	(無年)六月二十八日江洲長浜町人中宛豊臣秀吉内書	1	1 通	桃山	昭和 50 年 3 月 27 日	下郷共済会	朝日町
366	156	市指定	書跡	大般若経(宋版)	1	100 点	南北朝	昭和 54 年 5 月 1 日	醍醐寺	醍醐町
367	157	市指定	書跡	天正十九年猫口村検地帳	1	2 冊	桃山 天正 19 年	昭和 55 年 3 月 15 日	猫口自治会	湖北町 猫口
368	158	市指定	書跡	慶長七年猫口村水帳	1	2 冊	桃山 慶長 7 年	昭和 55 年 3 月 15 日	猫口自治会	湖北町 猫口
369	159	市指定	書跡	(天正四年十月十五日医王寺侍者宛)羽柴秀吉寺領寄進状	1	1 幅	桃山	昭和 57 年 4 月 14 日	徳勝寺	平方町
370	160	市指定	書跡	(無年七月十五日徳勝寺宛)羽柴秀勝寺領寄進状	1	1 幅	桃山	昭和 57 年 4 月 14 日	徳勝寺	平方町
371	161	市指定	書跡	(無年卯月十四日長浜町惣中宛)羽柴秀吉朱印状	1	1 幅	桃山	昭和 57 年 4 月 14 日	長浜市	八幡東町
372	162	市指定	書跡	川崎文書	1	1962 点	安土桃山～ 明治	昭和 62 年 3 月 25 日	個人	富田町
373	163	市指定	書跡	国友源右衛門家文書	1	1813 点	江戸～昭和	昭和 63 年 3 月 8 日	個人	国友町
374	164	市指定	書跡	大般若波羅蜜多経	1	558 帖	鎌倉～南北朝	平成 5 年 5 月 1 日	金蔵寺	高月町 磯野
375	165	市指定	書跡	横山神社木札類 (建仁 4 年・1 枚、 永仁 6 年・2 枚、 嘉元 2 年・1 枚、 建武 2 年・1 枚、 明德 3 年・1 枚、 永正 2 年・1 枚、その他 2 枚)	1	9 枚	鎌倉～室町	平成 6 年 6 月 30 日	横山神社	木之本町 杉野
376	166	市指定	書跡	上坂家文書	1	110 点	室町～明治	平成 8 年 9 月 1 日	西上坂町 自治会	西上坂町
377	167	市指定	書跡	下坂家文書	1	697 点	南北朝～明治	平成 8 年 9 月 1 日	長浜市	八幡東町
378	168	市指定	書跡	大般若波羅蜜多経	1	100 卷	室町	平成 9 年 4 月 1 日	西念寺	余呉町 東野
379	169	市指定	書跡	黒田自治会共有文書	1	2 点	戦国～ 安土桃山	平成 12 年 3 月 31 日	黒田自治会	木之本町 黒田
380	170	市指定	書跡	己高山中文書	1	6 点	戦国～ 安土桃山	平成 12 年 3 月 31 日	鶏足寺	木之本町 古橋
381	171	市指定	書跡	垣見家文書	1	843 点	室町～明治	平成 14 年 7 月 1 日	長浜市	八幡東町
382	172	市指定	書跡	浄信寺文書	1	1415 点	戦国～明治	平成 16 年 6 月 1 日	浄信寺	木之本町 木之本
383	173	市指定	書跡	古橋村高橋家文書	1	333 点	安土桃山～ 江戸	平成 16 年 6 月 1 日	長浜市	八幡東町
384	174	市指定	書跡	石田三成大沢村九ヶ条掟書	1	1 卷	安土・桃山	平成 18 年 3 月 31 日	大澤神社	木之本町 黒田
385	175	市指定	書跡	加藤家文書	1	23 点	室町～ 江戸(前期)	平成 29 年 12 月 27 日	個人	常喜町
386	176	市指定	考古 資料	布勢古墳出土品	1	53 点	古墳	昭和 39 年 12 月 25 日	布勢町共有	布勢町
387	177	市指定	考古 資料	須恵器甕	1	1 点	古墳	昭和 48 年 7 月 1 日	びわ中学校	弓削町
388	178	市指定	考古 資料	満願寺址出土瓦	1	6 点	奈良	昭和 48 年 7 月 1 日	来現寺 観音堂	弓削町
389	179	市指定	考古 資料	満願寺址出土瓦	1	1 点	奈良	昭和 48 年 7 月 1 日	びわ中学校	弓削町
390	180	市指定	考古 資料	葛籠尾崎湖底遺跡出土遺物	1	1 括	縄文他	昭和 62 年 11 月 3 日	個人	湖北町 尾上
391	181	市指定	考古 資料	銅製経筒	1	1 口	平安	昭和 62 年 11 月 3 日	伊豆神社	湖北町 速水
392	182	市指定	考古 資料	長浜町遺跡出土品 附 瓦 1 点	1	68 点	安土桃山～ 江戸	平成 25 年 3 月 27 日	長浜市	八幡東町
393	183	市指定	考古 資料	神宮寺遺跡出土品	1	87 点	古墳～奈良	平成 25 年 3 月 27 日	長浜市	八幡東町
394	184	市指定	考古 資料	絵馬十里町遺跡出土品	1	1 点	奈良～平安	平成 26 年 3 月 27 日	長浜市	八幡東町
395	185	市指定	歴史 資料	国友一貫斎作望遠鏡 附 付属品 93 点	1	1 基	江戸	昭和 39 年 12 月 25 日	個人	国友町
396	186	市指定	歴史 資料	国友一貫斎作気炮 附 空気あっさくポン プ	1	1 挺	江戸	昭和 39 年 12 月 25 日	個人	国友町
397	187	市指定	歴史 資料	紙本著色小谷城跡絵図	1	1 幅	明治	昭和 55 年 3 月 15 日	小谷城址 保勝会	小谷郡上町

No.	市	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
388	188	市指定	歴史 資料	紙本墨書門侶交名帳	1	1 冊	室町末期	昭和 55 年 3 月 15 日	光照寺	湖北町 津里
389	189	市指定	歴史 資料	紙本著色絵系図断簡	1	6 枚	室町 永享 12 年	昭和 55 年 3 月 15 日	光照寺	湖北町 津里
400	190	市指定	歴史 資料	田川逆水門模型	1	1 基	江戸	昭和 56 年 2 月 19 日	田町	田町
401	191	市指定	歴史 資料	田川水門遺跡	1	1 件	江戸	昭和 56 年 2 月 19 日	長浜市	唐国町
402	192	市指定	歴史 資料	雨森芳洲文庫	1	178 点	江戸～明治	昭和 58 年 1 月 28 日	芳洲会	高月町 雨森
403	193	市指定	歴史 資料	槍	1	8 本	桃山～江戸	昭和 63 年 3 月 8 日	長浜市	八幡東町
404	194	市指定	歴史 資料	広屋の大石（自然石）	1	1 石	江戸	平成 3 年 9 月 12 日	山梨子 自治会	木之本町 山梨子
405	195	市指定	歴史 資料	年々萬日記	1	1 冊	江戸	平成 3 年 9 月 12 日	個人	木之本町 山梨子
406	196	市指定	歴史 資料	紙本著色近江国伊香郡西 阿閉村郷内細見図	1	1 幅	江戸	平成 17 年 3 月 31 日	西阿閉 自治会	高月町 西阿閉
407	197	市指定	歴史 資料	反射望遠鏡 附 収納箱（外箱） 1 点、 収納箱（内箱） 1 点、 置台（天板付） 1 点、 接眼鏡（ノンガラスを 含む） 3 点、 接眼鏡蓋 1 点、 レンズ置き竹筒 1 点、 鏡筒蓋 1 点	1	1 基	江戸 天保 7 年	平成 25 年 3 月 27 日	長浜市	八幡東町
408	198	市指定	有形 民俗	花火の陣屋	1	1 組	江戸	昭和 38 年 10 月 30 日	国友町 西組共有	国友町
409	199	市指定	有形 民俗	石造旧北国街道道標	1	1 基	江戸	昭和 41 年 12 月 9 日	個人	大茂亥町
410	200	市指定	有形 民俗	国友鉄砲鍛冶道具	1	284 点	江戸	昭和 42 年 12 月 7 日	個人	国友町
411	201	市指定	有形 民俗	むろとの人数帳	1	1 冊	室町～江戸	昭和 48 年 7 月 1 日	難波鍛冶組	難波町
412	202	市指定	有形 民俗	むろとの人数帳	1	3 冊	室町～江戸	昭和 48 年 7 月 1 日	難波西組	難波町
413	203	市指定	有形 民俗	石造道標	1	1 基		昭和 48 年 7 月 1 日	香花寺町	香花寺町
414	204	市指定	有形 民俗	国友鉄砲鍛冶道具	1	1505 点	江戸	昭和 55 年 3 月 29 日	個人	国友町
415	205	市指定	有形 民俗	花火の陣屋 （飛雲館組・翁組）	1	2 組	江戸	昭和 56 年 2 月 19 日	宮部町	宮部町
416	206	市指定	有形 民俗	常盤山	1	1 基	江戸 文政 5 年	昭和 56 年 2 月 19 日	五村自治会	五村
417	207	市指定	有形 民俗	宮川祭の曳山（颯々館）	1	1 基	江戸 享和 2 年 〔棟木〕	昭和 58 年 3 月 28 日	宮司東町 自治会	宮司町
418	208	市指定	有形 民俗	花火の陣屋（七星組）	1	2 組	江戸	平成 6 年 6 月 17 日	宮部町	宮部町
419	209	市指定	有形 民俗	鍛冶小屋 （鍛冶道具等含む）	1	1 件	明治時代 （19 世紀後半 ～ 20 世紀前期）	平成 21 年 3 月 30 日	個人	鍛冶屋町
420	210	市指定	無形 民俗	元三大師お水取り行事	1	1 件		昭和 54 年 7 月 24 日	玉泉寺	三川町
421	211	市指定	無形 民俗	速水伊豆神社八朔大祭幡 母衣・青物神輿	1	1 件		昭和 62 年 11 月 3 日	幡母衣・ 青物神輿 保存会 湖北町速水 自治会	湖北町 速水
422	212	市指定	無形 民俗	川合太鼓踊り（寿踊り）	1	1 件		昭和 62 年 12 月 14 日	川合義会	木之本町 川合
423	213	市指定	無形 民俗	金居原太鼓踊	1	1 件		昭和 62 年 12 月 24 日	金居原 太鼓踊り 保存会	木之本町 金居原
424	214	市指定	無形 民俗	七条の春祭り	1	1 件		平成 7 年 3 月 1 日	足柄神社	七条町
425	215	市指定	無形 民俗	永久寺の蛇の舞	1	1 件		平成 14 年 7 月 1 日	永久寺 蛇の舞 保存会	永久寺町
426	216	市指定	無形 民俗	八日市の太鼓踊り	1	1 件		平成 22 年 4 月 26 日	八日市 太鼓踊り 保存会	湖北町 八日市
427	217	市指定	無形 民俗	須賀神社例祭 （須賀の祭）	1	1 件		平成 27 年 2 月 19 日	須賀神社	西浅井町 菅浦
428	218	市指定	史跡	長浜城跡	1	1 件	桃山	昭和 37 年 9 月 7 日	長浜市	公園町
429	219	市指定	史跡	小堀遠州出生地	1	1 件	桃山	昭和 39 年 12 月 25 日	個人	小堀町

No.	市	指定 区分	種 別	名 称	件 数	点 数	年代	指定年月日	所有者	所在地
430	220	市指定	史跡	糸里立石	1	1 基	白鳳	昭和 44 年 7 月 1 日	南郷町	南郷町
431	221	市指定	史跡	姉川古戦場跡	1	1 地区	安土桃山	昭和 54 年 5 月 1 日	野村町・ 三田町	野村町・ 三田町
432	222	市指定	史跡	北国脇往還史跡	1	2 基	江戸	昭和 54 年 5 月 1 日	八島町・ 野村町	八島町・ 野村町
433	223	市指定	史跡	登り窯	1	1 基	古墳	昭和 54 年 5 月 1 日	木尾町	木尾町
434	224	市指定	史跡	大人塚古墳	1	1 基	古墳	昭和 54 年 5 月 1 日	木尾町	木尾町
435	225	市指定	史跡	城山古墳群	1	数十基	古墳	昭和 54 年 5 月 1 日	木尾町	木尾町
436	226	市指定	史跡	醍醐遺跡（集落跡）	1	1 地区	縄文	昭和 54 年 5 月 1 日	醍醐町	醍醐町
437	227	市指定	史跡	岡の腰古墳	1	1 基	古墳	昭和 54 年 5 月 1 日	八島町	八島町
438	228	市指定	史跡	亀塚古墳	1	1 基	古墳	昭和 54 年 5 月 1 日	八島町	八島町
439	229	市指定	史跡	雲雀山古墳群	1	16 基	古墳	昭和 54 年 5 月 1 日	山ノ前町	山ノ前町
440	230	市指定	史跡	虎御前山	1	1 件	室町	昭和 56 年 2 月 19 日	中野町	中野町
441	231	市指定	史跡	東野山城跡	1	1 件	桃山	平成 4 年 4 月 1 日	上丹生 自治会 中之郷森林 生産組合	余呉町東野、 余呉町 中之郷、 余呉町上丹生
442	232	市指定	史跡	塚原古墳群	1	64 基	古墳	平成 8 年 3 月 28 日	醍醐町他	醍醐町
443	233	市指定	史跡	別所山砦跡	1	1 件	桃山	平成 9 年 4 月 1 日	個人	余呉町小谷、 余呉町池原
444	234	市指定	史跡	妙法寺 塚墓 （石囲い箱棺墓）	1	1 件	室町	平成 16 年 4 月 21 日	妙法寺	大宮町
445	235	市指定	史跡	垣見氏館跡	1	1 件	室町	平成 30 年 12 月 27 日	楠ヨブ	宮司町
446	236	市指定	名勝	長浜八幡宮放生池	1	1 件	桃山	昭和 41 年 12 月 9 日	長浜八幡宮	宮前町
447	237	市指定	名勝	大通寺学問所庭園	1	1 件	江戸	昭和 43 年 12 月 10 日	大通寺	元浜町
448	238	市指定	名勝	実宰院庭園	1	1 件	南北朝初期	昭和 54 年 5 月 1 日	実宰院	平塚町
449	239	市指定	名勝	大吉寺庭園	1	1 件	江戸	平成 13 年 4 月 1 日	大吉寺	野瀬町
450	240	市指定	天然 記念物	眼球チャート	1	1 件		昭和 41 年 8 月 17 日	長浜市	余呉町 尾羽梨
451	241	市指定	天然 記念物	藤老木	1	2 株	樹齢約 390 年	昭和 44 年 7 月 1 日	素盞鳴命 神社	上野町
452	242	市指定	天然 記念物	余呉湖埋没林	1	1 件		昭和 53 年 6 月 23 日	滋賀県	余呉町 下余呉他
453	243	市指定	天然 記念物	柊	1	1 株	樹齢約 1300 年	昭和 54 年 5 月 1 日	瓜生町	瓜生町
454	244	市指定	天然 記念物	ハナノキ	1	1 本	樹齢約 70 年	昭和 57 年 5 月 10 日	赤分寺	高月町 東高田
455	245	市指定	天然 記念物	サイカチ	1	1 株	樹齢約 800 年	平成 8 年 3 月 28 日	力丸町	力丸町
456	246	市指定	天然 記念物	権現杉	1	1 本		平成 9 年 12 月 1 日	川合自治会	木之本町 川合
457	247	市指定	天然 記念物	シラカシ	1	1 本		平成 9 年 12 月 1 日	大音自治会	木之本町 大音
458	248	市指定	天然 記念物	イヌザクラ	1	1 本		平成 9 年 12 月 1 日	木之本 自治会	木之本町 木之本
459	249	市指定	天然 記念物	榎（かや）	1	1 株	樹齢 450～ 500 年	平成 13 年 4 月 1 日	瓜生町	瓜生町

3 長浜市の歴史文化関連図書一覧

番号	図書名	発行者	発行年
1	長浜市指定史跡長浜城跡発掘調査報告書	長浜市教育委員会	1971
2	第1集 宮司遺跡・十里遺跡（字十五町地区）遺跡調査報告書	長浜市教育委員会	1977
3	第2集 高田遺跡（長浜電報電話局敷地内所在）調査報告書	長浜市教育委員会	1980
4	第3集 宮司遺跡調査報告書（長浜市宮司町字八反田所在）	長浜市教育委員会	1988
5	第4集 十里町・鴨田遺跡調査	長浜市教育委員会	1988
6	第5集 越前塚遺跡発掘調査報告書 —加藤工業団地造成関連—	長浜市教育委員会	1988
7	第6集 越前塚遺跡Ⅲ他4遺跡（越前塚、口分田北、宮司、新庄馬場、大辰巳）	長浜市教育委員会	1990
8	第7集 堀部西遺跡・八田切遺跡発掘調査報告書	長浜市教育委員会	1993
9	第8集 塚町遺跡ⅦⅦ —弥生時代前期末～中期前半・方形周溝墓群の調査—	長浜市教育委員会	1994
10	第9集 堀部西遺跡発掘調査報告書 —堀部東西一号千関連—	長浜市教育委員会	1995
11	第10集 墓立遺跡Ⅰ 弥生時代終末から古墳時代初期の集落遺跡	長浜市教育委員会	1995
12	第11集 地福寺遺跡・塚町遺跡発掘調査報告書 平方・地福寺土地区画整理事業に伴う発掘調査 地福寺遺跡第3・5次調査報告書 塚町遺跡第1・2・3・4次調査報告書	長浜市教育委員会	1995
13	第12集 大塚遺跡	長浜市教育委員会	1995
14	第13集 金剛寺遺跡発掘調査報告書 —加田地区農業集落排水施設関連—	長浜市教育委員会	1996
15	第14集 大塚遺跡Ⅱ —弥生時代後期から古墳時代の集落遺跡の調査—	長浜市教育委員会	1996
16	第15集 墓立遺跡Ⅱ 弥生時代終末から古墳時代初期の集落遺跡	長浜市教育委員会	1996
17	第16集 川崎遺跡Ⅰ川崎遺跡23次調査報告書	長浜市教育委員会	1996
18	第17集 川崎遺跡Ⅱ 川崎遺跡27次調査報告書	長浜市教育委員会	1997
19	第18集 下坂氏館跡・大戌亥遺跡・下坂中中世墓群 —下坂中下之郷線改良工事関連—	長浜市教育委員会	1997
20	第19集 神戸遺跡発掘調査報告書 試掘調査と第2次調査及び第1次調査	長浜市教育委員会	1997
21	第20集 経田寺遺跡発掘調査報告書 —市道大辰巳平方南線道路改良関連—	長浜市教育委員会	1997
22	第21集 福満寺遺跡・大戌亥遺跡発掘調査報告書 福満寺遺跡第1次・第2次・大戌亥遺跡第12次調査	長浜市教育委員会	2000
23	第22集 北郷里小遺跡 北郷里小遺跡の成立・展開と長浜市北東部の様相に関する試論	長浜市教育委員会	1998
24	第23集 下坂中町遺跡 下坂氏支配集落、全国3例目中世の厩舎、足跡考古学、県内2例目ウマ足跡、旗指物遺構、東播系須恵質土器、鬼門を意識した祭祀遺跡	長浜市教育委員会	1998
25	第24集 川崎南遺跡 中世以降の土地利用	長浜市教育委員会	1998
26	第25集 墓立遺跡・柿田遺跡・正蓮寺遺跡①	長浜市教育委員会	1999
27	第25集-2 墓立遺跡・柿田遺跡・正蓮寺遺跡②	長浜市教育委員会	2000
28	第26集 野瀬遺跡発掘調査報告書 中世水田遺構と足跡の検出	長浜市教育委員会	1999
29	第27集 八幡東遺跡 近世水田跡、ヒト・ウマ・ウシ足跡	長浜市教育委員会	1999
30	第28集 東高田遺跡 中世土豪高田氏支配集落跡および奈良時代掘立柱建物跡の発掘調査報告書	長浜市教育委員会	1999
31	第29集 長浜町遺跡Ⅰ 近江製糸株式会社跡および中世礎石建物跡の立会調査報告書	長浜市教育委員会	1999
32	第30集 鴨田遺跡発掘調査報告書	長浜市教育委員会	1999
33	第31集 大辰巳遺跡発掘調査報告書第7次調査 （住宅及び倉庫建設に伴う調査）	長浜市教育委員会	1999
34	第32集 矢正寺遺跡	長浜市教育委員会	2000

番号	図書名	発行者	発行年
35	第33集 大戊亥遺跡	長浜市教育委員会	2000
36	第34集 宮司遺跡発掘調査報告書 (共同住宅建設に伴う調査)	長浜市教育委員会	2000
37	第35集 宮司東遺跡 弥生前期と中期の過渡期集落、弥生最古級の多孔土器、緑釉陶器、垣見氏支配下の中世集落、地鎮遺構、鎮守遺構、宮川藩陣屋跡	長浜市教育委員会	2000
38	第36集 宮司東遺跡Ⅱ発掘調査報告書 (屋根付き多目的運動広場建設に伴う調査)	長浜市教育委員会	2000
39	第37集 平方遺跡 —都市計画街路 3-4-6 号長浜駅室線道路築造関連 縄文集落、中世祭祀遺構、近世竹樋—	長浜市教育委員会	2000
40	第38集 松ノ木塚遺跡・四ツ塚古墳・福満寺遺跡・平方遺跡 長浜市四ツ塚土地地区画整理事業に伴う調査 縄文時代後期の集落、縄文犬の足跡検出、縄文時代の火災住居、縄文時代土壇墓、中世祭祀遺構、近世水田	長浜市教育委員会	2000
41	第39集 地藏堂遺跡 中世寺院跡の発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2000
42	第40集 大戊亥・鴨田遺跡 市立長浜病院建設関連	長浜市教育委員会	2002
43	第41集 宮司遺跡・長浜城遺跡・神照寺坊遺跡 中世集落、中世墓、「観応の擾乱」の舞台、中世神仏混交期の池、姉川の合戦で攻撃された神照寺城、秀吉の居城	長浜市教育委員会	2002
44	第42集 長浜町遺跡 第1次・第2次・第18次発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2002
45	第43集 下水道関連1立会調査報告書 平成元年・10年・11年・12年度	長浜市教育委員会	2002
46	第44集 室遺跡15次調査 宅地造成およびアパート新築工事に伴う発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2002
47	第45集 川崎遺跡第32次調査 共同住宅建築および造成工事に伴う事前調査	長浜市教育委員会	2002
48	第46集 宮司遺跡・室遺跡・鴨田遺跡発掘調査報告書 関西電力滋賀支店鉄塔移設事業に伴う事前調査	長浜市教育委員会	2003
49	第47集 塚町遺跡第19次調査 —共同住宅新築工事に伴う事前調査—	長浜市教育委員会	2003
50	第48集 下水道関連2立会調査報告書平成31年度 (市内下水道工事に伴う立会調査)	長浜市教育委員会	2003
51	第49集 大塚遺跡Ⅲ 民間資材置場建設に伴う事前調査古墳時代集落跡	長浜市教育委員会	2003
52	第50集 堀部西遺跡・真源寺遺跡 農村総合整備モデル事業防火水槽建設工事に伴う事前調査 古墳時代集落跡、古代から中世までの寺院跡	長浜市教育委員会	2003
53	第51集 団体営圃場整備事業関連遺跡調査報告書 十里町遺跡第3次調査 鴨田遺跡第3・4次調査鳥居立遺跡第1次調査 妙覚寺遺跡第1次調査 口分田北遺跡第3.4次調査 川崎遺跡第14.17次調査 大塚遺跡第11次調査	長浜市教育委員会	2003
54	第52集 詳細遺跡分布調査報告書 横山古墳群・横山城及び関連	長浜市教育委員会	2003
55	第53集 下水道関連3立会調査報告書 市内下水道工事に伴う立会調査	長浜市教育委員会	2004
56	第54集 神宮寺遺跡 マンションに建設に伴う発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2004
57	第55集 川崎遺跡 —ガソリンスタンド建設に伴う発掘調査報告書— 墓立遺跡 —東部福祉ステーション建設に伴う発掘調査報告書—	長浜市教育委員会	2004
58	第56集 「伝羽柴秀勝墓」学術調査報告書 —長浜市制60周年記念行事—	長浜市教育委員会	2004
59	第57集 室遺跡 第20次調査	長浜市教育委員会	2004
60	第58集 下水道関連4立会調査報告書	長浜市教育委員会	2004
61	第59集 小堀遺跡・阿弥陀遺跡 市道南田附神前線道路改良工事に伴う発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2004
62	第60集 長浜町遺跡 第46次調査	長浜市教育委員会	2005

番号	図書名	発行者	発行年
63	第 61 集 下坂氏館跡総合調査報告書	長浜市教育委員会	2005
64	第 62 集 小堀遺跡第 3 次調査 市道南田附神前線道路改良工事に伴う発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2005
65	第 63 集 神照寺坊遺跡 ―民間宅地造成および住宅建設工事に伴う発掘調査―	長浜市教育委員会	2005
66	第 64 集 詳細遺跡分布調査報告書 2 横山古墳群・横山城跡及び関連砦確認調査	長浜市教育委員会	2005
67	第 65 集 下水道関連 5 市内下水道工事に伴う立会調査	長浜市教育委員会	2005
68	第 75 集 室遺跡第 30 次調査	長浜市教育委員会	2007
69	第 76 集 三田村氏館跡総合調査報告書	長浜市教育委員会	2007
70	第 77 集 下水道関連 6 立会調査報告書平成 17 年度	長浜市教育委員会	2006
71	第 78 集 川崎遺跡第 40 次調査	長浜市教育委員会	2007
72	第 79 集 長浜町遺跡第 71 次調査	長浜市教育委員会	2007
73	第 80 集 塚町遺跡第 47 次調査 ―共同住宅新築工事に伴う発掘調査―	長浜市教育委員会	2007
74	第 81 集 室遺跡第 31 次調査	長浜市教育委員会	2007
75	第 82 集 長浜城遺跡第 136 次調査	長浜市教育委員会	2007
76	第 83 集 八幡東第 30 次調査	長浜市教育委員会	2007
77	第 84 集 弓月野遺跡第 12 次調査	長浜市教育委員会	2007
78	第 85 集 鴨田遺跡第 23 次調査	長浜市教育委員会	2007
79	第 86 集 大塚遺跡第 31 次調査	長浜市教育委員会	2007
80	第 87 集 内保遺跡第 28 次・36 次調査	長浜市教育委員会	2007
81	第 88 集 下坂氏館跡調査報告書 2	長浜市教育委員会	2008
82	第 89 集 塚町遺跡第 49 次調査報告書	長浜市教育委員会	2008
83	第 90 集 川崎遺跡第 51 次調査報告書	長浜市教育委員会	2008
84	第 91 集 横山城跡確認調査報告書	長浜市教育委員会	2009
85	第 92 集 越前塚遺跡第 33 次調査報告書	長浜市教育委員会	2009
86	第 93 集 室遺跡第 43 次調査報告書	長浜市教育委員会	2009
87	第 94 集 小規模開発関連発掘調査報告書 北近江城館跡群下坂氏館跡・三田村氏館跡確認調査	長浜市教育委員会	2010
88	第 95 集 川崎遺跡第 56 次調査報告書	長浜市教育委員会	2009
89	第 96 集 詳細遺跡分布調査報告書 3 横山丘陵遺跡群確認調査報告書	長浜市教育委員会	2010
90	第 97 集 大塚遺跡第 36 次調査報告書	長浜市教育委員会	2010
91	第 98 集 北郷里小遺跡第 20 次調査報告書	長浜市教育委員会	2010
92	第 99 集 びわ町内遺跡分布調査報告書	長浜市教育委員会	1993
93	第 100 集 小規模開発関連発掘調査報告書（平成 21 年度）	長浜市教育委員会	2011
94	第 101 集 大塚遺跡第 37 次調査報告書	長浜市教育委員会	2010
95	第 133 集 平成 22 年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2012
96	第 134 集 井口遺跡第 11 次調査報告書	長浜市教育委員会	2013
97	第 135 集 高月南遺跡第 32 次調査報告書	長浜市教育委員会	2013
98	第 136 集 十里町遺跡 32 次調査報告書	長浜市教育委員会	2012
99	第 137 集 大通寺遺跡 19 次調査報告書	長浜市教育委員会	2012
100	第 138 集 平成 23 年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2012
101	第 139 集 大円寺遺跡第 8 次調査報告書	長浜市教育委員会	2013
102	第 140 集 室遺跡第 72 次調査報告書	長浜市教育委員会	2013
103	第 141 集 大円寺遺跡第 9 次調査報告書	長浜市教育委員会	2013
104	第 142 集 平成 24 年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2013
105	第 143 集 高月南遺跡第 53 次調査報告書	長浜市教育委員会	2014
106	第 144 集 鴨田遺跡第 28 次調査報告書 ―市立長浜病院診療支援棟建設工事に伴う調査―	長浜市教育委員会	2014
107	第 145 集 物部遺跡第 26 次調査報告書	長浜市教育委員会	2014
108	第 146 集 平成 25 年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2015
109	第 147 集 大辰巳遺跡 45 次調査報告書	長浜市教育委員会	2015
110	第 148 集 高月南遺跡 60 次調査報告書	長浜市教育委員会	2015
111	第 149 集 長浜城遺跡報告書	長浜市教育委員会	2015
112	第 150 集 長浜城遺跡 239 次調査報告書	長浜市教育委員会	2015
113	第 151 集 横山遺跡 10 次調査報告書 - 長浜市立七郷小学校プール建設に伴う埋蔵文化財調査 -	長浜市教育委員会	2015
114	第 152 集 長浜町 148 次・大通寺 22 次調査報告書	長浜市教育委員会	2015
115	第 153 集 小堀遺跡 8 次調査報告書	長浜市教育委員会	2015

番号	図書名	発行者	発行年
116	第154集 川崎遺跡104次調査報告書	長浜市教育委員会	2015
117	第155集 平成26年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2016
118	第156集 高月南遺跡72次調査報告書	長浜市教育委員会	2016
119	第157集 神照寺坊遺跡75次調査報告書	長浜市教育委員会	2016
120	第158集 地藏堂遺跡第21次調査報告書	長浜市教育委員会	2017
121	第159集 長浜城遺跡第272次調査報告書	長浜市教育委員会	2017
122	第160集 宮司遺跡第100次調査報告書	長浜市教育委員会	2017
123	第161集 高月南遺跡第66・73次調査報告書	長浜市教育委員会	2017
124	第162集 H27年度小規模開発関連発掘調査報告書 一垣見氏館跡確認調査報告書・史跡小谷城跡本丸石垣測量調査報告書一	長浜市教育委員会	2017
125	第163集 下坂中町遺跡第14次発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2017
126	第164集 平成28年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2018
127	第165集 大塚遺跡第49次調査報告書	長浜市教育委員会	2018
128	第166集 室遺跡第86次調査報告書	長浜市教育委員会	2018
129	第167集 天王社遺跡第7次調査報告書	長浜市教育委員会	2018
130	第168集 史跡小谷城跡清水谷地区調査報告書	長浜市教育委員会	2018
131	第169集 物部遺跡第32次調査報告書	長浜市教育委員会	2019
132	第170集 史跡小谷城跡確認調査報告書	長浜市教育委員会	2019
133	第171集 渡岸寺遺跡第26次調査報告書	長浜市教育委員会	2019
134	第172集 大戊亥遺跡第107次調査報告書	長浜市教育委員会	2019
135	第173集 平成29年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2019
136	第174集 雨森遺跡第16次調査報告書	長浜市教育委員会	2020
137	第175集 平成30年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2020
138	第176集 高月南遺跡第100次発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2020
139	第177集 加納遺跡第41次発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2020
140	第178集 堀部西遺跡第56次発掘調査報告書	長浜市教育委員会	2020
141	第179集 内保遺跡第68次発掘調査報告書	長浜市	2021
142	第180集 令和元年度小規模開発関連発掘調査報告書	長浜市	2021
143	「地福寺遺跡・塚町遺跡」 ー長浜市平方・地福寺土地区画整理事業に伴う発掘調査ー	長浜市教育委員会	1994
144	平成12年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2002
145	平成13年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2003
146	平成14年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2003
147	平成15年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2004
148	平成16年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2005
149	平成17年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2007
150	平成18年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2007
151	平成19年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2008
152	平成20・21年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2010
153	平成23年度長浜市文化財保護年報	長浜市教育委員会	2012
154	平成24年度長浜市文化財保護年報		
155	平成25年度長浜市文化財保護年報		
156	平成26年度長浜市文化財保護年報		
157	平成27年度長浜市文化財保護年報		
158	平成28年度長浜市文化財保護年報		
159	平成29年度長浜市文化財保護年報		
160	平成30年度長浜市文化財保護年報		
161	平成31年度長浜市文化財保護年報		
162	常設展示ー湖北・長浜のあゆみー	長浜城歴史博物館	1983
163	市立長浜城歴史博物館企画展示解説シート	長浜城歴史博物館	1984～1993
164	国友鉄砲鍛冶ーその世界ー	長浜城歴史博物館	1985
165	長浜曳山まつりー襖絵の美ー	長浜城歴史博物館	1984
166	湖北のまつり 雪そして花	長浜城歴史博物館	1986
167	湖北の絵図ー長浜町絵図の世界ー	長浜城歴史博物館	1987
168	常設展示ー湖北・長浜のあゆみー	長浜城歴史博物館	1988
169	史跡 小谷城跡ー浅井氏三代の城郭と城下町ー	長浜城歴史博物館	1988
170	開館五周年記念特別展 羽柴秀吉と湖北・長浜	長浜城歴史博物館	1988
171	みずうみに生きる	長浜城歴史博物館	1989
172	近江のオコナイ	長浜城歴史博物館	1990

番号	図書名	発行者	発行年
173	竹生島宝蔵寺	長浜城歴史博物館	1992
174	まじない・まつり・いのり	長浜城歴史博物館	1992
175	戦国大名浅井氏と小谷城	長浜城歴史博物館	1992
176	館蔵品図録 湖北・長浜のあゆみ	長浜城歴史博物館	1994
177	山車・屋台・曳山ー長浜曳山祭の系譜を探るー	長浜城歴史博物館	1995
178	湖北の木匠ー図面・古文書・道具でみる大工の姿ー	長浜城歴史博物館	1996
179	湖北・秀吉と長浜	長浜城歴史博物館	1996
180	没後百五十年 湖北・長浜の画人 山縣岐鳳	長浜城歴史博物館	1997
181	小堀遠州とその周辺ー寛永文化を演出したテクノクラートー	長浜城歴史博物館	1997
182	石田三成ー秀吉を支えた知の参謀ー	長浜城歴史博物館	1999
183	近江の太鼓踊りー竜神信仰と雨乞い踊りー	長浜城歴史博物館	2000
184	石田三成第二章ー戦国を疾走した秀吉奉行ー	長浜城歴史博物館	2000
185	手仕事を伝えるシリーズ職人の技その1	長浜城歴史博物館	2001
186	オコナイの源流をさぐるー仏教悔過（けか）の世界ー	長浜城歴史博物館	2001
187	秀吉の城と城下町ー近世城下町のルーツ・長浜ー	長浜城歴史博物館	2002
188	長浜・大通寺の精華	長浜城歴史博物館	2002
189	湖北の王たちー神功皇后から継体天皇へー	長浜城歴史博物館	2003
190	江戸時代の科学技術 ー国友一貫斎から広がる世界ー	長浜城歴史博物館	2003
191	神になった秀吉ー秀吉人気の秘密を探るー	長浜城歴史博物館	2004
192	北国街道と脇往還	長浜城歴史博物館	2004
193	近江湖北の山岳信仰	長浜城歴史博物館	2005
194	ー豊と秀吉が駆けつけた時代ー夫人が支えた戦国史ー	長浜城歴史博物館	2005
195	秀吉を支えた武将 田中吉政 ー近畿・東海と九州をつなぐ戦国史ー	長浜城歴史博物館	2005
196	歴史のなかの鉄砲伝来ー種子島から戊辰戦争までー	長浜城歴史博物館	2006
197	戦国大名浅井氏と姉川合戦	長浜城歴史博物館	2007
198	竹生島弁才天信仰と名宝	長浜城歴史博物館	2008
199	歩いて知る 浅井氏の興亡	長浜城歴史博物館	2008
200	戦国大名浅井氏と北近江ー浅井三代から三姉妹へー	長浜城歴史博物館	2008
201	シリーズ湖北のくらしと祈り② 「たたかう村のくらしー中世惣村の村・菅浦の歴史と文化ー」	長浜城歴史博物館	2008
202	シリーズ湖北のくらしと祈り③ 「湖北の鋳物の名工“八木庄”ー重厚なる角田庄兵衛の世界ー」	長浜城歴史博物館	2008
203	石田三成と関ヶ原合戦ー湖北・長浜と三成の足跡ー	長浜城歴史博物館	2008
204	シリーズ湖北のくらしと祈り① 「華麗なる曳山祭の世界ー湖北に広がる曳山の文化ー」	長浜城歴史博物館	2008
205	八木奇峰と二人の師匠	長浜城歴史博物館	2009
206	史学は死学にあらず	長浜城歴史博物館	2009
207	シリーズ湖北のくらしと祈り④-1 「湖北の深き信仰文化ーオコナイー」	長浜城歴史博物館	2009
208	シリーズ湖北のくらしと祈り④-2 「湖北の深き信仰文化ー湖北・真宗の歴史と文化」	長浜城歴史博物館	2009
209	糸の世紀・織りの時代ー湖北・長浜をめぐる糸の文化史ー	長浜城歴史博物館	2010
210	種子島からめっかりもーさんー種子島の歴史と民俗ー	長浜城歴史博物館	2010
211	竹生島宝蔵寺の歴史と寺宝 ー武将たちの信仰と伝来の絵画・書籍ー	長浜城歴史博物館	2010
212	下坂鍛冶と越前康継	長浜城歴史博物館	2010
213	石田三成と湖北	長浜城歴史博物館	2010
214	湖北真宗の至宝と文化	長浜城歴史博物館	2011
215	戦国武将の竹生島信仰	竹生島宝蔵寺 長浜城歴史博物館	2011
216	総ルビで小学生から読める 1時間でわかる浅井氏と三姉妹	長浜城歴史博物館	2011
217	琵琶湖の舟が結ぶ絆ー丸子船・丸子船から「うみのこ」までー	長浜城歴史博物館	2012
218	湖北の観音ー信仰文化の底流を探るー	長浜城歴史博物館	2012
219	没後30年 湖北の画人 沢宏毅	長浜城歴史博物館	2012
220	秀吉に備えよ！ー羽柴秀吉の中国攻めー	長浜城歴史博物館	2013
221	顕如・教如と一向一揆ー信長・秀吉・本願寺ー	長浜城歴史博物館	2013
222	北近江の地震ー災害の記憶から学ぶー	長浜城歴史博物館	2013
223	びわ湖・長浜のホトケたち	長浜城歴史博物館	2014
224	菅浦文書が語る民衆の歴史ー日本中世の村落社会ー	長浜城歴史博物館	2014

番号	図書名	発行者	発行年
225	続・秀吉に備えよ！ー羽柴秀吉の中国攻めー	長浜城歴史博物館	2014
226	秀吉プロフィールブック（子ども向け）	長浜城歴史博物館	2014
227	片桐且元ー豊臣家の命運を背負った武将ー	長浜城歴史博物館	2015
228	曳山文化ガイドブック（子ども向け）	長浜城歴史博物館	2015
229	湖北の仏像入門ブック（子ども向け）	長浜城歴史博物館	2015
230	雨森芳洲と朝鮮通信使ー未来を照らす交流の遺産ー	長浜城歴史博物館 高月 観音の里 歴史 民俗資料館	2015
231	企画展 秀吉・家康に信頼された下坂鍛冶	長浜城歴史博物館	2016
232	石田三成と西軍の関ヶ原合戦	長浜城歴史博物館	2016
233	びわ湖・長浜のホトケたちⅡ	長浜城歴史博物館	2016
234	長浜の引札	長浜城歴史博物館	2017
235	相応と良源ー湖北の天台文化ー	長浜城歴史博物館	2017
236	企画展 清水節堂ー浅井の画人ー	長浜城歴史博物館	2017
237	三成プロフィールブック（子ども向け）	長浜城歴史博物館	2017
238	明治 150 年 長浜の近代化	長浜城歴史博物館	2018
239	賤ヶ岳合戦と七本槍	長浜城歴史博物館	2018
240	長政プロフィールブック（子ども向け）	長浜城歴史博物館	2018
241	企画展 近江宮川藩と歴代藩主たち	長浜城歴史博物館	2019
242	親鸞と真宗文化	長浜城歴史博物館	2019
243	国友一貫齋プロフィールブック（子ども向け）	長浜城歴史博物館	2019
244	戦国を生きた長浜ゆかりの女性たち	長浜城歴史博物館	2019
245	企画展 塩津ーはこぶ・まつる・にぎわう古のみなとー	長浜城歴史博物館	2019
246	長浜曳山祭ー世界が認めた長浜の至宝ー	長浜城歴史博物館	2020
247	長浜温故知新プロジェクト 長浜の企業人列伝～知恵と努力が“みらい”をつくる～	長浜城歴史博物館	2020
248	小堀遠州のプロフィールブック	長浜城歴史博物館	2020
249	葛籠尾崎湖底遺跡ー深湖に眠る水の宝ー	長浜城歴史博物館	2020
250	竹生島弁才天ー仏から神へ、その信仰の展開ー	長浜城歴史博物館	2020
251	姉川合戦 450 周年記念 信長苦戦す！元龜争乱と湖北	長浜城歴史博物館	2021
252	滋賀県東浅井郡浅井町東学区 村落景観情報	市立長浜城歴史博物館	1996
253	滋賀県東浅井郡浅井町中部学区の地名調査	浅井町中部学区郷土 史研究会 市立長浜城歴史博物 館	1997
254	長浜曳山祭総合調査報告書	長浜市教育委員会	1996
255	郷土長浜	長浜市教育委員会	1959
256	長浜の文化財	長浜市教育委員会	1960
257	長浜の條里	長浜市教育委員会	1962
258	改訂版 郷土長浜	長浜市教育委員会	1966
259	郷土民俗資料関係調査報告書（非売品）	長浜市教育委員会	1972
260	長浜の伝承 ふるさと近江伝承文化叢書	長浜市教育委員会	1980
261	小堀遠州	長浜市教育委員会	1985
262	長浜先人誌 合冊復刻版	長浜市教育委員会	1985
263	国友源右衛門家文書	長浜市教育委員会	1989
264	長浜市埋蔵文化財調査概報 1 大塚遺跡 ー彦根長浜都市計画道路事業に伴う発掘調査ー	長浜市教育委員会	1992
265	長浜市伝統的建造物群保存対策調査報告書	長浜市教育委員会	1995
266	長浜市教育委員会古文書調査報告書 四カ字共有文書（旧浅井郡虎姫町）嘉永 4 年～昭和 27 年	長浜市教育委員会	2012
267	賤ヶ岳合戦城郭郡報告書	長浜市教育委員会	2013
268	菅浦の湖岸集落景観保存活用計画報告書	長浜市教育委員会	2014
269	月出の湖岸集落景観保存調査報告書	長浜市教育委員会	2017
270	小谷城跡総合調査報告書	長浜市教育委員会	2020
271	小谷城跡整備基本計画	長浜市教育委員会	2020
272	第 66 集 西主計慶蔵寺遺跡発掘調査報告書	浅井町教育委員会	1984
273	第 67 集 宇野邸庭園整備工事報告書	浅井町教育委員会	1984
274	浅井の文化財	浅井町教育委員会	1990
275	第 70 集 浅井町発掘調査報告書第 5 集 佐野城遺跡	浅井町教育委員会	1997

番号	図書名	発行者	発行年
276	第 73 集 浅井町発掘調査報告書第 8 集 醍醐遺跡 遺跡範囲確認調査報告書	浅井町教育委員会	2003
277	木之本の文化財	木之本町教育委員会	1979
278	木之本の文化財第二集	木之本町教育委員会	1980
279	第 123 集 黒田 B 遺跡 1986	木之本町教育委員会	1986
280	第 124 集 木之本町内遺跡分布調査報告書 1991	木之本町教育委員会	1991
281	木之本の文化財 I (古文書編 I) －木之本町文化財調査報告書第 1 集－	木之本町教育委員会	1993
282	旧北國街道木之本宿の町並 －北國街道木之本宿伝統的建造物群保存対策調査報告書－	木之本町教育委員会	1993
283	木之本の文化財 I (古文書編 II) －木之本町文化財調査報告書第 2 集－	木之本町教育委員会	1994
284	伝統的建造物群保存対策調査報告書〈保存対策(案)編〉 －木之本町文化財調査報告書第 3 集－	木之本町教育委員会	1994
285	黒田共有文書調査報告書 －木之本町文化財調査報告書－	木之本町教育委員会	1999
286	第 125 集 木之本町埋蔵文化財調査報告書 1 なら塚 5 号墳木之本町古橋	木之本町教育委員会	2000
287	己高山中世文書調査報告書 －木之本町文化財調査報告書－	木之本町教育委員会	2000
288	鶏足寺の文化財 I 〈美術工芸品〉	木之本町教育委員会	2001
289	木之本の文化財 I (杉野／高時編)	木之本町教育委員会	2002
290	古橋村高橋家文書調査報告書 －木之本町文化財調査報告書－	木之本町教育委員会	2002
291	鶏足寺の文化財 II 美術・工芸編	木之本町教育委員会	2003
292	第 128 集 木之本町埋蔵文化財調査報告書 4 木之本町遺跡分布調査集成 I 平成 18 年 3 月	木之本町教育委員会	2006
293	第 129 集 木之本町埋蔵文化財調査報告書 5 己高山鶏足寺跡第 1 次発掘調査概要報告書 平成 19 年 3 月	木之本町教育委員会	2007
294	木之本の文化財第二集	木之本町教育委員会	1980
295	いかぐ糸 大音糸・西山糸を伝承する	木之本町	1992
296	木之本町 50 年のあゆみ	木之本町	2000
297	きのもと七選 ～新しい七選を求めて～	木之本町企画課	1997
298	第 126 集 木之本町埋蔵文化財調査報告書 2 木之本町遺跡分布調査概報 I 平成 13 年 3 月	木之本町教育委員会・滋賀県立大学 考古学研究室	2001
299	第 127 集 木之本町埋蔵文化財調査報告書 3 木之本町遺跡分布調査概報 II 平成 15 年 3 月	木之本町教育委員会・滋賀県立大学 考古学研究室	2003
300	第 107 集 滋賀県湖北町今西遺跡発掘調査報告書 1974	湖北町教育委員会	1974
301	第 108 集 史跡小谷城跡環境整備事業報告書 1976	湖北町教育委員会	1974
302	第 109 集 小谷城清水谷遺跡発掘調査報告書 1978	湖北町教育委員会	1978
303	湖北町昔ばなし	湖北町教育委員会	1983
304	第 111 集 八日市遺跡発掘調査報告書 1985	湖北町教育委員会	1985
305	第 112 集 湖北町内遺跡分布調査報告書	湖北町教育委員会	1994
306	第 110 集 史跡小谷城跡 1988 浅井氏三代の城郭と城下町	湖北町教育委員会	1998
307	第 113 集 史跡小谷城跡清水谷地区試掘調査報告書	湖北町教育委員会	2008
308	第 114 集 高月町上水道事業に伴う埋蔵文化財調査概要 1 1982.3 、 高月町上水道 II 1983	高月町教育委員会	1982
309	第 115 集 高月町埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集 (大森遺跡ほか)	高月町教育委員会	1986
310	高月町の文化財	高月町教育委員会	1988
311	高月の人物ものがたり～郷土史に残る人々～	高月町教育委員会	1990
312	第 116 集 古保利古墳群 詳細分布調査報告書	高月町教育委員会	1995
313	滋賀県伊香郡高月町 村落景観情報	高月町教育委員会	1998
314	第 117 集 高月町埋蔵文化財調査報告書 5 古保利古墳群 第 1 次確認調査報告書 (小松古墳ほか) 2001.3	高月町教育委員会	2001
315	第 118 集 高月町埋蔵文化財調査報告書 I 高月の主要古墳 I	高月町教育委員会	2005

番号	図書名	発行者	発行年
	(姫塚・大森古墳ほか早・前期古墳)		
316	第 119 集 高月町埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 高月の主要古墳Ⅱ (松尾宮山古墳群後・終末期古墳)	高月町教育委員会	2006
317	高月町史 景観・文化財編 分冊一	高月町	2006
318	高月町史 景観・文化財編 分冊二	高月町	2006
319	第 120 集 高月町埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 高月の主要古墳Ⅲ 中期古墳を主とした調査 (湧出山遺跡群詳細分布調査と 1 次調査 尾山古墳群詳細分布調査 サイト山古墳群詳細分布調査 馬上古墳群詳細分布調査 2)	高月町教育委員会	2007
320	第 121 集 横山遺跡Ⅰ (1 次・2 次)	高月町教育委員会	2008
321	第 122 集 高月町埋蔵文化財調査報告書 高月南遺跡Ⅰ (14 次・16 次・17 次調査)	高月町教育委員会	2010
322	東浅井 わたしたちのふるさと	滋賀県東浅井郡教育 会	1987
323	第 102 集 虎姫町文化財調査報告書第 1 集 虎姫町五村遺跡発掘調査報告書 虎姫町立虎姫小学校専用プール建設に伴う	虎姫町教育委員会	1992
324	第 103 集 虎姫町文化財調査報告書第 2 集 第 2 集五村遺跡 (生きがいセンター建設に伴う)	虎姫町教育委員会	1997
325	第 104 集 虎姫町文化財調査報告書第 3 集 町内遺跡詳細分布調査報告書	虎姫町教育委員会	1998
326	第 105 集 虎姫町文化財調査報告書第 4 集 五村遺跡 (中学校特別教室棟建設に伴う)	虎姫町教育委員会	2002
327	第 106 集 虎姫町文化財調査報告書第 5 集 五村遺跡 (小学校南校舎及び体育館改築に伴う)	虎姫町教育委員会	2005
328	虎姫町文化財調査報告書 第 6 集 五村別院伽藍調査報告	虎姫町教育委員会	2008
329	ふるさと虎姫 田川の歴史を知る	虎姫町教育委員会	2009
330	展示解説「仏像〜種類とかたち〜、観音さまとは」	高月町立観音の里歴 史民俗資料館	1987
331	写真集「高月の観音」	高月町立観音の里歴 史民俗資料館	1987
332	生誕 320 年記念特別展 雨森芳洲墨蹟展	高月町立観音の里歴 史民俗資料館	1988
333	企画展「高月の画人 1 橘雪嶺・小森竹塘」	高月町立観音の里歴 史民俗資料館	1989
334	企画展「高月の絵馬」	高月町立観音の里歴 史民俗資料館	1990
335	企画展「高月の画人 2 片山雅洲」	高月町立観音の里歴 史民俗資料館	1992
336	巻太郎没後 30 年記念企画展「布施美術館名品展」	高月町立観音の里歴 史民俗資料館	2000
337	特別展「雨森芳洲と朝鮮通信使」	高月町立観音の里歴 史民俗資料館	2009
338	滋賀県中世城郭分布図 7	滋賀県教育委員会	1991
339	雨森芳洲関係資料調査報告書	滋賀県教育委員会	1994
340	北国街道・北国脇往還	滋賀県教育委員会	2003
341	滋賀県文化財目録 (平成 29 年度版)	滋賀県教育委員会	2013
342	第 68 集 浅井町内遺跡詳細分布調査報告書	滋賀県東浅井郡浅井 町教育委員会	1993
343	第 69 集 醍醐遺跡	滋賀県東浅井郡浅井 町教育委員会	1998
344	第 71 集 浅井町発掘調査報告書第 6 集 弓月野遺跡 建売分譲住宅用地造成事業に伴う遺跡発掘調査報告書	東浅井群浅井町教育 委員会	1998
345	第 72 集 浅井町発掘調査報告書第 7 集 内保遺跡 一般県道小室大路線単独道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告書	東浅井群浅井町教育 委員会	2000
346	第 74 集 浅井町発掘調査報告書第 9 集 内保遺跡 (Ⅱ)	東浅井群浅井町教育 委員会	2005

番号	図書名	発行者	発行年
	宅地造成工事及び集合住宅建築に伴う遺跡発掘調査報告書)		
347	西浅井町の仏教美術	滋賀県西浅井町教育委員会	2003
348	第132集 諸川遺跡発掘調査報告書 1984 西浅井町菅浦所在諸川瓦窯跡の調査	西浅井町教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1984
349	西浅井の歳時記一写真で見る祭りのすがた一	西浅井町教育委員会	2007
350	改定ふるさと伊香	伊香郡教育委員会(4町)	1980
351	長浜曳山祭調査報告 青海山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1958
352	長浜曳山祭調査報告 高砂山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1961
353	長浜曳山祭調査報告 寿山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1963
354	長浜曳山祭調査報告 鳳凰山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1964
355	長浜曳山祭調査報告 月宮殿	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1965
356	長浜曳山祭調査報告 翁山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1966
357	長浜曳山祭調査報告 孔雀山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1966
358	長浜曳山祭調査報告 常磐山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1968
359	長浜曳山祭調査報告 春日山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1969
360	長浜曳山祭調査報告 諫鼓山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1969
361	長浜曳山祭調査報告 萬歳楼	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1970
362	長浜曳山祭調査報告 神輿と長刀山	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1971
363	長浜曳山祭調査報告 猩々丸	長浜市長浜曳山祭文化財保護委員会	1971
364	滋賀県市町村沿革史 第四巻	滋賀県市町村沿革史編纂委員会	1960
365	滋賀県市町村沿革史 資料編 第伍巻	滋賀県市町村沿革史編纂委員会	1962
366	滋賀県市町村沿革史 資料編 第巻	滋賀県市町村沿革史編纂委員会	1963
367	滋賀県市町村沿革史 第参巻	滋賀県市町村沿革史編纂委員会	1964
368	滋賀県市町村沿革史 第貳巻	滋賀県市町村沿革史編纂委員会	1967
369	滋賀県市町村沿革史 第壹巻	滋賀県市町村沿革史編纂委員会	1967
370	西浅井町の文化財～地域の光を未来につなぐ～	長浜市	2019
371	長浜曳山祭総合調査報告書	長浜市教育委員会 長浜曳山祭総合調査団	1996
372	読本 長浜の歴史	長浜市教育研究所	1988
373	長浜市 二十五年史	長浜市役所	1967
374	長浜市史 第1巻 湖北の古代	長浜市役所	1996
375	長浜市史 第2巻 秀吉の登場	長浜市役所	1998
376	長浜市史 第3巻 町人の時代	長浜市役所	1999
377	長浜市史 第4巻 市民の台頭	長浜市役所	2000
378	長浜市史 第5巻 暮らしと生業	長浜市役所	2001
379	長浜市史 第6巻 祭りと行事	長浜市役所	2002
380	長浜市史 第7巻 地域文化財	長浜市役所	2003
381	長浜市史 第8巻 年表・便覧	長浜市役所	2004

番号	図書名	発行者	発行年
382	写真集 長浜百年	長浜市役所	1980
383	改訂 近江坂田郡志 第一巻	日本資料刊行会	1975
384	改訂 近江坂田郡志 第二巻	日本資料刊行会	1975
385	改訂 近江坂田郡志 第三巻	日本資料刊行会	1975
386	改訂 近江坂田郡志 第四巻	日本資料刊行会	1975
387	改訂 近江坂田郡志 第五巻	日本資料刊行会	1975
388	改訂 近江坂田郡志 第六巻	日本資料刊行会	1975
389	改訂 近江坂田郡志 第七巻	日本資料刊行会	1975
390	東浅井郡志 第壹	日本資料刊行会	1975
391	東浅井郡志 第貳	日本資料刊行会	1975
392	東浅井郡志 第参	日本資料刊行会	1975
393	東浅井郡志 第四	日本資料刊行会	1975
394	近江坂田郡志 上	株式会社賢美閣	1980
395	近江坂田郡志 中	株式会社賢美閣	1980
396	近江坂田郡志 下	株式会社賢美閣	1980
397	近江伊香郡誌 上巻	藤本 弘	1983
398	近江伊香郡誌 中巻	藤本 弘	1983
399	近江伊香郡誌 下巻	藤本 弘	1983
400	近江長濱町志 第一巻 本編上	株式会社臨川書店	1988
401	近江長濱町志 第二巻 本編中	株式会社臨川書店	1988
402	近江長濱町志 第三巻 本編下	株式会社臨川書店	1988
403	近江長濱町志 第四巻 資料編	株式会社臨川書店	1988
404	滋賀県東浅井郡びわ町北学区 村落景観情報	びわ町教育委員会	2001
405	郷土の顔づくり事業 余呉の庄と賤ヶ岳の合戦	余呉町教育委員会	1986
406	余呉町誌 資料編上巻	余呉町役場	1988
407	余呉町誌 通史編上巻	余呉町役場	1991
408	高時川ダム建設地域民族文化財調査報告書	余呉町	1991
409	余呉町誌 通史編下巻	余呉町役場	1995
410	江州余呉湖の羽衣伝説	余呉町	2003
411	56 豪雪の記録 白魔との闘い	余呉町	1982
412	第 130 集余呉町埋蔵文化財発掘調査報告書 1 余呉湖底遺跡・松田遺跡	余呉町教育委員会・ 滋賀県文化財保護 協会	1985
413	第 131 集 (余呉町文化財調査報告) 賤ヶ岳合戦城郭郡調査報告書 堂木山砦・神明山砦調査報告書	余呉町教育委員会	2008
414	天女伝説のふる里	余呉町	1997
415	余呉町誌 資料編下巻	余呉町役場	1989
416	わたくしたちの坂田	坂田郡教育会	1987
417	西浅井のあゆみ	西浅井町	2009
418	虎姫のむかし話 第二集	虎姫教育委員会	1980
419	研究紀要 第 1 号	東浅井郡教育委員会 連絡協議会社会教 育部会・文化財保 護連絡協議会	2001
420	研究紀要 第 2 号	東浅井郡教育委員会 連絡協議会 社会教育部会・文 化財保護連絡協議 会	2002
421	研究紀要 第 3 号	東浅井郡教育委員会 連絡協議会 社会教育部会・文 化財保護連絡協議 会	2003
422	現地学習資料 東浅井郡歴史の道 北国街道・北国脇往還編 (子ども向 け)	東浅井郡教育委員会 連絡協議会 社会教育部会・文 化財保護連絡協議 会	2005
423	近江長浜風土記	長浜市立図書館	1988

番号	図書名	発行者	発行年
424	長浜の人物	長浜市立図書館	1993
425	神を齋く島のメモリー 竹生島	びわ町観光協会	1986
426	長浜小学校百年誌	長浜小学校百年誌編集委員会	1971
427	読本 石田三成	北郷里小学校	1966
428	北郷里小学校 百年誌	北郷里小学校	1976
429	余呉の民話わらべ唄	鏡岡中学校 郷土クラブ	1976
430	鏡中タイム活動 身近な神様・ほとけ様	滋賀鏡岡中学校字別生徒会	1984
431	鏡中タイム活動 余呉の保存食	鏡岡中学校 郷土クラブ	1985
432	写真で綴る歴史・民俗 第一集	鏡岡中学校	1993
433	古文書による江戸時代の小原村歴史	鏡岡中学校 郷土クラブ	1980
434	鏡中タイム活動ふるさと余呉 私たちの字紹介	鏡岡中学校 郷土クラブ	1982
435	ふるさとの年中行事	鏡岡中学校 郷土クラブ	1983
436	鏡中タイム活動 余呉 昔のあそび	滋賀鏡岡中学校字別生徒会	1986
437	校舎改築記念誌	長浜市立北小学校 校舎改築記念事業協賛会	1981
438	創立 50 周年記念 北中 50 年のあゆみ	長浜市立北中学校同窓会	1997
439	創立 50 周年記念 北中五十年誌 一同窓会名簿一	長浜市立北中学校	1997
440	西黒田の遺跡を訪ねて	西黒田公民館 西黒田遺跡調査委員会	1971
441	西黒田風土記	西黒田公民館 郷土研究会	1980
442	続西黒田風土記	西黒田公民館 郷土研究会	1998
443	虎姫のむかし話	虎姫公民館	1979
444	今町歴史保存会誌 第 1 号	今町歴史保存会	2007
445	今町歴史保存会誌 第 2 号	今町歴史保存会	2008
446	今町歴史保存会誌 第 3 号	今町歴史保存会	2008
447	今町歴史保存会誌 第 4 号	今町歴史保存会	2009
448	今町歴史保存会誌 第 5 号	今町歴史保存会	2010
449	今町歴史保存会誌 第 6 号	今町歴史保存会	2011
450	今町歴史保存会誌 第 7 号	今町歴史保存会	2011
451	今町歴史保存会誌 第 8 号	今町歴史保存会	2012
452	今町歴史保存会誌 第 9 号	今町歴史保存会	2013
453	今町歴史保存会誌 第 10 号	今町歴史保存会	2014
454	今町歴史保存会誌 第 10 号 別号	今町歴史保存会	2014
455	西阿閉百年誌	西阿閉区	1994
456	七丘叢書Ⅰ 六荘教育	中川眞澄	1997
457	七丘叢書Ⅱ 西黒田小学校・学校新聞合本「みおつくし」	中川眞澄	1998
458	七丘叢書Ⅲ 神田村男女青年団編 団報	中川眞澄	1998
459	七丘叢書Ⅴ 復刻 西黒田村史	七丘叢書刊行会	2000
460	設立 20 周年記念誌 塩津浜かいわい	塩津浜歴史研究会	2015
461	戦国大名 浅井氏と小谷城 中村一郎先生遺稿集	小谷城址保勝会	1988
462	江州小谷城主 浅井氏三代文書集	徳勝寺・浅井家顕彰会	1972
463	浅井家顕彰会 五十年のあゆみ	浅井家顕彰会	2006
464	近江輿地志略	弘文堂書店	1976
465	角川日本地名大辞典 滋賀県	株式会社角川書店	1979
466	滋賀県の地名	(株)平凡社	1991
467	オコナイ 湖国・祭のかたち	INAX 出版	2008
468	江一姫たちの戦国一	NHK・NHK プロモーション	2011

番号	図書名	発行者	発行年
469	歴史遺産を活かした北郷里まちづくり	北郷里地区淡海文化推進協議会事務局	1998
470	長浜が生んだ偉大な思想家西田天香	西田天香没後 30 年記念事業実行委員会	1998
471	近江観音の道 湖南観音の道・湖北観音の道	淡海文化を育てる会	1999
472	江戸時代の科学技術と信州・上田	文部科学省「江戸のモノづくり」国際シンポジウム上田市連携企画実行委員会	2005
473	秀吉公のマチ・長浜 秀吉公ゆかりの石碑・石柱建立事業報告書	秀吉公ゆかりの石碑・石柱建立事業実行委員会	2006
474	忘れぬうちに伝えたい湖北町の伝統食・地産食	湖北町食事文化研究会	2007
475	二十二日講－湖北の「まわり仏さん」－	八幡中山町・護法会	2008
476	第 22 回全国山城サミット米原大会	第 22 回全国山城サミット連絡協議会実行委員会	2015
477	全国城郭管理者協議会 50 周年記念誌	全国城郭管理者行議会議	2016
478	わが村と昌安見久尼	平塚区事務所・実学院史蹟保存会	1980
479	中京民俗 19 虎姫町の民俗 －滋賀県東浅井郡虎姫町－	中京大学郷土研究会	1982
480	湖北の観光地ミニ事典	長浜観光ボランティアガイド協会	1988
481	竹生島 琵琶湖に浮かぶ神の島	竹生島奉賛会	2017
482	長農百年史	滋賀県立長浜農業高等学校	1999
483	長浜市農業文化遺産総合調査	滋賀県土地改良事業団体連合会	2000
484	長浜農業文化遺産総合調査	滋賀県長浜市 滋賀県土地改良事業団体連合会	2003
485	国友地域学 1	国友村塾	2017
486	長農ボート百年史	長農ボート百年史刊行事業実行委員会	2005
487	虎姫小学校のあゆみ 校舎改築を記念して	虎姫小学校のあゆみ編集委員会	2005
488	しが湖北 丁野誌 臻資料集 水の神様「あかずの箱」	丁野区誌編纂委員会	2006
489	とらひめのれきし（子ども向け）	虎姫町立図書館サービス充実支援事業実行委員会編纂部	2008
490	滋賀県選択無形民俗文化財 富田人形調査報告書	富田人形共遊団	2004
491	今川町の歴史＝先人に学びつこう今川やすらぎの里＝	今川町自治会	2004
492	わたしたちの字の氏神宮部神社	宮部区	2008
493	郷土の先覚者田中豊文	田中豊文公顕彰会	2009
494	琵琶湖水運のまち西浅井の魅力創出に関する調査	財団法人電源地域振興センター	2009
495	田根学区村落景観情報	田根郷土史研究会	2010
496	ふるさと下草野	下草野郷土史研究会	2011
497	姉川水利の歴史	姉川沿岸土地改良区	2016
498	田町まちづくり計画	田町会館運営委員会	1992
499	ふる里を訪ねて奥琵琶湖舟寄せ村の歴史	蓮敬寺開基 500 年法要記念	1993
500	湖北地方の資料紹介－伊藤氏寄贈図書目録－	滋賀県立長浜文化芸術会館	1993
501	近江國浅井郡野瀬村の歴史と傳承	東浅井郡浅井町野瀬 小林善次郎	1993

番号	図書名	発行者	発行年
502	曳山のまち	「曳山のまち」出版委員・長浜曳山祭保存会	1995
503	曳山のまち	長浜曳山祭保存会	1995
504	西浅井の魅力創出に関する調査報告書	財団法人地域振興センター	2008
505	東物部郷土誌	東物部区	1991
506	長浜御坊三百年誌	中沢南水	1962
507	郷土史ふるさと口分田	広部庄太郎	1978
508	泉の蛙	川崎佐玄	1991
509	生活民俗史 近江湖北地方の迷信・俗信・諺の伝承	中島孝治	1992
510	早崎のムラの昔	早崎 観縁	1993
511	馬上村と高時川渡渉	栗原 基	2000
512	湖北賛歌 吉田一郎著作集	吉田一郎 著作集刊行会	2001
513	北国街道 今は昔／馬車道物語	片桐正二郎	2001
514	馬上村と高時川水利慣行 1	栗原 基	2001
515	下郷共済会 創成の頃 ～初代下郷傳平と二代目下郷傳平～	押谷盛利	2002
516	ふるさとの歴史 虎御前山の出土品	松本 昇一	2003
517	みんなでつづる 高野のむかし話	保積 宏	2004
518	藤居家 筑摩・加田今 ふるさと紀行	筑摩・加田今藤居家同族会	2004
519	湖北のホトケたち 人々の祈りと暮らし	桑田 潔	2012
520	富田今昔物語 近江湖北の一農村 江州浅井郡富田村の記録	河崎 太源	2013
521	布施の研究	大門昌博	
522	浅見姓のふるさとを尋ねて	浅見英二	1983
523	教如流転	宮部一三	1986
524	湖北の歴史を語る	澤田修二	1986
525	長浜市 加納町史	加納左門	1987
526	伊香・東浅井郡地方のふるさとものがたり —湖北地方の歴史と民俗—	伊香旬報 木谷幸永	1988
527	中務卿法印 宮部善浄坊継潤公	宮部史談会	1998
528	ふるさとの歴史 (滋賀県虎姫町中野区)	松本 昇一	2003
529	湯次神社と地域村社の歴史	三田村法勝 (北川法勝)	2014
530	滋賀県緊急民家調査報告書	滋賀県教育委員会	1969
531	滋賀県近世社寺建築緊急調査報告書	滋賀県教育委員会	1986
532	滋賀県近代建築調査報告書	滋賀県教育委員会	1990
533	滋賀県石造建造物調査報告書	滋賀県教育委員会	1993
534	滋賀県近代和風建築総合調査報告書	滋賀県教育委員会	1994
535	滋賀県近世民家調査報告書	滋賀県教育委員会	1998
536	滋賀県近代化遺産 (建築物等) 総合調査報告書	滋賀県教育委員会	2000
537	文化財集中地区特別総合調査報告 比叡山を中心とする文化財【文化庁】	滋賀県教育委員会	1963
538	滋賀県古文書等緊急調査報告書 大原観音寺	滋賀県教育委員会	1971
539	文化財集中地区特別総合調査報告 湖北地方の文化財【文化庁】	滋賀県教育委員会	1973
540	文化財集中地区特別総合調査報告 湖東地方の文化財【文化庁】	滋賀県教育委員会	1975
541	文化財集中地区特別総合調査報告 湖西地方の文化財【文化庁】	滋賀県教育委員会	1975
542	文化財集中地区特別総合調査報告 湖南地方の文化財【文化庁】	滋賀県教育委員会	1976
543	滋賀県古文書等所在確認調査報告書	滋賀県教育委員会	1983
544	滋賀県大般若波羅蜜多經調査報告書 1～2	滋賀県教育委員会	1989～94
545	雨森芳洲関係資料調査報告書	滋賀県教育委員会	1994
546	永源寺関係寺院古文書等調査報告書	滋賀県教育委員会	1996
547	延暦寺木活字関係資料調査報告書	滋賀県教育委員会	2000
548	長命寺古文書等調査報告書	滋賀県教育委員会	2003
549	滋賀県所在古経典緊急調査報告書	滋賀県教育委員会	2009
550	滋賀県所在梵音具資料調査報告書	滋賀県教育委員会	2013
551	琵琶湖民俗資料緊急調査報告書	滋賀県教育委員会	1971
552	琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査報告書 1 びわ湖の漁撈生活	滋賀県教育委員会	1978
553	琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査報告書 2 びわ湖の専業漁撈	滋賀県教育委員会	1980
554	琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査報告書 3 内湖と河川の漁法	滋賀県教育委員会	1981

番号	図書名	発行者	発行年
555	琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査報告書 4 湖西の漁撈習俗	滋賀県教育委員会	1982
556	琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査報告書 5 湖南の漁撈活動	滋賀県教育委員会	1983
557	琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査報告書 資料編 大正期の漁法	滋賀県教育委員会	1979
558	滋賀県民俗地図 滋賀県緊急民俗文化財分布調査報告書	滋賀県教育委員会	1979
559	滋賀県民俗文化財地域伝承活動記録作成（滋賀の無形民俗）	滋賀県教育委員会	1981
560	滋賀県有形民俗文化財収集調査報告書 1～16（滋賀県の民具）	滋賀県教育委員会	1980～96
561	民謡緊急調査報告書（滋賀県の民謡）	滋賀県教育委員会	1986
562	近江のケンケト祭り・長刀振り（民俗文化財地域伝承活動）	滋賀県教育委員会	1987～88
563	滋賀県諸職関係民俗文化財調査報告書（滋賀県の諸職）	滋賀県教育委員会	1990
564	滋賀県祭礼行事実態調査報告書（滋賀県の祭礼行事）	滋賀県教育委員会	1995
565	滋賀県伝統食文化調査報告書（滋賀県の伝統食文化）	滋賀県教育委員会	1998
566	滋賀県民俗芸能緊急調査報告書（滋賀県の民俗芸能）	滋賀県教育委員会	1998
567	滋賀の食文化財	滋賀県教育委員会	2001
568	滋賀県自然神信仰調査報告書（滋賀県の自然神信仰）	滋賀県教育委員会	2007
569	滋賀県民俗行事まるごと調査報告書（滋賀県の民俗）	滋賀県教育委員会	2011
570	滋賀県名勝調査報告	滋賀県教育委員会	1937
571	滋賀県の庭園	滋賀県教育委員会	1985
572	中近世古道調査報告 1 朝鮮人街道	滋賀県教育委員会	1994
573	中近世古道調査報告 2 中仙道	滋賀県教育委員会	1996
574	中近世古道調査報告 3 東海道	滋賀県教育委員会	2000
575	中近世古道調査報告 4 八風街道	滋賀県教育委員会	2001
576	中近世古道調査報告 5 御代参街道・杣街道	滋賀県教育委員会	2002
577	中近世古道調査報告 6、7 北国街道・北国脇往還	滋賀県教育委員会	2003～04
578	中近世古道調査報告 8 西近江路	滋賀県教育委員会	2005
579	中近世古道調査報告 9 若狭街道・塩津海道	滋賀県教育委員会	2006
580	港と湖上交通 滋賀県「歴史の道」整備活用総合計画調査報告書	滋賀県教育委員会	2013
581	鈴鹿山地カモシカ保護地域特別調査報告書	滋賀県教育委員会	2000
582	鈴鹿山地カモシカ保護地域特別調査報告書	滋賀県教育委員会	2008
583	鈴鹿山地カモシカ保護地域特別調査報告書	滋賀県教育委員会	2016
584	琵琶湖と水が織りなす文化的景観所在確認調査報告書	滋賀県教育委員会	2011
585	滋賀県遺跡目録・滋賀県遺跡地図等	滋賀県教育委員会	1961～
586	滋賀県中世城郭分布調査 1	滋賀県教育委員会	1983
587	滋賀県中世城郭分布調査 2 甲賀の城	滋賀県教育委員会	1984
588	滋賀県中世城郭分布調査 3 旧野洲・栗太郡の城	滋賀県教育委員会	1985
589	滋賀県中世城郭分布調査 4 旧蒲生・神崎郡の城	滋賀県教育委員会	1986
590	滋賀県中世城郭分布調査 5 旧愛知・犬上郡の城	滋賀県教育委員会	1987
591	滋賀県中世城郭分布調査 6 旧坂田郡の城	滋賀県教育委員会	1989
592	滋賀県中世城郭分布調査 7 伊香郡・東浅井郡の城	滋賀県教育委員会	1990
593	滋賀県中世城郭分布調査 8 高島郡の城	滋賀県教育委員会	1991
594	滋賀県中世城郭分布調査 9 旧滋賀郡の城	滋賀県教育委員会	1992
595	滋賀県中世城郭分布調査 10 別冊 全県地名表 分布図 索引	滋賀県教育委員会	1992

4 歴史文化資産一覧

ジャンル① 古代の王と古墳文化 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	塩津丸山古墳群	遺跡	県指定	西浅井	西浅井町塩津浜
2	古保利古墳群	遺跡	国指定	高月	高月町西野他
3	姫塚古墳	遺跡	県指定	高月	高月町東柳野
4	松尾宮山古墳群	遺跡	県指定	高月	高月町松尾
5	横山神社古墳	遺跡	県指定	高月	高月町横山
6	若宮山古墳	遺跡	県指定	湖北	湖北町山本
7	乗倉古墳	遺跡	未指定	浅井	乗倉町
8	大人塚古墳	遺跡	市指定	浅井	木尾町
9	城山古墳群	遺跡	市指定	浅井	木尾町
10	岡の越古墳	遺跡	市指定	浅井	八島町
11	亀塚古墳	遺跡	市指定	浅井	八島町
12	雲雀山古墳群	遺跡	市指定	浅井	山ノ前町
13	布勢古墳出土品	考古資料	市指定	西黒田	布勢町
14	茶臼山古墳	遺跡	県指定	北郷里	東上坂町
15	横山古墳群	遺跡	未指定	北郷里	東上坂町他
16	垣籠古墳	遺跡	県指定	北郷里	垣籠町
ジャンル② 小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	小山館跡	遺跡	未指定	木之本	木之本町小山
2	小谷城跡	遺跡	国指定	湖北	小谷郡上町等
3	伊部宿・郡上宿	遺跡	未指定	湖北	湖北町伊部等
4	丁野山城	遺跡	未指定	湖北	小谷丁野町
5	中島城	遺跡	未指定	湖北	小谷丁野町
6	山本山城	遺跡	未指定	湖北	湖北町山本
7	虎御前山城	遺跡	市指定	虎姫	中野町
8	実宰院	名勝地	市指定	浅井	平塚町
9	こじき坂・浅井氏侍女の墓	遺跡	未指定	浅井	北野町
10	大依山	遺跡	未指定	浅井	大依町
11	姉川古戦場跡	遺跡	市指定	浅井	野村町・三田町
12	三田村氏館跡	遺跡	国指定	浅井	三田町
13	東野館跡	遺跡	未指定	浅井	東野町
14	遠藤直経の墓	遺跡	未指定	北郷里	東上坂町
15	岡山（勝山）	遺跡	未指定	北郷里	東上坂町
16	龍ヶ鼻陣所	遺跡	未指定	北郷里	東上坂町
17	上坂城跡	遺跡	未指定	北郷里	西上坂町
18	石田三成出生地	遺跡	未指定	北郷里	石田町
19	横山城	遺跡	未指定	北郷里	石田町他
20	小堀遠州出生地（小堀氏館跡）	遺跡	市指定	南郷里	小堀町
21	垣見氏館跡	遺跡	市指定	南郷里	宮司町
22	国友鉄砲の里	遺跡	未指定	神照	国友町
23	下坂氏館跡	遺跡	国指定	六荘	下坂中町
24	さいかち浜古戦場	遺跡	未指定	六荘	下坂浜町
ジャンル③ 多彩なる民俗芸能・民俗行事 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	集福寺ちゃんちゃこ踊 附奴振	無形民俗	県選択	西浅井	西浅井町集福寺
2	須賀神社例祭（須賀の祭）	無形民俗	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
3	上丹生の曳山茶碗祭	無形民俗	県指定	余呉	余呉町上丹生
4	上丹生茶碗祭の曳山	有形民俗	未指定	余呉	余呉町上丹生
5	中河内の太鼓踊 附奴振	無形民俗	県指定	余呉	余呉町中河内、 休止

6	下余呉の太鼓踊り	無形民俗	県選択	余呉	余呉町下余呉
7	川合の太鼓踊り	無形民俗	県選択	木之本	木之本町川合、 休止
8	金居原の太鼓踊り	無形民俗	県選択	木之本	木之本町金居原
9	延勝寺の太鼓踊り	無形民俗	県選択	湖北	湖北町延勝寺、 休止
10	八日市の太鼓踊	無形民俗	県選択	湖北	湖北町八日市
11	速水伊豆神社八朔大祭幡母衣武者行列・青物神輿	無形民俗	市指定	湖北	湖北町速水
12	元三大師お水取り行事	無形民俗	市指定	虎姫	三川町、休止
13	常盤山	有形民俗	市指定	虎姫	五村
14	富田人形	無形民俗	県選択	びわ	富田町
15	富田人形の首・衣裳	有形民俗	未指定	びわ	富田町
16	当目の雨乞い太鼓踊り	無形民俗	未指定	浅井	当目町
17	鍛冶屋の太閤踊り	無形民俗	未指定	浅井	鍛冶屋町
18	七条の春祭り	無形民俗	市指定	南郷里	七条町
19	宮川祭の曳山	有形民俗	市指定	南郷里	宮司町
20	永久寺の蛇の舞	無形民俗	県選択	六荘	永久寺町
21	永久寺蛇の舞の蛇	有形民俗	未指定	六荘	永久寺町
22	長浜曳山祭の曳山行事	無形民俗	国指定	長浜	元浜町等
23	長浜祭鳳凰山飾毛綴 附鍍金飾金具 売上文書	工芸品	国指定	長浜	元浜町
24	長浜祭翁山飾毛綴 附鍍金飾金具	工芸品	国指定	長浜	元浜町
25	長浜曳山祭の山車 附山蔵	有形民俗	県指定	長浜	元浜町等
26	長浜曳山祭翁山飾毛綴	工芸品	市指定	長浜	元浜町
27	焼鯖そうめん	無形民俗	未指定	長浜	
28	オコナイ（年頭行事）	無形民俗	未指定	全域	
29	村の春祭・秋祭	無形民俗	未指定	全域	
30	野神・巨木信仰	無形民俗	未指定	全域	
31	地藏信仰（地藏盆）	無形民俗	未指定	全域	
32	湖魚のなれずし（鮒鮓等）	無形民俗	県選択	全域	
33	オコナイに伴う郷土食	無形民俗	未指定	全域	
34	お講汁	無形民俗	未指定	全域	
35	太鼓踊りの衣裳・道具類	有形民俗	未指定	全域	
ジャンル④ 近世文化の輝き 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	分類	指定	地域	所在地
1	雨森芳洲関係資料	歴史資料	国指定	高月	高月町雨森
2	雨森集落	遺跡	未指定	高月	高月町雨森
3	小堀遠州出生地	遺跡	市指定	南郷里	小堀町
4	反射望遠鏡 一貫斎製作	歴史資料	市指定	神照	国友町
5	国友一貫斎文書	書跡	市指定	神照	国友町
6	国友一貫斎顕彰碑	建造物	未指定	神照	国友町
7	国友一貫斎生家	建造物	未指定	神照	国友町
8	成田思斎顕彰碑	建造物	未指定	神照	相撲町
9	下坂氏館跡（江馬天江・板倉槐堂関係）	遺跡	国指定	六荘	下坂中町
10	長浜曳山祭の曳山行事	無形民俗	国指定	長浜	元浜町等
11	長浜曳山祭の山車 附山蔵	有形民俗	県指定	長浜	元浜町等
12	藤岡和泉家大工資料	歴史資料	未指定	長浜	元浜町
13	大通寺本堂・広間	建造物	国指定	長浜	元浜町
14	大通寺新御座等	建造物	市指定	長浜	元浜町
15	大通寺含山軒等	名勝地	国指定	長浜	元浜町
16	反射望遠鏡 一貫斎製作	歴史資料	市指定	長浜	公園町
ジャンル⑤ 街道が織り成す交流の文化 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地

1	深坂古道・地蔵	遺跡	未指定	西浅井	西浅井町沓掛
2	丸子船（北淡海・丸子船の館）	有形民俗	未指定	西浅井	西浅井町大浦
3	丸子船（あぢかまの里）	有形民俗	未指定	西浅井	西浅井町塩津浜
4	常夜灯	建造物	未指定	西浅井	西浅井町塩津浜
5	北国街道木之本宿	伝統的建造物群	未指定	木之本	木之本町木之本
6	富田酒造主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
7	竹内家住宅（本陣）主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
8	ダイコウ醤油主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
9	白木屋醤油店主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
10	岩根醤油醸造店	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
11	岩根家住宅（重内）主屋	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
12	海津家住宅	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
13	山路酒造	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
14	竹本家住宅	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
15	上阪家住宅	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
16	馬宿平四郎家住宅	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
17	浄信寺本堂	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
18	浄信寺阿弥陀堂	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
19	浄信寺庭園	名勝地	国指定	木之本	木之本町木之本
20	浄信寺文書	古文書	市指定	木之本	木之本町木之本
21	明楽寺	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
22	一里塚跡の松	植物	未指定	木之本	木之本町木之本
23	田神山観音寺	遺跡	未指定	木之本	木之本町木之本
24	意富布良神社	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
25	江北図書館	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
26	きのもと交遊館	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
27	邦楽器系製造	選定保存技術	国選定	木之本	木之本町木之本
28	邦楽器原系製造	選定保存技術	国選定	木之本	木之本町大音
29	伊部宿本陣	建造物	未指定	湖北	湖北町伊部
30	石造道標	遺跡	市指定	びわ	香花寺町
31	北国脇往還史跡	遺跡	市指定	浅井	八島・野村町
32	石造北国街道道標	有形民俗	市指定	六荘	大戌亥町
33	北国街道船町の町並	伝統的建造物群	未指定	長浜	朝日町
34	本陣吉川家跡	遺跡	未指定	長浜	朝日町
ジャンル⑥ 長浜の近代化を創った遺産群 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	旧塩津郵便局舎	建造物	未指定	西浅井	西浅井町塩津浜
2	湖北隧道（RC造）	建造物	未指定	西浅井	西浅井町月出
3	旧余呉小学校講堂	建造物	未指定	余呉	余呉町下余呉
4	電話中継所ハット	建造物	未指定	余呉	余呉町中河内
5	旧柳ヶ瀬郵便局舎	建造物	未指定	余呉	余呉町柳ヶ瀬
6	余呉べんがら座（旧下余呉集会所）	建造物	未指定	余呉	余呉町下余呉
7	柳ヶ瀬トンネル	建造物	未指定	余呉	余呉町椿坂
8	余呉トンネル	建造物	未指定	余呉	余呉町八戸
9	中ノ郷駅跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町中之郷
10	きのもと交遊館	建造物	国登録	木之本	木之本町木之本
11	江北図書館（旧伊香郡農会）	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
12	東横町集会所（旧木之本保健所）	建造物	未指定	木之本	木之本町木之本
13	高時川発電所	建造物	未指定	木之本	木之本町川合
14	旧川合郵便局舎	建造物	未指定	木之本	木之本町川合
15	土倉鉾山跡	遺跡	未指定	木之本	木之本町金居原

16	旧杉野郵便局舎	建造物	未指定	木之本	木之本町杉野
17	奉安殿	建造物	未指定	木之本	木之本町大音
18	賤ヶ岳隧道（煉瓦造）	建造物	未指定	木之本	木之本町大音
19	杉本隧道（煉瓦造）	建造物	未指定	木之本	木之本町杉本
20	東阿閉公民館（ヤンマー会館）	建造物	未指定	高月	高月町東阿閉
21	曾根東福寺組地蔵堂（旧曾根小学校玄関）	建造物	国登録	びわ	曾根町
22	旧鍛冶屋郵便局舎	建造物	未指定	浅井	鍛冶屋町
23	谷坂隧道（RC造）	建造物	未指定	浅井	郷野町
24	旧布勢町会議所	建造物	未指定	西黒田	布勢町
25	横山隧道（煉瓦造）	建造物	未指定	西黒田	鳥羽上町
26	近江ベルベット株式会社本社工場	建造物	未指定	北郷里	石田町
27	奉安殿	建造物	未指定	北郷里	石田町
28	観音坂隧道（RC造）	建造物	未指定	北郷里	石田町
29	樋口株式会社旧事務所	建造物	未指定	南郷里	南小足町
30	大塚産業食堂（旧開知学校北舎）	建造物	未指定	六荘	八幡東町
31	慶雲館庭園	名勝地	国指定	長浜	港町
32	旧長浜駅本屋	建造物	県指定	長浜	北船町
33	旧北陸線トンネル扁額群	歴史資料	未指定	長浜	北船町
34	長浜旧開知学校	建造物	国登録	長浜	元浜町
35	黒壁ガラス館	建造物	国登録	長浜	元浜町
36	旧大垣共立銀行長浜支店	建造物	未指定	長浜	元浜町
37	長浜タワービル	建造物	未指定	長浜	元浜町
38	ふじ石亭	建造物	国登録	長浜	朝日町
39	旧鐘紡長浜絹布工場	建造物	未指定	長浜	鐘紡町
エリア① 長浜城と城下町遺構 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	長浜城跡	遺跡	市指定	長浜	公園町
2	太閤井戸跡	遺跡	未指定	長浜	公園町
3	長浜城石垣出土地	遺跡	未指定	長浜	公園町
4	大通寺含山軒・蘭亭・本堂・広間	建造物	国指定	長浜	元浜町
5	大通寺 台所門・山門附山廊・庫裡・鐘楼・太鼓楼・渡廊・新御座・宝蔵	建造物	市指定	長浜	元浜町
6	大通寺 茶所・二十八日講・因講・総会所	建造物	未指定	長浜	元浜町
7	大通寺含山軒・蘭亭	名勝地	国指定	長浜	元浜町
8	黒壁ガラス館本館（旧第百三十銀行長浜支店）	建造物	国登録	長浜	元浜町
9	湖北観光情報センター	建造物	国登録	長浜	元浜町
10	安藤家住宅	建造物	未指定	長浜	元浜町
11	ウラクロ（西御堂前町・伊部町）の町並	伝統的建造物群	未指定	長浜	元浜町
12	知善院	建造物	未指定	長浜	元浜町
13	長浜八幡宮 本殿・幣殿・拝殿	建造物	未指定	長浜	宮前町
14	長浜八幡宮 放生池	名勝地	市指定	長浜	宮前町
15	長浜八幡宮 旧汲月亭庭園	名勝地	未指定	長浜	宮前町
16	舎那院護摩堂	建造物	県指定	長浜	宮前町
17	妙法寺	建造物	未指定	長浜	大宮町
18	豊国神社	建造物	未指定	長浜	南呉服町
19	慶雲館	名勝地 建造物	国指定 未指定	長浜	港町他
20	長浜城下町 300 石境界石柱	有形民俗	未指定	長浜	朝日町他
21	北国街道稲荷町・十一町付近の町並	伝統的建造物群	未指定	長浜	朝日町
22	市街地の水路（背割水路）	遺跡	未指定	長浜	朝日町

23	船板堀	遺跡	未指定	長浜	朝日町
エリア② 奥びわ湖の観音文化と村々の祈り 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	木造仏頭（善隆寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町山門
2	木造十一面観音立像（善隆寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町山門
3	木造阿弥陀如来立像 行快作 附 像内納入品（阿弥陀寺蔵）	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
4	木造馬頭観音坐像（山門自治会蔵）	彫刻	県指定	西浅井	西浅井町山門
5	木造馬頭観音立像（徳円寺蔵）	彫刻	県指定	西浅井	西浅井町庄
6	如来形坐像（八田部自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町八田部
7	阿弥陀如来坐像（黒山自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町黒山
8	阿弥陀如来坐像（八田部自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町八田部
9	男神立像（山門鳥居堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山門
10	阿弥陀如来坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
11	聖観音坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
12	薬師如来坐像及び脇侍蔵（増光寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山田
13	阿弥陀如来坐像（山門自治会蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町山門
14	大日如来坐像（遍照寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
15	阿弥陀如来立像（遍照寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
16	大日如来坐像（蓮通寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町岩熊
17	阿弥陀如来坐像（大浦観音堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町大浦
18	阿弥陀如来立像（祇樹院蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
19	毘沙門天立像（横波薬師堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町横波
20	薬師如来坐像（横波薬師堂蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町横波
21	木造薬師如来立像（源昌寺蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町上丹生
22	木造観音菩薩立像（洞寿院蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町菅並
23	木造薬師如来坐像（源昌寺蔵）	彫刻	県指定	余呉	余呉町上丹生
24	大日如来坐像（洞寿院蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町菅並
25	狛犬（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
26	十一面観音立像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
27	天部形立像（川並自治会蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町川並
28	日光・月光菩薩立像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
29	木造聖観音坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
30	木造僧形坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
31	不動明王坐像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
32	十一面観音菩薩立像（国安自治会蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町国安
33	木造素盞鳴命坐像（大見神社蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町大見
34	木造女神坐像（大見神社蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町大見
35	木造十一面観音立像（医王寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町大見
36	木造御神像（佐波加刀神社蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町川合
37	木造十一面観音立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町古橋
38	木造薬師如来立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町古橋
39	乾漆十二神将立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町古橋
40	木造十一面観音立像（石道寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町石道
41	木造持国天立像 木造多聞天立像（石道寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町石道
42	乾漆十二神将立像（鶏足寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町古橋
43	木造七仏薬師如来立像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	木之本	木之本町古橋
44	木造十一面観音立像（石道寺蔵）	彫刻	県指定	木之本	木之本町石道
45	木造菩薩形立像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	木之本	木之本町古橋
46	木造十所権現像（鶏足寺蔵）	彫刻	県指定	木之本	木之本町古橋
47	木造十二神将像（鶏足寺蔵）	彫刻	市指定	木之本	木之本町古橋
48	木造地藏菩薩立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
49	木造閻魔王立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
50	木造俱生神立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本

51	木造阿弥陀如来立像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
52	木造阿弥陀如来坐像（浄信寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町木之本
53	木造阿弥陀如来立像（行快作・浄信寺蔵）	彫刻	市指定	木之本	木之本町木之本
54	木造伝千手観音立像（観音寺蔵）	彫刻	国指定	木之本	木之本町黒田
55	木造阿弥陀如来立像（浄信寺蔵）	彫刻	市指定	木之本	木之本町木之本
56	木造伝教大師坐像（高野神社蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町高野
57	木造釈迦如来坐像（白山神社蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町尾山
58	木造大日如来坐像（立法寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町尾山
59	木造日吉山王二十一社本地仏像（日吉神社蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町井口
60	木造十一面観音立像（向源寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町渡岸寺
61	木造大日如来坐像（向源寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町渡岸寺
62	木造阿弥陀如来坐像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
63	木造神像（春日神社蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町宇根
64	木造十一面観音立像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
65	木造金剛力士立像（向源寺蔵）	彫刻	県指定	高月	高月町渡岸寺
66	木造十一面千手観世音立像（大円寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町高月
67	木造薬師如来立像（八幡神社蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町柏原
68	木造獅子・象（文殊・普賢菩薩台座）（向源寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町渡岸寺
69	木造伝薬師如来立像（充滿寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町西野
70	木造十一面観音立像（充滿寺蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町西野
71	木造宝冠阿弥陀如来坐像（竹蓮寺蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町西阿閉
72	木造千手観音立像（日吉神社蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町唐川
73	木造菩薩立像（日吉神社蔵）	彫刻	国指定	高月	高月町唐川
74	木造馬頭観音立像（横山神社蔵）	彫刻	市指定	高月	高月町横山
75	木造聖観音立像（常楽寺蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町山本
76	木造如来形仏頭（延勝寺自治会蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町延勝寺
77	木造十一面観音立像（田中神社蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町田中
78	木造菩薩形立像（田中神社蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町田中
79	木造狛犬（白髭神社蔵）	彫刻	国指定	湖北	湖北町今西
80	木造阿弥陀如来立像（蓮台寺蔵）	彫刻	県指定	湖北	湖北町今西
81	金銅半跏思惟像（小谷寺蔵）	彫刻	市指定	湖北	湖北町伊部
82	木造十一面観音坐像（岡本神社蔵）	彫刻	市指定	湖北	小谷丁野町
83	木造慈恵大師坐像（玉泉寺蔵）	彫刻	国指定	虎姫	三川町
84	木造聖観音坐像（大井町自治会蔵）	彫刻	市指定	虎姫	大井町
85	木造千手観音立像（千手院蔵）	彫刻	国指定	びわ	川道町
86	木造千手観音立像（千手院蔵）	彫刻	国指定	びわ	川道町
87	木造聖観音立像（来現寺蔵）	彫刻	国指定	びわ	弓削町
88	木造木造菩薩坐像（新居神社蔵）	彫刻	市指定	びわ	新居町
89	木造菩薩坐像（新居神社蔵）	彫刻	市指定	びわ	新居町
90	弁才天坐像（宝厳寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	早崎町
91	木造聖観音立像（宝厳寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	早崎町
92	木造不動明王坐像（宝厳寺蔵）	彫刻	県指定	びわ	早崎町
93	木造阿弥陀如来立像（正念寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	錦織町
94	木造大日如来坐像（光信寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	太田町
95	木造毘沙門天立像（光信寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	太田町
96	阿弥陀如来立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
97	地藏菩薩立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
98	元三大師坐像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
99	聖観音立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
100	木造毘沙門天立像（醍醐寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	醍醐町
101	聖観音立像（南郷町蔵）	彫刻	市指定	浅井	南郷町

102	木造阿弥陀如来立像（小野寺町蔵）	彫刻	市指定	浅井	小野寺町
103	木造不動明王坐像（大聖寺不動堂蔵）	彫刻	市指定	浅井	大門町
104	木造薬師如来坐像（珀清寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	瓜生町
105	木造薬師如来坐像（大田寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	木尾町
106	木造阿弥陀如来立像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	神田	加田町
107	木造地藏菩薩半跏像（御影堂新善光寺）	彫刻	国指定	北郷里	西上坂町
108	木造聖観音立像（総持寺蔵）	彫刻	国指定	南郷里	宮司町
109	木造千手観音立像（総持寺蔵）	彫刻	市指定	南郷里	宮司町
110	木造半肉彫十一面観音立像（神照寺蔵）	彫刻	国指定	神照	新庄寺町
111	木造毘沙門天立像（神照寺蔵）	彫刻	国指定	神照	新庄寺町
112	木造不動明王立像（見返り不動、神照寺蔵）	彫刻	県指定	神照	新庄寺町
113	木造不動明王立像（神照寺蔵）	彫刻	県指定	神照	新庄寺町
114	石造薬師如来（八幡東町）	工芸	市指定	六荘	八幡東町
115	木造聖観音菩薩立像（元北門前観音堂蔵）	彫刻	市指定	六荘	八幡東町
116	木造薬師如来坐像（多田幸寺蔵）	彫刻	国指定	六荘	田村町
117	木造十一面観音坐像（知善院蔵）	彫刻	国指定	長浜	元浜町
118	木造阿弥陀三尊像（知善院蔵）	彫刻	市指定	長浜	元浜町
119	木造豊臣秀吉坐像（知善院蔵）	彫刻	市指定	長浜	元浜町
120	木造愛染明王坐像（舎那院蔵）	彫刻	国指定	長浜	宮前町
121	木造阿弥陀如来坐像（舎那院蔵）	彫刻	国指定	長浜	宮前町
122	木造薬師如来坐像（舎那院蔵）	彫刻	県指定	長浜	宮前町

エリア③ 賤ヶ岳城砦群と古戦場 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	玄蕃尾城跡（内中尾山城）	遺跡	国指定	余呉	余呉町柳ヶ瀬
2	別所山砦跡	遺跡	市指定	余呉	余呉町池原
3	行市山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町池原
4	中谷山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町池原
5	山寺山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町池原
6	大谷山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町小谷
7	柏谷山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町小谷
8	天神山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町国安
9	堂木山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町中之郷
10	東野山城跡	遺跡	市指定	余呉	余呉町東野
11	神明山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町八戸
12	大岩山砦跡	遺跡	未指定	余呉	余呉町坂口
13	賤ヶ岳七本槍戦功の地	遺跡	未指定	余呉	余呉町川並
14	毛受兄弟の墓	遺跡	未指定	余呉	余呉町新堂
15	賤ヶ岳城古戦場跡	遺跡	未指定	木之本・余呉	木之本町大音等
16	賤ヶ岳城跡	遺跡	未指定	木之本	木之本町大音
17	田上山城跡	遺跡	未指定	木之本	木之本町黒田

エリア④ー1 竹生島と水辺空間 歴史文化資産一覧

番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	竹生島	遺跡・名勝地	国指定	びわ	早崎町
2	都久夫須麻神社本殿	建造物	国指定	びわ	早崎町
3	宝厳寺唐門	建造物	国指定	びわ	早崎町
4	宝厳寺観音堂	建造物	国指定	びわ	早崎町
5	宝厳寺渡廊	建造物	国指定	びわ	早崎町
6	竹生島文書	古文書	国指定	びわ	早崎町
7	宝厳寺五重塔（石造）	建造物	国指定	びわ	早崎町

8	釈迦三尊像（宝厳寺蔵）	絵画	国指定	びわ	早崎町
9	毛抜形太刀（宝厳寺蔵）	工芸	国指定	びわ	早崎町
10	銅水瓶（宝厳寺蔵）	工芸	国指定	びわ	早崎町
11	空海請来目録（宝厳寺蔵）	工芸	国指定	びわ	早崎町
12	駿河倉院（宝厳寺蔵）	工芸	国指定	びわ	早崎町
13	竹生島文書（宝厳寺蔵）	古文書	県指定	びわ	早崎町
14	弁才天像（宝厳寺蔵）	絵画	県指定	びわ	早崎町
15	不動明王坐像（宝厳寺蔵）	彫刻	県指定	びわ	早崎町
16	大般若波羅蜜多經（宝厳寺蔵）	書跡	県指定	びわ	早崎町
17	石燈籠（都久夫須麻神社蔵）	工芸	市指定	びわ	早崎町
18	鰐口（宝厳寺蔵）	工芸	市指定	びわ	早崎町
19	弁才天坐像（宝厳寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	早崎町
20	木造聖観音立像（宝厳寺蔵）	彫刻	市指定	びわ	早崎町
21	宝厳寺本堂（弁才天堂）	建造物	未指定	びわ	早崎町
22	竹生島のタブノキ林	天然記念物	県指定	びわ	早崎町
23	竹生島一の鳥居	建造物	未指定	びわ	早崎町
エリア④ー2 菅浦と水辺空間 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	菅浦与大浦下庄堺絵図	古文書	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
2	菅浦文書	古文書	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
3	菅浦の湖岸集落景観	文化的景観	国選定	西浅井	西浅井町菅浦
4	東西の四足門	建造物	国選定	西浅井	西浅井町菅浦
5	湖岸の石垣	遺跡	国選定	西浅井	西浅井町菅浦
6	阿弥陀如来立像 行快作	彫刻	国指定	西浅井	西浅井町菅浦
7	諸川瓦窯跡	遺跡	県指定	西浅井	西浅井町菅浦
8	六字名号曼荼羅（阿弥陀寺蔵）	絵画	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
9	仏涅槃図（真蔵院蔵）	絵画	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
10	阿弥陀如来坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
11	聖観音坐像（阿弥陀寺蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
12	阿弥陀如来立像（祇樹院蔵）	彫刻	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
13	鰐口（須賀神社蔵）	工芸	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
14	銅鏡（須賀神社蔵）	工芸	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
15	須賀神社例祭（須賀の祭）	無形民俗	市指定	西浅井	西浅井町菅浦
16	ヤンマー家庭工場	有形民俗	未指定	西浅井	西浅井町菅浦
17	月出の湖岸集落景観	文化的景観	未指定	西浅井	西浅井町月出
18	葛籠尾崎湖底遺跡	遺跡	未指定	湖北	湖北町尾上
エリア⑤ 菅並集落と丹生谷の山村生活 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	木造観音菩薩立像（洞寿院蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町菅並
2	大日如来坐像（洞寿院蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町菅並
3	木造地藏菩薩坐像（洞寿院蔵）	彫刻	未指定	余呉	余呉町菅並
4	菅並余呉型民家群	伝統的建造物群	未指定	余呉	余呉町菅並
5	菅並の文化的景観	文化的景観	未指定	余呉	余呉町菅並
6	木造薬師如来立像（源昌寺蔵）	彫刻	国指定	余呉	余呉町上丹生
7	上丹生薬師堂（源昌寺蔵）	建造物	県指定	余呉	余呉町上丹生
8	上丹生の曳山茶碗祭	無形民俗	県指定	余呉	余呉町上丹生
9	木造薬師如来坐像（源昌寺蔵）	彫刻	県指定	余呉	余呉町上丹生
10	日光・月光菩薩立像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
11	木造聖観音坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生
12	木造僧形坐像（源昌寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町上丹生

13	銅鐘（菅山寺蔵）	工芸	国指定	余呉	余呉町坂口
14	石燈籠（菅山寺蔵）	工芸	市指定	余呉	余呉町坂口
15	狛犬（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
16	十一面観音立像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
17	不動明王坐像（菅山寺蔵）	彫刻	市指定	余呉	余呉町坂口
18	菅山寺	遺跡	未指定	余呉	余呉町坂口
エリア⑥ 大吉寺と草野川・姉川流域の仏教文化 歴史文化資産一覧					
番号	歴史文化資産名	類型	指定	地域	所在地
1	大吉寺跡	遺跡	県指定	浅井	野瀬町
2	伝源頼朝供養塔	建造物	県指定	浅井	野瀬町
3	大吉寺文書	古文書	未指定	浅井	野瀬町
4	大吉寺庭園	名勝地	市指定	浅井	野瀬町
5	阿弥陀如来立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
6	地藏菩薩立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
7	元三大師坐像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
8	聖観音立像（大吉寺蔵）	彫刻	市指定	浅井	野瀬町
9	梵鐘（上許曾神社蔵）	工芸	県指定	浅井	高山町
10	木造大日如来坐像（光信寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	太田町
11	木造毘沙門天立像（醍醐寺蔵）	彫刻	国指定	浅井	醍醐町
12	彩色阿字華鬘（醍醐寺蔵）	工芸	県指定	浅井	醍醐町
13	法具類（醍醐寺蔵）	工芸	県指定	浅井	醍醐町
14	釈迦十六善神像（醍醐寺蔵）	絵画	市指定	浅井	醍醐寺
15	大師画像（醍醐寺蔵）	絵画	市指定	浅井	醍醐寺
16	不動明王像（醍醐寺蔵）	絵画	市指定	浅井	醍醐寺
17	八祖大師像（醍醐寺蔵）	絵画	市指定	浅井	醍醐寺
18	大般若経（宋版、醍醐寺蔵）	書跡	市指定	浅井	醍醐寺
19	木造聖観音立像（南郷町蔵）	彫刻	市指定	浅井	南郷町
20	木造阿弥陀如来立像（小野寺町蔵）	彫刻	市指定	浅井	小野寺町
21	木造不動明王坐像（大聖寺不動堂蔵）	彫刻	市指定	浅井	大門町
22	木造聖観音立像（総持寺蔵）	彫刻	国指定	南郷里	宮司町
23	総持寺大門（仁王門）	建造物	県指定	南郷里	宮司町
24	総持寺庭園	名勝地	県指定	南郷里	宮司町
25	木造聖観音立像（総持寺蔵）	彫刻	市指定	南郷里	宮司町
26	木造千手観音立像（総持寺蔵）	彫刻	市指定	南郷里	宮司町
27	金銀鍍透彫華籠（神照寺蔵）	工芸	国宝	神照	新庄寺町
28	木造半肉彫十一面観音立像（神照寺蔵）	彫刻	国指定	神照	新庄寺町
29	木造毘沙門天立像（神照寺蔵）	彫刻	国指定	神照	新庄寺町
30	木造不動明王立像（見返り不動、神照寺蔵）	彫刻	県指定	神照	新庄寺町
31	木造不動明王立像（神照寺蔵）	彫刻	県指定	神照	新庄寺町

凡例

国費:歴史文化資産補助金、地方創生推進交付金等とする。

県費:滋賀県文化財保存事業費補助金、各種助成金とする。

市費：市単費、補助金等とする。

民間：行政からの補助金以外とする。

市民： 市民

所有者： 歴史文化資産所有者

団体： 民間活動団体、各種団体、協議会等

専門家： 大学、博物館等

行政： 長浜市

◎：中心になって取り組む

○：協力して取り組む

△：参画しないが協力体制を整えておく

市全域における措置

課題	基本目標	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市歴史的風致維持向上計画	湖国フィールドミュージアム長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年目	2年目	3年目	4年目	5～10年		
課題１：歴史文化資産を保存・活用する所有者が孤立している	地域 の光を未来へつなぐ歴史文化都市・長浜	方針１：歴史文化資産の保存・活用は「個人」から「地域」へ【歴史文化資産を地域で守る体制を確立する】																	
		保存活用団体を創設し、地域で歴史文化資産を活用し保存・活用に対する意欲を醸成する。																	
		個別の歴史文化資産の保存活用団体が整っていない。	2	保存活用団体の設立促進	所有者だけでなく地域の人々とともに歴史文化資産を守るため、保存活用団体の設立や活動の充実を促す。	行政 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	新規							
課題	基本目標	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市歴史的風致維持向上計画	湖国フィールドミュージアム長浜地域計画
事業名	事業概要	市民	所有者	団体	専門家		行政	1年目	2年目	3年目	4年目		5～10年						
課題２：歴史文化資産の調査と活用が進んでいない	地域 の光を未来へつなぐ歴史文化都市・長浜	方針２：歴史文化資産の保存・活用は「指定」から「把握」へ【総合的な歴史文化資産の把握に努める】																	
		歴史文化資産の把握のため調査を行う。その後、指定を推進し、市史編纂に着手する。また、歴史文化資産を後世に繋げるため、防災・防犯対策や維持管理、保存活用計画等の作成を進める。																	
		歴史文化資産の調査が進んでいない。	1-1	歴史文化資産の調査（把握調査）	美術工芸品等の歴史文化資産の価値の解明に向け、把握調査を推進する。	市費等	△	◎	◎	◎	◎	継続							
			1-2	歴史文化資産の調査（個別調査）	歴史文化資産の価値の解明に向け、調査研究等を推進する。 (花火陣屋・玉泉寺・小堀氏家臣団墓所・赤田氏庭園等)	市費等	△	◎	◎	◎	◎	継続							
		開発等により損なわれる恐れがある。	1-3	歴史文化資産の調査（埋蔵文化財調査及び整理調査）	開発に伴う緊急発掘調査、学術調査や整理調査を実施する。	国費 県費 市費等	○	○	○	○	◎	継続							
		地域全体の歴史が総合的に整理されておらず、市町合併後の市史編纂の取組ができていない。	3	市史の編纂	歴史資料の散逸を防ぐため、歴史資料を収集・調査し、新たな市域を対象とした資料編を中心とする「新修 長浜市史」の事業に着手する。	市費等		○			◎	◎	新規						
		歴史文化資産の指定が計画的に進められていない。また、指定される文化財類型に偏りがある。	4	歴史文化資産の価値付けの推進	歴史文化資産の価値付けを進め、保存・活用を図る。	市費等		◎			◎	◎	継続						
		災害から歴史文化資産を守るための歴史文化資産防災マップが存在しない。	5-1	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の防災マップ）	歴史文化資産を災害から守るため、洪水時の水位線の記録や、震災時の歴史伝承を活かした歴史文化資産防災マップを作成する。	国費 県費 市費等	△	○	◎		◎	新規							
		歴史文化資産の保存状況や現状把握のための防犯パトロールができていない。	5-2	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産のパトロール）	歴史文化資産の防犯・防災のため、パトロールを行い、現状把握に努める。	市費等	◎	◎	◎		○	新規							
		防災設備の整備や更新が必要。	5-3	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の防犯・防災設備設置等）	歴史文化資産の防犯・防災設備の更新・設置や耐震診断を行う。 (宝厳寺観音堂、唐門、渡廊（低屋根）、渡廊（高屋根）、都久夫須麻神社本殿等)	国費 県費 市費 民間	◎	◎	◎		◎	継続							
		防火訓練を行い、緊急時における対応を知る必要がある。	5-4	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の防火訓練）	消防署等により防火訓練を実施する。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続							
		歴史文化資産の盗難被害にあった場合、台帳が用意されていない。	5-5	防犯・防災対策の実施（歴史文化資産の台帳作成）	歴史文化資産の目録や写真撮影を行い、台帳として整理することによって、災害に備える。	国費 県費 市費 民間等		◎	◎	○	◎	新規							
		史跡整備が進んでいない。	6	史跡の整備事業	史跡の整備を進め保存・活用を進める。	国費 県費 市費等	○	◎	◎	◎	◎	継続							
		多くの個別歴史文化資産において保存活用計画が策定されていない。	7	個別歴史文化資産の保存活用計画等作成・作成支援	個別の歴史文化資産について、保存活用計画等各種計画の作成や作成の支援を行う。	国費 市費 所有者等	△	◎	◎	◎	◎	継続							

課題	基本 目標	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画	
				事業名	事業概要		市民	所有 者	団体	専門 家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年			
課題3：歴史文化資産の保存・活用が他の行政計画と連動できていない		方針3：長浜市の行政計画との連動を図る 【他計画と連動して効果を倍増させる】																		
長浜市歴史的風致維持向上計画と連動を図る。		長浜市歴史的風致維持向上計画等の関連する他計画と連動を図る。																		
		「歴史的風致維持向上計画」や「長浜市景観まちづくり計画」等、第1章で示した関連する行政計画と、歴史文化資産の保存・活用を連動させることで、観光振興や地域づくりでの活用につなげ、より大きな効果を上げるよう努める。	8-1	山蔵保存修理事業	山蔵について、損傷した壁面や扉、雨樋等を破損状況に応じ保存修理が必要になったものについて順次保存修理を進める。	県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(1)～①	
			8-2	大通寺加藍群保存修理事業	大通寺の加藍群の一部である講場（総会所、茶所、因講、二十八日講）について、保存修理設計調査を実施し、破損状況を把握したうえで、保存修理を実施する。	市費等		◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(1)～②	
			8-3	歴史的建築物保存活用事業・伝統的街並み景観形成事業	中心市街地及び北国街道木之本宿にある歴史的建築物を保存・活用する際や伝統的な街並み景観の維持形成に配慮して町家、店舗、住宅等を改修する際に補助金を交付する。	市費 民間等		◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(2)～①	
			8-4	伝統的建造物群保存地区選定調査検討事業	北国街道木之本宿区域において、建造物の調査及び保存対策を実施し、歴史文化資産の価値付けを行い、保存区域を検討する。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(2)～③	
			8-5	豊公園（長浜城跡）再整備事業	豊公園施設の老朽化が著しく、史跡の活用が十分なされていないことから、史跡指定範囲内における史跡の活用を検討し、公園の再整備を進める。	国費 市費等		◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(2)～④	
			8-6	木之本宿道路整備事業	国道303号及び市道木之本大師余呉線において、歴史的な街並みに調和した道路の美装化、路側帯の設置等を進める。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(2)～⑤	
			8-7	長浜曳山祭保存伝承事業	長浜曳山祭は、より広い視野からの観光・産業振興を市内関連団体と協調しながら推進する。また、長浜曳山文化協会の事業を支援する。長浜曳山祭を保存伝承するための取組や仕組みを整備・支援する。	国費 県費 市費等	◎	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(3)～①	
			8-8	きもの大園遊会開催事業（城下町遺構の活用）	大通寺を会場に振袖姿の女性が城下町を散策する内容。催事を開催し歴史的建造物の価値を再認識し来街を促す事業。	市費等	◎	◎	◎		◎	◎	継続						○ 番号(3)～②	
			8-9	ふるさと夏まつり「地蔵縁日」開催事業	木之本の浄信寺で開催される木之本本地蔵大菩薩の縁日にあわせて、門前の北国街道及び地蔵坂でふるさと夏まつり「地蔵縁日」を継続的に開催する。	市費等	◎	◎	◎		◎	◎	継続						○ 番号(3)～③	
			8-10	木之本宿まちなか再生事業	木之本宿の空き家や空き店舗の利活用の実態調査や利活用のコンサルティング、移住相談窓口、古民家見学ツアー等に取り組む。	市費等		◎	◎		◎	◎	継続						○ 番号(3)～④	
			8-11	北国街道木之本宿にぎわい創出事業	北国街道沿いできのもと宿街道まつりや登録有形文化財のきのもと交遊館で企画展示、意富布良神社で夕涼み横丁等に取り組む。	市費等	◎	◎	◎		◎	◎	継続						○ 番号(3)～⑤	
8-12	観音の里ふるさとまつり開催事業		高月地域を中心に観音堂等が拝観できる観音の里ふるさとまつりを継続的に実施する。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(3)～⑥			
	地域 の光を 未来へ つなぐ 歴史文 化都市 ・長浜	9-1	長浜城歴史博物館 歴史・文化展示魅力増進事業	タブレットを用いた展示解説やARの導入、収蔵資料のデジタルアーカイブ化、ユニークベニュー、多言語化等を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規						○ 番号1～①			
		9-2	曳山博物館 歴史・文化展示魅力増進事業	タブレットを用いた展示解説、映像展示の更新、収蔵資料のデジタルアーカイブ化、伝統芸能・工芸の体験等を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規						○ 番号1～②			
		9-3	鉄道スクエア 歴史・文化展示魅力増進事業	展示リニューアル、VR技術の導入、体験型展示等を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規						○ 番号1～③			
		9-4	来訪者の利便性向上に向けた人材の増員	曳山博物館における学芸員増員・鉄道スクエアにおいて職員配置を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規						○ 番号1～④			
		9-5	地域通訳案内士養成事業	地域通訳案内士の育成を行い、ガイド人材に幅広い層の参入を図る。	国費 市費等		◎			◎	新規						○ 番号1～⑤			
		9-6	「長浜城下町遺跡」選定事業	近世城下町として伝承するため「長浜城下町遺産」を選定する制度を創設する。	市費 民間等		◎			◎	新規						○ 番号1～⑥			
		9-7	二次交通対策事業	令和3年度に実施 電動アシスト自転車の整備を図る。	県費 市費等		◎			◎	新規						○ 番号2～①			
		9-8	二次交通対策実証実験事業	令和3～4年度実施 二次交通の利用者頻度、動向を検証する実証実験を行う。	市費 民間等		◎			◎	新規						○ 番号2～②			
		9-9	文化観光×フィールドワークアシスト	食事や文化性等、満足度の高い体験の中で文化的資源に触れるフィールドワークを提供する。	国費 市費等		◎			◎	新規						○ 番号2～③			
		9-10	体験型観光推進事業	秀吉や戦国にゆかりがある体験観光を造成し、販売・プロモーション等の事業を進める。	国費 市費等		◎			◎	新規						○ 番号3～①			

	文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律による計画「湖国フィールドミュージアム・長浜地域計画」との連動を図る。					9-11	文化観光施設周遊事業	浪漫バスポート事業で周遊促進につなげる。	国費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号3-②	
						9-12	中心市街地連携事業	長浜城歴史博物館とまちなかを繋ぐイベントを開催する。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号3-③	
						9-13	物販商品開発事業	地元の業者と連携した土産品の開発を行う。	国費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号3-④	
						9-14	文化観光周遊ツアー事業	長浜の魅力を体感できるテーマを設定し、周遊ツアーを実施する。	国費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号3-⑤	
						9-15	食文化の推進	長浜市ならではの食文化を体験し、旅の思い出を深化し、ファン層の拡大を狙う。	市費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号3-⑥	
						9-16	長浜市魅力動画作成・配信事業	戦国・秀吉を起点とする歴史と文化のストーリー等の動画を作成し、プロモーションや教育現場で活用する。	国費 市費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号4-①	
						9-17	デジタルマーケティング魅力発信事業	長浜の観光ポータルサイトで日本語や多言語の情報発信を行う。	国費 市費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号4-②	
						9-18	長浜文化資源映像化事業	長浜曳山祭を軸に据えた映画の公開に先立ってキャンペーンを行い、長浜曳山祭等祭礼行事の知名度向上、イメージの構築を狙う。	国費 民間等		◎			◎	新規							○ 番号4-③	
						9-19	広域連携事業	びわ湖・近江路観光圏活性化協議会等でプロモーションを行う。	県費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号4-④	
						9-20	バリアフリー事業	令和3年度 長浜城歴史博物館のトイレ整備を行う。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号5-①	
						9-21	非接触推進事業	コロナ禍において、手で触れる機会を低減するために、施設内の改修等に取り組む。	国費 市費等		◎			◎	新規							○ 番号5-②	
課題	基本 目標	方針	番号	保存と活用に関する措置					財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画	
				事業名		事業概要				市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年			
課題4：歴史文化資産の伝承のための保存資金が不足している				方針4：保存伝承の資金は「扶助」から「共助」へ 【資金メニューを揃える】																			
				歴史文化資産の修理のための資金の共助方法を探り、その手引書を作成する等、保存・活用が行いやすい環境づくりを行う。																			
歴史文化資産の修理が必要であっても自己資金が足りず計画的に修理が進んでいない。				10	歴史文化資産修理のための資金調達支援			企業版ふるさと納税やクラウドファンディング等を推進するとともに、歴史文化資産の修理に関する資金調達等手引書を作成し、様々な方法による資金調達を推進する。	国費 県費 市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	新規								

課題	基本 目標	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
課題5：歴史文化資産を保管できる場所が足りない	地域 の光を未来へつなぐ歴史文化都市・長浜	方針5：博物館・資料館は「展示」とともに「収蔵」を重視 【保存・活用施設の役割を高める】																	
		博物館等施設の再編を行い、収蔵庫の整理や増設を進め、歴史文化資産を次世代へ引き継ぐ。																	
		有形文化財については、個人、法人や地域で保存できなくなった場合の保管場所として、収蔵施設の充実を図っていく。市内博物館・資料館については、施設の再編を図るとともに、収蔵した歴史文化資産を展示公開する機能を高める。	11	博物館等における魅力ある展示	博物館等の展示に先端技術（AR等）を導入し、博物館等の魅力を向上させる。（※9-1～3と連動する）	国費 県費 市費等		◎	◎	◎	◎	継続							
		収蔵を重視した保存・活用施設の役割が求められる。	12	博物館等施設の再編	博物館等施設の再編を行い、各施設の特徴を表出する。	市費等		○	○	◎	◎	新規							
		収蔵品が増え、収蔵庫内のスペースが少なくなっている。	13	博物館等収蔵庫の容量確保	歴史文化資産を守るため、保存活用施設の役割を高め、博物館等の収蔵庫を増設し、既存収蔵庫の整理を行う。	市費等		○		○	◎	新規							
歴史資料の散逸を防ぐため、資料を収集する施設が存在しない。			14	「（仮称）長浜市歴史資料センター」の機能整備	歴史資料の散逸を防ぐため、長浜市や民間が所有する歴史文化資産（市の廃棄文書を歴史資料としたものを含む）を収集・調査する「（仮称）長浜市歴史資料センター」の機能を整備する。	市費等		○		○	◎	新規							
課題	基本 目標	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
事業名	事業概要	市民	所有者	団体	専門家		行政	1年 目	2年 目	3年 目	4年 目		5～ 10年						
課題6：歴史文化資産を担う後継者の育成が進んでいない	地域 の光を未来へつなぐ歴史文化都市・長浜	方針6：歴史文化資産を保存・活用する人材を確保する 【人材育成と技術者の養成】																	
		歴史文化資産を受け継ぐ人材の啓発・育成を進める。歴史文化資産の継続的な保存修理を進め、技術者の養成や技術の伝承を図る。																	
		歴史文化資産を次代につなぐため、小中学生や高校生への歴史文化資産学習が積極的に行えるような学校教育体制を整える。さらに、歴史文化資産を学び語り伝える人材を発掘し、歴史文化に関する解説書を充実させる等学習の機会を提供する。また、歴史文化資産の保存修理に関わる市内技術者の養成支援を行い、可能な限り市内において歴史文化資産修理が行えるような地域の体制づくりに努める。	15-1	歴史文化資産の保存・活用（普及・維持管理）	地域づくり協議会や学校等様々な団体において、歴史文化資産の保存・活用を進める。 また、歴史文化資産や施設等の維持管理を行い、保守点検や荒廃防止等保存管理を進める。	国費 県費 市費 民間		○	◎	◎		◎	継続						
		地域全体で歴史文化資産を保存活用できていない。	15-2	歴史文化資産の保存・活用（出前講座）	学校や各種団体等へ歴史文化資産を紹介する出前講座を実施する。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							
		維持管理のため保存修理が必要となる。	16-1	建造物の保存・活用（保存修理の支援）	補助金等により建造物の保存修理事業を支援する。 （西徳寺本堂屋根葺替・大通寺等）	国費 県費 市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続							
指定された歴史文化資産の伝承について支援が必要。			16-2	建造物の保存・活用（保存修理）	西徳寺・大通寺等歴史文化資産を保存・活用するため保存修理を行う。	国費 県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続							
		17-1	民俗文化財の保存・活用（保存伝承支援）	民俗文化財の重要性の認識と保存伝承を進めるため、祭礼公開や後継者育成を支援する。 （長浜曳山祭行事保存伝承事業、富田人形保存伝承事業、下余呉太鼓踊り伝承事業、速水伊豆神社八朔大祭保存伝承等）	市費等	○	○	◎	○	◎	継続								
		17-2	民俗文化財の保存・活用（事業支援）	民俗文化財を保存・活用するため、補助金等による事業支援を行う。	国費 県費 市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続								
			17-3	民俗文化財の保存・活用（長浜曳山祭等の保存修理）	長浜曳山祭の山蔵や曳山、懸装品等曳山関連及び民俗文化財の保存修理を行う。	国費 県費 市費 民間		◎	◎	◎	◎	継続							
課題	基本 目標	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
事業名	事業概要	市民	所有者	団体	専門家		行政	1年 目	2年 目	3年 目	4年 目		5～ 10年						
課題7：歴史文化資産の情報公開が進んでいない	地域 の光を未来へつなぐ歴史文化都市・長浜	方針7：歴史文化資産の情報を世界と共有化する 【歴史文化資産の情報のデジタルアーカイブ化を進める】																	
		普及や周知に関する取組や、デジタルアーカイブ化を進め、ホームページの充実等を行い、歴史文化資産の情報発信と活用にも努める。																	
		市内の歴史文化資産の普及・周知に関する取組を行う。あわせて歴史文化資産の写真や解説、講演会や伝統行事等のデジタル化を進めて、データベース化し、SNS等を通して世界と情報を共有する。	18-1	ホームページの充実・情報発信	ホームページを充実するとともに、情報発信の充実を行い、歴史文化資産の情報を共有化する。（観音文化・竹生島・菅浦等）	市費 民間等		◎	◎	○	◎	継続							
		フィルム写真のデジタル化ができていない。また、報告書等図書の収蔵業務に手が行き届いていない。	18-2	歴史文化資産の保存・活用（看板等の作成）	歴史文化資産の解説を行う看板類を作成する。 さらに、ガイドマップや解説書等を作成し、歴史文化資産の活用を図る。（古墳・近代化遺産等）	国費 県費 市費 民間等	○	◎	◎	◎	◎	継続							
		感染症により、従来の活動が行えなくなっている。	19	図書・写真整理	歴史文化資産の保存・活用を図るため、図書や写真整理を進める。フィルム写真はデジタル化を進める。	市費等		○	○	○	◎	新規							
			20	コロナ等感染症対策	広報や運用等により所有者や保存団体に感染拡大防止対策を促す。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	新規							

ジャンル・エリアの措置

課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
ジャンル①「古代の王と古墳文化」の課題	地域の光を未来へつなぐ歴史																		
歴史文化資産を保存・活用する団体が少ない。		21	古代の王と古墳文化に関する保存活用団体の設立促進	歴史文化資産を後世に継承するため、保存活用団体がすでに設立されている場合は充実を図り、設立されていない場合は、その創設を促し、保存・活用の体制を確立していく。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	新規								
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
ジャンル②「小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡」の課題				方針：横山城跡等、指定されていない多くの歴史文化資産については、保護の措置を図るため価値付けを進める。北近江城館跡群等、指定されているが保存活用計画や整備基本計画が作成されていない歴史文化資産については計画の作成を進める。そして、計画が作成されている小谷城跡については、保存活用計画や整備基本計画に基づく管理・運営を行い、整備を進め、さらに各種調査を実施する。あわせて普及啓発の充実のため、小谷城跡や戦国時代を学び体感できる（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムを設置する。															
関連団体間の連携を図る。		22	元亀争乱関連遺跡の連携	小谷城跡を拠点として、元亀争乱関連遺跡に関する所有者・各種団体間で連携を図れる体制を整え、歴史文化資産の活用を進める。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	新規								
道構が不明な場所や測量調査ができていない場所がある。		23	小谷城跡の調査・整備	発掘調査・測量調査等を実施し、整備計画に基づき整備を進める。	国費 市費等	○	◎	◎	◎	◎	継続								
保存活用計画等の各種計画の作成に手が回っていない。		24	北近江城館跡群の保存活用計画の作成	北近江城館跡群（下坂氏館跡等）の保存活用計画の作成を進める。	国費 市費等	△	◎	◎	◎	◎	新規								
長浜の代表的な歴史である戦国時代に特化した展示施設が無い。		25	（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムの設置	「小谷城・姉川古戦場と元亀争乱遺跡」の歴史文化を紹介・体験できる（仮称）小谷城戦国ミュージアムの設置を行う。	市費 民間等		○	○	○	◎	新規								
人手不足で管理に手が回っていない。		26	小谷城跡の保存・活用	小谷城跡を継承するため、歴史文化資産の管理や公開といった保存・活用を進める。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続								
歴史文化資産として活用が求められる。		27	北近江城館跡群 下坂氏館跡の保存・活用	下坂氏館跡を継承するため、歴史文化資産の管理や公開といった保存・活用を進める。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続								
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
ジャンル③「多彩なる伝統芸能・民俗行事」の課題				方針：「長浜市無形民俗文化財保存活用協議会」を通しての保存・活用事業を推進し、「上丹生の曳山茶碗祭」といった調査が行われていない歴史文化資産は順次調査・記録保存を実施する。普及啓発においては、「長浜市地域伝統芸能大会」や博物館・資料館事業を通して進める。さらに、地元団体と連携して伝統芸能や民俗行事をまちづくりの核に位置づけ、保存・継承を図る。															
伝統行事の実態が把握できていない。		28	民俗文化財（上丹生の曳山茶碗祭）の総合的な調査	上丹生の曳山茶碗祭が再興される時期にあわせて調査を行い、現状把握を行う。	国費 市費等		◎			◎	○	新規							
伝統芸能を公開する機会が少ない。		29	長浜市地域伝統芸能大会の開催	長浜市地域伝統芸能大会を開催し、民俗芸能の発表の場を設けるとともに、歴史文化資産の普及を図る。	国費 市費 民間等		◎	◎			○	継続							
民俗文化財の保存・活用が進んでいない。		30	民俗文化財の保存・活用（長浜市無形民俗文化財保存協議会）	長浜市無形民俗文化財保存活用協議会の事業を充実させ、民俗文化財の保存・活用を進める。	民間等		◎	◎	◎	◎	◎	継続							
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
ジャンル④「近世文化の輝き」の課題				方針：雨森芳洲や国友一貫斎等長浜ゆかりの文化人については、顕彰会、研究団体といった保存活用団体を支援し、保存活用団体がいない場合は設立を促し、その歴史文化資産を調査・研究し保存・活用する体制を作る。長浜曳山祭については、公益財団法人長浜曳山文化協会や長浜曳山祭囃子（しゃぎり）保存会の事業を支援する。あわせて市内関連団体と連携し、観光・産業振興を図り、全市的な普及を推進する。また、長浜曳山祭の保存活用計画の作成についても支援を行う。															
歴史文化資産の保存活用団体への支援が行き届いていない。		31	近世文化の輝きに関する保存活用団体の設立促進	歴史文化資産を後世に継承するため、保存活用団体がすでに設立されている場合は充実を図り、設立されていない場合は、その創設を促し、保存・活用の体制を確立していく。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	新規								
長浜市歴史的風致維持向上計画と連動が不十分である。		8-1	山蔵保存修理事業（※再掲）	山蔵について、損傷した壁面や扉、雨樋等を破損状況に応じ、保存修理が必要になったものについて順次保存修理を進める。	県費 市費 民間等		◎	◎		◎	◎	継続						○ 番号(1)～①	
		8-7	長浜曳山祭保存伝承事業（※再掲）	長浜曳山祭は、より広い視野からの観光・産業振興を市内関連団体と協調しながら推進する。また、長浜曳山文化協会の事業を支援する。 長浜曳山祭を保存伝承するための取組や仕組みを整備・支援する。	国費 県費 市費等	◎	◎	◎		◎	◎	継続						○ 番号(3)～①	
歴史文化資産の個別の保存活用計画作成が進んでいない。		32	長浜曳山祭の保存活用計画作成及び作成支援	個別歴史文化資産の保存活用計画作成を行う。また、各保存団体の計画作成に対して支援を行う。	国費 市費 民間等		◎	◎		◎	◎	継続							

課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画			
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年					
ジャンル⑤「街道が織り成す交流の文化」の課題				方針：北国街道木之本宿の伝統的町並みの保存や伊部宿・塩津浜集落の環境維持を進め、「木之本宿町並み研究会」や地域団体、大学等と連動した調査を推進する。また、伝統的建造物・宿場環境の維持について学習の推進を図る。 普及事業においては、伝統的建造物の公開や関連資料の展示の充実に努める。また、北国臨往還は、多くの観光客が訪れやすい環境整備を進める。 まちづくりにおいては、「木之本宿町並み研究会」等の地域団体と連携し、街道沿い町並みを活用した多様な地域活性化を推進し、市内北部における文化・観光・産業拠点化を進める。また、木之本宿における町家等の価値付けを進める。																		
	宿場町や街道筋の実態把握や保存・活用が図られていない。		8-4	伝統的建造物群保存地区選定調査検討事業（※再掲）	北国街道木之本宿区域において、建造物の調査及び保存対策を実施し、歴史文化資産の価値付けを行い、保存区域を検討する。	市費 民間等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(2)～③				
			8-6	木之本宿道路整備事業（※再掲）	国道303号及び市道木之本穴師余呉線において、歴史的な街並みに調和した道路の美装化、路側帯の設置等を進める。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(2)～⑤				
			8-9	ふるさと夏まつり「地蔵緑日」開催事業（※再掲）	木之本の浄信寺で開催される木之本地蔵大菩薩の緑日にあわせて、門前の北国街道及び地蔵坂でふるさと夏まつり「地蔵緑日」を継続的に開催する。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続						○ 番号(3)～③				
			8-10	木之本宿まちなか再生事業（※再掲）	木之本宿の空き家や空き店舗の利活用の実態調査や利活用のコンサルティング、移住相談窓口、古民家見学ツアー等に取り組む。	市費等		◎	◎		◎	継続						○ 番号(3)～④				
			8-11	北国街道木之本宿にぎわい創出事業（※再掲）	北国街道沿いできのもと宿街道まつりや登録有形文化財のきのもと交遊館で企画展示、意富布良神社で夕涼み横丁等に取り組む。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続						○ 番号(3)～⑤				
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画			
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年					
ジャンル⑥「長浜の近代を創った遺産群」の課題				方針：既存の報告を見直し、個々の近代化遺産の特性を明らかにし、再把握を進める。そして、総合的な調査報告書や保存活用計画の作成を進める。 まちづくりにおいては、市民に歴史文化資産の価値を周知し、地元団体と連携して進める。また、現在進めている慶雲館庭園の整備を行い、観光客が訪れやすい環境づくりを行う。																		
	名勝の価値を高める整備が進んでいない。		33	慶雲館の整備	整備計画に基づき慶雲館庭園の整備を推進する。	国費 市費等		◎		◎	◎	継続										
	把握や調査が進んでいない。		34	近代化遺産の調査	把握した近代化遺産の調査を実施する。	市費等		○		◎	◎	新規										
			35	旧長浜駅本屋の総合的な調査	総合的な調査を実施する。（旧長浜駅本屋の耐震工事を実施する時期で変動がある。）	市費 民間等		○		◎	◎	新規										
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画			
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年					
エリア①「長浜城と城下町遺構」の課題				方針：「第2期 長浜市歴史的風致維持向上計画」との連携を継続し、伝統的建造物群（稲荷町・十一町・ウラクロ）等の歴史文化資産の調査を行う。また、取り壊しの危機にある歴史文化資産の価値付けを進め、価値の共有を図り、「現存最古の近世城下町」としての誇りを持てるよう住民意識の喚起を進める。 市民による保存活用団体の設立を促し、保存・活用の体制の整備を図る。そして、歴史文化資産の継承を進める。																		
	長浜城城下町の魅力が伝えられていない。		8-1	山蔵保存修理事業（※再掲）	山蔵について、損傷した壁面や扉、雨樋等を破損状況に応じ、保存修理が必要になったものについて順次保存修理を進める。	県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(1)～①				
			8-2	大通寺伽藍群保存修理事業（※再掲）	大通寺の伽藍群の一部である講場（総会所、茶所、因講、二十八日講）について、保存修理設計調査を実施し、破損状況を把握したうえで、保存修理を実施する。	市費等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(1)～②				
			8-5	豊公園（長浜城跡）再整備事業（※再掲）	豊公園施設の老朽化が著しく、史跡の活用が十分なされていないことから、史跡指定範囲内における史跡の活用を検討し、公園の再整備を進める。	国費 市費等		◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(2)～④				
			8-7	長浜曳山祭保存伝承事業（※再掲）	長浜曳山祭は、より広い視野からの観光・産業振興を市内関連団体と協調しながら推進する。また、長浜曳山文化協会の事業を支援する。長浜曳山祭を保存伝承するための取組や仕組みを整備・支援する。	国費 県費 市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(3)～①				
			8-8	きもの大園遊会開催事業（城下町遺構の活用）（※再掲）	大通寺を会場に振袖姿の女性が城下町を散策する内容。催事を開催し歴史的建造物の価値を再認識し来街を促す事業。	市費等	◎	◎	◎		◎	継続						○ 番号(3)～②				
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画			
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年					
エリア②「奥びわ湖の観音文化と村々の折り」の課題				方針：歴史文化資産の保存・活用のため、人材の確保とともに保存活用団体を設立し、保存・活用の体制を整備する。 観光については、関係機関等と連携し、看板等の充実やSNSを活用し、来訪者の受け入れ体制を整備する。																		
	歴史文化資産に対する住民の関心が薄い。		8-12	観音の里ふるさとまつり開催事業（※再掲）	高月地域を中心に観音堂等が拝観できる観音の里ふるさとまつりを継続的に実施する。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	継続						○ 番号(3)～⑥				
	歴史文化資産を保存・活用するための人材が不足している。		36	観音文化の保存・活用（観音の里折りとくらしの文化伝承会議の推進）	観音の里折りとくらしの文化伝承会議の充実を図り、来訪者受け入れ体制の整備を整え、保存・活用を進める。	民間等		◎	◎	○	○	継続										

課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
エリア③「賤ヶ岳城砦群と古戦場」の課題				方針：歴史文化資産の保存・活用を図るため、賤ヶ岳古戦場に関連する全体の保存活用団体の設立を支援する。 各所に築かれた砦群は、調査や各種計画の作成を進め、歴史文化資産の整備を行う。 普及事業や観光振興については、地元団体と連携を取り、古戦場へのアクセスの検討・登山道の整備・看板等の統一等、観光の振興や地域と連携した普及活動を行う。															
保存活用団体が少ない。				37	賤ヶ岳城砦群と古戦場に関する保存活用団体の設立促進	歴史文化資産を後世に継承するため、保存活用団体がすでに設立されている場合は充実を図り、設立されていない場合は、その創設を促し、保存・活用の体制を確立していく。	市費等	◎	◎	◎	◎	◎	新規						
詳細な調査が進んでいない。				38	賤ヶ岳城砦群と古戦場に関する遺構の分布等事前把握	遺構の分布等事前把握を行う。	国費 市費等		○	◎	◎	◎	新規						
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
エリア④「菅浦・竹生島と水辺空間」の課題				方針：竹生島・菅浦は、保存管理計画に則り、維持管理を進める。 普及啓発については、竹生島や菅浦の文化財群に関するパンフレットの作成を進め、菅浦郷土史料館や市広報・ホームページ等も活用し、魅力を内外にPRする。 観光については、関係団体と連携し、現地に統一された看板等の設置、ガイドマップを充実することで誘致し、歴史文化資産の価値に重きを置いた見学を進める。															
維持管理や設備更新が十分ではない。				39	竹生島の保存・活用	保存管理計画に則り、竹生島の維持管理・保存修理を定期的に実施する。	国費 県費 市費 民間等		◎	◎	◎	◎	継続						
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
エリア⑤「菅並集落と丹生谷の山村生活」の課題				方針：「余呉型民家」が数多く残る菅並集落の調査や丹生谷、菅山寺の調査を行い、調査結果をもとにした講演会や見学会、博物館・資料館における展示を行う。 普及については、地域内の自然や歴史文化を体験する事業、看板等、パンフレットの充実を図り、普及を進める。 産業振興については、空き家を使った飲食店等の出店を推進し、丹生谷の振興を図る。 そして、菅並の「余呉型民家」を核とした村落景観を保存するための価値付けを行う。															
歴史的町並みや農村景観が失われつつあるが調査が進んでいない。				40	菅並集落の伝統的建造物群調査	菅並集落の町並み調査を実施する。	国費 市費等	○	○	○	◎	◎	継続						
課題	基本方針	方針	番号	保存と活用に関する措置		財源	実施体制					新規・継続	事業計画期間					長浜市 歴史的 風致維持 向上計画	湖国 フィールド ミュージアム 長浜地域計画
				事業名	事業概要		市民	所有者	団体	専門家	行政		1年 目	2年 目	3年 目	4年 目	5～ 10年		
エリア⑥「大吉寺と草野川・姉川流域の仏教文化」の課題				方針：多彩な仏教文化や区域内の寺院についての史跡・古文書・仏像・建造物等の総合的な調査を実施し、大吉寺々坊跡の全体像の把握を進め、調査の成果報告会を行う。 普及啓発においては、ガイドマップ・パンフレットの作成や小中学校への出前授業等、多彩な事業で歴史文化資産の重要さをPRし、現地を訪れやすいよう登山道等の整備を進める。その結果、寺院の歴史と歴史文化資産が市民の誇りとなるようにする。															
調査や普及啓発、維持管理が十分ではない。				41	歴史文化資産（大吉寺等）の保存・活用	大吉寺跡等の維持管理や案内を行い、保存・活用を進める。	民間等		◎	◎			継続						